熊本県文化財調査報告第 281 集

The yashimamachi Site

八島町遺跡

－　九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　－

2013

熊 本 県 教 育 委 員 会

熊本県文化財調査報告書第281集

八島町遺跡

－　九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　－

２０１３
熊 本 県 教 育 委 員 会

白川上空より金峰山を望む

遺跡の遠景

1．万日山、花岡山を望む
2．遺跡上空より

３区　完掘状況

PL. 4

竪穴建物 S001 出土遺物

竪穴建物 S048 出土遺物

PL. 6

竪穴建物 S066 出土遺物

竪穴建物 S095 出土遺物

PL. 8

竪穴建物 S099 出土遺物

竪穴建物 S145 出土遺物

PL.10

竪穴建物 S156 出土遺物

排水処理槽予定地 土坑 S022 出土遺物

1．竪穴建物 S080 出土遺物（重圏文系鏡）
2．竪穴建物 S156 出土遺物（内行花文鏡）

序　文

本書は、九州新幹線建設工事に伴い、平成 16 年度に実施した八島町遺跡の発掘調査報告書です。

平成23年３月に九州新幹線が全線開業しました。熊本駅周辺ではますます開発が進み、景観は日々変貌を遂げています。急激に風景が変化していく中で、今日の私たちの生活や文化の礎となった先人たちの営み築いた歴史に目を向け、未来に継承していくことは、魅力ある街づくりにおいて、外には代えがたい柱の一つとなることと思います。

八島町遺跡は、熊本市中央を西流する白川、井芹川、坪井川によって形成された標高６～７ｍの微高地上に立地する遺跡です。弥生時代後期の竪穴住居跡や掘立柱建物、井戸、溝、土坑等が検出されました。なかでも、２，３区では多くの竪穴住居跡が検出され、調査地周辺に集落が広がっていたことが予想できました。今回、検出された遺構から大量の土器とともに、小形仿製鏡２点や銅鏃、鉄製鉋、ガラス玉などが出土しました。

本書が学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として学校教育や生涯学習など、幅広く活用され、さらにそれが県土の発展へと繋がることを切に希望します。

最後になりましたが、本事業において埋蔵文化財発掘調査にご理解、ご協力をいただきました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、熊本市教育委員会をはじめ、関係各位に対し心より感謝申し上げます。

平成 25 年３月 31 日

熊本県教育長　田　崎　龍　一

八島町遺跡発掘調査報告

－　九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査　－

目　次

第１章　序言
1　調査に至る経緯（事業計画の概要）・・・・・・・・・・・・・1
2　事業への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3　調査組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
4　報告書の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第２章　調査
1　調査地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
(1) 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
(2) 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
(3) 測量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
(4) 地区割り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
(5) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
2　調査日誌抄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第３章　遺構
1　調査１区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
2　調査２区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
3　調査３区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
4　調査４区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
5　調査５区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
6　排水処理槽予定地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第４章　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第５章　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・108

写真図版
報告書抄録
奥付

挿図目次（Fig）

Fig. 1　熊本県域における地形表記と九州新幹線建設工事により発掘調査を実施した遺跡
Fig. 2　周辺遺跡地図
Fig. 3　遺跡の位置図 1/5000
Fig. 4　調査区全体図 S=1/1000
Fig. 5　1 区遺構配置図 S=1/150
Fig. 6　２区遺構配置図 S=1/250
Fig. 7　2 区竪穴建物断面図
Fig. 8　竪穴建物 S001 遺構実測図
Fig. 9　3 区遺構配置図 S=1/500
Fig.10　掘立柱建物 S046 遺構実測図
Fig.11　掘立柱建物 S131 遺構実測図
Fig.12　竪穴建物 S048 遺構実測図
Fig.13　竪穴建物 S066 遺構実測図
Fig.14　竪穴建物 S069 遺構実測図
Fig.15　竪穴建物 S079・S124 遺構実測図
Fig.16　竪穴建物 S080 遺構実測図
Fig.17　竪穴建物 S081 遺構実測図
Fig.18　竪穴建物 S083 遺構実測図
Fig.19　竪穴建物 S085・S086 遺構実測図
Fig.20　竪穴建物 S089・S091 遺構実測図
Fig.21　竪穴建物 S092・S093・S094 遺構実測図
Fig.22　竪穴建物 S095・S096 遺構実測図
Fig.23　竪穴建物 S099 遺構実測図
Fig.24　竪穴建物 S101・S102 遺構実測図
Fig.25　竪穴建物 S134 遺構実測図
Fig.26　竪穴建物 S135 遺構実測図
Fig.27　竪穴建物 S137 遺構実測図
Fig.28　竪穴建物 S140 遺構実測図
Fig.29　竪穴建物 S141 遺構実測図
Fig.30　竪穴建物 S143、土坑 S190 遺構実測図
Fig.31　竪穴建物 S145・S165 遺構実測図
Fig.32　竪穴建物 S147 遺構実測図
Fig.33　竪穴建物 S149 遺構実測図
Fig.34　竪穴建物 S150 遺構実測図
Fig.35　竪穴建物 S156 遺構実測図
Fig.36　竪穴建物 S159 遺構実測図
Fig.37　竪穴建物 S160 遺構実測図
Fig.38　竪穴建物 S167 遺構実測図
Fig.39　竪穴建物 S171・S172・S173 遺構実測図
Fig.40　土坑 S097 遺構実測図
Fig.41　土坑 S148 遺構実測図
Fig.42　土坑 S152 遺構実測図
Fig.43　土坑 S188 遺構実測図
Fig.44　4 区遺構配置図　S=1/200
Fig.45　5 区遺構配置図　S=1/200
Fig.46　排水処理槽予定地遺構配置図 S=1/200
Fig.47　排水処理槽予定地 土坑 S022 遺構実測図
Fig.48　排水処理槽予定地 墓 S020 遺構実測図
Fig.49　竪穴建物 S001 出土遺物実測図ー①
Fig.50　竪穴建物 S001 出土遺物実測図ー②
Fig.51　竪穴建物 S001 出土遺物実測図ー③
Fig.52　竪穴建物 S048 出土遺物実測図
Fig.53　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー①
Fig.54　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー②
Fig.55　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー③
Fig.56　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー④
Fig.57　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー⑤
Fig.58　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー⑥
Fig.59　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー⑦
Fig.60　竪穴建物 S066 出土遺物実測図ー⑧
Fig.61　溝 S078、竪穴建物 S079・S086・S089・S092 出土遺物実測図
Fig.62　竪穴建物 S095 出土遺物実測図
Fig.63　竪穴建物 S096・S099、土坑 S097 出土遺物実測図
Fig.64　竪穴建物 S099 出土遺物実測図
Fig.65　竪穴建物 S099・S101・S124・S134・S135 出土遺物実測図
Fig.66　竪穴建物 S135・S140・S141・S143・S145 出土遺物実測図
Fig.67　竪穴建物 S145・S147 出土遺物実測図
Fig.68　竪穴建物 S147・S149・S150、土坑 S148・S152 出土遺物実測図
Fig.69　竪穴建物 S156 出土遺物実測図
Fig.70　竪穴建物 S159・S160・S167・S172、土坑 S188 出土遺物実測図
Fig.71　排水処理槽予定地墓 S020、土坑 S022、調査区内出土遺物実測図
Fig.72　小形仿製鏡、土錘、ガラス玉、刀子、銅鏃、石製品実測図
Fig.73　石製品実測図ー①
Fig.74　石製品実測図ー②
Fig.75　石製品実測図ー③
Fig.76　石製品実測図ー④
Fig.77　八島町遺跡　土器変遷図（1）
Fig.78　八島町遺跡　土器変遷図（2）
Fig.79　（上段）八島町遺跡　土器変遷図（3）
（下段）八島町遺跡　遺構変遷図
Fig.80　座標測地点（No.1 ～ No.4）

写真目次（PL）

PL. 1　遺跡の遠景　白川上空より金峰山を望む
PL. 2　遺跡の遠景　1.万日山、花岡山を望む　2．遺跡上空より
PL. 3　3 区完掘状況
PL. 4　竪穴建物 S001 出土遺物
PL. 5　竪穴建物 S048 出土遺物
PL. 6　竪穴建物 S066 出土遺物
PL. 7　竪穴建物 S095 出土遺物
PL. 8　竪穴建物 S099 出土遺物
PL. 9　竪穴建物 S145 出土遺物
PL.10　竪穴建物 S156 出土遺物
PL.11　排水処理槽予定地 S022 出土遺物
PL.12　1．竪穴建物 S080 出土遺物 小形仿製鏡（重圏文系鏡）
2．竪穴建物 S156 出土遺物 小形仿製鏡（内行花文鏡）
PL.13　1. 1 区完掘状況　2．2 区完掘状況
3．竪穴建物 S001 完掘状況　4.3 区完掘状況
5．掘立柱建物 S046 完掘状況　6．掘立柱建物 S131 完掘状況
PL.14　1．竪穴建物 S048 完掘状況　2．竪穴建物 S066 完掘状況
3．竪穴建物 S080 小形仿製鏡出土状況
4．竪穴建物 S084 完掘状況　5．竪穴建物 S095 完掘状況
6．竪穴建物 S096 完掘状況
PL.15　1. 竪穴建物 S140 完掘状況　2．土坑 S152 完掘状況
3．5 区調査区完掘状況　4．排水処理槽予定地完掘状況
5．排水処理槽予定地 墓 S020 遺物出土状況
6．排水処理槽予定地 土坑 S022 完掘状況
PL.16　竪穴建物 S001 出土遺物ー①
PL.17　竪穴建物 S001 出土遺物ー②

写真目次（PL)

PL.18　竪穴建物 S001 出土遺物ー③
PL.19　竪穴建物 S001 出土遺物ー④
PL.20　竪穴建物 S048 出土遺物ー①
PL.21　竪穴建物 S048 出土遺物ー②
PL.22　竪穴建物 S066 出土遺物ー①
PL.23　竪穴建物 S066 出土遺物ー②
PL.24　竪穴建物 S066 出土遺物ー③
PL.25　竪穴建物 S066 出土遺物ー④
PL.26　竪穴建物 S066 出土遺物ー⑤
PL.27　竪穴建物 S066 出土遺物ー⑥
PL.28　1．2．竪穴建物 S066 出土遺物ー⑦　3．竪穴建物 S079 出土遺物　4. 竪穴建物 S086 出土遺物
PL.29　1．竪穴建物 S089 出土遺物　2.3. 竪穴建物 S092 出土遺物　4．竪穴建物 S095 出土遺物ー①
PL.30　竪穴建物 S095 出土遺物ー②
PL.31　1.2. 竪穴建物 S095 出土遺物ー③　3. 竪穴建物 S096 出土遺物　4. 土坑 S097 出土遺物
PL.32　竪穴建物 S099 出土遺物ー①
PL.33　1. 土坑 S097 出土遺物　2.3.4. 竪穴建物 S099 出土遺物ー②
PL.34　竪穴建物 S099 出土遺物ー③
PL.35　1. 竪穴建物 S099 出土遺物ー④　2. 竪穴建物 S101 出土遺物　3. 竪穴建物 S134 出土遺物
PL.36　1. 竪穴建物 S124 出土遺物　2. 竪穴建物 S134 出土遺物　3.4. 竪穴建物 S135 出土遺物ー①
PL.37　1. 竪穴建物 S135 出土遺物ー②　2．竪穴建物 S140 出土遺物　3．竪穴建物 S141 出土遺物　4. 竪穴建物 S143 出土遺物
PL.38　竪穴建物 S145 出土遺物ー①
PL.39　1.2. 竪穴建物 S145 出土遺物ー②　3. 土坑 S148 出土遺物
PL.40　1. 竪穴建物 S147 出土遺物　2. 竪穴建物 S149 出土遺物　3. 竪穴建物 S150 出土遺物
PL.41　竪穴建物 S156 出土遺物ー①
PL.42　竪穴建物 S156 出土遺物ー②
PL.43　1. 土坑 S152 出土遺物　2. 竪穴建物 S159 出土遺物　3. 竪穴建物 S160 出土遺物　4. 竪穴建物 S167 出土遺物
PL.44　1.2. 竪穴建物 S172 出土遺物　3. 土坑 S188 出土遺物　4. 調査区内出土遺物
PL.45　排水処理槽予定地土坑 S022 出土遺物ー①
PL.46　排水処理槽予定地土坑 S022 出土遺物ー②
PL.47　1. 排水処理槽予定地 墓 S020 出土遺物　2．ジョッキ型土器　3．土錘　4. 砥石　5．ガラス玉　6．鉋（ヤリガンナ）
PL.48　1. 竪穴建物 S080 出土遺物　小形仿製鏡（重圏文系鏡）　2. 竪穴建物 S156 出土遺物　小形仿製鏡（内行花文鏡）
PL.49　1. 石鏃　2. 銅鏃　3. 石砲丁　4．磨石　5. 石斧
PL.50　1．敲石　2. 台石　3. 砥石

表目次（Tab)

Tab.1　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査ー①
Tab.2　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査ー②
Tab.3　調査区内基準点測量成果
Tab.4　遺跡地名表
Tab.5　出土遺物観察表ー①
Tab.6　出土遺物観察表ー②
Tab.7　出土遺物観察表ー③
Tab.8　出土遺物観察表ー④
Tab.9　出土遺物観察表ー⑤
Tab.10 出土遺物観察表ー⑥
Tab.11 鉄製品・銅製品出土遺物観察表
Tab.12 石製品出土遺物観察表
Tab.13 土製品出土遺物観察表
Tab.14 ガラス製品出土遺物観察表

八島町遺跡　発掘調査報告

－九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

第１章　序言

１　調査に至る経緯（事業計画の概要）

八島町遺跡発掘調査は、九州新幹線建設工事に伴い当該遺跡の地下に埋蔵されている文化財が建設工事により影響を受けると判断されたことからそれらを記録・保存し、後世に伝えていくことを目的に平成 15 年 5 月 27 日から平成 15 年 10 月 27 日、平成 16 年 2 月 12 日から平成 16 年 2 月 28 日まで事業の施主である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 九州新幹線建設局（以下、「鉄道・運輸機構」という。）から委託を受け、熊本県教育委員会が実施したものである。

調査の起因となった九州新幹線鹿児島ルートは、国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興を図る目的で「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設されるもので、福岡市から熊本市、鹿児島県川内市付近を経由し鹿児島市に至るまでの総延長約249㎞の九州縦軸の大動脈である。完成により、移動時間の短縮、県内総生産にもたらす経済波及効果及び地域間交流の拡大等多くのメリットがもたらされることから、各界から早期の開業が望まれている。

当該ルートは、昭和 48 年 11 月 13 日に整備計画の決定及び建設の指示がなされた後、昭和 61 年 8 月 29 日に工事実施計画認可申請がなされたが、その後の経済状況や社会情勢の変化に伴い、平成 3 年 8 月 22 日先行して八代 - 西鹿児島間について工事実施計画が認可され、同年 9 月 7 日に起工した。その後、平成 10 年 3 月 12 日に船小屋 - 新八代間の工事実施計画が認可され、同年 3 月 21 日に起工、さらに平成 13 年 4 月 25 日に博多 - 新八代間の工事実施計画が追加認可され、同年 6 月 2 日に博多 - 船小屋間が起工している。

2004 年（平成 16 年）3 月 13 日には新八代駅 - 鹿児島中央駅（旧 . 西鹿児島駅）間がフル規格で部分開業し、続いて 2011 年（平成 23 年）3 月 12 日には博多駅 - 新八代駅間が開業し、整備計画の決定から 38 年を経て全線で営業運転を開始した。

２　事業への取り組み

熊本県内における九州新幹線建設事業への取り組みは、平成 4 年（1992 年）に日本鉄道建設公団九州新幹線建設局により八代 - 水俣間の事業計画が示された事により始まった。平成 8 年（1996 年）には水俣市において「長野遺跡」を確認し、平成 9 年（1997 年）12 月より発掘調査に着手した。その後引き続き、芦北郡津奈木町内における試掘調査を皮切りに、八代市域を含む先行着手区間において同事業における取り組みが本格化した。平成 12 年（2000 年）８月には熊本県内で起点となる八代市において「西片百田遺跡」「中片小路遺跡」の調査が始まり、平成 15 年 8 月の「宮地小畑遺跡（側道部）」の調査をもって、新八代－鹿児島中央間の調査は終了した。

その後、工事計画の中心は博多－新八代間へと移り、用地買収の進捗とともに当該地区を含む県央、同じく熊本駅周辺、県北部域となる玉名市域へと発掘調査の範囲は拡大していった。

３　調査組織

【発掘調査】

平成 15 年度

調査責任者	文化課長	成瀬烈大
調査総括	課長補佐	島津義昭
調査指導	課長補佐（文化財調査第一係担当）	高木正文
調査担当者	参事	坂口圭太郎
	非常勤職員	坂本亜矢子

平成 16 年度

調査責任者　文化課長　島津義昭

調査総括　　課長補佐　倉岡　博

調査指導　　課長補佐（文化財調査第一係担当）高木正文

調査担当者　参事　　坂口圭太郎

　　非常勤職員　坂本亜矢子

4　報告書の作成

【整理報告書作業】

平成 24 年 2 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

整理責任者　文化課長　　小田信也

整理総括　　文化財調査第一係長　村崎孝宏

整理担当者　参事　　長谷部善一（岩手県教育委員会派遣）

　　文化財保護主事　　佐藤哲郎

　　非常勤職員　　唐木ひとみ、稲葉貴子

　　整理作業員　　福島典子（班長）　藤井美智子（副班長）小早川隆春　塩田喜美子

　　今崎光成　　石田敦子　溜淵俊子　本田頼子（以上、一次整理）

　　土田みどり　岩下恵美子　田中裕子　井上真優　（以上、二次整理）

　　第二・三章原稿執筆　株式会社　埋蔵文化財サポートシステム熊本支店　上髙原 聡

調査指導機関及び調査助言・協力者

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部 九州新幹線建設局

九州旅客鉄道株式会社熊本鉄道事業部

熊本市教育委員会

河野真理子　原田範昭　林田和人　山下宗親

杉本和樹

調査（整理）業務に伴う委託事業一覧

測量業務	株式会社　水野建設コンサルタント
遺構実測業務	株式会社　九州文化財研究所
空中写真撮影業務	写測エンジニアリング株式会社
	九州航空株式会社
遺物一次整理業務	株式会社　埋蔵文化財サポートシステム
遺構・遺物デジタルトレース業務	株式会社　埋蔵文化財サポートシステム
遺物撮影及び図版版下作成業務	株式会社　埋蔵文化財サポートシステム
原稿執筆支援業務	株式会社　埋蔵文化財サポートシステム

地域	No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	調査担当者	遺跡の年代	調査種別	報告書
熊本県南部（水俣・八代市域）	1	長野遺跡	水俣市長野町	1,500 ㎡（×２面）	H9.12.8～H10.3.31	村崎孝宏　中川裕二	縄文晩期 弥生後期　古代	本線	第 189 集
	2	古麓城跡遺跡	八代市古麓町	3,800 ㎡	H12.12.5～H13.5.31	出田久斉　米村大	中世	本線	第 227 集
	3			2,200 ㎡	H13.10.9～H14.4.30	古城史雄　水野哲郎 青柳博晃　松尾茂 宮崎拓	古代　中世 近世	本線	
	4	古麓能寺遺跡	八代市古麓町字能寺	4,528 ㎡（×３面）	H13.4.28～H14.3.20	青木勝士　松尾繁	古代　中世	本、電施	第 216 集
	5	古麓城下遺跡	八代市古麓町字砥崎	505 ㎡（×２面）	H14.1.18～H14.4.20	青木勝士　米村大 松尾繁　本田麻紀	古代　中世	本線	
	6	宮地観行寺遺跡	八代市宮地町字観行寺	1802.7 ㎡（×４面）	H13.10.9～H14.6.30	山城敏明　角田賢二 池田朋生　宇田員将 豊原加奈子　濱田教靖	古墳　古代 中世	本線	第 235 集
	7			352.4 ㎡（×３面）	H15.5.6～H15.9.30	高田英樹　長谷部善一 宇田員将	古墳　古代 中世	迂道	第 254 集
	8	宮地小畑遺跡	八代市宮地町字小畑	1,072.1 ㎡（×４面）	H14.2.1～H14.6.3	坂田和弘　坂口圭太郎 長谷部善一　中村幸宏 上高原 聡　宇田員将 内田成香　洲崎明子 村中智絵	古代　中世	本線	第 235 集
	9			1,530.4 ㎡（×３面）	H14.4.1～H15.10.12	長谷部善一　高田英樹 和田敏郎　三宅一生	古代　中世	迂道	第 254 集
	10	中片小路遺跡	八代市中片町字小路	3,800 ㎡（×２面）	H12.8.1～H13.3.31	出田久斉　米村大	古代　中世	本線	第 228 集
	11				H13.10.1～H14.2.28	坂口圭太郎　森貴史	古墳　古代 近世	本線	第 228 集
	12			1,200 ㎡（×３面）	H14.12.4～H15.3.12	長谷部善一　村中智絵	古代　近世	迂道	第 224 集
	13	西片稲村遺跡	八代市西片町字稲村	2,800 ㎡	H13.4.15～H13.9.28	坂口圭太郎　森貴史	弥生後期　古代 中世	本線	第 228 集
	14	西片百田遺跡	八代市西片町字百田	6,282 ㎡（×２面）	H12.7.1～H14.4.19	長谷部善一　緒方智子 上高原聡　荒木隆宏 洲崎明子	弥生中期～後期 古墳初頭	本 新八駅	第 242 集 第 236 集に一部記載あり
	15	上日置女夫木遺跡	八代市上日置町字女夫木	2.800 ㎡	H13.10.1～H14.3.29	中村幸宏　高谷和生 後藤貴美子　古閑敬士 濱田教靖	弥生前期・後期 古墳初頭	八駅	第 236 集に一部記載あり
	16	島田遺跡	八代市島田町	1,530.4 ㎡（×２面）	H13.8.6～H14.3.29	野田英治 内田成香　西山由美子	弥生前期・後期	本線	第 241 集 第 236 集に一部記載あり
	17	高田手永旧堤防	八代市千丁町新牟田	240 ㎡	H15.1.14～H15.3.31	坂口圭太郎	近世（文政２年） 1819 年～	本線	第 254 集
	18	四百町開旧堤防	八代市鏡町両出	60 ㎡	H16.11.5～H16.12.24	坂口圭太郎	近世（寛政 11 年） 1799 年～	本線	
宇城市域	19	古曽部遺跡	宇城市不知火町小曽部 字中請 1083-6、1984-3	360 ㎡	H16.11.1～H16.12.10	坂口圭太郎	中世	本線	第 265 集
	20	南請遺跡	宇城市不知火町小曽部 字南請 1499-1、1499-2	980.37 ㎡	H18.9.20～H18.12.28	坂口圭太郎　尾方圭子 坂本亜矢子	古代	本線	
	21	高良柳迫遺跡	宇城市不知火町 大字高良字柳迫	286 ㎡	H14.9.17～H14.12.27	坂口圭太郎 宇田員将　和田敏郎	古墳	本線	
熊本市域	22	下江中島遺跡	熊本市南区富合町古閑 1287-1 ほか５筆	7,107.49 ㎡	H18.12.4～H19.5.31	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　手柴智晴 園田恭子	古墳時代初頭 古代（平安）	本線 整施	第 278 集
	23	川尻外城遺跡	熊本市南区川尻３丁目 831 他６筆	1,756.91 ㎡	H18.9.20～H19.3.30	坂口圭太郎 松森由美　多賀晴司	中世　古代	本線	第 279 集
	24	上ノ郷遺跡	熊本市南区島町１丁目 304-1 他５筆	2,000 ㎡	H15.5.21～H16.1.31	今村和徳　和田敏郎 宇田員将　横田光智	弥生中期～後期 古代	本線	第 239 集

Tab.1　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査 - ①

地域	No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	調査担当者	遺跡の年代	調査種別	報告書
熊本市域	25	八島町遺跡	熊本市西区蓮台寺４丁目 132-3 他 11 筆	3,800 ㎡	H15.6.5 ～ H15.10.31	坂口圭太郎　坂本亜矢子	弥生後期 古代	電施	本書
	26		熊本市西区蓮台寺４丁目 578-8	250 ㎡	H16.2.17 ～ H16.3.31				
	27	二本木遺跡群	熊本市西区田崎１丁目 117 番の１	700 ㎡	H8.1.29 ～ H8.3.25	帆足俊文	縄文晩期 弥生後期　古代	連立	第 174 集
	28	二本木遺跡群（田崎地区）	熊本市西区田崎１丁目	3,138.42 ㎡	H15.11.27 ～ H16.3.31	宮崎啓士　福永雅美	古代	連立	第 280 集
				2,300 ㎡	H17.11.11 ～ H18.8.31	坂口圭太郎　尾方圭子 多賀晴司	弥生 古墳　古代	本線	
	29	二本木遺跡群（田崎市道切替）	熊本市西区田崎１丁目	48 ㎡	H19.5.7 ～ H19.6.6	松森由美　水上正孝	弥生後期 古代　中世	市替	
	30	二本木遺跡群（田崎陸橋）	熊本市西区田崎１丁目	78.6 ㎡	H19.10.1 ～ H19.11.1	壇佳克　横田光智	古代　近世	迂道	
	31	二本木遺跡群（春日地区）第６次調査	熊本市西区春日３丁目 1015 番地	12,700 ㎡	H17.11.7 ～ H18.12.26	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　吉井英志	古代　中世 近世	熊駅	第 271 集
	32	二本木遺跡群（春日地区）第 14 次調査	熊本市西区春日３丁目	20 ㎡	H22.7.20 ～ H22.8.2	長谷部善一	古代		
	33	花岡山・万日山遺跡群	熊本市西区横手２丁目 1183-21 ほか８筆	3,133.54 ㎡	H17.1.21 ～ H18.12.18	坂口圭太郎　遠山宏	古代	本線	第 266 集
	34	新馬借遺跡	熊本市西区横手１丁目 1142 番地ほか６筆	550 ㎡	H18.5.30 ～ H18.6.30 H20.1.4 ～ H20.1.31	坂口圭太郎 遠山宏　檀佳克	中世　古代	本線	
	35	北島遺跡群	熊本市西区池田４丁目 519 ほか 11 筆	3,450 ㎡	H18.6.15 ～ H19.2.28	今村和徳 横田光智　遠山宏	弥生後期 古代　中世	本線	
	36	万楽寺出口遺跡	熊本市西区太郎迫町 474-2 ほか２筆	984.52 ㎡	H19.5.1 ～ H19.10.30	坂口圭太郎 檀佳克	縄文晩期 古代	本線	
熊本県北部（玉名市域）	37	長山前田遺跡	玉名郡南関町長山字前田	600 ㎡	H16.4.27 ～ H18.5.21	坂口圭太郎	弥生後期 中世	本線	第 268 集
	38	稲佐津留遺跡	玉名郡玉東町稲佐	2,273.54 ㎡	H16.5.27 ～ H17.12.28	尾方圭子　今村和徳 遠山宏	弥生後期 古墳　古代	本線	第 263 集
	39	祭田下遺跡	玉名市津留字祭田下 223-2 ほか９筆	5762 ㎡（×２面）	H16.6.1 ～ H16.10.27	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	中世　近世	本線	第 247 集
	40	小園遺跡	玉名市石貫字小園 345-2 ほか 13 筆	2,406 ㎡	H16.6.14 ～ H16.10.31	坂口圭太郎 松森由美 坂本亜矢子　遠山宏	弥生後期 中世　近世	本線	第 256 集
	41	太郎丸遺跡	玉名市大字津留字白拍子 373-2 ほか 13 筆	14,148 ㎡	H16.11.1 ～ H17.10.31	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	古代　中世	本線	第 250 集
	42	西屋敷遺跡	玉名市大坊字西屋敷 2660-3 ほか４筆	325 ㎡	H17.4.9 ～ H17.5.13	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	近世	本線	第 250 集
	43	瀬萩遺跡	玉名市津留字川面 103-3 ほか３筆	4,344 ㎡	H17.4.19 ～ H17.9.30	吉田徹也　早田利宏	古墳　古代 中世	本線	第 250 集
	44	両迫間日渡遺跡	玉名市両迫間	742.92 ㎡	H18.8.23 ～ H18.10.10	坂口圭太郎　亀田学	弥生　古墳	玉駅	第 268 集
	45	玉名平野条里跡（古閑前地区）	玉名市両迫間字古閑前 158-2 ほか９筆	2,537.85 ㎡	H19.6.1 ～ H20.1.31	長谷部善一　吉田徹也 早田利宏　園田恭子	弥生後期 古墳（初・後） 古代　中世	本線	第 261 集
	46	西安寺遺跡	玉名郡玉東町西安寺 1018	518 ㎡	H18.11.26 ～ H19.12.26	坂口圭太郎	中世　近世	工道	第 263 集

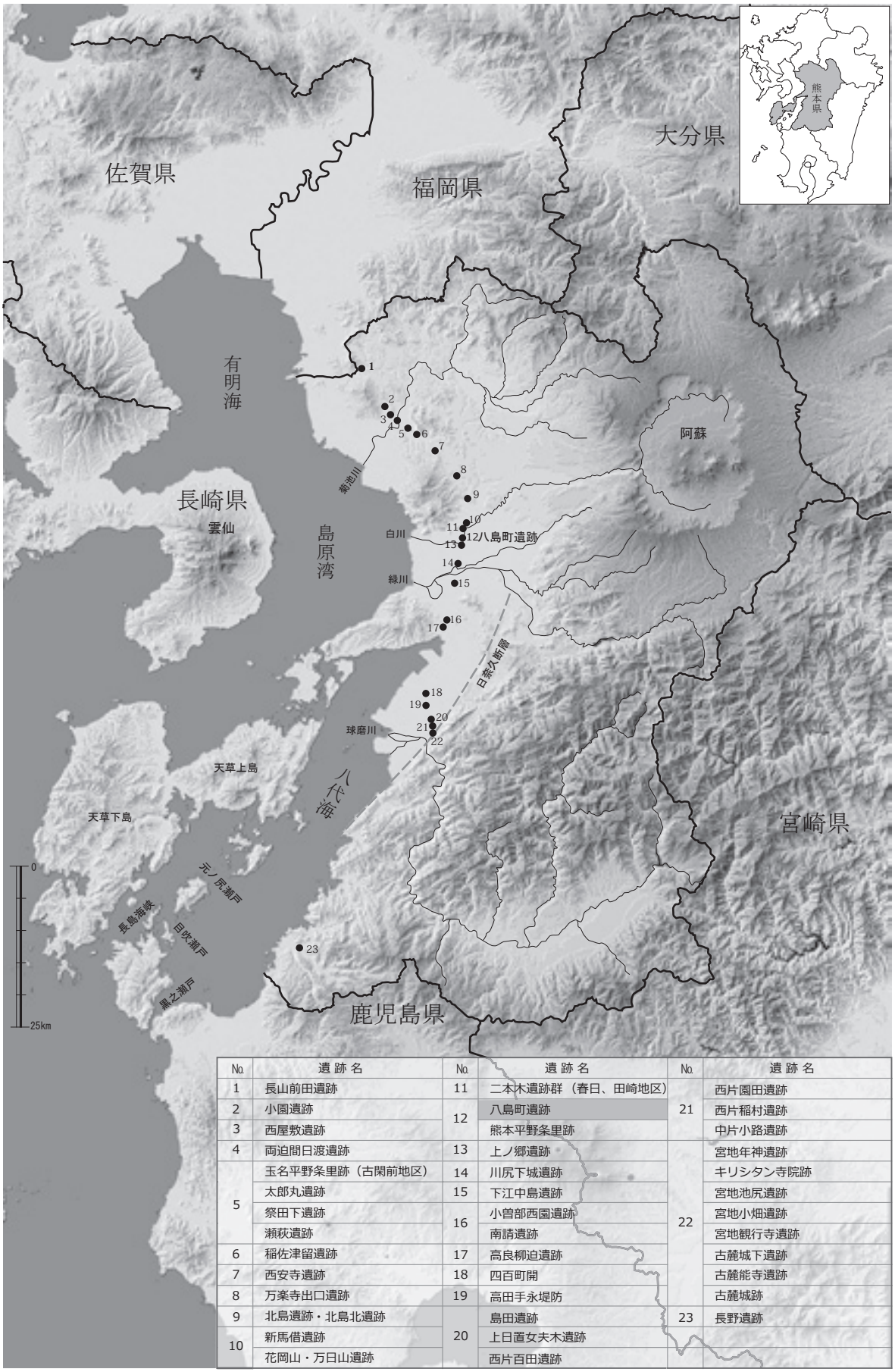
凡例

工道	工事用道路
玉駅	新玉名駅
熊駅	新熊本駅
連立	JR 連立事業
市替	市道切り替え
迂道	迂回道路
整施	新幹線整備施設
八駅	新八代駅
電施	電源施設

Tab.2　九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査 - ②

九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　一覧

『二本木遺跡群』熊本県文化財調査第 174 集　熊本県教育委員会編　1999
『長野遺跡』熊本県文化財調査報告 第 189 集　熊本県教育委員会編　2000
『古麓能寺遺跡 古麓城下遺跡』熊本県文化財調査報告 第 216 集　熊本県教育委員会編　2003
『古麓城跡』熊本県文化財調査報告第 227 集　熊本県教育委員会編　2005
『中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 224 集　熊本県教育委員会編　2005
『西片稲村遺跡　中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 228 集　熊本県教育委員会編　2005
『宮地小畑遺跡 宮地観行寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 235 集　熊本県教育委員会編　2006
『島田遺跡，上日置女夫木遺跡，西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 236 集　熊本県教育委員会編　2006
『西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 242 集　熊本県教育委員会編　2007
『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査報告 第 239 集　熊本県教育委員会編集　2007
『島田遺跡』熊本県文化財調査報告 第 241 集　熊本県教育委員会編　2007
『祭田下遺跡』熊本県文化財調査報告第 247 集　熊本県教育委員会編　2009
『太郎丸遺跡、西屋敷遺跡、瀬萩遺跡』熊本県文化財調査報告第 250 集　熊本県教育委員会編　2010
『八代平野干拓遺跡群（高田手永旧堤防・四百町開旧堤防）』熊本県文化財調査報告第 254 集熊本県教育委員会編　2010
『小園遺跡』熊本県文化財調査報告第 256 集　熊本県教育委員会編　2010
『古曽部遺跡、南請遺跡、高良柳迫遺跡』熊本県文化財調査報告第 261 集　熊本県教育委員会編　2011
『花岡山・万日山遺跡、新馬借遺跡、北島遺跡群、万楽寺出口遺跡』熊本県文化財調査第 266 集　熊本県教育委員会編　2011
『稲佐津留遺跡、西安寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 263 集　熊本県教育委員会編　2011
『玉名平野条里跡（古閑前地区）』熊本県文化財調査報告第 261 集　熊本県教育委員会編　2011
『長山前田遺跡、両迫間日渡遺跡１』熊本県文化財調査報告第 268 集　熊本県教育委員会編　2012
『二本木遺跡群（春日地区）５』熊本県文化財調査第 271 集　熊本県教育委員会編　2012
『下江中島遺跡（上日置女夫木遺跡）』熊本県文化財調査第 278 集　熊本県教育委員会　2013
『川尻外城跡』熊本県文化財調査第 279 集　熊本県教育委員会　2013
『二本木遺跡群７　田崎地区、田崎市道切替、田崎陸橋』熊本県文化財調査報告第 280 集　熊本県教育委員会　2013
『八島町遺跡』熊本県文化財調査第 281 集　熊本県文化財調査第 281 集　熊本県教育委員会　2013



No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	長山前田遺跡	11	二本木遺跡群（春日、田崎地区）	21	西片園田遺跡
2	小園遺跡	12	八島町遺跡		西片稲村遺跡
3	西屋敷遺跡		熊本平野条里跡		中片小路遺跡
4	両迫間日渡遺跡	13	上ノ郷遺跡	22	宮地年神遺跡
5	玉名平野条里跡（古閑前地区）	14	川尻下城遺跡		キリシタン寺院跡
	太郎丸遺跡	15	下江中島遺跡		宮地池尻遺跡
	祭田下遺跡	16	小曽部西園遺跡		宮地小畑遺跡
	瀬萩遺跡		南請遺跡		宮地観行寺遺跡
6	稲佐津留遺跡	17	高良柳迫遺跡		古麓城下遺跡
7	西安寺遺跡	18	四百町開		古麓能寺遺跡
8	万楽寺出口遺跡	19	高田手永堤防		古麓城跡
9	北島遺跡・北島北遺跡	20	島田遺跡	23	長野遺跡
10	新馬借遺跡		上日置女夫木遺跡		
	花岡山・万日山遺跡		西片百田遺跡		

Fig.1　熊本県域における地形表記と九州新幹線建設工事により発掘調査を実施した遺跡

第２章

調　　査

１．調査地域

（１）地理的環境

熊本市は九州の中央である熊本県の西北部に位置する。熊本市の北西部は金峰山を主峰とする複式火山帯とこれに連なる立田山等の台地からなり、西方に面する有明海と内陸部とを隔てる。また、北部から東部一帯は火砕流台地や河成段丘が発達し、これらは東方へ高度を増しつつ阿蘇外輪山の斜面へ続く。そして、南部には白川・緑川などによって東部の台地や段丘が浸食された結果、流送された土砂の堆積によって形成された沖積平野である、いわゆる「熊本平野」が広がる。この熊本平野では、流量豊かな河川と豊富な地下水を背景に早くから稲作農業が展開されてきた。なお、熊本平野の総面積は約 775K㎡を測り，福岡県の筑紫平野に次いで九州で第２の広さを有する。

本遺跡が所在する熊本平野北部には、白川が南流する。白川は標高 1500 mの阿蘇を水源とする全長 74㎞の１級河川であり、熊本市域を貫流する。この川は古くから「暴れ川」として知られており、これらの河川の堆積作用によって熊本平野北部は形成された。白川は戦後から現在までに７度氾濫し、最近では平成 24 年７月の九州北部豪雨によって８度目の氾濫を起こした。白川の本格的な改変は、近世初頭の加藤清正に端を発し、現在に至るまで多くの河川改修が行われている。また、本遺跡内を南流する坪井川は、本来、熊本城東方で湾曲する白川と合流していたが、加藤清正の治水によって改変された人工流路である。

発掘調査を行った八島町遺跡は熊本県熊本市西区蓮台寺４丁目に所在する。調査地は、熊本市中心地を南流する白川・坪井川が、その流れをほぼ 90°西方に変化させる箇所である白川の右岸および坪井川の左岸の狭小な土地に立地する。国土交通省発行の治水地形分類図[1]によると、調査地は微高地に位置する。発掘調査以前は、JR 九州の操車場であった。

（２）歴史的環境

本遺跡は沖積平野上に立地しており、旧石器時代の遺跡は周辺では確認されていない。直近の遺跡では本遺跡の北方に位置する金峰山麓上の遺跡が挙げられる。

縄文時代には、本遺跡では該期の遺構・遺物は認められず、当時の遺跡は石神原遺跡や千原台遺跡、野添平遺跡（Fig.2-1）、島崎遺跡、戸坂遺跡（Fig.2-3）といった遺跡が金峰山の丘陵裾部に集中する。これらの遺跡では、縄文時代早期～中期の遺物も出土しているが、最も盛行した時期は縄文時代後･晩期である。また、熊本城が立地する京町台地の端部からも縄文時代晩期の土器が出土し、当時は丘陵端部上に遺跡の主体があったものと考える。近隣の二本木遺跡群内で縄文時代中期～後期の土器が僅かに出土する。

弥生時代前期には、遺跡数は激減し、遺跡の立地も丘陵部から低地へ移動する。本遺跡周辺では、白川左岸の本庄遺跡（Fig.2-51）や平田町遺跡（Fig.2-45）が挙げられる。弥生時代中期には､船場町遺跡（Fig.2-38）や上ノ郷遺跡（Fig.2-9)、白藤遺跡群（Fig.2-11）などの平野部を中心に集落や甕棺墓を有する墓域が確認される。弥生時代後期になると、遺跡数は激増し、それまで立地していた平野部に加え、金峰山の丘陵裾部や台地部にまでその分布は拡がり、大小の集落が確認される。これらの中には二本木遺跡群（方格規矩鏡片、小形仿製鏡、銅鏃）（Fig.2-26）や戸坂遺跡（方格規矩鏡、小形仿製鏡、銅鏃）（Fig.2-3)、平田町遺跡（小形仿製鏡）（Fig.2-45）などの銅製品を所有する集落も認められる。八島町遺跡でも、今回の発掘調査において

1　治水地形分類図は、治水対策を進めるため国が直接管理する河川（直轄河川）流域の平野部を対象に、昭和 51 年度から 53 年度にかけて整備した縮尺が２万５千分１の地図である。現在では広く共有すべき資料として平成 17 年８月から一般に公開され、平成 20 年２月からホームページでも閲覧が可能となっている。(http://www1.gsi.go.jp/geowww/lcmfc/lcmfc.html)

２面の小形仿製鏡が出土している。

古墳時代には、弥生時代から引き続き集落が営まれた遺跡として千原台遺跡群と古町遺跡（Fig.2-39）が挙げられるが、検出された集落遺跡数は少ない。本遺跡の近隣では花岡山・万日山遺跡群（Fig.2-4）や万日山山頂古墳、北岡横穴群（Fig.2-23）などの墓域は確認されるが、その集落遺跡は確認されていない。熊本県上益城郡益城町所在の小柳遺跡（益城町教育委員会 2010）では、生産拠点である低湿地に集落を形成し、墓域をその周辺の高地に形成することが推定されており、熊本平野でも墓域の状況から同様のことが考えられる。よって、古墳時代集落は弥生時代と異なる場所の熊本平野内に造営されていると推測される。

古代には、八島町遺跡を含む白川右岸一帯は飽田郡に属する。飽田郡は宮前・加幡・小垣・私部・栗北・天田・川内・水門・殖木・下田・蚕カイの 12 郷を郡域とした肥後唯一の上郡であった。「和名抄[2]」では「阿基岐多」と訓を付す。この時期は、二本木遺跡群が最も盛行した時期にあたり、周辺遺跡においても該期の遺構・遺物の出土は顕著である。特に 8 世紀後半から 9 世紀前半の時期の遺構・遺物は充実しており、官衙施設や村落内寺院が確認されている。近年は新幹線建設工事に伴う発掘調査や区画整理事業に伴う発掘調査が多数行われており、土地区画や土地利用も明らかになりつつある。

中世においても古代後半から再び盛行した二本木遺跡群が継続して主体である。特に、12 ～ 13 世紀の熊本県内では、検出された遺構や遺物は質・量共に突出しており、都市的な様相を呈する。しかし、17 世紀に入り、加藤清正の肥後入国を契機として、肥後の中心はそれまでの二本木地域から隈本古城を中心とした古町遺跡一帯に移動する。さらに、細川藩政期には八島町遺跡は横手手永に属し、「八島村」として熊本城下への大根の供給地となっていたように、都市部の縁辺地として存在し、現在に至る。

（３）測量（Fig.80）

八島町遺跡発掘調査を開始するにあたっては、事前に基準点測量と水準測量を実施した。基準点は調査の契機となった九州新幹線建設事業に伴い鉄道・運輸機構が設置した日本測地系に基づく国土座標Ⅱ系により設置している。

2002 年（平成 14 年）４月１日から施行された改正測量法に伴い、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、本事業における基準点がすべて日本測地系に基づいていることから、熊本県内における埋蔵文化財発掘調査で設置する基準点はすべて日本測地系に基づいている。なお、世界測地系との整合をとるために設置した基準としている杭の数値を日本測地系、世界測地系でそれぞれ示す。

点名	日本測地系		世界測地系	
	X 座標	Y 座標	X 座標	Y 座標
座標点 No.1	-24900	-29140	-24527.8033	-29361.0243
座標点 No.2	-24940	-29140	-24567.8045	-29361.0244
座標点 No.3	-25000	-29150	-24627.8064	-29371.0243
座標点 No.4	-25110	-29170	-24737.8099	-29391.0244

Tab. 3 調査区内基準点測量成果

（４）地区割り（Fig. 4）

八島町遺跡では、今回の報告にあたって新たにグリッドを設定した。それは、(X,Y)=(-24890,-29190) を起点として、調査地全域を包括する東西 75 m、南北 240 mの範囲に１辺５m の方形区画を区切り、これを１単位とした「グリッド」とした。グリッド名称については起点から東西方向に「A ～ O」、南北方向に「１～ 49」という英数を付した。したがって、グリッドは「東西グリッド A」、「南北グリッド 1」の場合、「A-1」で表記される。

以上のことから、調査１区は「J-1 ～ J-3」、調査２区は「F-7 ～ D-14」、調査３区は「N-15 ～ B-35」、調査４区は「F-43 ～ G-48」、調査５区は「A-43 ～ D-48」、排水処理槽予定地は「I-1 ～ K-5」グリッドに位置

2　和名類聚抄（わみょうるいじょうしょう）の略称である。平安時代中期（承平年間（931–938 年））に勤子内親王の求めに応じて源順（みなもとのしたごう）が編纂した辞書である。

する。

(5) その他

発掘調査時に検出した遺構は、「S」に番号（S001、S002・・・）を付して呼称しており、本報告においても調査当時の遺構名をそのまま使用している。

遺物観察表に使用している色調については「新版基準土色帳」1999を使用した。

引用・参考文献

松本寿三郎・板楠和子・工藤敬一・猪飼隆明　1999『熊本県の歴史』県史43　山川出版社
下中邦彦編　1985『熊本県の地名』日本歴史地名体系第四四巻　平凡社
新熊本市史編纂委員会　1996『新熊本市史』 史料編　第一巻　考古資料
新熊本市史編纂委員会　1998『新熊本市史』 通史編　第一巻　自然・原始・古代
熊本県教育委員会　1999『二本木遺跡群』熊本県文化財調査報告第174集
熊本県教育委員会　2012『二本木遺跡群（春日地区）5』熊本県文化財調査報告第271集
熊本市教育委員会　2007『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集』平成18年度
熊本市教育委員会　2008『智照院細川家墓所』
熊本市教育委員会　2008『八ノ坪遺跡Ⅳ』
熊本市教育委員会　2009『戸坂遺跡』
熊本市教育委員会　2011『二本木遺跡群XV』熊本市の文化財第9集
益城町教育委員会　2010『小柳遺跡』益城町文化財調査報告第21集

27 二本木遺跡群
春日地区第6次
28 二本木遺跡群
春日地区第14次
30 二本木遺跡群 田崎陸橋
29 二本木遺跡群 田崎地区
31 二本木遺跡群 田崎市道切替
32 八島町遺跡

Fig.2　周辺遺跡地図

遺跡番号	遺跡名	遺跡の時代
1	野添平	縄文～中世
2	戸坂御田尻	縄文～中世
3	戸坂	弥生～平安
4	花岡山・万日山遺跡群	古墳
5	清水原	縄文～中世
6	独鈷山遺跡群	古墳～中世
7	熊本平野条里跡	古代　中世
8	上代町遺跡群	縄文～平安
9	上ノ郷遺跡	弥生～中世
10	熊本平野条里跡	古代　中世
11	白藤遺跡群	弥生～中世
12	古護藤	弥生～中世
13	新馬借	古墳～平安
14	花岡山陸軍埋葬地	明治
15	吉祥寺横穴群	古墳
16	横手町寺院群	近世
17	古往生院跡	近世
18	願行寺跡	近世
19	細川家菩提寺妙解寺跡	江戸
20	板屋町・細工町寺院跡	近世
21	花岡神社境内古墳	古墳
22	山由雲院（春日寺）	江戸
23	北岡横穴群	古墳
24	熊本駅前の石塘	近世
25	石塘（白川橋）	弥生～中世
26	二本木遺跡群	弥生～中世
27	二本木遺跡群 春日地区第6次	古代～近世
28	二本木遺跡群 春日地区第14次	古代～近世
29	二本木遺跡群 田崎地区	弥生～近世
30	二本木遺跡群 田崎陸橋	古代　近世
31	二本木遺跡群 田崎市道切替	古代　近世
32	**八島町遺跡**	**弥生**
33	八島町	弥生
34	道城方	弥生　古代
35	南新宮	弥生～中世
36	蓮台寺桧垣塔	中世
37	熊本城跡遺跡群	古墳～近世
38	船場町	弥生
39	古町（旧唐人町）	弥生～明治
40	光明寺跡	近世
41	浄信寺跡	中世
42	本山城跡（本庄城跡）	弥生～中世
43	無漏寺跡	中世
44	世安池田	弥生～中世
45	平田町	弥生～平安
46	近見	縄文～中世
47	山崎古墳	古墳
48	花畑館跡	近世
49	辛島町	弥生　古墳
50	代継神社の暦塔	中世
51	本庄（熊大病院敷地）	古墳～平安
52	新屋敷	弥生～中世
53	大江遺跡群	縄文～明治
54	不動院跡の六地蔵塔	中世
55	熊本平野条里跡	古代　中世
56	出水国府跡	弥生～中世
57	田迎下乙	古代　中世
58	西無田	弥生～平安
59	御幸笛田神社	弥生～中世
60	下乙地頭館跡	中世

Tab.4　遺跡地名表

２．調査日誌抄

１区

2003 年

05.27　表土剥ぎを開始する。

05.28　熊本市教育委員会文化財課 山下宗親文化財保護主事が来跡する。１層の掘削を開始する。１層からは、近世の染付や青磁片、弥生土器片などが出土する。いずれも磨滅が著しい。

05.29　１層の掘削およびトレンチの掘削を行う。土層観察の結果、１層以下 100㎝以上の深度まで遺物が出土することが確認された。

05.30　雨天のため、調査を午前中で終了する。

06.02　引き続き表土剥ぎを行う。表土剥ぎ済みの箇所では遺構検出を行う。１層の上層は昭和 27 年６月 26 日の洪水跡の砂層である。

06.03　作業員に対して安全講習を行う。遺構検出を行う。

06.04　非常勤職員 横田光智氏が明日まで調査に加わる。遺構検出を行う。

06.05　本日より非常勤職員 米村俊治・松野直子氏が調査に加わる。

06.06　遺構検出を行う。調査区北側には多くの遺構があるが、検出プランが確定しない。

06.09　調査区北端を拡張し、調査区北側の遺構検出の精度を高める。

06.10　調査区北側で認められる黒色土を遺構検出した結果、大きな溝を検出する。

06.11　調査区中央部を遺構検出した結果、東西方向に帯状に広がる鉄分の集積を検出する。

06.12　雨天の為、調査を午前中で終了する。２層の掘削を行う。調査区中央部で検出された鉄分の集積は、２層を掘り込んでいることが明らかになった。

06.13　調査区中央部で検出された鉄分が集積した溝の調査を行う。

06.14　昨日からの降雨のため、調査区が冠水する。

06.16 ～ 19　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で、出土遺物の整理などを行う。

06.20　調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。

06.24　調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。

06.25　熊本市教育委員会文化財課 林田和人文化財保護主事が来跡する。連日の降雨による流出土砂の除去など調査区の復旧作業を行う。

06.26　包含層掘削および遺構検出を行った。４層上面で遺構を検出する。

06.27　調査を中止する。

06.30　雨天の為、調査を午前中で中止する。

07.01　雨天の為、調査を中止する。

07.02　調査区断面の土層観察を行う。

07.03　調査区土層断面の実測を行う。

07.04　雨天の為、調査を中止する。

07.16　連日の降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。

07.22　株式会社 水野建設コンサルタントによるメッシュ杭の設置を行う。降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。

07.23　溝 S024 の調査を行う。

07.26　土坑 S025 の調査を行う。

07.28　検出遺構の調査および３層の掘削を行う。

07.29　雨天の為、調査を中止する。

07.30　土坑 S025 の調査および３層の掘削を行う。

07.31　溝 S026、竪穴建物 S027、土坑 S028 の調査を行う。

08.19　溝 S026、竪穴建物 S027、土坑 S028 の調査を行う。

08.20　溝 S026、竪穴建物 S027、土坑 S028 の調査を行う。

08.21　完掘状況を撮影する。

08.22　調査区西壁の土層断面を実測・撮影する。

２区

2003 年

06.02　表土剥ぎを開始する。

06.03　調査区整備を行う。

06.04　遺構検出を行う。

06.05　本日より非常勤職員 米村俊治・松野直子氏が調査に加わる。遺構検出および検出遺構の調査を行う。

06.06　調査区東側の黒色砂層および１層の掘削を行う。

06.09　表土剥ぎ終了状況の撮影を行う。

06.10　調査区北東端に設定したトレンチ内より、溝を検出する。

06.11　調査区北側で新しい時期（近世？）の溝を検出する。

06.12　雨天の為、調査を午前中で終了する。調査区北西～南西部分の表土剥ぎを行う。その結果、調査区南西端より弥生土器が多量に出土するので、竪穴建物などが想定される。

06.13　引き続き表土剥ぎを行う。調査区全体を２層まで掘削する。その間、調査区北西端で検出された溝からは、針金などが出土している。

06.14　引き続き表土剥ぎを行う。

06.16 ～ 19　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で、出土遺物の整理などを行う。

06.20　調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。

06.21　引き続き表土剥ぎを行う。

06.24　調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。

06.25　熊本市教育委員会文化財課 林田和人文化財保護主事が来跡する。土層断面の２層中程に中世の面があるとの指導をいただく。連日の降雨による流出土砂の除去など調査区の復旧作業を行う。その後、調査区北側で検出された柱穴群の調査を行う。調査の結果、近現代の遺構と判断する。

06.26　調査区北側柱穴群の調査および南側遺構検出を行う。調査区南側で認められる竪穴建物は、複数の溝によって削平を受けている。

06.27　調査を中止する。

06.30　雨天の為、調査を午前中で中止する。調査区東側を４層まで掘削し、遺構検出を行う。竪穴建物や溝などが確認され、遺物の出土量も多い。

07.01　雨天の為、調査を中止する。

07.02　検出した「溝１～３（仮称）」の調査を行う。

07.03　「溝１（仮）」を中心に調査を行う。

07.04　雨天の為、調査を中止する。

07.07　調査区北側の２層掘削および遺構検出を行う。

07.08　遺構検出および包含層掘削を行う。

07.09　遺構検出および包含層掘削を行う。

07.10　検出溝の調査および遺構検出を行う。

07.11　平面とトレンチ断面の双方から検出された溝の調査を行う。

07.12　調査区が冠水したため、終日排水作業を行う。

07.14　調査区が冠水しており、調査を中止する。

07.15　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で、実測図面の整理や今後の調査方針について検討する。

07.16　連日の降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。

07.17　竪穴建物 S017・018 の調査を開始する。

07.18　竪穴建物 S017・018 の調査を行う。S018 は四隅にベッド状遺構を確認する。

07.22　株式会社 水野建設コンサルタントによるメッシュ杭の設置を行う。降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。

07.23　竪穴建物 S012・017・018 の調査を行う。

07.24　雨天の為、調査を午前中で中止する。

07.26　検出した竪穴建物の調査を行う。

07.28　竪穴建物 S012・017・018 の調査を行う。

07.29　雨天の為、調査を中止する。

07.30　竪穴建物 S011・017・018、溝 S021 の調査および４層掘削を行う。

07.31　竪穴建物 S011・012・022・023、土坑 S019、溝 S020・021 の調査を行う。

08.04　竪穴建物 S011・012・017・018、土坑 S019、溝 S020・021・022 の調査を行う。

08.05　竪穴建物 S011 の調査および４層の検出を行う。４層上面に複数の遺構を確認する。

08.06　熊本県文化課　宮崎敬士主任学芸員が来跡する。竪穴建物 S011・017・018・023・029 の調査および４層の掘削を行う。

08.07　河野真理子教諭が来跡する。竪穴建物 S017・018・029 の調査および包含層の掘削を行う。竪穴建物 S029 からは炉穴や柱穴、ベッド状遺構は検出できなかった。

08.08　台風の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。

08.11　熊本県文化課　成瀬烈大課長が来跡する。竪穴建物 S011・012・016 ～ 019・023・030 の調査および包含層の掘削を行う。新たに竪穴建物 S030 を検出する。

08.12　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理および出土遺物の洗浄を行う。

08.13 ～ 17　盆休

08.18　竪穴建物 S011・016・023 の調査を行う。

08.19　竪穴建物 S011・016・022・023・030 の調査を行う。新たに竪穴建物 S031・032 を検出し、調査を開始する。

08.20　竪穴建物 S011・016・022・030 ～ 032 の調査を行う。竪穴建物 S022・030 ～ 032 において床面を検出する。

08.21　竪穴建物 S011・016・027・030 ～ 032、溝 S022 の調査および２層掘削を行う。

08.22　熊本県文化課　非常勤職員 横山明代、岡田基子、坂本千恵氏が来跡する。竪穴建物 S011・016・030 ～ 032 の調査および検出溝の調査を行う。この溝は弥生時代の竪穴建物より後出する。

08.25　竪穴建物 S001・014・030 の調査を行う。新たに竪穴建物 S035 を検出し、調査を行う。

08.26　雨天のため、調査を中止する。

08.27　竪穴建物 S001・014・016・030 の調査を行う。

8.28　荒天のため、発掘調査は午前中で中止する。竪穴建物 S001・015・036 の調査を行う。

08.29　竪穴建物 S001・015・017・030・036 ～ 039 の調査を行う。

08.30　検出遺構をほぼ完掘し、調査区の完掘状況を撮影する。

8.31　竪穴建物 S001 の調査および調査区南壁土層断面の実測を終了し、２区の調査を完了する。

３区

2003 年

06.23　表土剥ぎを開始する。

06.25　表土剥ぎを行う。

07.01　表土剥ぎを行う。

07.04　表土剥ぎを行う。

07.07　表土剥ぎを行う。現在２層上面まで掘削を行っている。

07.08　調査区北側の２層の掘削を行う。畑または水田の区画と推定される遺構を確認する。

07.09　２層の掘削を行う。

07.10　２層の掘削を行う。

07.11　２層の掘削および遺構検出を行う。

07.16　連日の降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。あわせて、調査区周辺に排水溝を掘削する。

07.17　２層および調査区周辺の排水溝掘削を行う。

07.18　表土剥ぎを行う。

07.22　降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧および排水溝掘削を行う。

07.23　２層の掘削を行う。

07.24　雨天の為、調査を午前中で中止する。表土剥ぎを終了する。

07.26　調査区整備を行う。

07.28　検出した近代の溝の掘削を行う。

07.29　雨天の為、調査を中止する。

08.06　調査区北東端の３層掘削を行う。

08.07　調査区北東端の３層掘削を行う。

08.08　台風の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。

08.11　調査区北東端の３層掘削を行う。

08.12　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理および出土遺物の洗浄を行う。

08.13 ～ 17　盆休

08.18　I-8 グリッドより南北に走行する溝を２条検出する。この２条の溝は検出状況から近代のものと判断する。

08.21　検出した近代の溝の調査を行う。これまでの溝と切り合い関係にある新たに近代の溝を検出し、調査を行う。

08.25　表土剥ぎを行う。

08.28　荒天のため、発掘調査は午前中で中止する。調査区整備を行う。

09.01　調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。

09.02　調査区整備を行う。

09.03　調査区東側の先行引き渡し範囲の北側の遺構検出を行う。掘立柱建物 S046、竪穴建物 S048・049、柱穴群を検出し、調査を開始する。

09.04　掘立柱建物 S046・047、竪穴建物 S048 ～ 050、溝 S051 ～ 053 の調査を行う。

09.05　竪穴建物 S048 ～ 050、溝 S053 の調査を行う。

09.08　竪穴建物 S048 ～ 050 の調査を行い、新たに竪穴建物 S057・059、井戸 S058、溝 S064 を検出し、調査を開始する。

09.09　掘立柱建物 S046・047、竪穴建物 S050、溝 S053 の調査および調査区北西端の遺構検出を行う。遺構検出では複数の竪穴建物や溝が確認された。

09.10　竪穴建物 S065・066、溝 S064 の調査を行う。

09.11　竪穴建物 S048・065・066、溝 S051 ～ 053 の調査を行う。

09.12　検出遺構の調査を中心に行う。

09.13　重機を用いて、近代に堆積した３層の除去を行う。

09.16　本日より、株式会社 九州文化財研究所が遺構実測業務を開始する。３層の除去は本日で終了する。竪穴建物 S048・050、井戸 S056、検出柱穴の調査を行う。

09.19　竪穴建物 S080 の中央、床面直上より小形仿製鏡が出土する。鏡面を上方、鑄を床面に接して出土した。鏡の周辺には炭が多く含まれており、鏡面にはベンガラ様の赤土が付着していた（裏面にはない）。

09.22　竪穴建物 S057・059・067・080 ～ 083・089・092・095 ～ 097 の調査を行う。

09.23　竪穴建物 S048・050・067・084・100 の調査を行う。

09.24　竪穴建物 S048・050・066・067・069・080・082 ～ 084・089・092・095・096・099・101、溝 S051 の調査を行う。

09.25　竪穴建物 S097・099・110・112 の調査を行う。

09.29　竪穴建物 S095・114・120・121・122・125・130 の調査を行う。

09.30　本日、調査区の一部を鉄道･運輸機構に引き渡す。竪穴建物 S049・050・121・123 ～ 125 の調査を行う。

10.02　竪穴建物 S064・069・088・090・092・095・097・101・102・106・130 の調査を行う。

10.07　本日より、非常勤職員 和田敏郎氏が調査に加わる。竪穴建物 S085・097・099・102・108・132 ～ 135・137 の調査を行う。

10.08　竪穴建物 S085・093・108・133・135・137・141 の調査を行う。

10.09　竪穴建物 S108・132 ～ 135・141・147 ～ 152 の調査を行う。

10.13　竪穴建物 S086・088・093・102・108・132・134・137・144・147・153 の調査を行う。
10.15　竪穴建物 S049・150・154 ～ 157 の調査を行う。竪穴建物 S156 の埋土中より小形仿製鏡とガラス玉が出土する。
10.16　本日より、非常勤職員 横田光智氏が調査に加わる。検出竪穴建物の調査を行う。
10.18　竪穴建物 S066・087・104・105・153・166 の調査を行う。
10.27　空中写真撮影および完掘状況の撮影を行う。

4区

2003 年
09.09　清掃を開始する。
09.10　包含層を掘削する。3区で弥生時代の竪穴建物の検出面とした橙色の層を確認する。
09.11　検出した溝やイモ穴を完掘し、4区の完掘状況を撮影する。
09.12　検出遺構の実測を行う。

5区

2003 年
08.27　調査予定地の周辺整備を開始する。
09.02　調査区整備を行う。
09.03　遺構検出を開始する。東西方向に走行する溝や井戸を検出する。これら検出遺構に S041 ～ 045 の名称を付す。
09.04　井戸 S041 の調査を行う。
09.05　検出遺構の調査を行う。
09.08　井戸 S041・061、イモ穴 S042・043、溝 S044・045・060・062・063 を完掘する。
09.09　完掘状況を撮影する。
09.10　検出遺構の実測を行う。
09.16　検出遺構の実測を行う。

排水処理槽予定地

2004 年
02.12　調査区整備を行う。
02.13　引き続き調査区整備を行う。
02.16　撹乱坑の掘削および溝 S001、竪穴建物 S003、土坑 S004 などを検出し、調査を開始する。
02.17　撹乱坑の掘削および溝 S001、竪穴建物 S003、土坑 S004 等検出遺構の調査を行う。
02.18　調査区の西側は撹乱が著しく、掘削に時間を要している。竪穴建物 4 軒など新たな遺構も検出されている。
02.19　竪穴建物 S003・013 ～ 015 の調査及び遺構検出を行う。
02.20　竪穴建物 S013 ～ 015 の調査を行う。
02.27　調査区西側の撹乱部の掘削及び竪穴建物 S013・015、土坑 S020・021 の調査を行う。
02.28　竪穴建物 S003・013、土坑 S017 ～ 022 の調査を行う。検出遺構を全て完掘し、調査区全体の完掘写真を撮影した。

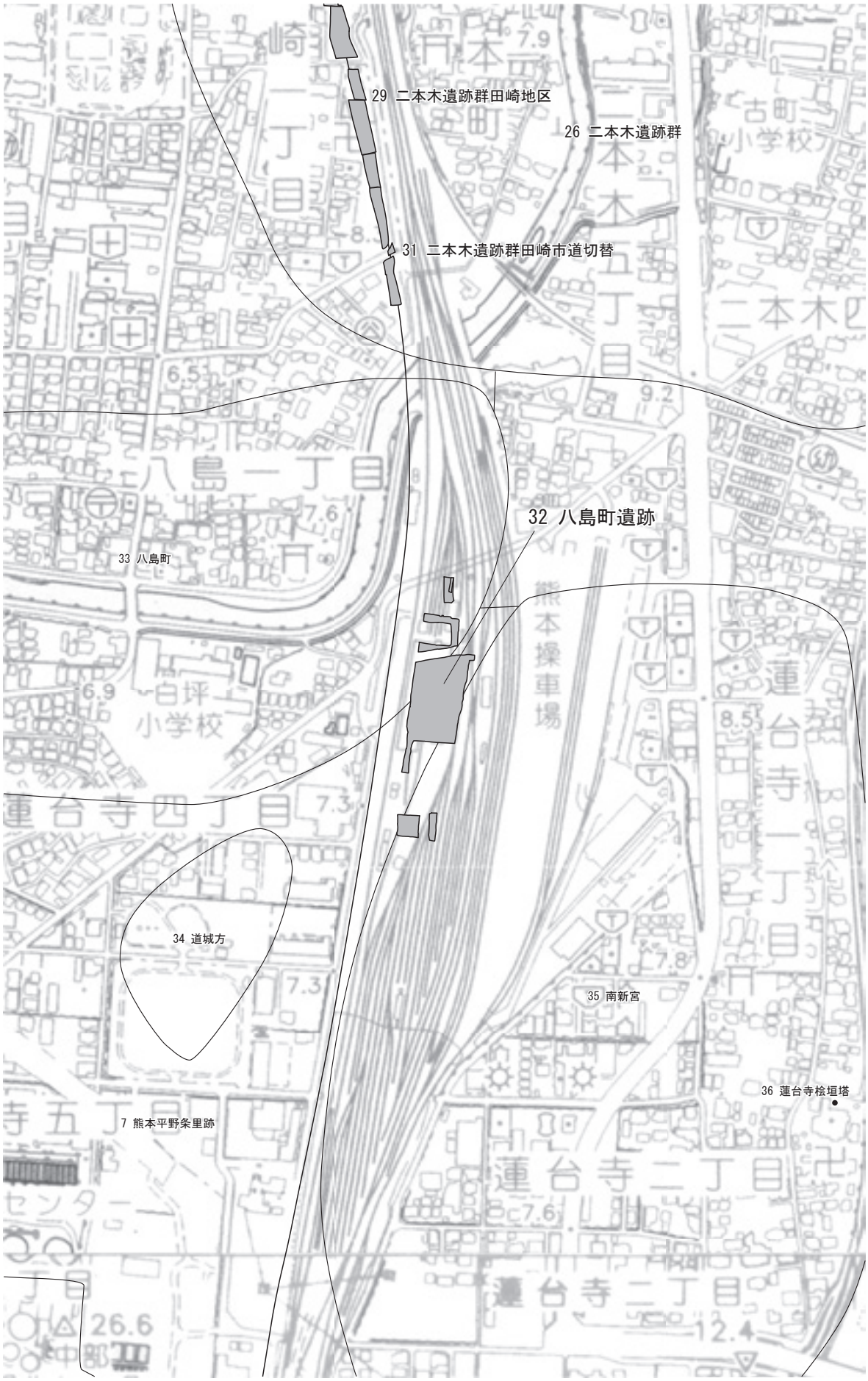


Fig.3　遺跡の位置図 1/5000

第３章

遺　　構

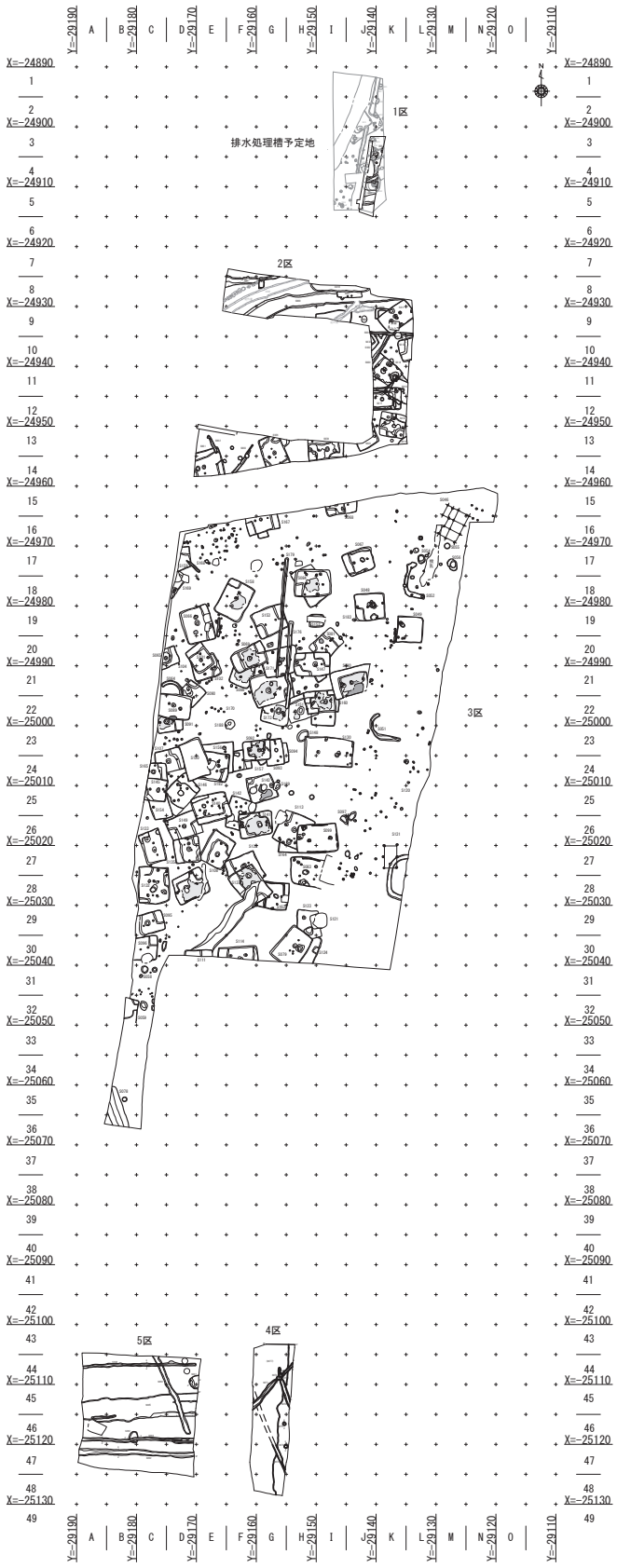


Fig.4　調査区全体図　S=1/1000

1　調査１区

（１）概要（Fig.5）

１区は今回発掘調査を行った全調査区のなかで最も北に位置し、J-1 グリッド～ J-3 グリッドにかけて設定された。その平面形は南北に全長 13.5 m、東西に最大幅 2.5 mを測る長方形を呈し、発掘調査面積は 31.4㎡である。

（２）遺構各説

a　溝

S026（Fig.5）

J-2・3 グリッドで検出した。幅 371㎝、検出面からの深度は 77㎝を測り、断面形は緩やかな擂鉢状を呈する溝である。重複する溝 S025 を削平し、両端は調査区外へ延びる。検出東西辺から推測される遺構の主軸は N-84°-E を測る。

S025（Fig.5）

J-2 グリッドで検出した。検出最大幅 163㎝、検出面からの深度は 33㎝を測り、断面形は緩やかな擂鉢状を呈する溝である。重複する溝 S026 に削平され、両端は調査区外へ延びる。検出東西辺から推測される遺構の主軸は N-64°-E を測る。

b　土坑

S024（Fig.5）

K-1 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びるため、平面形は不明である。検出長は 93㎝、検出面からの深度は 50㎝を測る。

S028（Fig.5）

J・K-1 グリッドで検出した。遺構の南側は撹乱坑によって削平される。平面形は楕円形を呈すると推測され、検出長は 78㎝、検出面からの深度は 12㎝を測る。基底直上には灰色の荒砂が敷詰められていた。

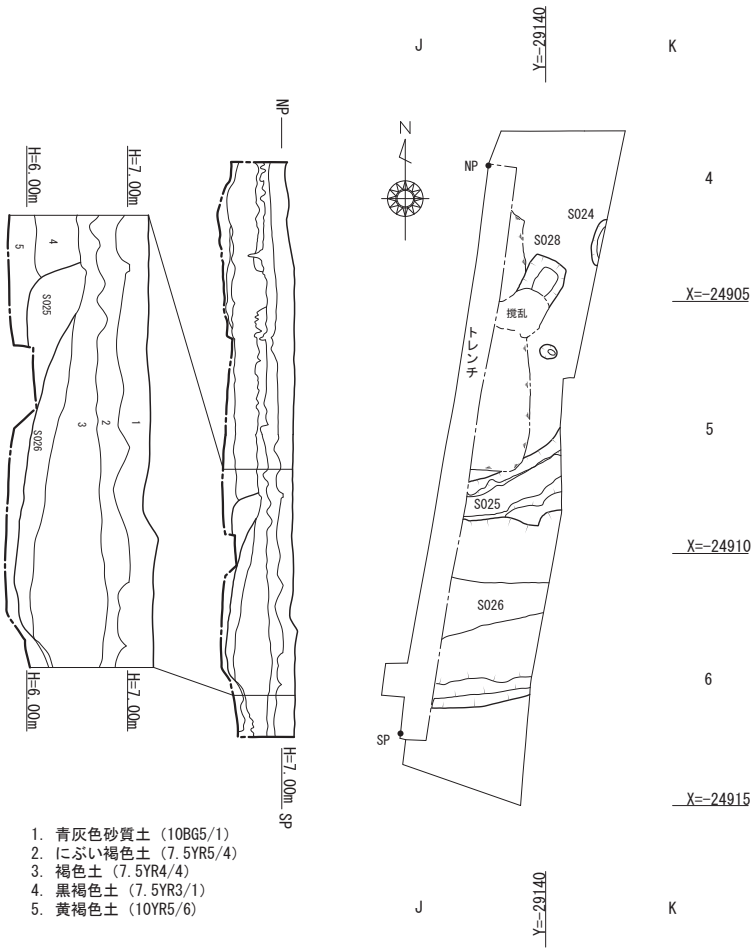


Fig.5　1 区遺構配置図　S=1/150

2　調査２区

（1）概要（Fig.6）

２区は１区の 12 m南側に位置し、F-7 グリッド～ D-14 グリッドにかけて設定された。平面形は最大南北長 24 m、最大東西長 35 m、最大幅 8.7 mを測る「コ」字形を呈する。その発掘調査面積は 452㎡を測る。

本調査区からは、溝 11 条、井戸１基、竪穴建物 18 軒、土坑２基、柱穴などを検出した。調査区の北側は東西方向に走行する溝が認められたのに対して、調査区中央から南側にかけては竪穴建物の集中が認められた。これらの竪穴建物は、出土遺物から弥生時代後期に比定できる。

（2）遺構各説

a　竪穴建物

S001（Fig.8）

E-13・14 グリッドで検出した。遺構の西側および南側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出長軸 4.7 m、検出短軸 3.5 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 42㎝を測る。検出長軸から推測される遺構の主軸は N-13°-W を測る。

遺構の北側および南東・南西では、ベッド状遺構（B1 ～ B3）を検出した。B1 は遺構北側東西辺に沿って検出した。その上面は遺構北端壁面に接しており、最大幅 97㎝、最少幅 53㎝の不定形な方形を呈し、遺構北東端で収束する。その高さは床面と比較して、20㎝高く構築されている。B2 は遺構東側南部で検出した。その上面は検出長辺 230㎝、検出短辺 177㎝、幅 74㎝の台形を呈し、床面と比較して 20㎝高く構築されている。B3 は調査区南西隅で僅かに検出した。したがって、平面形・規模は不明である。その上面の検出最大長辺は 54㎝を測り、床面と比較して６㎝高く構築されている。土坑は２基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。その平面形は長軸 66㎝の楕円形を呈する。床面からの深度は 21㎝を測り、基底は北東に向かって緩やかに傾斜する。K2 は K1 の西側で検出し、西側の一部は柱穴 P1 に削平される。その平面形は長軸 85㎝、短軸 70㎝の楕円形を呈する。床面からの深度は 10㎝を測り、基底は平坦面を形成する。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出し、K2 を一部削平する。その平面形は長軸 20㎝の円形を呈し、床面からの深度は 34㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出し、B2 を一部削平する。その平面形は長軸 26㎝の円形を呈し、床面からの深度は 28㎝を測る。P3 は遺構中央南部で検出した。その平面形は長軸 24㎝の円形を呈し、床面からの深度は 6㎝を測る。その内、P1・P2 の芯心距離は 354㎝を測る。本遺構では出土した甕・壺・高坏・鉢や敲石を図化した（Fig.49 ～ 51・73）。

Fig. 6　2 区遺構配置図　S=1/250

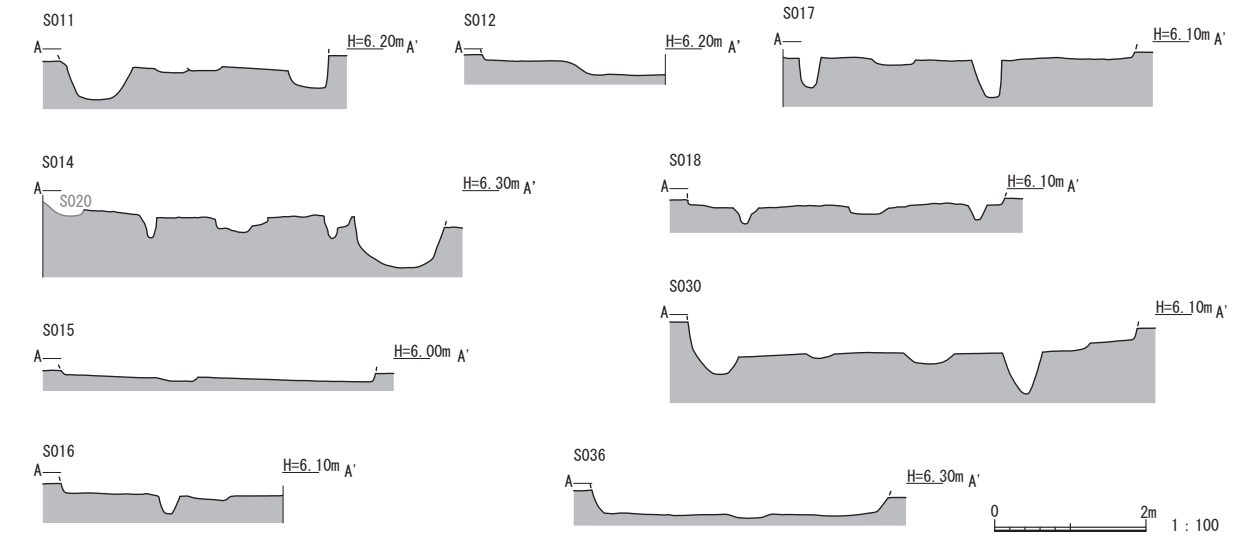


Fig.7　2 区竪穴建物断面図

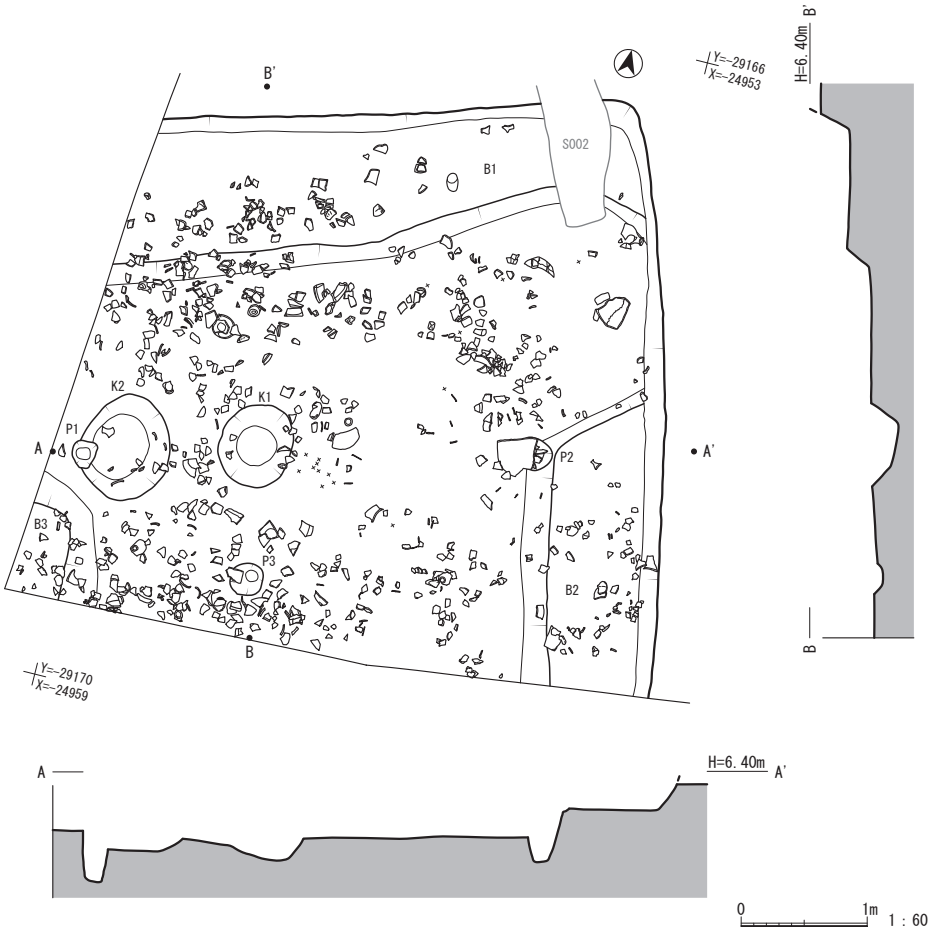


Fig. 8　竪穴建物 S001 遺構実測図

S011（Fig.6・7）

K-9 グリッドで検出した。遺構の東側は調査過程の過掘削のために不明確であるが、平面形は、長軸 5.7 m、短軸 3.6 mの長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30 ㎝を測る。遺構の主軸は N-54° -E を測る。

本遺構では土坑 4 基（K1 ～ K4）を検出した。K1 は遺構中央で検出し、K2 に後出する。K1 は長軸 57㎝、短軸 39㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K2 は遺構中央で検出し、遺構の東側は K1 に削平される。K2 は長軸 71㎝、短軸 47㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1・K2 は共に焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。その重複関係から K2 廃絶の後、K1 が作成されたと推測する。K3 は遺構西側中央で検出した。K3 は長軸 93㎝、短軸 90㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 42㎝を測る。その断面形状は「V 字」形を呈する。K4 は遺構東側中央で検出した。K4 は長軸 54㎝、短軸 54㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 25㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 64㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 64㎝を測る。P2 は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸 50㎝の円形を呈し、床面からの深度は 63㎝を測る。その基底から 13 上方には幅 19㎝の段が巡る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 197㎝を測る。

S012（Fig.6・7）

K･L-10 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形･規模は不明確であるが、長軸 3.6 m、検出短軸 2.5 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30㎝を測る。遺構の主軸は N-10° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 201㎝、東西長 116㎝を測り、長方形を呈し、床面と比較して 20㎝高く構築されている。

S014（Fig.6・7）

K-10・11 グリッドで検出した。遺構の北側は後出する溝 S020、東側は撹乱坑、南側は井戸や竪穴建物 S015 によって削平され、西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 5.6 m、短軸 3.6 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18㎝を測る。遺構の主軸は N ‐ 47° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 の南側は調査区外へ延びる。したがって、その平面形・規模は不明確である。上面は長軸 288㎝、短軸 91㎝を測り、長方形を呈すると推測され、床面と比較して 8 ㎝高く構築されている。土坑は 3 基（K1 ～ K3）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 68㎝、短軸 44㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K2 は K1 と重複して検出した。その北側は K1 に削平されているが、長軸 42㎝、短軸 25㎝の長楕円形を呈し、基底からの堀込は 19㎝を測る。K1・K2 は共に焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。その重複関係から K2 廃絶の後、K1 が作成されたと推測する。また、K1・K2 を中心に床面全体に硬化面の広がりを確認した。K3 は遺構南側中央で検出した。K3 は長軸 74㎝、短軸 62㎝の隅丸方形を呈し、床面からの深度は 14㎝を測る。その断面形状は擂鉢状を呈する。柱穴は 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で B1 に接して検出した。その平面形は長軸 28㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 34㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 45㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 27㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 250㎝を測る。

S016（Fig.6・7）

K-11・12 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S015・017 に後出する。遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 3.4 m、短軸 3.4 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18㎝を測る。遺構の主軸は N ‐ 65° -W を測る。

本遺構では土坑を 1 基（K1）検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 63㎝、短軸 56㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 6 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は 1 基(P1)を検出した。P1 は遺構中央で検出した。その平面形は長軸 29㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 23㎝を測る。

S017（Fig.6・7）

K-11・12 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S016・015 に先行する。遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 4.7 m、短軸 3.7 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 11㎝を測る。遺構の主軸は N ‐ 88° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は遺構北側および東側で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 465㎝、南北長 342㎝、最大幅 109㎝、最少幅 54㎝を測る「鍵」形を呈し、床面と比較して 3 ㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 63㎝、短軸 57㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 8 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は炭化物や灰を含有しており、炉跡である。柱穴は 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 30㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 38㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 39㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 48㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 230㎝を測る。

S018（Fig.6・7）

K-12・13 グリッドで検出した。平面形は、長軸 4.3 m、短軸 4.0 mを測り、方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 8 ㎝を測る。遺構の主軸は N ‐ 78° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 4 基（B1 ～ B4）検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 160㎝、南北長 110㎝を測る長方形を呈し、床面と比較して 10㎝高く構築されている。B2 は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 168㎝、南北長 98㎝を測る長方形を呈し、床面と比較

して５㎝高く構築されている。B3 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 122㎝、南北長 96㎝を測る長方形を呈し、床面と比較して 11㎝高く構築されている。B4 は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 113㎝、南北長 124㎝を測る長方形を呈し、床面と比較して８㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 63㎝、短軸 46㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。その基底は東側が最も深い。K1 は炭化物を多く含有しており、炉跡である。また、K1 を中心に硬化面が広がる。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 34㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 21㎝を測る。その基底から 12㎝上方には幅 11㎝の段を有する。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 30㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 19㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 306㎝を測る。

S030（Fig.6・7）

I・H-13 グリッドで検出した。その両端は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は、長軸 5.8 m、検出短軸 3.2 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 37㎝を測る。遺構の主軸は N － 86°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を３基（B1 ～ B3）検出した。B1 は遺構北西側で調査区に沿って検出した。その上面は東西長 376㎝、南北長 56㎝を測る長方形を呈し、床面と比較して 13㎝高く構築されている。B2 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 151㎝、東西長 117㎝を測る長方形を呈し、床面と比較して 20㎝高く構築されている。B3 は遺構東側で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 226㎝、最大幅 234㎝、最少幅 59㎝の「鍵」形を呈すると推測され、張出部の南北長は 88㎝を測る。B3 は床面と比較して 10㎝高く構築されている。土坑は２基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 81㎝、短軸 69㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は炭化物を多く含有しており、炉跡である。また、K1 を中心に硬化面が広がり、焼土や炭が認められる。K2 は遺構西側中央で壁面に接して検出した。K2 は長軸 60㎝、短軸 56㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 23㎝を測る。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 37㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は６㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 55㎝の円形を呈し、床面からの深度は 54㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 272㎝を測る。

S036（Fig.6・7）

G-13・14 グリッドで検出した。遺構の両端は調査区外へ延び、北東部は重複する土坑に後出する。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は検出長軸 4.8 m、短軸 4.0 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 25㎝を測る。遺構の主軸は N － 24°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を４基（B1 ～ B4）検出した。B1 は遺構北西側で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 156㎝、南北長 109㎝を測る歪な三角形を呈し、床面と比較して 19㎝高く構築されている。B2 は遺構北東側で調査区に沿って検出した。その上面は南北長 64㎝、最大幅 89㎝、最少幅 59㎝を測る台形を呈し、床面と比較して 14㎝高く構築されている。B3 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 82㎝、最大幅 60㎝、最少幅 20㎝の台形を呈し、床面と比較して 15㎝高く構築されている。。B4 は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 133㎝、南北長 60㎝を測る三角形を呈し、床面と比較して 20㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 70㎝、短軸 58㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は４㎝を測る。その断面形状は擂鉢状を呈する。K1 は炭化物を多く含有しており、炉跡である。柱穴は４基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は遺構中央北側で検出した。その平面形は長軸 16㎝の円形を呈し、床面からの深度は 24㎝を測る。P2 は遺構中央南側で検出した。その平面形は長軸 13㎝の円形を呈し、床面からの深度は 24㎝を測る。P3 は P2 の西方 108㎝で検出した。その平面形は長軸 46㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。その基底から４㎝上方には幅 11㎝の段が巡る。P4 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 16㎝の円形を呈し、床面からの深度は 11㎝を測る。

Fig. 9　3 区遺構配置図　S=1/500

3　調査３区

（1）概要（Fig.9）

３区は、２区の 8.4 m南側に位置し、N-15 グリッド～ B-35 グリッドにかけて設定された。平面形は最大南北長 81.7 m、最大東西長 53.4 mを測る長方形を呈し、南西隅に南北長 29.4 m、東西長 6.2 mの長方形の張り出し部を持つ。その発掘調査面積は 3,693㎡を測る。

本調査区からは、多くの竪穴建物や掘立柱建物などを検出した。調査区の中央から西側は竪穴建物の集中が認められるが、調査区東側では竪穴建物の密度が低くなる。これらの竪穴建物は、出土遺物から弥生時代後期に比定できる。

（2）遺構各説

a　掘立柱建物

S046（Fig.10）

M-15・16 グリッドで P1 ～ P14 の 14 基の柱穴を検出した。桁行３間×梁行２間の総柱建物の北西部に桁行１間×梁行１間の張出部を有する。P4-P8 軸から想定する建物の主軸は N-27° -E を測る。

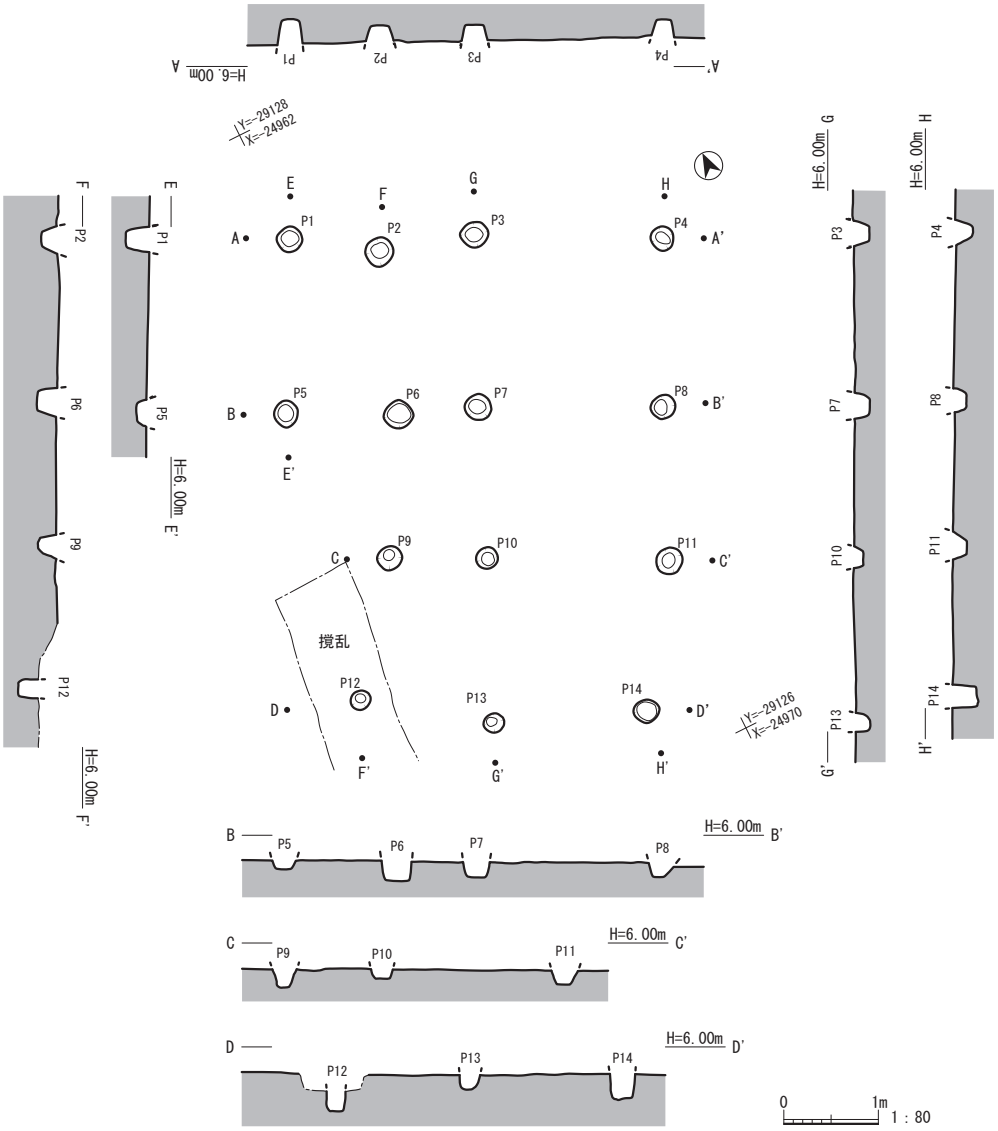


Fig.10 掘立柱建物 S046 遺構実測図

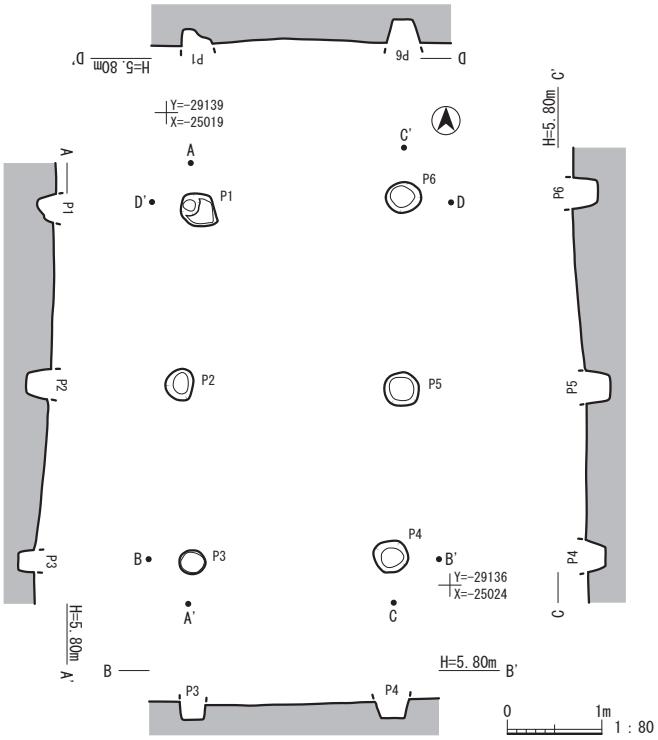


Fig.11　掘立柱建物 S131 遺構実測図

各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 22 ～ 30㎝を測り、近似する。検出面からの深度は P5･P10 の 10㎝、P12 の 40㎝以外は、15 ～ 28㎝を測る。桁側の柱間は最大桁間（P1-P5）185㎝、最小桁間（P6-P9、P9-P12）150㎝を測る。梁側の柱間は最大梁間（P3-P4）200㎝、最小梁間（P6-P7）85㎝を測る。

S131（Fig.11）

K-27 グリッドで P1 ～ P6 の６基の柱穴を検出した。桁行２間×梁行１間での側柱建物である。建物の主軸は N-0° -W を測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 28 ～ 43㎝、検出面からの深度は 16 ～ 26㎝を測る。桁側の柱間は P1-P2 間が 188㎝、P2-P3 間が 190㎝、P5-P6 間が 204㎝、P4-P5 間が 177㎝を測る。梁側の柱間は P1-P6 間が 224㎝、P3-P6 間が 214㎝を測る。

b　竪穴建物

S048（Fig.12）

J・K-18・19 グリッドで検出した。平面形は長軸 4.9 m、短軸 4.4 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20㎝を測る。東西辺から推測される遺構の主軸は W-5° -S を測る。遺構埋土は黒褐色土の単層である。

本遺構ではベッド状遺構を１基（B1）検出した。B1 は遺構南西隅で検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は南北長 192㎝、幅 129㎝の長方形を呈し、床面と比較して９㎝高く構築されている。土坑は２基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は直径 80㎝の円形を呈し、床面からの深度は 17㎝を測る。その基底は西側に僅かな段を有する。K1 内は３層に分層され､焼土や炭化物を多く含む。また、K1 の北西側は検出長 58㎝の炭化物の広がりが認められ、それらの上には焼土の広がりが認められる。よって K1 は炉跡である。K2 は遺構中央南端で検出した。K2 はその南端を遺構壁面に接し、長軸 130㎝、短軸 102㎝の楕円形を呈する。床面からの深度は７㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は４基を検出したが、ここでは P1・P2 の２基を報告する。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 40㎝の円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 34㎝の円形を呈し、床面からの深度は 12㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 428㎝を測る。炉跡から遺構北側にかけて多量の遺物が出土しており、甕・壺・鉢を図化した（Fig.52）。

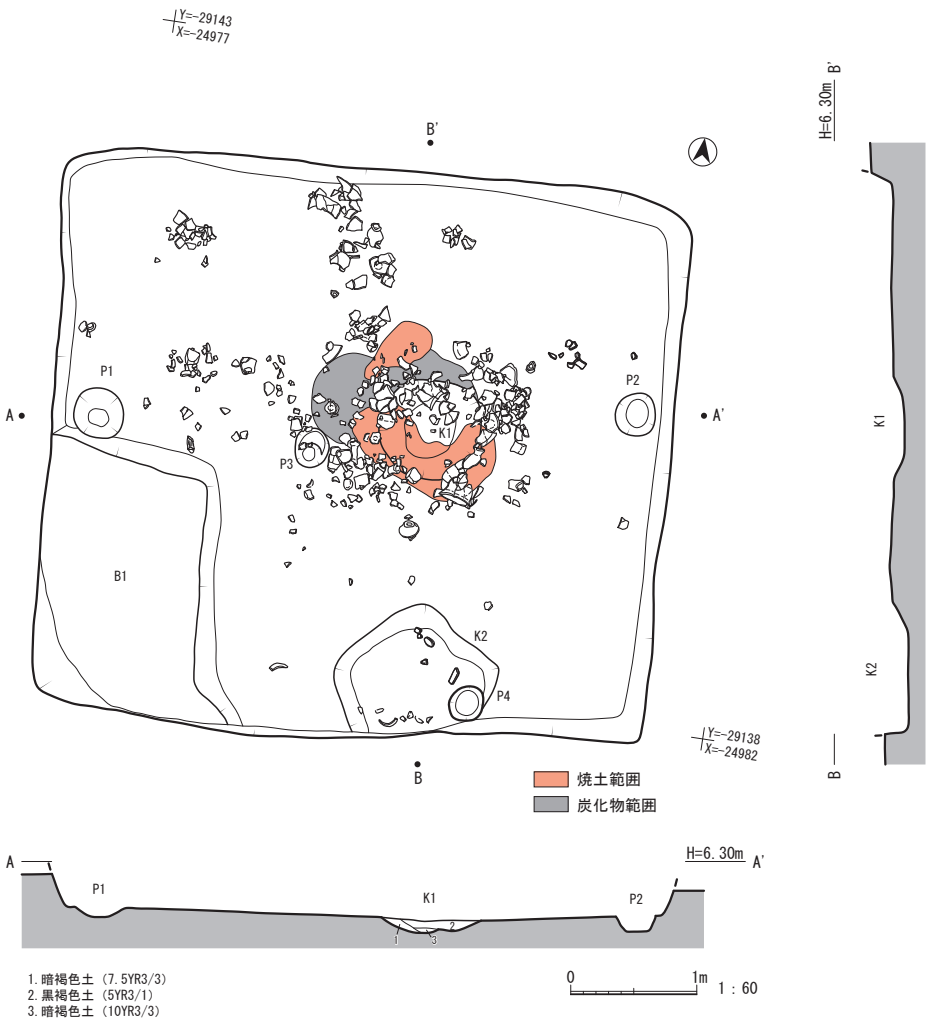


Fig.12 竪穴建物 S048 遺構実測図

S066（Fig.13）

D・E-19 グリッドで検出した。平面形は長軸 5.8 m、短軸 5.0 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 40㎝を測る。遺構の主軸は N-12° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基(B1)検出した。B1 は遺構東側全体で検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は最大幅 112㎝、最少幅 96㎝の長方形を呈し、床面と比較して 14㎝高く構築されている。土坑は３基（K1 ～ K3）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 95㎝、短軸 79㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 4 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2 は K1 の北方 22㎝で検出した。K2 は長軸 75㎝、短軸 52㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 と K2 の長軸方向は約 90°異なっている。K3 は B1 上で検出した。撹乱坑のため平面形・規模は不明確であるが、長軸 80㎝の長楕円形を呈すると推測され、B1 上面からの深度は 18㎝を測る。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は北側中央で検出し、K2 と重複関係にあり、K2 より後出する。その平面形は長軸 27㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 16㎝を測る。P2 は南側中央で検出した。その平面形は長軸 19㎝の円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 329㎝を測る。

本遺構の北部からは多量の遺物が出土した。これらの遺物量は本遺跡で最多である。ここでは、甕・壺・高坏・鉢、砥石などを図化した（Fig.53 ～ 60）。

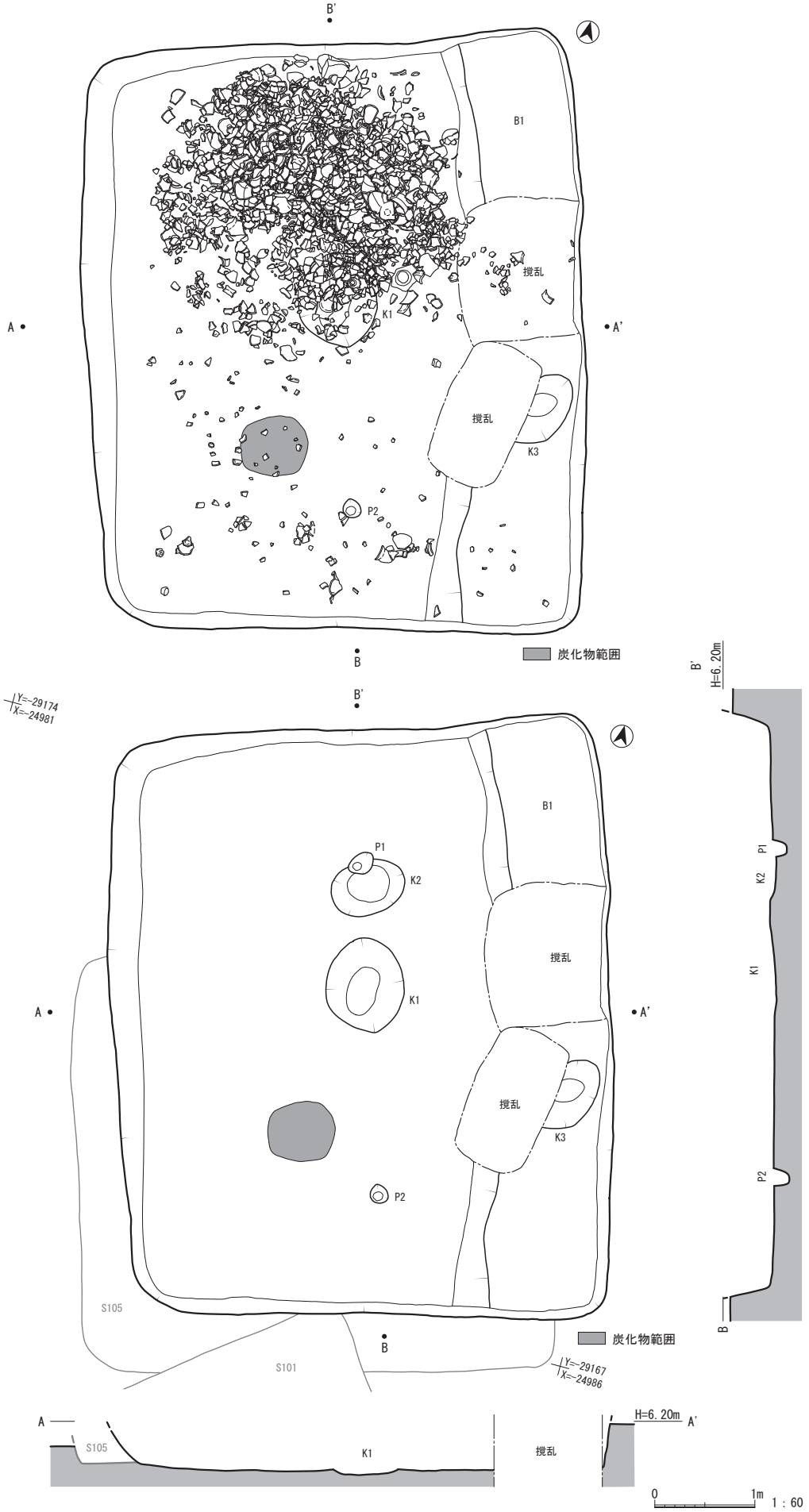


Fig.13　竪穴建物 S066 遺構実測図

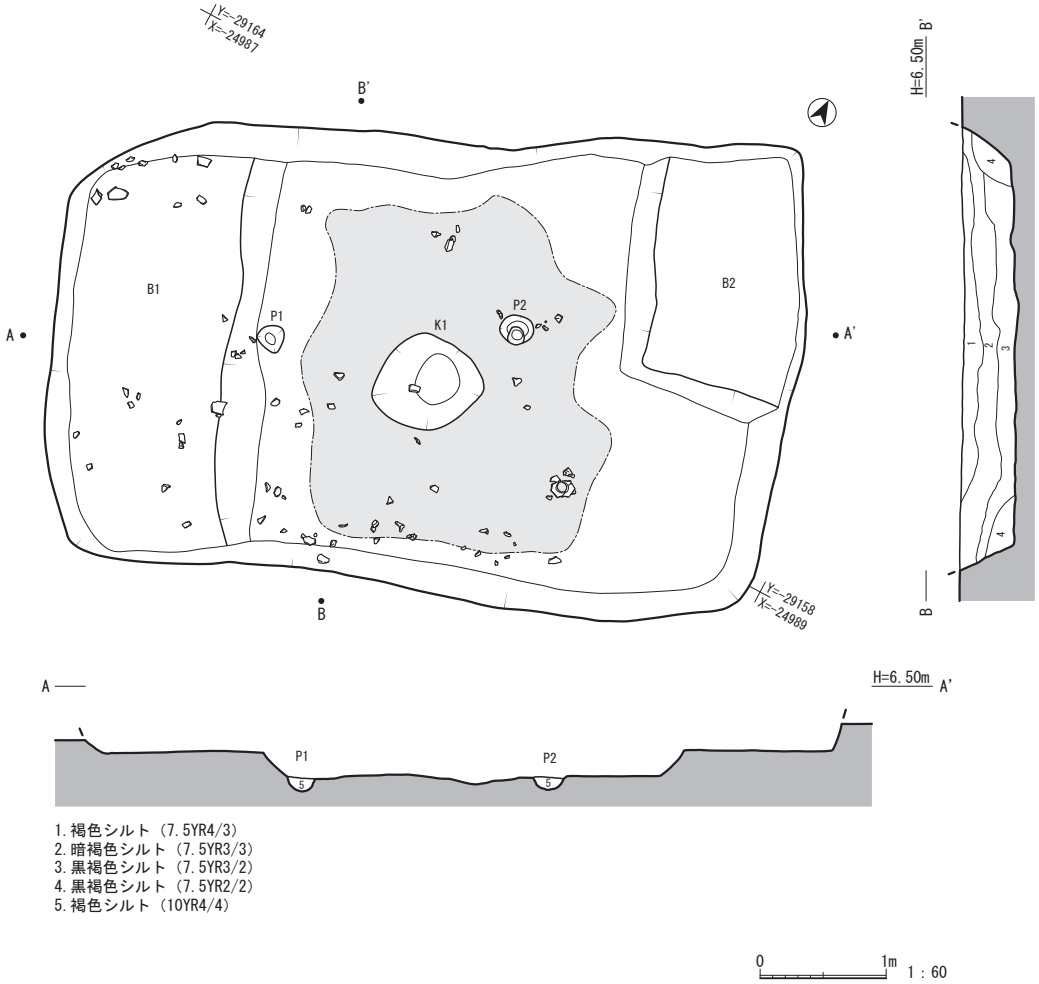


Fig.14　竪穴建物 S069 遺構実測図

S069（Fig.14）

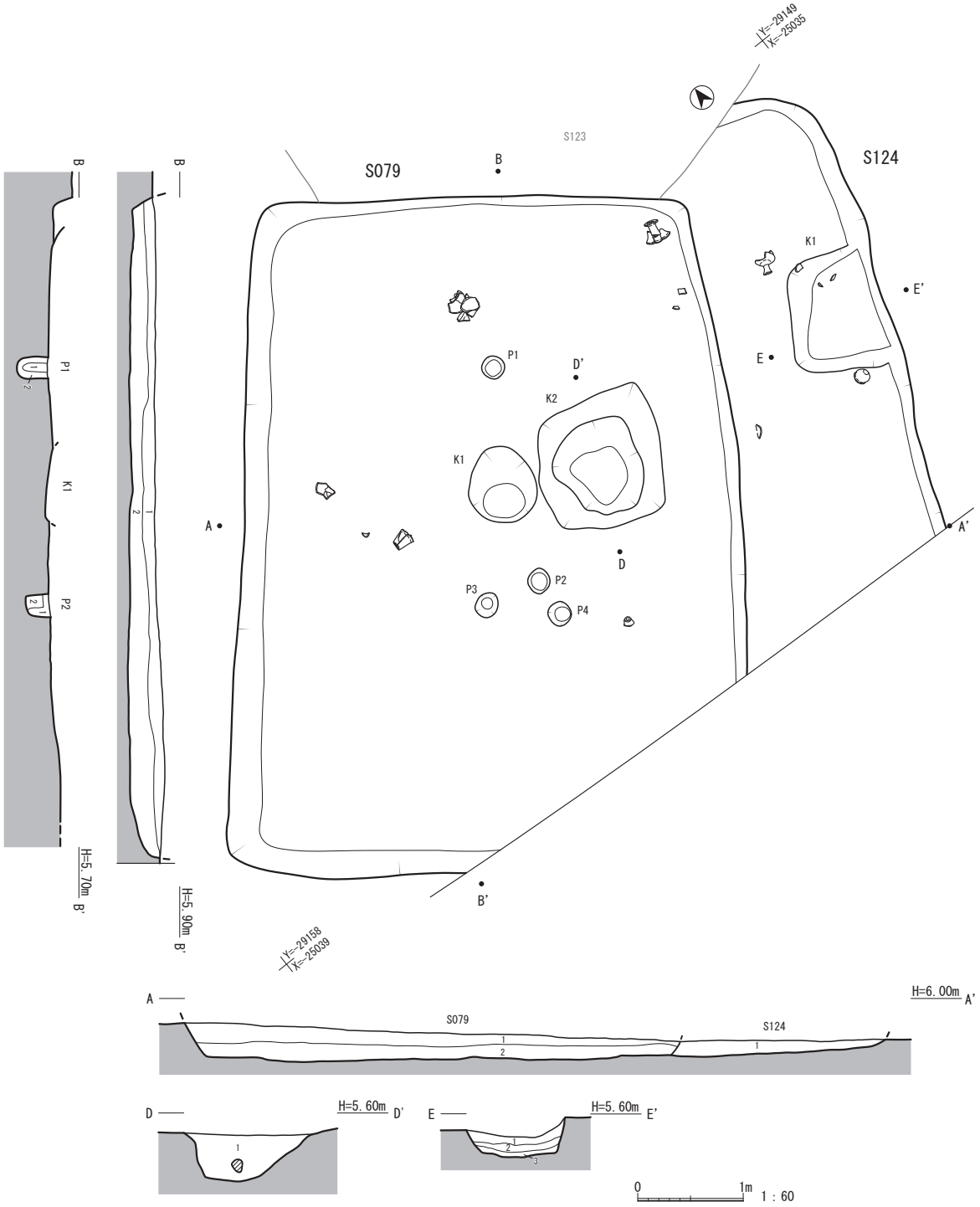
F･G-20 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S088･171 より後出する。平面形は長軸 5.9 m、短軸 3.6 mの長方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 43㎝を測る。遺構の主軸は N-66°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を２基（B1・B2）検出した。B1 は遺構西側全体で検出した。B1 は遺構壁面に接しており､その上面は南北長 308㎝､東西長 131㎝の長方形を呈し､床面と比較して 20㎝高く構築されている。B2 は遺構北東隅で検出した。B2 は遺構壁面に接しており、その上面は南北長 198㎝、東西長 110㎝の長方形を呈し、床面と比較して 20㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 90㎝、短軸 77㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は４㎝を測る。その断面形は擂鉢状を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、遺構中央では硬化面も検出した。硬化面は K1 を取り囲むように不定形に広がり、B1・B2 には至らない。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 22㎝の円形を呈し、床面からの深度は９㎝を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 27㎝の円形を呈し、床面からの深度は９㎝を測る。本遺構では出土した安山岩製の石鏃を図化した（Fig.72）。

S079（Fig.15）

G･H-30 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S123･124 に先行する。遺構の南側は調査区外へ延びるが、平面形は長軸 6.4 m、短軸 4.7 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、検出面から床面までの深度は 19㎝を測る。遺構の主軸は N-42°-E を測る。

本遺構では土坑２基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 72㎝、短軸 64㎝の楕



S079
1. 黒褐色土（10YR2/3）焼土を多く含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）炭化物を若干含む

S079(P1)
1. 暗褐色シルト（5YR3/2）
2. 黒褐色土（7.5YR3/1）

S079(P2)
1. 褐色土（7.5YR4/3）
2. 褐色土（7.5YR4/6）

S124
1. 褐色土（7.5YR4/3）

D-D'
1. 明赤褐色シルト（5YR3/2）

E-E'
1. 黒褐色シルト（5YR2/1）
2. 黒褐色シルト（5YR2/1）
3. 赤褐色シルト（5YR3/3）

Fig.15　竪穴建物 S079・S124 遺構実測図

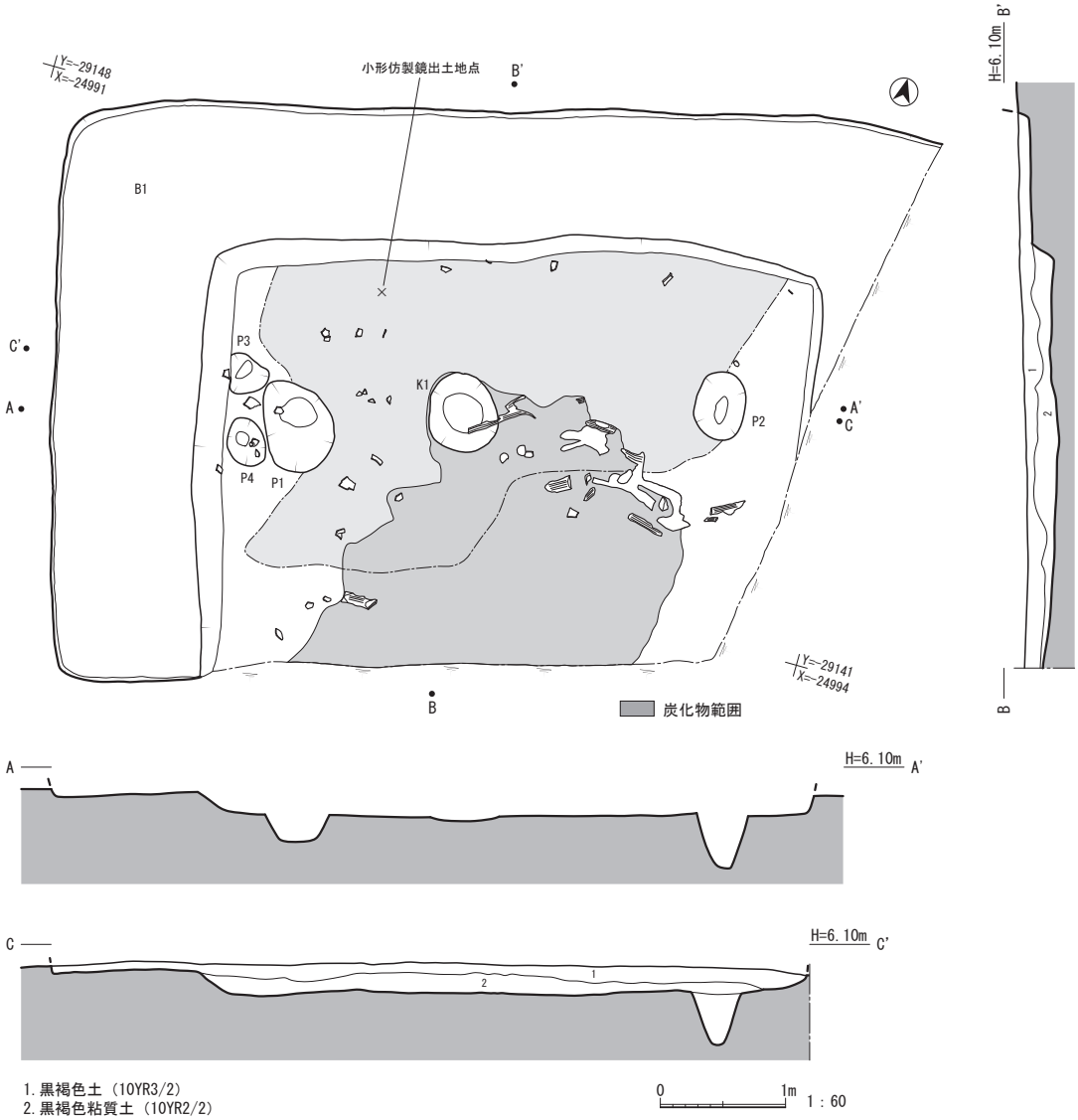


Fig.16　竪穴建物 S080 遺構実測図

円形を呈し、床面からの深度は３㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2 は K1 の東方に隣接して検出した。K2 は長軸 122㎝、短軸 119㎝の隅丸方形を呈し、床面からの深度は 43㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は４基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は北側中央で検出した。その平面形は長軸 22㎝の円形を呈し、床面からの深度は 28㎝を測る。P1 からは、幅９㎝、床面からの深度 23㎝の柱痕跡が土層断面より確認された。P2 は南側中央で検出した。その平面形は長軸 24㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 22㎝を測る。P3 は P2 の東側で検出した。その平面形は長軸 24㎝の円形を呈し、床面からの深度は 32㎝を測る。P4 は P3 の南方で検出した。その平面形は長軸 22㎝の円形を呈し、床面からの深度は 44㎝を測る。本遺構では、出土した器台・石包丁を図化した（Fig.61・72）。

S124（Fig.15）

H-30 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S079・123 によって遺構の西側の大半は削平され、南端は調査区外へ延びる。したがって、遺構の平面形・規模は不明である。平面形は検出長軸 4.8 m、検出短軸 1.6 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面は緩やかに立ち上がり、検出面から床面までの深度は 15㎝を測る。長軸から推測される遺構の主軸は N-22° -E を測る。

本遺構では土坑を１基（K1）検出した。K1 は遺構中央東端で検出した。K1 はその東端を遺構壁面に接し、長軸 112㎝、短軸 79㎝の隅丸方形を呈する。床面からの深度は 27㎝を測り、その基底は平坦面を形成する。本遺構では出土した台付鉢・鉢、砥石を図化した（Fig.65・74）。

S080（Fig.16）

I･J-21 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S160 に後出し、遺構の東･南側は撹乱によって削平される。したがって、平面形･規模は不明確であるが、検出長軸 6.2 m、短軸 4.4 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18㎝を測る。遺構の主軸は N-73° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は北壁・西壁と接する。また、東壁もその検出状況から両壁と同様と推測され、その上面は幅 1 mの「コ」字形を呈する。床面と比較して 15㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 65㎝、短軸 56㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 3 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は 4 基（P1 ～ P4）を検出したが、ここでは P1・P2 について報告する。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 77㎝、短軸 50㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 22㎝を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 54㎝、短軸 40㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 43㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 340㎝を測る。

本遺構内には B1 北面から南側にかけて広範囲に硬化面が認められる。この硬化面は P1・P2 を避けて形成される。硬化面上の K1 周辺から遺構南側には、広範囲におよぶ炭化物や木目を残す炭化材が出土している。硬化面上からは、鏡面を上方に向けて、水平に残置された状態で小形仿製鏡（Fig.72）が出土しており、図化した。

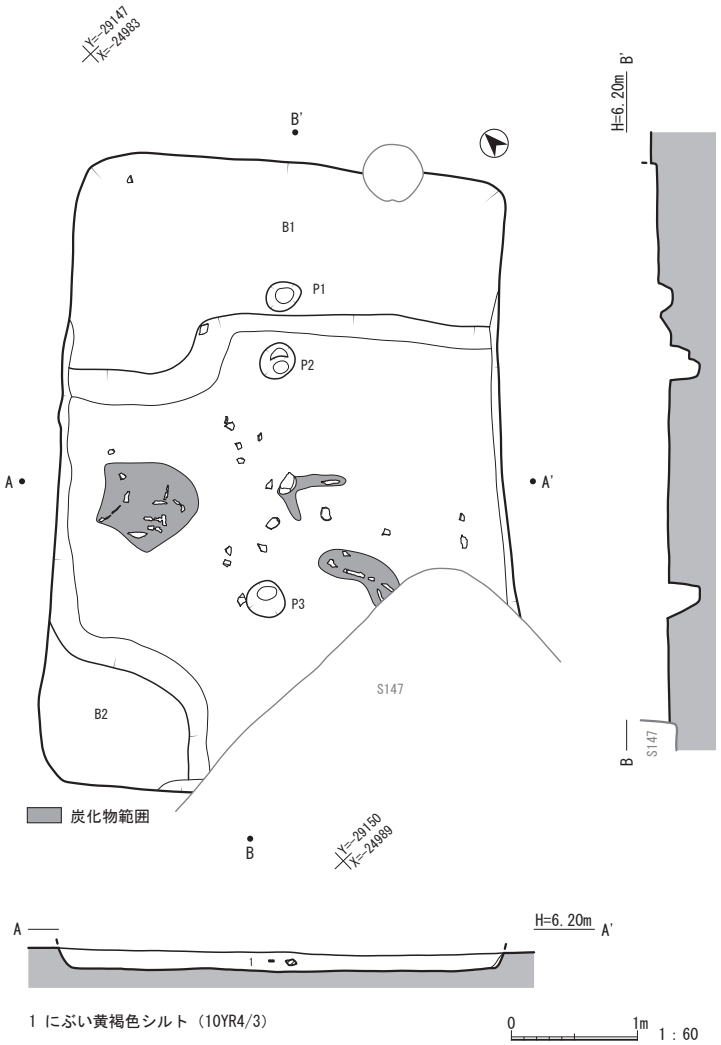


Fig.17　竪穴建物 S081 遺構実測図

S081（Fig.17）

I-20 グリッドで検出した。遺構南東部を竪穴建物 S147 に削平される。また、遺構北側の一部は、遺構検出時にベッド状遺構（B1）上面まで削平する。平面形は長軸 5.1 m、短軸 3.5 mの長方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 15㎝を測る。遺構の主軸は N-47° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を２基（B1・B2）検出した。B1 は遺構北側で検出した。B1 の北側は過掘削のために不明確であるが、遺構北壁に接すると推測される。B1 の上面は、幅 115㎝の長方形を呈し、西端から東方へ 107㎝、南方へ 41㎝の長方形の張出部を形成する。B1 は床面と比較して 12㎝高く構築されている。B2 は遺構南西隅で検出した。B2 は遺構東壁・南壁に接しており、その上面は南北長 124㎝、東西長 106㎝の長方形を呈する。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は北側中央の B1 上で検出した。その平面形は長軸 29㎝の長楕円形を呈し、B1 上面からの深度は 10㎝を測る。P2 は北側中央で検出した。その平面形は長軸 29㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 23㎝を測る。その基底から８㎝上方には幅５㎝の段を有する。P3 は南側中央で検出した。その平面形は長軸 31㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 25㎝を測る。P2・P3 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 194㎝を測る。遺構中央の床面では炭化物塊および炭化物の集中部を検出した。

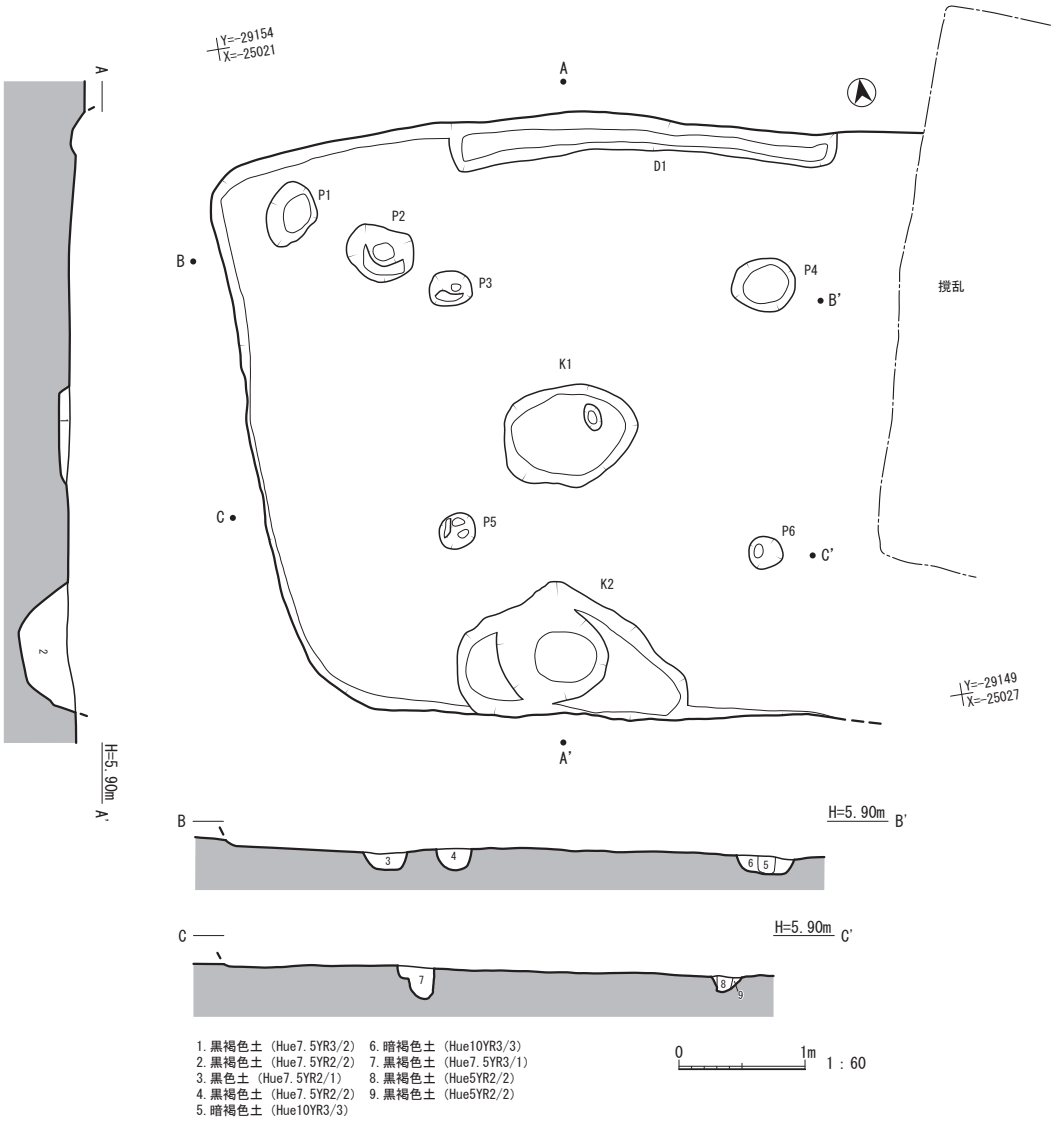


Fig.18　竪穴建物 S083 遺構実測図

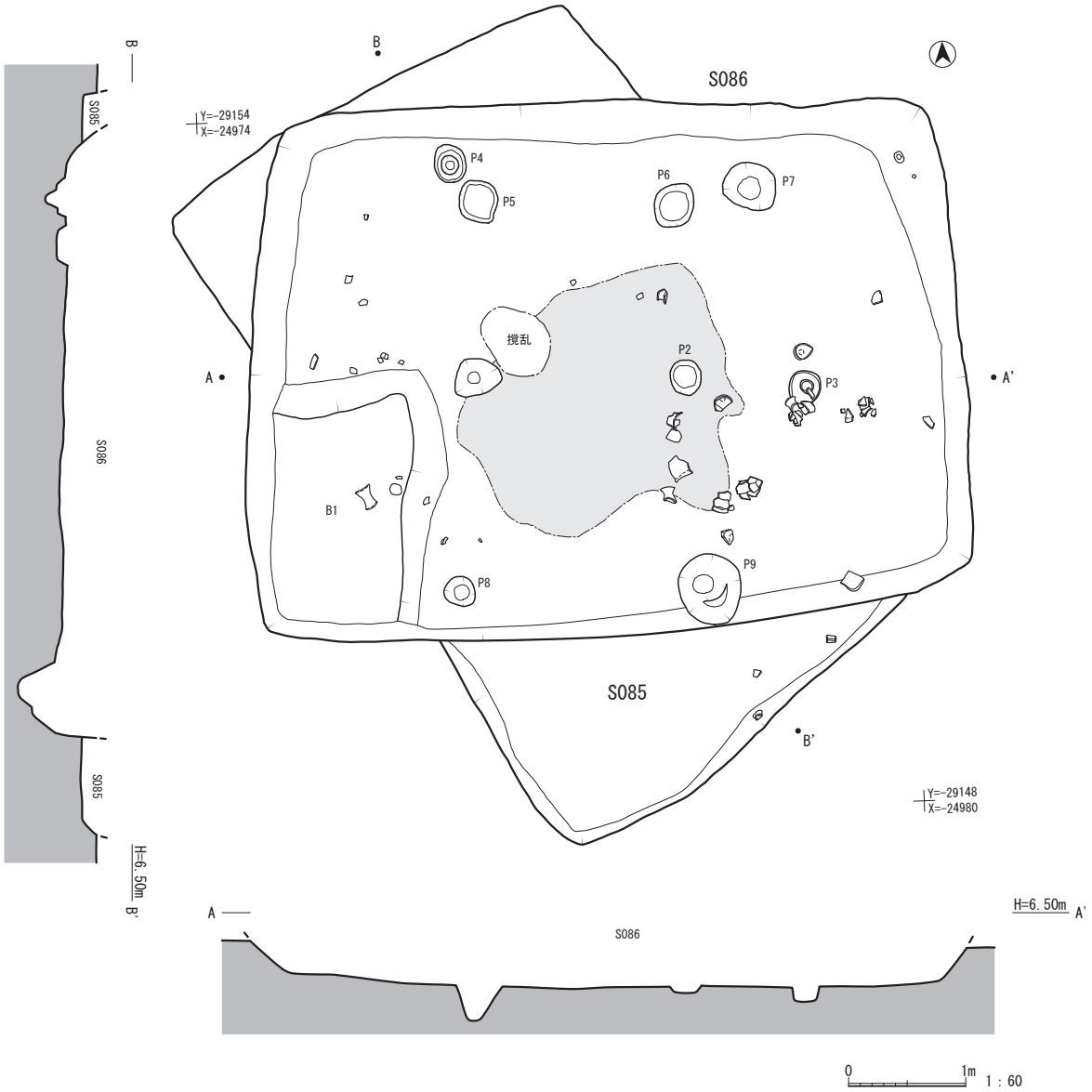


Fig.19　竪穴建物 S085・086 遺構実測図

S083（Fig.18）

H-27･28 グリッドで検出した。検出時の過掘削により検出状況は悪く、遺構全体の検出には至らなかった。西側は撹乱によって削平される。したがって、遺構の平面形・規模は不明確であるが、遺構の東側は撹乱によって削平される。平面形は残存長軸 4.9 m、短軸 4.5 mを検出し、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 1 ～ 11㎝を測る。遺構の主軸は N-80°-W を測る。

本遺構では溝を 1 条（D1）検出した。D1 は遺構北側中央から東側で検出した。D1 は東西に走行し、長さは 305㎝、幅は 26㎝～ 35㎝を測り、床面からの深度は 10㎝程度である。その基底は平坦面を形成する。土坑は 2 基（K1･K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 107㎝、短軸 77㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 3 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。その基底の北東には長軸 22㎝の長楕円形の堀込を有する。K1 基底からの深度は 5 ㎝を測る。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2 は遺構南側中央で遺構壁面に沿って検出した。長軸 181㎝、短軸 105㎝の半円形を呈し、床面からの深度は 36㎝を測る。その基底は平坦面を形成し、基底の 26㎝上方には幅 28 ～ 61㎝の段が巡る。柱穴は 6 基（P1 ～ P6）を検出した。P1・P2・P4 は長軸約 50㎝を測り、床面からの深度は約 20㎝を測る。P3・P5・P6 は長軸約 30㎝を測り、床面からの深度は P3・P5 は約 30㎝、P6 は 54㎝を測る。本遺構では出土した砥石を図化した（Fig.75）。

S085（Fig.19）

H-17・18 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S086 によって、その大半を削平される。したがって、隅部のみを検出した。平面形は長軸 6.5 m、短軸 4.1 mを測り、長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 13㎝を測る。遺構の主軸は N-31° -W を測る。本遺構では出土した砥石を図化している（Fig.74）。

S086（Fig.19）

H・I-18 グリッドで検出した。竪穴建物 S085 に後出する。平面形は長軸 6.1 m、短軸 4.6 mを測り、長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27㎝を測る。遺構の主軸は N-90° -W を測る。遺構埋土は黒褐色シルトの単層である。

本遺構ではベッド状遺構（B1）を検出した。B1 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 179㎝、東西長 109㎝の長方形を呈し、床面からの深度は 15㎝を測る。柱穴は９基（P1 ～ P9）を検出した。それらの長軸は 27（P3・P8）～ 59（P9）㎝を測り、床面からの深度は３（P6）～ 65（P4）を測る。ここでは主柱穴と想定される P1・P2 について報告する。P1 は中央西側で検出した。その平面形は長軸 40㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 31㎝を測る。P2 は中央東側で検出した。その平面形は長軸 31㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は４㎝を測る。また、本遺構では遺構中央部に硬化面の広がりが認められた。出土した器台・敲石を図化した（Fig.61・73）。

S089（Fig.20）

D-22 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S090・091 に後出し、遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 5.3 m、短軸 4.3 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 44㎝を測る。遺構の主軸は N-82° -W を測る。

本遺構では土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 74㎝、短軸 64㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。その断面形は擂鉢状を呈する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、遺構南端中央の床面では、長軸 136㎝、短軸 48㎝の半円形の焼土の集中部を検出した。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 38㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 18㎝を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 57㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 40㎝を測る。その基底から６㎝上方には幅 22㎝の段を有する。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 214㎝を測る。本遺構では出土した壺を図化した（Fig.61）。

S091（Fig.20）

C・D-23 グリッドで検出した。遺構の北側は竪穴建物 S089 に削平され、遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。長軸 4.2 m、検出短軸 3.0 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 22㎝を測る。遺構の主軸は N-81° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を１基（B1）検出した。B1 は遺構東側で検出した。B1 の北側は竪穴建物 S089 による削平のために不明確であるが、遺構東壁に接し、北側へ延びることが推測される。検出した B1 の上面は検出南北長 177㎝、最大幅 116㎝を測り、床面と比較して 14㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 92㎝、短軸 76㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。その断面形は擂鉢状を呈する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 周辺には硬化面が広がる。硬化面上の K1 東側には炭化物が広がるが、その範囲は削平のために不明である。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 36㎝の円形を呈し、床面からの深度は 25㎝を測る。その基底から９㎝上方には幅６㎝の段が巡る。P2 は東側中央の S201 下で検出した。その平面形は長軸 26㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 21㎝を測る。その基底から５㎝上方には幅８㎝の段を有する。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 217㎝を測る。

S092（Fig.21）

F・G-23・24 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S093 に後出する。平面形は、長軸 4.6 m、短軸 3.3 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 39㎝を測る。遺構の主軸は N-84° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を２基（B1・B2）検出した。B1 は遺構東側で検出した。B1 は遺構西壁に接し、北端と南端は遺構東側へ向かって張り出し、「コ」字状を呈する。B1 の北端は東側へ 53㎝、幅 96㎝、南端は東側へ 117㎝、幅 60㎝、中央は幅 70㎝を測る。B1 は床面と比較して 28㎝高く構築されている。B2 は遺構東側北部で検出した。遺構東壁に接し、その上面は南北に最大 174㎝、最少 113㎝、幅 79㎝の台形を呈し、

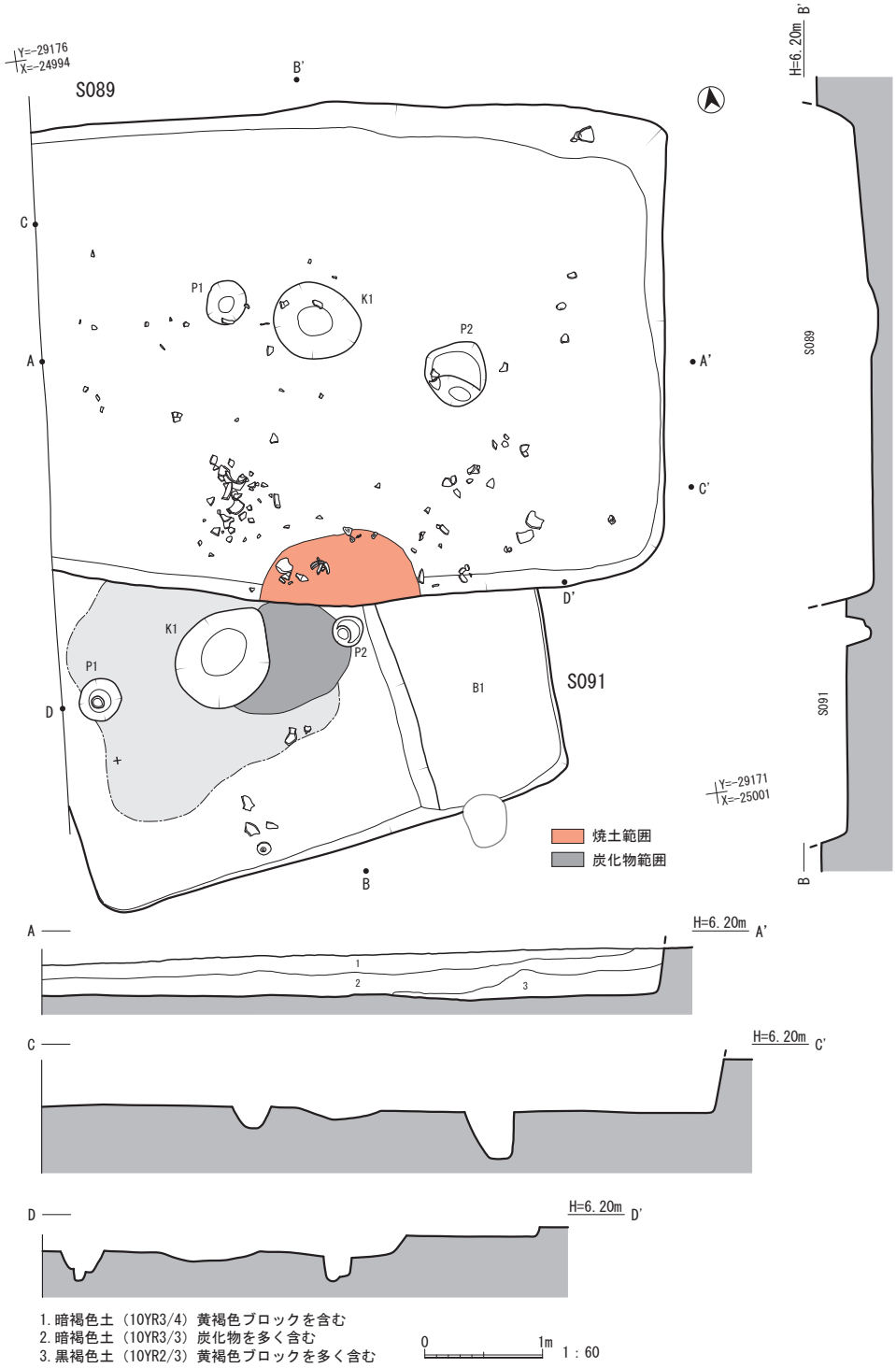


Fig.20　竪穴建物 S089・S091 遺構実測図

床面と比較して 27㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 62㎝、短軸 55㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は６㎝を測る。その断面形は擂鉢状を呈する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 周辺には硬化面が広がり、土器片が多く出土している。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 49㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 12㎝を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 69㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 27㎝を測る。その基底から８㎝上方には幅４～ 13㎝の段が巡る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 145㎝を測る。ここでは、甕・鉢・台付鉢を図化した（Fig.61）。

S093（Fig.21）

G-23・24 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S094 に後出し、遺構の西側は竪穴建物 S092 に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は長軸 4.4 m、短軸 3.0 mの長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 13㎝を測る。遺構の主軸は N-7°-W を測る。

本遺構では土坑を１基（K1）検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 60㎝、短軸 50㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。その基底は平面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は４基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は北側中央で検出した。その平面形は長軸 27㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 15㎝を測る。P2 は P1 の南方 13㎝で検出した。その平面形は長軸 27㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 20㎝を測る。P3 は南側中央で検出した。その平面形は長軸 28㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 30㎝を測る。その基底から７㎝上方には幅５㎝の段を有する。P4 は東側南

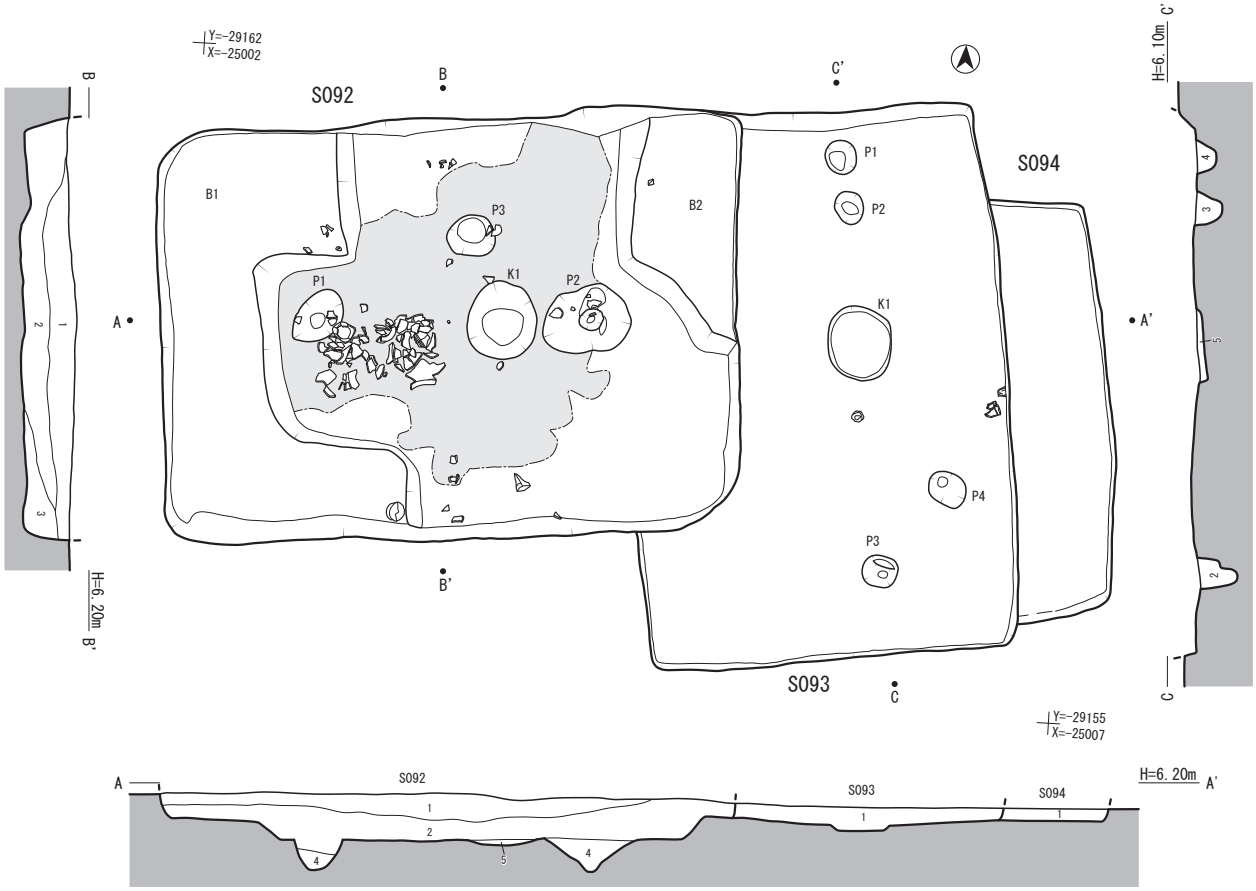


Fig.21　竪穴建物 S092・S093・S094 遺構実測図

部で検出した。その平面形は長軸 32㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 29㎝を測る。出土した磨製石斧を図化した（Fig.73）。

S094（Fig.21）

G-23・24 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S093 によってその大半を削平されている。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は残存長軸 3.3 m、残存短軸 0.8 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 10㎝を測る。遺構の主軸は N-7° -W を測る。本遺構では遺構内遺構は検出できなかった。

Fig.22　竪穴建物 S095・S096 遺構実測図

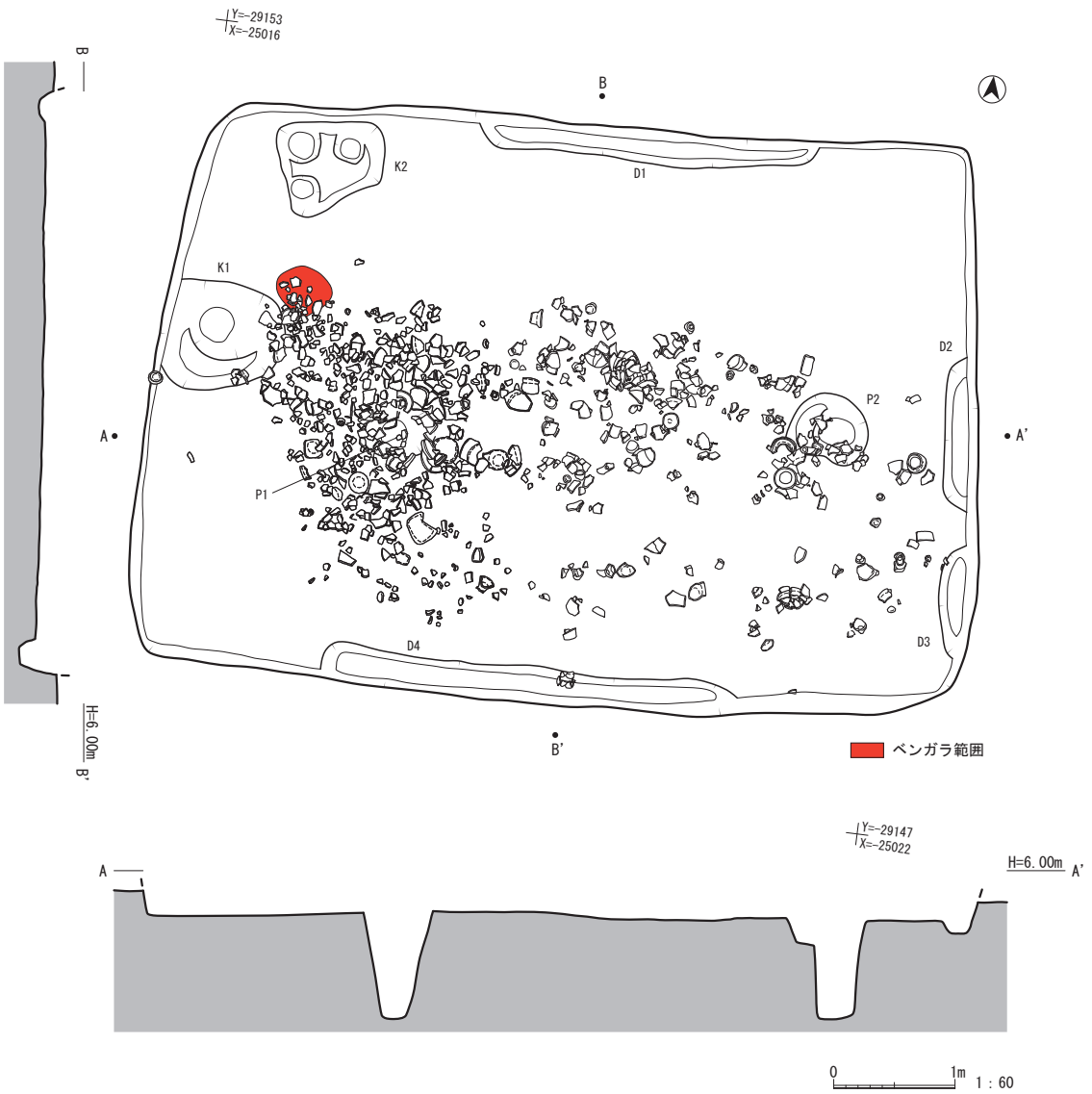


Fig.23　竪穴建物 S099 遺構実測図

S095（Fig.22）

C-29 グリッドで検出した。遺構の南西部は後出する竪穴建物 S096 に削平され、西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は、検出長軸 4.8 m、短軸 3.5 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 12㎝を測る。遺構の主軸は N-75°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を２基（B1・B2）検出した。B1 は遺構西側で検出した。B1 の西側は調査区外へ延びるため不明確であるが、遺構西壁に接すると推測される。その上面は南北長 114㎝、検出幅 57㎝の長方形を呈し、東方へ 90㎝張り出す。B1 は床面と比較して 21㎝高く構築されている。B2 は遺構東側北部で検出した。B2 の北側および東側は遺構壁に接し、その上面は南北長 209㎝、幅 116㎝の長方形を呈する。B2 は床面と比較して 13㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 92㎝、短軸 85㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 11㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 22㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 28㎝を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 30㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 23㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 179㎝を測る。本遺構では出土した甕・壺・鉢を図化した（Fig.62）。

S096（Fig.22）

C-30 グリッドで検出した。重複する S095 に後出し、西側は調査区外へ延びる。また、遺構南側中央は撹乱坑によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は残存長軸 4.1 m、短軸 3.8 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20㎝を測る。遺構の主軸は N-84° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は遺構東側北部で検出した。B1 の北側および東側は遺構壁に接し、その上面は南北長 150㎝、幅 125㎝の長方形を呈する。B1 は床面と比較して 7 ㎝高く構築されている。柱穴は 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 28㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 9 ㎝を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 31㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 42㎝を測る。本遺構では出土した台付鉢を図化した（Fig.63）。

S099（Fig.23）

H・I-26 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S113・164 に後出する。平面形は長軸 6.8 m、短軸 4.8 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 17㎝を測る。遺構の主軸

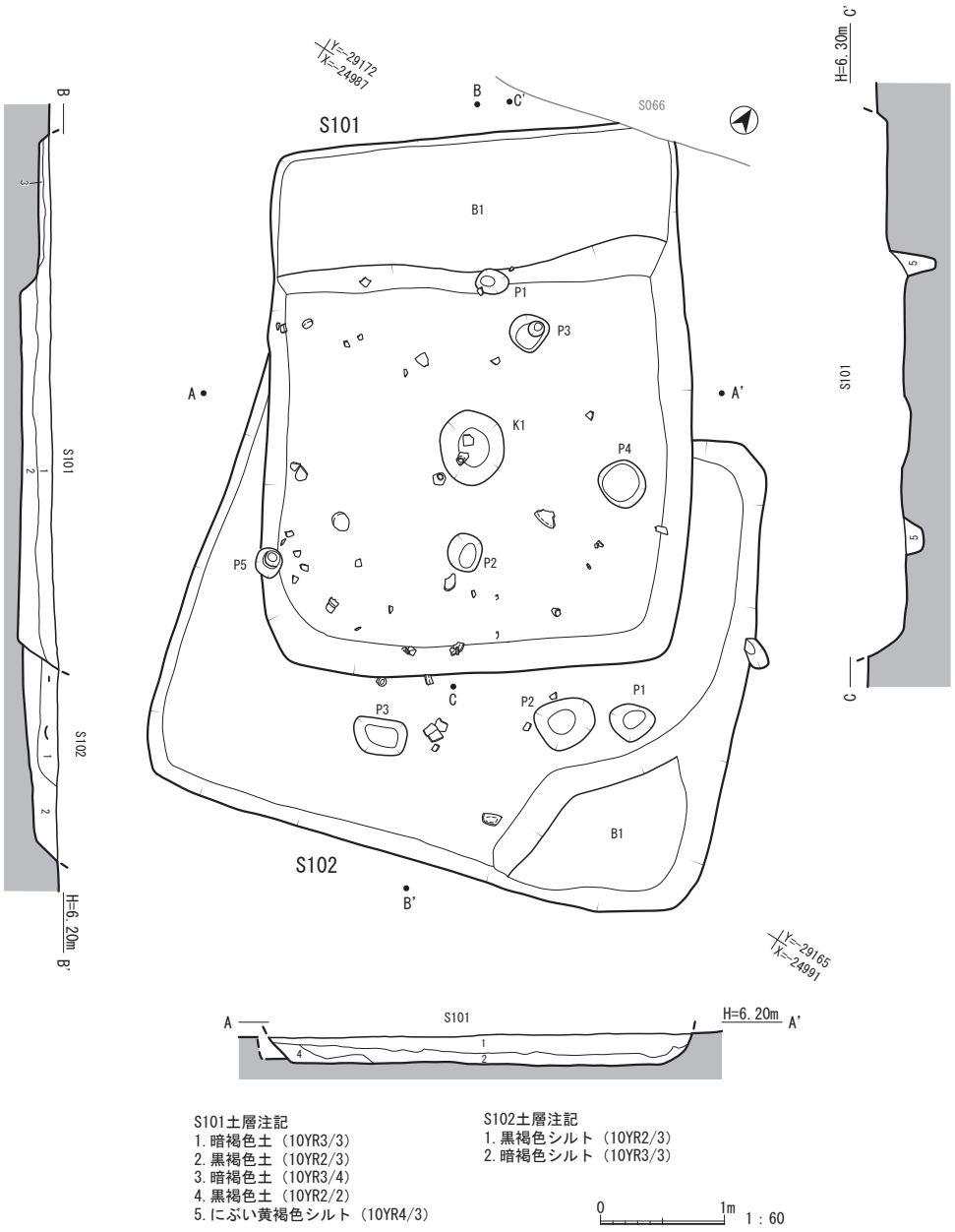


Fig.24　竪穴建物 S101・S102 遺構実測図

はN-87°-Eを測る。

本遺構では溝を4条（D1～D4）検出した。いずれも遺構壁に沿って検出されているが、全周には巡らない。D1は遺構北側で壁面に沿って検出した。東西に走行し、長さ280㎝、幅20㎝を測り、床面からの深度は4㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。D2は遺構東側中央で壁面に沿って検出した。南北に走行し、長さ128㎝、幅20㎝を測り、床面からの深度は9㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。D3はD2の南方28㎝で壁面に沿って検出した。南北に走行し、長さ94㎝、幅21㎝を測り、床面からの深度は9㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。D4は遺構南側中央で壁面に沿って検出した。東西に走行し、長さ94㎝、幅21㎝を測り、床面からの深度は9㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。土坑は2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構西端中央で壁面に接して検出した。K1は長軸96㎝、短軸92㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は52㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。基底から34㎝上方には幅18㎝の段を有する。K2は遺構北西で検出した。K2は長軸85㎝、短軸66㎝の台形を呈し、床面から8㎝下方で長軸62㎝の基底に至る。その基底の北西側は長軸23㎝、深度15㎝、北東側は長軸18㎝、深度23㎝、南西側は長軸19㎝、深度12㎝の堀込みを持つ。柱穴は2基（P1・P2）を検出した。P1は西側中央で検出した。その平面形は長軸57㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は88㎝を測る。P2は東側中央で検出した。その平面形は長軸64㎝の不定形な円形を呈し、床面からの深度は81㎝を測る。その基底から60㎝上方に幅15㎝の段を有する。本遺構では出土した、甕・壺・鉢、石砲丁・磨石・砥石・磨製石斧を図化した（Fig.64・65・72～74・76）。

S101（Fig.24）

D・E-20グリッドで検出した。重複する竪穴建物S102に後出し、遺構北西部の一部は竪穴建物S066に削平される。平面形は、長軸4.2 m、短軸3.4 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は20㎝を測る。遺構の主軸はN-35°-Wを測る。

本遺構ではベッド状遺構を1基（B1）検出した。B1は遺構西側で壁面に沿って検出した。その上面は幅104㎝の長方形を呈し、床面と比較して22㎝高く構築されている。土坑は1基（K1）を検出した。K1は遺構中央部で検出した。K1は長軸60㎝、短軸51㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は7㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は5基（P1～P5）を検出した。ここでは主柱穴と想定されるP1・P2について報告する。P1は西側中央のB1に接して検出した。その平面形は長軸26㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は25㎝を測る。P2は東側中央で検出した。その平面形は長軸30㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は14㎝を測る。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は220㎝を測る。本遺構では出土した鉢を図化した（Fig.65）。

S102（Fig.24）

E-20・21グリッドで検出した。遺構の西側から中央は後出する竪穴建物S101によって大きく削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は、長軸4.6 m、短軸3.9 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は17㎝を測る。遺構の主軸はN-67°-Eを測る。

本遺構ではベッド状遺構を1基（B1）検出した。B1は遺構南東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸126㎝、短軸84㎝、幅87㎝の台形を呈し、床面と比較して25㎝高く構築されている。柱穴は3基（P1～P3）を検出した。P1は東側北部で検出した。その平面形は長軸37㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は13㎝を測る。P2はP1の西方13㎝で検出した。その平面形は長軸47㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は12㎝を測る。P3は中央で検出した。その平面形は長軸43㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は9㎝を測る。

S134（Fig.25）

D・E-28グリッドで検出した。遺構東側中央から南東部にかけて撹乱溝によって削平され、遺構中央も一部撹乱坑によって削平される。平面形は、長軸7.2 m、短軸4.5 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は24㎝を測る。遺構の主軸はN-64°-Eを測る。

Fig.25　竪穴建物 S134 遺構実測図

本遺構ではベッド状遺構を２基（B1・B2）検出した。B1 は遺構北及び西側で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 293㎝、幅 86㎝の長方形を呈し、遺構西端で南方へ 127㎝、幅 61㎝の張出部を形成する。B1 は床面と比較して 19㎝高く構築されている。B2 は遺構北東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸 187㎝、短軸 135㎝の長方形を呈し、床面と比較して 11㎝高く構築されている。溝は１条（D1）を検出した。D1 は遺構南側中央で検出した。D1 は幅 16㎝を測り、東西長 209㎝で収束する。床面からの深度は 17㎝を測り、その基底は中央が最も低い。土坑は１基(K1)を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 92㎝、短軸 48㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は６㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 以南には硬化面が広がる。柱穴は４基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は西側中央の B1 に接して検出した。その平面形は長軸 54㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 23㎝を測る。P2 は P1 の東方 14㎝で検出した。その平面形は長軸 27㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 33㎝を測る。P3 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 26㎝の円形を呈し、床面からの深度は 30㎝測る。その基底から 19㎝上方には幅５㎝の段が巡る。P4 は B1 と B2 の間で検出した。その平面形は長軸 32㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。本遺構では出土した甕・壺・鉢を図化した（Fig.65）。

S135（Fig.26）

D-26・27 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S149 に後出する。平面形は、長軸 4.3 m、短軸 4.2 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 22㎝を測る。遺構の主軸は N-80° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を３基（B1 ～ B3）検出した。B1 は遺構西側全面で壁面に沿って検出した。その上面は最大幅 124㎝、最少幅 88㎝の長方形を呈し、床面と比較して 20㎝高く構築されている。B2 は遺構北

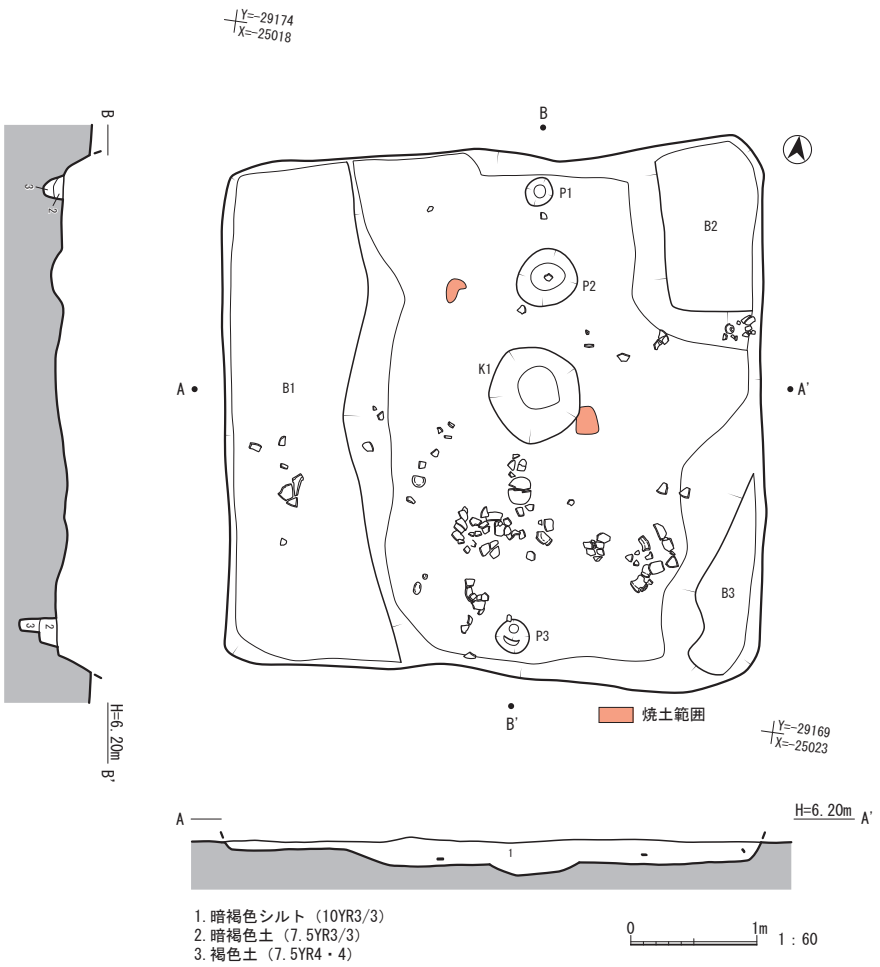


Fig.26　竪穴建物 S135 遺構実測図

東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸 135㎝、短軸 77㎝の長方形を呈し、床面と比較して 14㎝高く構築されている。B3 は遺構南東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸 161㎝、短軸 43㎝の不定形な方形を呈し、床面と比較して 17㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 76㎝、短軸 73㎝の円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。その断面形は擂鉢状を呈する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は北側中央で検出した。その平面形は長軸 24㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 16㎝を測る。P2 は P1 の南方 35㎝で検出した。その平面形は長軸 49㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は９㎝を測る。P3 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 26㎝の円形を呈し、床面からの深度は 30㎝を測る。その基底から 16㎝上方には幅８㎝の段を有する。本遺構では出土した壺・鉢を図化した（Fig.65・66）。

S137（Fig.27）

F・G-28 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S138・163 に後出し、溝 S122 に遺構中央から南西にかけて削平される。平面形は長軸 6.3 m、短軸 4.7 mを測り、長方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20㎝を測る。遺構の主軸は N-35°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を３基（B1 ～ B3）検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 324㎝、最大幅 164㎝、最少幅 114㎝の「鍵」形を呈し、床面と比較して 23㎝高く構築されている。B2 は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 73㎝、東西長 48㎝の長方形を呈し、床面と比較して 12㎝高く構築されている。B3 は遺構南西隅で壁面に沿って検出したが、その大半は削平を受ける。したがって、平面形・規模は不明確であるが、その上面は東西長 266㎝、南北長 97㎝を測り、長方形を呈す

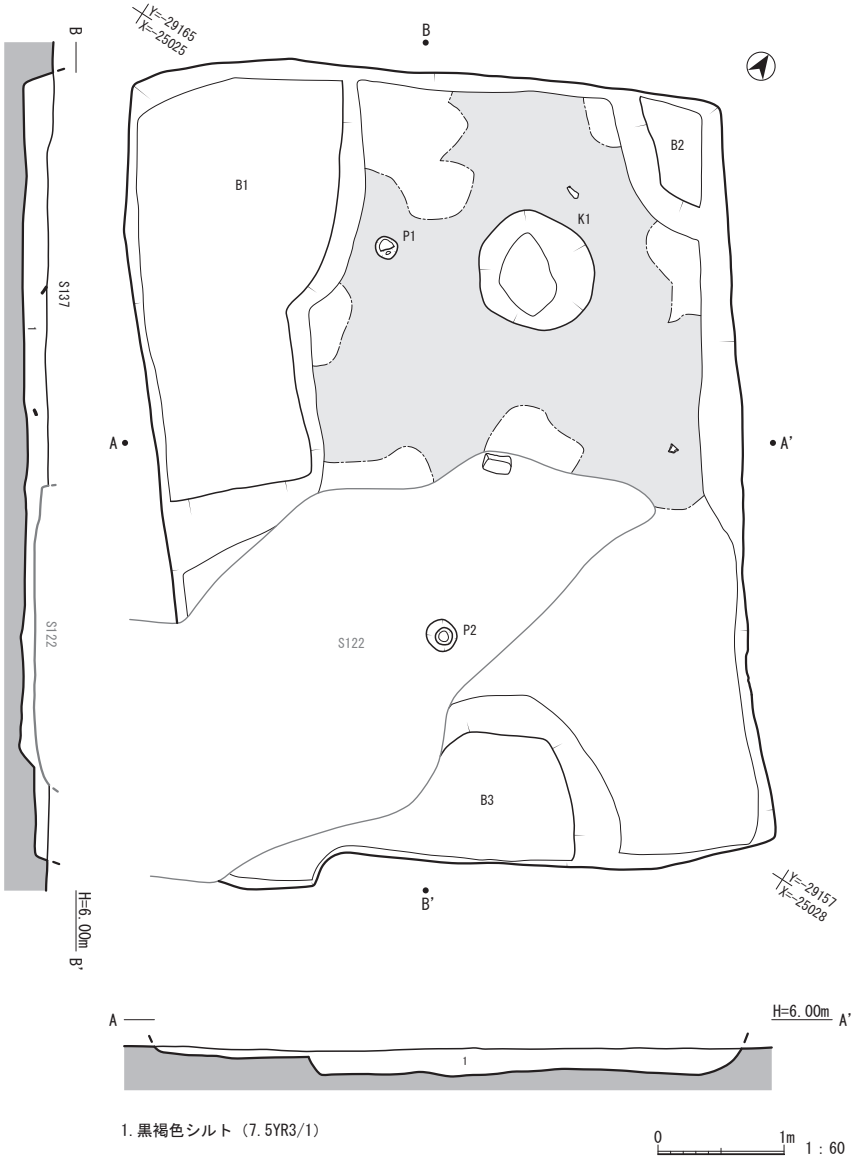


Fig.27　竪穴建物 S137 遺構実測図

ると推測される。床面と比較して 11㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構北側中央で検出した。K1 は長軸 96㎝、短軸 90㎝の円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 を中心とした遺構北側には硬化面が広がる。柱穴は 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸 18㎝の円形を呈し、床面からの深度は 20㎝を測る。その基底から 6 ㎝上方には、幅 6 ㎝の段を有する。P2 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 25㎝の円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。P2 は柱痕跡を有し、基底幅 8 ㎝を測る。本遺構では出土した砥石を図化した（Fig.75）。

S140（Fig.28）

E-25・26 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S142・146・149 に後出する。平面形は、長軸 6.0 m、短軸 4.6 mの方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 28㎝を測る。遺構の主軸は N-75° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基（B1・B2）検出した。B1 は遺構北側西部で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 310㎝、幅 62㎝の長方形を呈し、床面と比較して 15㎝高く構築されている。B2 は遺構南側全面で壁面に沿って検出した。その上面は最大幅 213㎝、最少幅 86㎝の「鍵」形を呈し、その張出部の東西長は 74㎝を測る。B2 は床面と比較して 12㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構

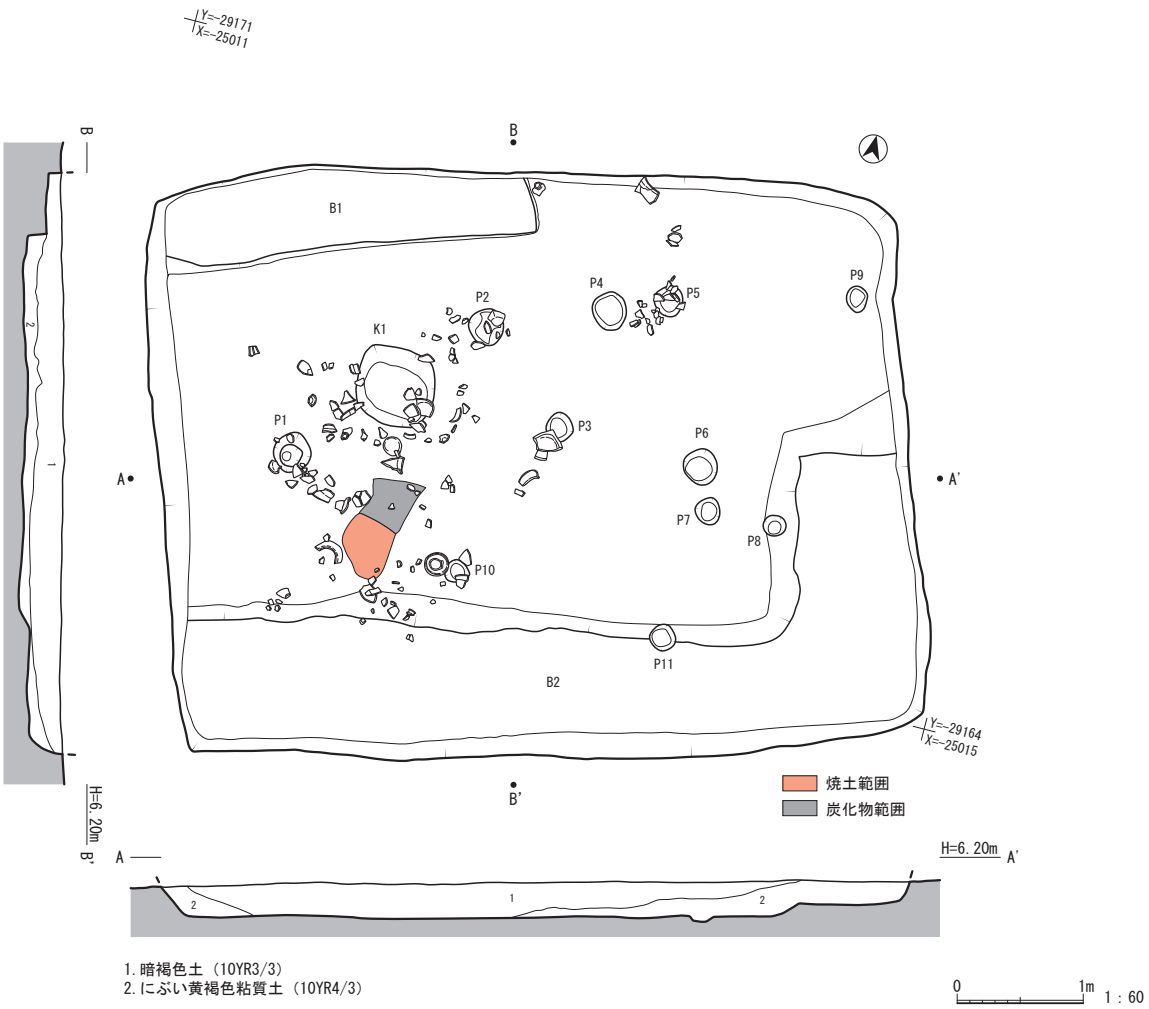


Fig.28　竪穴建物 S140 遺構実測図

西側中央で検出した。K1 は長軸 73㎝、短軸 65㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 5 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、本遺構では K1 上および K1 より南方 42㎝に長軸 37㎝の炭化物の集中部と長軸 44㎝の焼土の集中部を検出した。柱穴は 11 基（P1 ～ P11）を検出した。各柱穴の長軸は 18 ～ 32㎝を測り、その深度も 5 ～ 36㎝を測る。本遺構では、出土した壺・高坏・鉢を図化した（Fig.66）。

S141（Fig.29）

F・G-26 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S142 に後出する。平面形は、長軸 5.6 m、短軸 4.0 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 48㎝を測る。遺構の主軸は N-78° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 3 基（B1 ～ B3）検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 154㎝、南北長 73㎝の三角形を呈し、床面と比較して 22㎝高く構築されている。B2 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 178㎝、最大幅 235㎝、最少幅 103㎝の「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は 40㎝を測る。B2 は床面と比較して 25㎝高く構築されている。B3 は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 304㎝、最大幅 193㎝、最少幅 15㎝の「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は 85㎝を測る。B3 は床面と比較して 20㎝高く構築されている。土坑は 2 基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 102㎝、短軸 71㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 8 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 を中心として硬化面が広がっている。K2 は遺構西端中央で壁面に沿って検出した。K2 は長軸 85㎝、短軸 52㎝の不整形な半円形を呈し、床面からの深度は 8 ㎝を測る。その基底の北東部には長軸 29㎝、基底からの深度 4 ㎝の

長楕円形の堀込を確認した。また、基底の南東部には長軸 32㎝、基底からの深度９㎝の長楕円形の堀込を確認した。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 21㎝の円形を呈し、床面からの深度は 58㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 43㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 64㎝を測る。その基底から 52㎝上方には幅 12㎝の段を有する。P3 は P2 の南方 15㎝で検出した。その平面形は長軸 26㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 16㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 310㎝を測る。本遺構では出土した壺・鉢を図化した（Fig.66）。

S143（Fig.30）

F・G-24・25 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S142 や土坑 S190 に南西隅および西側中央を削平される。また、遺構中央および東側中央も撹乱坑によって削平される。平面形は、長軸 4.6 m、短軸 4.2 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 21㎝を測る。遺構の主軸は N-74° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を１基（B1）検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 83㎝、南北長 64㎝の長方形を呈し、床面と比較して 11㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構東側中央で検出した。K1 は長軸 76㎝、短軸 62㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 32㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。また、遺構中央には焼土の集中が認められることから、撹乱坑によって不明確ではあるが、本来はその箇所に炉跡があったと推測される。遺構の南側中央には長軸 250㎝、最大幅 125㎝、最少幅 42㎝の面積で赤色顔料の付着が認められる。本遺構では出土した鉢を図化した（Fig.66）。

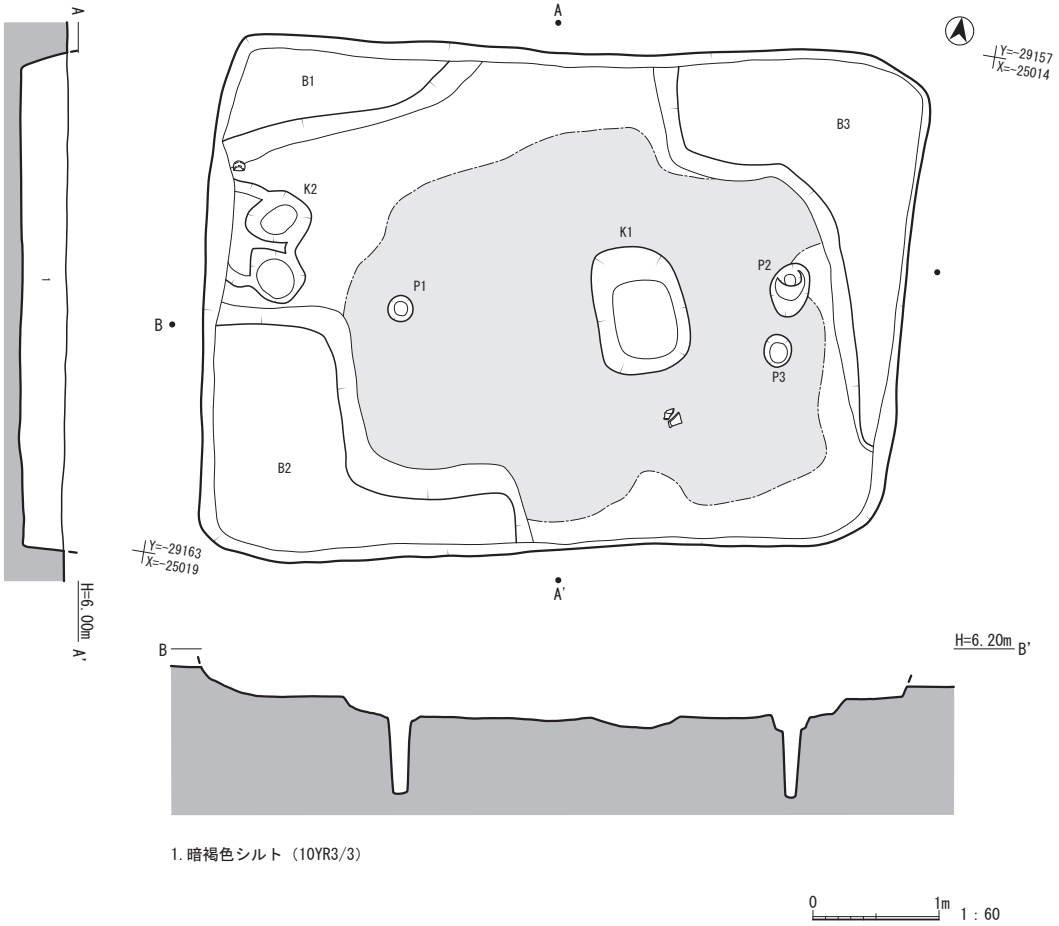


Fig.29　竪穴建物 S141 遺構実測図

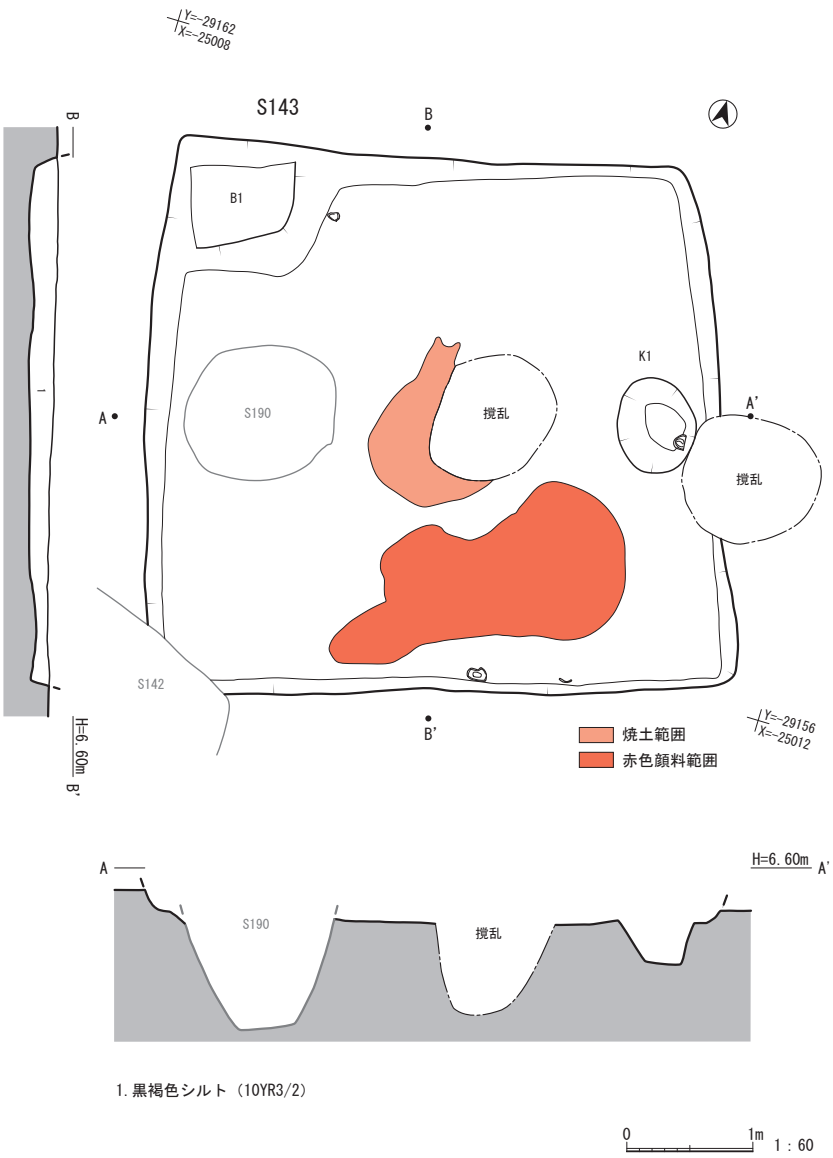


Fig.30　竪穴建物 S143、土坑 S190 遺構実測図

S190（Fig.30）

F-25 グリッドで検出した土坑である。重複する竪穴建物 S143 に後出し、その西側中央を削平する。平面形は長軸 124㎝、短軸 113㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 90㎝を測る。その基底は長軸 43㎝の円形を呈し、平坦面を形成する。

S145（Fig.31）

C-24・25 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S165・154・146 に後出し、遺構西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 3.7 m、短軸 3.5 mを測り、方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 35㎝を測る。遺構の主軸は N-9° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は遺構南西隅で調査区壁面に沿って検出したため、その平面形・規模は不明確である。検出した上面は東西長 188㎝、南北長 55㎝の三角形を呈する。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 79㎝、短軸 50㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は 3 基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 36㎝の円形を呈し、床面からの深度は 15㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 31㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 21㎝を測る。P3 は P2 の南東方 18㎝で検出した。その平面形は長軸 40㎝の楕円形を呈し、床面からの深度

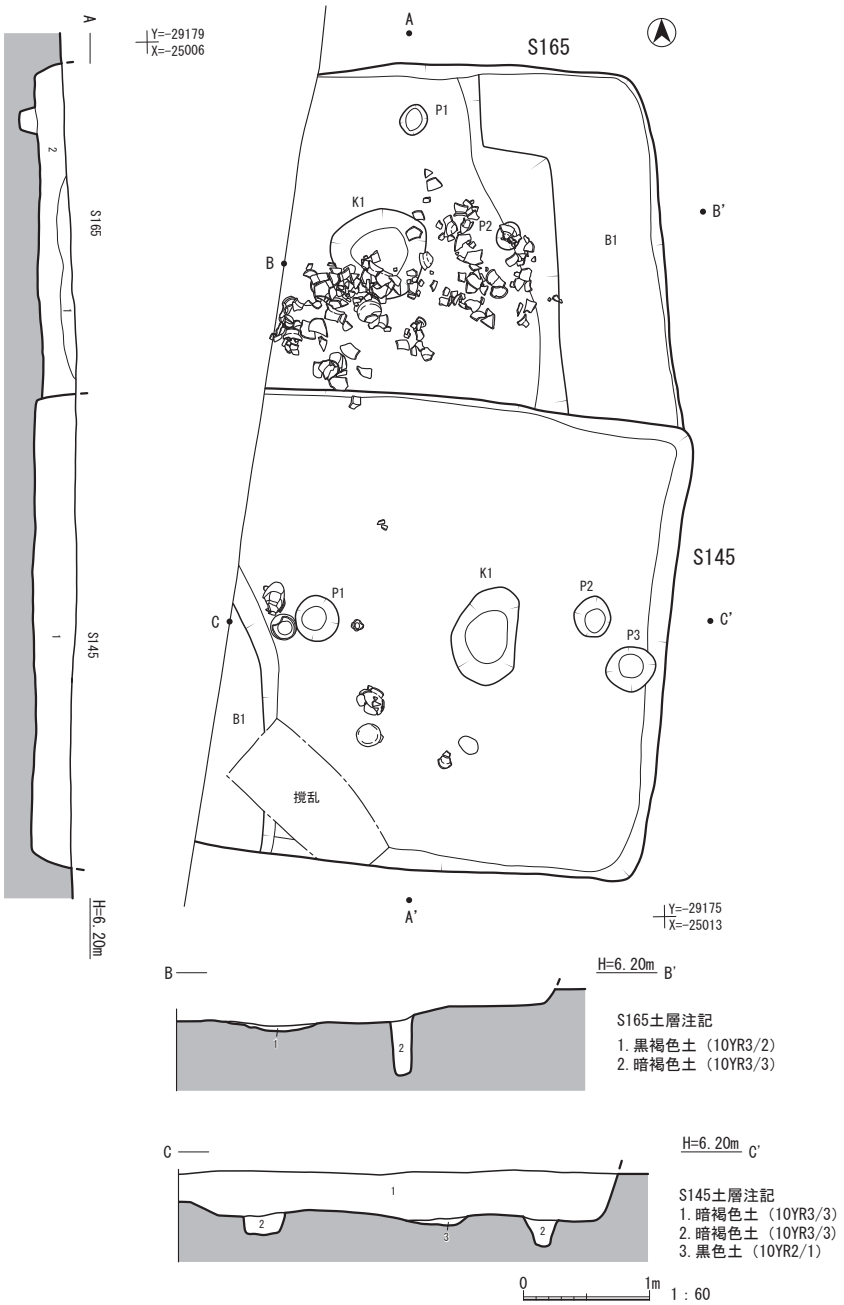


Fig.31　竪穴建物 S145・S165 遺構実測図

は 38㎝を測る。P1･P2 は本遺構の主柱穴と想定され､その芯心距離は 222㎝を測る。本遺構では出土した甕･壺・鉢を図化した（Fig.66・67）。

S165（Fig.31）

C-24 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S107 に後出する。遺構の南側は竪穴建物 S145 によって削平され、遺構西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 2.9 m、検出短軸 2.9 mを測り、方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 25㎝を測る。遺構の主軸は N-7° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は遺構東側全面で壁面に沿って検出したが、南側は不明である。その上面は南北長 281㎝、最大幅 118㎝、最少幅 89㎝の「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は 55㎝を測り、床面と比較して 19㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 74㎝、短軸 71㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 4 ㎝を測る。その基底は平坦面

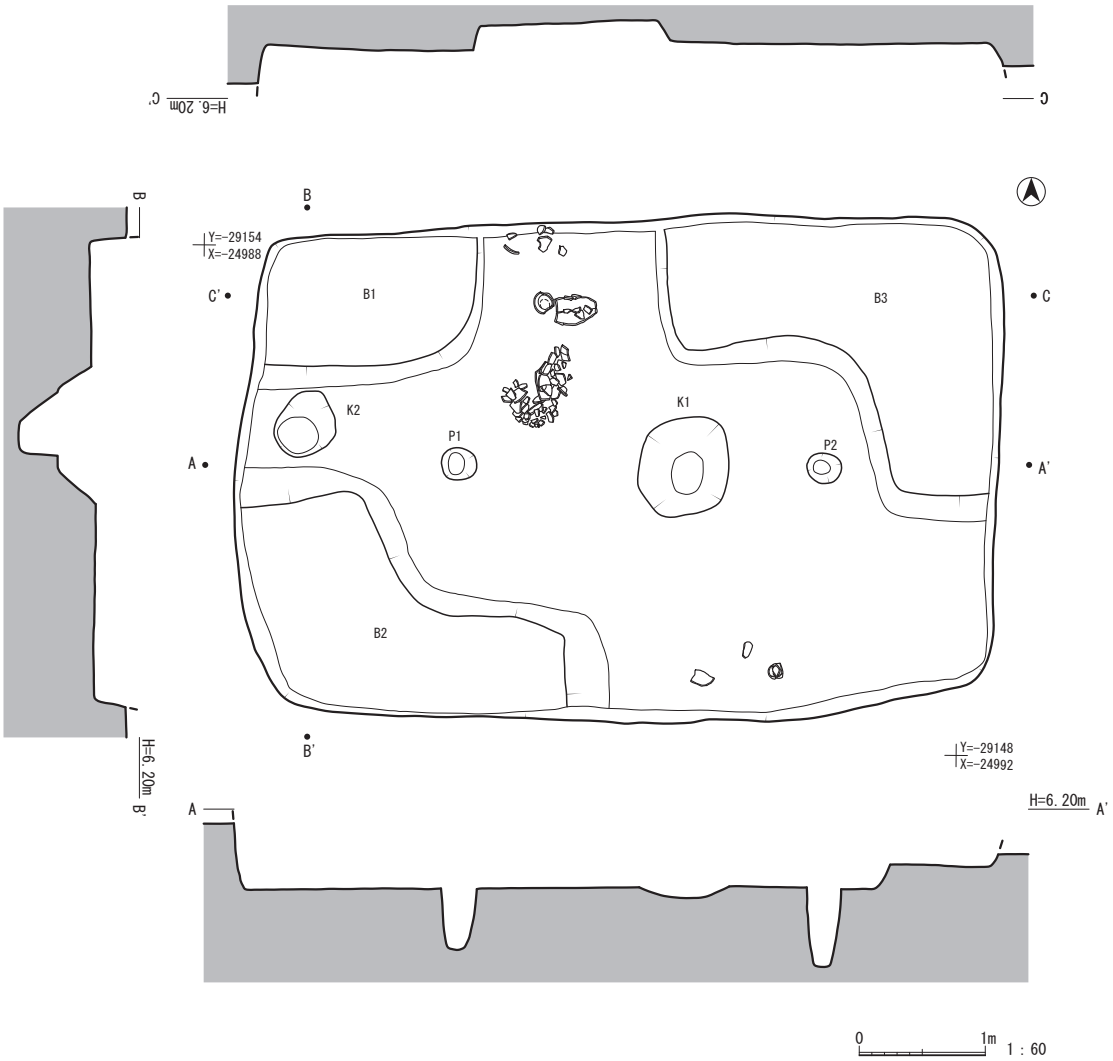


Fig.32　竪穴建物 S147 遺構実測図

を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸 23㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 36㎝を測る。P2 は遺構東側中央で B1 に接して検出した。その平面形は長軸 22㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 33㎝を測る。

S147（Fig.32）

H･I-20･21 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S081･171 に後出する。平面形は、長軸 6.0 m、短軸 4.0 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 52㎝を測る。遺構の主軸は N-89°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を３基（B1 ～ B3）検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 157㎝、南北長 94㎝の長方形を呈し、床面と比較して 26㎝高く構築されている。B2 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 151㎝、最大幅 217㎝、最少幅 81㎝の「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は 56㎝を測る。B2 は床面と比較して 28㎝高く構築されている。B3 は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 123㎝、最大幅 245㎝、最少幅 73㎝の「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は 96㎝を測る。B3 は床面と比較して 19㎝高く構築されている。土坑は２基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 86㎝、短軸 76㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は９㎝を測る。その断面形状は擂鉢状を呈する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2 は遺構西端中央の B1 と B2 の間で検出した。K2 は長軸 55㎝、短軸 45㎝の不整形な円形を呈し、床面からの深度は 30㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は

長軸 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は 48㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 27㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 62㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 289㎝を測る。本遺構では出土した甕・鉢・鉈を図化した（Fig.67・68・72）。

S149（Fig.33）

D-26 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S140 に遺構東側を削平され、遺構南側も竪穴建物 S135 に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 5.1 m、短軸 3.9 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 37㎝を測る。遺構の主軸は N-67° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を２基（B1・B2）検出した。B1 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 186㎝、東西長 105㎝の長方形を呈し、床面と比較して 21㎝高く構築されている。B2 は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 205㎝、東西長 81㎝の長方形を呈し、床面と比較して９㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は直径 65㎝の円形を呈し､床面からの深度は８㎝を測る。その断面形状は擂鉢状を呈する。柱穴は６基（P1 ～ P6）を検出したが、ここでは P1 ～ P3 について報告する。P1 は遺構西側中央の B1 法面上で検出した。その平面形は長軸 18㎝の長楕円形を呈し、法面からの深度は 34㎝を測る。P2 は遺構東側中央の B2 法面上で検出した。その平面形は長軸 19㎝の円形を呈し、床面からの深度は 28㎝を測る。P3 は遺構中央で検出した。その平面形は長軸 21㎝の円形を呈し、床面からの深度は 42㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 263㎝を測る。本遺構では出土した壺、磨石を図化した（Fig.68・73）。

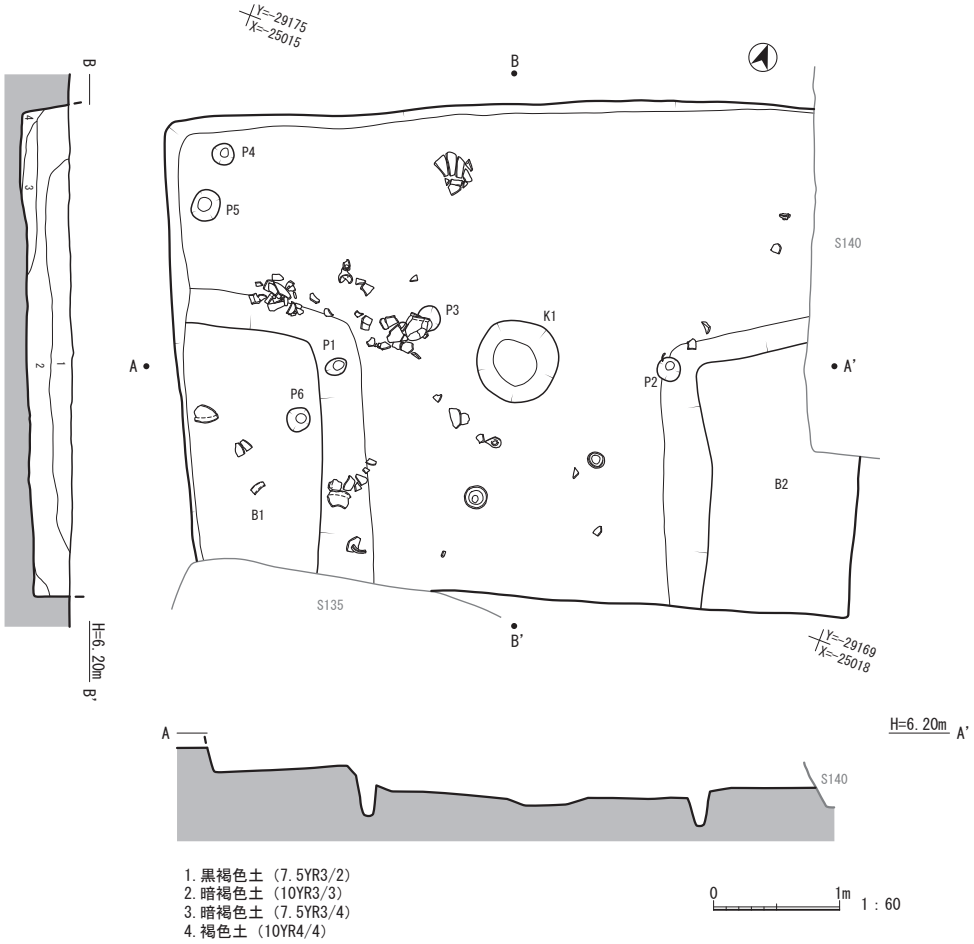


Fig.33　竪穴建物 S149 遺構実測図

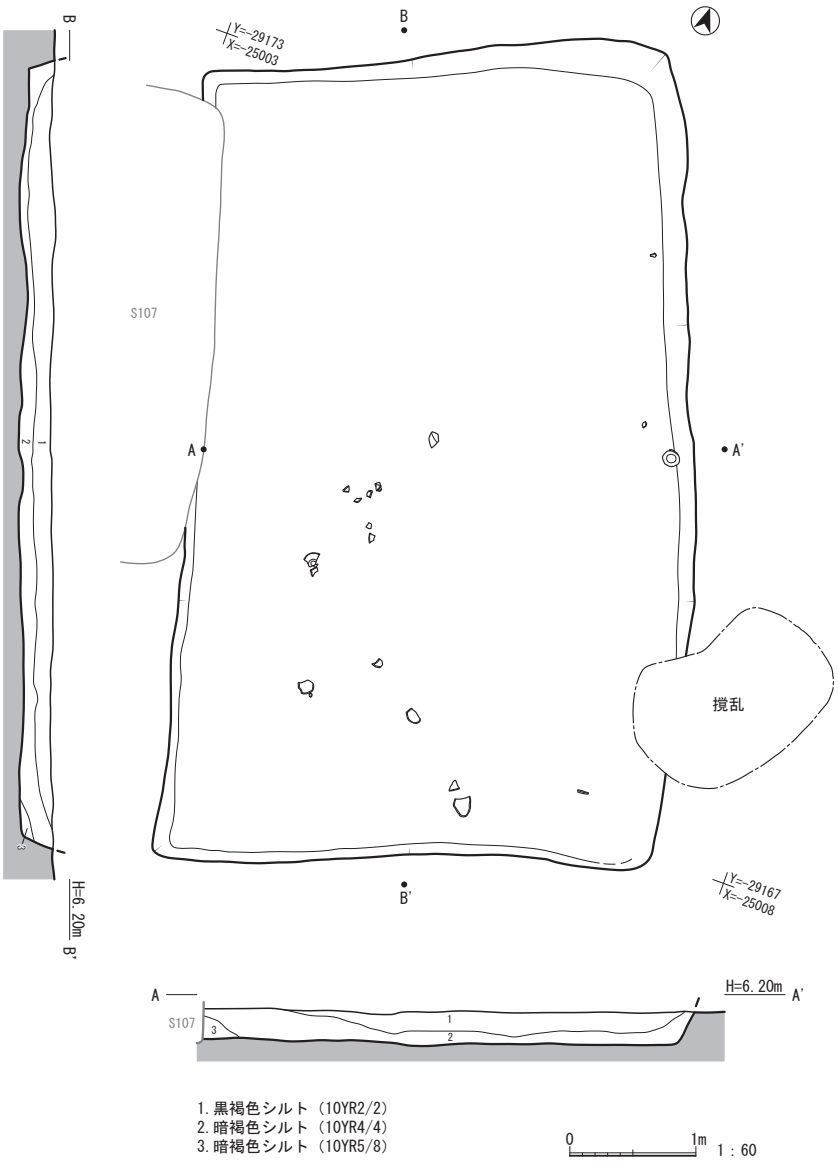


Fig.34　竪穴建物 S150 遺構実測図

S150（Fig.34）

D・E-23・24 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S156・182 に後出し、遺構の西側を竪穴建物 S107 によって削平される。平面形は、長軸 6.6 m、短軸 4.0 mを測り、長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 26㎝を測る。遺構の主軸は N-20°-W を測る。本遺構では、遺構内遺構は検出できなかったが、出土した鉢を図化した（Fig.68）。

S156（Fig.35）

E・F-23・24 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S157 に後出し、遺構の中央から西側にかけて竪穴建物 S150・182 に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、残存長軸 5.2 m、短軸 5.0 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27㎝を測る。遺構の主軸は N-84°-E を測る。

本遺構では土坑を２基（K1・K2）検出した。K1 は遺構東側中央で検出した。K1 は長軸 107㎝、短軸 69㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K2 は遺構東側北部で検出した。K2 は長軸 66㎝、短軸 60㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 54㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は K1 の北方 19㎝で検出した。その平面形は長軸 32㎝の円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。P2 は K1 の南方 38㎝で検出した。その平面形は長軸 37㎝の

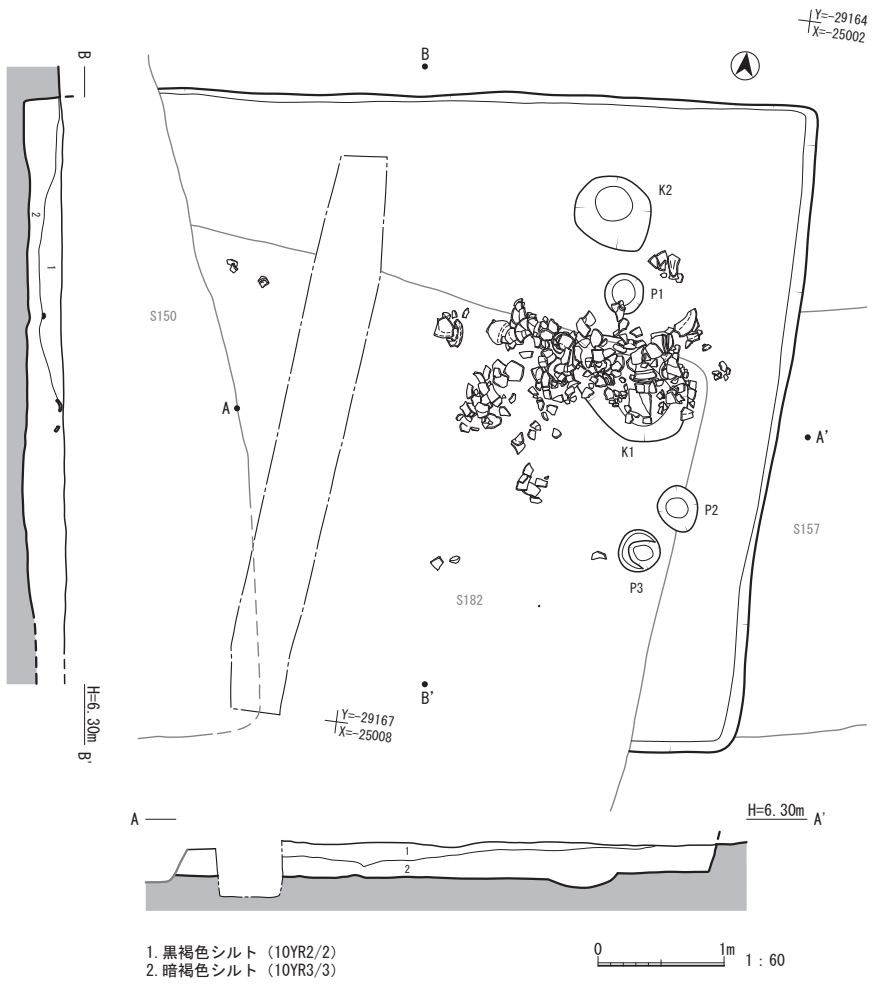


Fig.35　竪穴建物 S156 遺構実測図

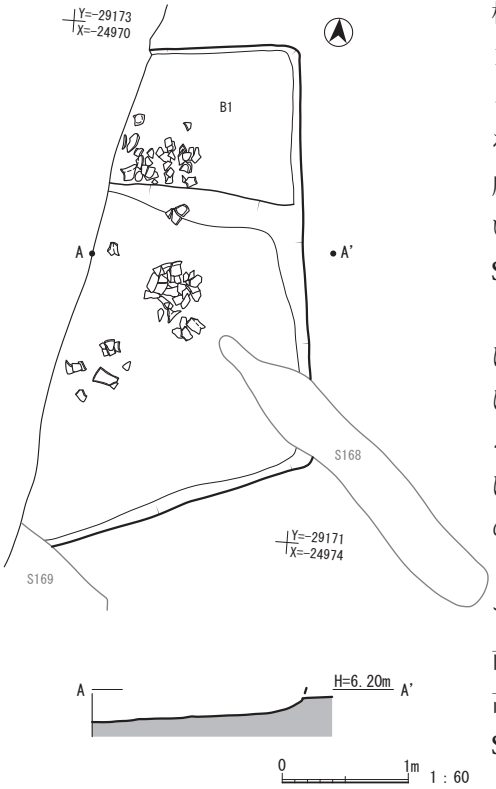


Fig.36　竪穴建物 S159 遺構実測図

楕円形を呈し、床面からの深度は 36㎝を測る。P3 は P2 の南西 15㎝で検出した。その平面形は長軸 33㎝の円形を呈し、床面からの深度は 21㎝を測る。その基底から 9 ㎝上方には幅 4 ㎝の段を有する。本遺構では埋土中より小形仿製鏡、ガラス玉が出土し、床面からは甕・壺・高坏・鉢、砥石が出土しており、図化している（Fig.69・72・75）。

S159（Fig.36）

D-17 グリッドで検出した。後出する溝 S168 や竪穴建物 S169 によって、遺構の南側の一部が削平される。また、遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 3.6 m、検出短軸 2.2 mを測る。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 21㎝を測る。遺構の主軸は N-5°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は北東隅で壁面に沿って検出し、西側は調査区外へ延びる。その上面は南北長 123㎝、検出東西長 147㎝を測り、床面と比較して 13㎝高く構築されている。本遺構では出土した甕を図化した(Fig.70)。

S160（Fig.37）

H・I-22 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S151・175 に後出し、遺構の北東隅は竪穴建物 S080 に削平される。平面

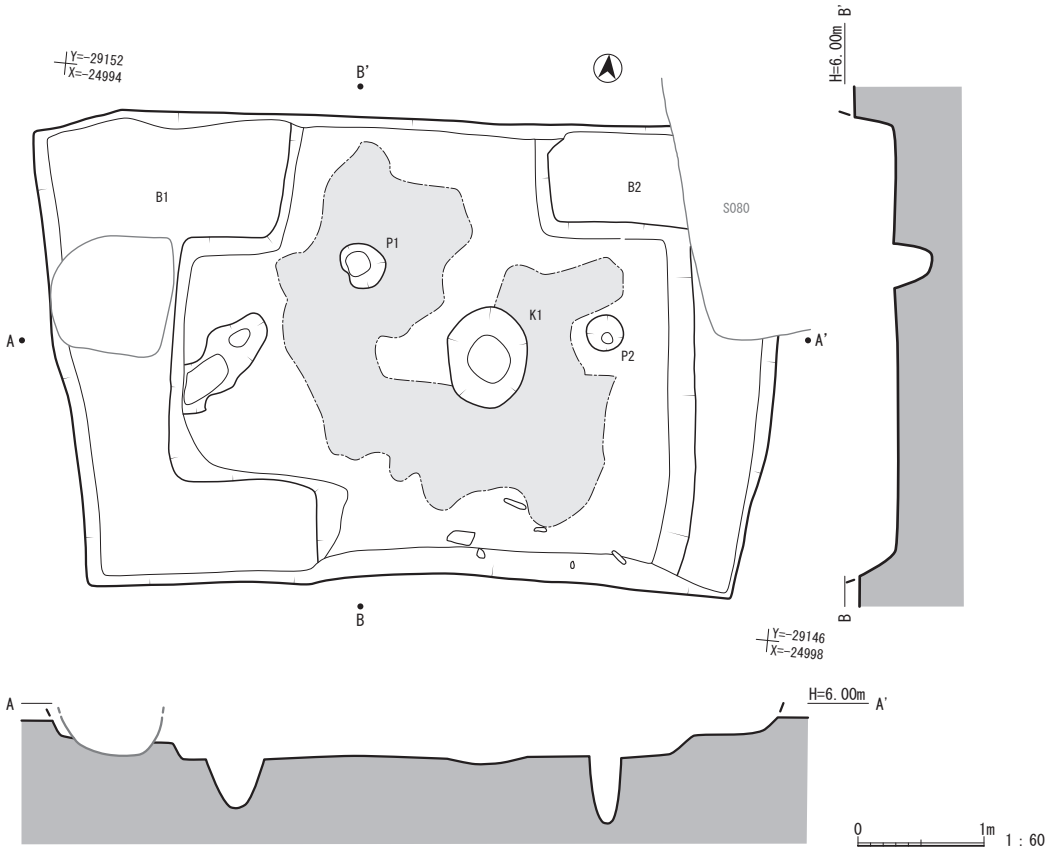


Fig.37　竪穴建物 S160 遺構実測図

形は、長軸 5.8 m、短軸 3.6 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27㎝を測る。遺構の主軸は N-85° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を２基（B1・B2）検出した。B1 は遺構西側で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 352㎝、幅 71㎝の長方形に、北側は東西長 121㎝、南北長 94㎝、南側は東西長 101㎝、南北長 72㎝の張出部をもつ「コ」字形を呈する。B1 は、床面と比較して 18㎝高く構築されている。その中央部は、後出する土坑によって削平される。B2 は遺構東側で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 353㎝、最大幅 105㎝、最少幅 39㎝の「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は 71㎝を測る。B2 は床面と比較して 19㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 80㎝、短軸 63㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 を中心に硬化面が広がる。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構中央で検出した。その平面形は長軸 38㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 30㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は 52㎝を測る。本遺構では出土した甕・鉢を図化した（Fig.70）。

S167（Fig.38）

F･G-16 グリッドで検出した。遺構の北側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 5.5 m、検出短軸 2.6 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30㎝を測る。遺構の主軸は N-75° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を３基（B1 ～ B3）検出した。B1 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その北東隅は調査中の過掘削のために不明確であるが、その上面は南北長 215㎝、東西長 107㎝の長方形を呈すると推測され、床面と比較して 10㎝高く構築されている。B2 は遺構南側中央で検出した。その上面は東西長 157㎝、南北長 84㎝の長方形に張り出し、20㎝高く構築されている。B3 は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 212㎝、東西長 103㎝の長方形を呈し、床面と比較して 13㎝高く構築されている。

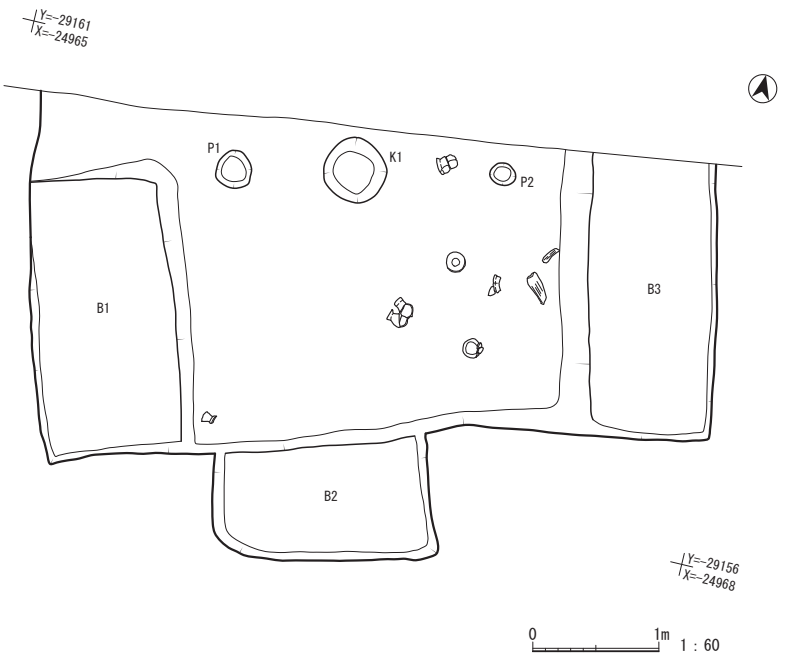


Fig.38　竪穴建物 S167 遺構実測図

土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 52㎝、短軸 50㎝の円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 30㎝の円形を呈し、床面からの深度は 43㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 21㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 38㎝を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 212㎝を測る。本遺構では出土した鉢を図化した（Fig.70）。

S171（Fig.39）

G-20・21 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S172 に後出し、遺構の北西隅は竪穴建物 S069 に削平され、遺構の中央および東側は南北に走行する溝 S176・179 に削平される。平面形は長軸 5.5 m、短軸 4.7 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20㎝を測る。遺構の主軸は N-75°-W を測る。

本遺構では土坑を１基（K1）検出した。K1 は遺構中央で検出したが、その西側は溝 S179 による削平のために不明確である。K1 は長軸 69㎝、検出短軸 47㎝を測り、楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は２㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 の北側には長軸 97㎝、短軸 26㎝を測る焼土の広がりを検出した。K2 は遺構南側中央で検出した。K2 は長軸 75㎝、短軸 36㎝を測り、長楕円形を呈し、床面からの深度は 26㎝を測る。柱穴は４基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 31㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は３㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 39㎝の長楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 17㎝を測る。その基底から８㎝上方には段が巡る。P3 は遺構西側北部で検出した。その平面形は長軸 43㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 35㎝を測る。その基底の上方には高さを異にする段を２段有する。P4 は遺構西側南部で検出した。その平面形は長軸 42㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 40㎝を測る。

S172（Fig.39）

G-21・22 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S173 に後出し、遺構の北側は竪穴建物 S171 に削平され、遺構の東側は南北に走行する溝 S176 に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 6.9 m、短軸 5.4 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20㎝を測る。遺構の主軸は N-75°-W を測る。

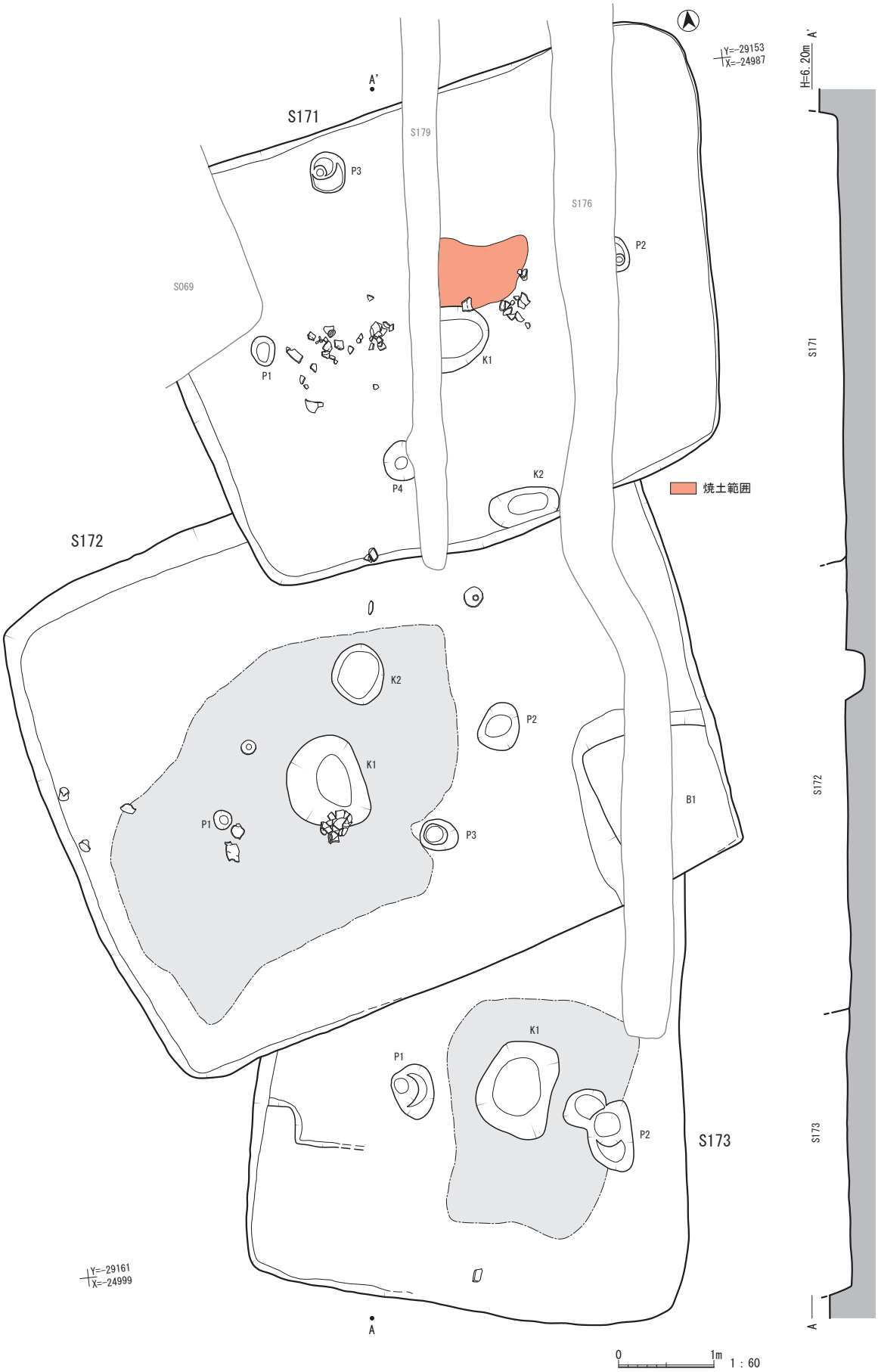


Fig.39　竪穴建物 S171・S172・S173 遺構実測図

本遺構ではベッド状遺構を１基（B1）検出した。B1 は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 162㎝、東西長 135㎝の長方形を呈し、床面と比較して 10㎝高く構築されている。土坑は２基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 100㎝、短軸 82㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2 は遺構中央で検出した。K2 は長軸 64㎝、短軸 55㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 20㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 20㎝の円形を呈し、床面からの深度は 49㎝を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 51㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 51㎝を測る。P3 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 40㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 47㎝を測る。また、K1 を中心に硬化面の広がりを確認した。本遺構では出土したジョッキ形土器を図化した（Fig.70）。

S173（Fig.39）

G-22 グリッドで検出した。遺構の北側は後出する竪穴建物 S172 に削平され、遺構東側は南北に走行する溝 S176 に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 4.6 m、短軸 4.6 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 17㎝を測る。遺構の主軸は N-13° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を１基（B1）検出したが、調査過程の過掘削のためにその平面形・規模は不明確である。上面は東西長 90㎝、南北長 39㎝を測り、「鍵」形を呈すると推測され、床面と比較して９㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 99㎝、短軸 73㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1 を中心に硬化面の広がりを確認した。柱穴は２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 58㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 70㎝を測る。その基底から 45㎝上方には幅９㎝の段を有する。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 98㎝の長楕円形を呈し､床面からの深度は 36㎝を測る。基底は P2 中央に位置する。その基底の北西側上方 25㎝には、幅 25㎝の段を有し、南東上方 15㎝には、幅 16㎝の段を有する。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 218㎝を測る。

c　土坑

S097（Fig.40）

I-26 グリッドで検出した。重複する S098 に後出し、遺構の東側は撹乱によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は検出長軸 235㎝、短軸 202㎝を測り、楕円形を呈すると推測される。壁面は複数の段を有しつつ、長軸 107㎝の基底に至る。それらの段上より多くの遺物が出土している。本遺構では出土した甕・台付壺・鉢を図化した（Fig.63）。

S148（Fig.41）

H-23 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S130 にその南側の一部を削平される。平面形は長軸 227㎝、短軸 161㎝の長楕円形を呈し、検出面からの深度は 43㎝を測る。断面形状は「U」字形を呈する。その基底は長軸 184㎝、短軸 112㎝の長楕円形を呈し、平坦面を形成する。遺構の主軸は N-48° -E を測る。遺構埋土は黒褐色シルト～褐色シル

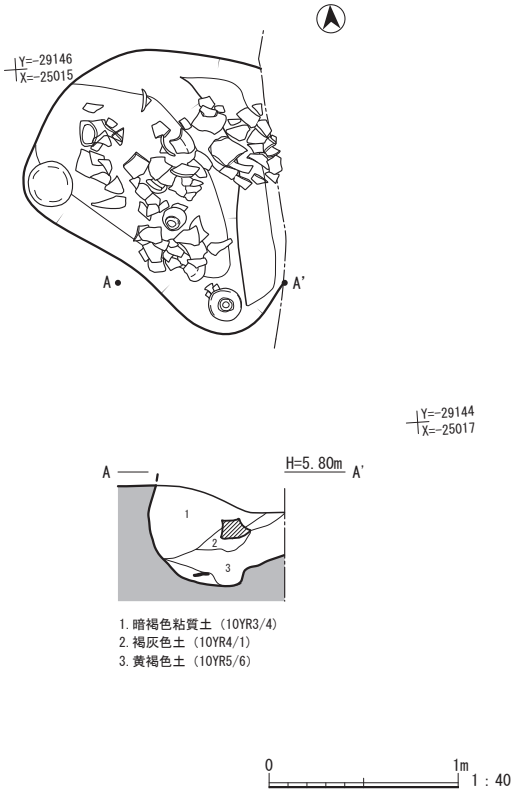


Fig.40　土坑 S097 遺構実測図

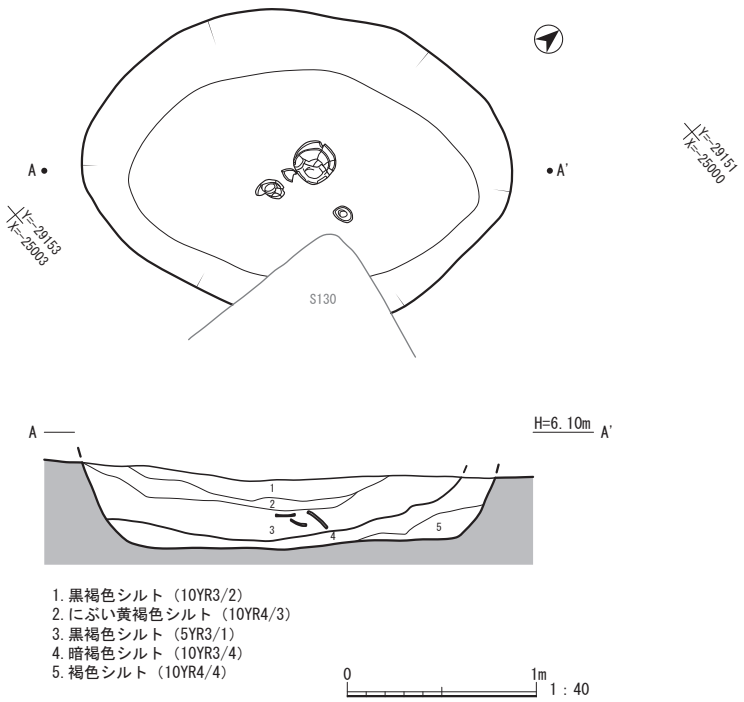


Fig.41　土坑 S148 遺構実測図

トの５層に分層できる。３層中より甕が出土しているが、その出土状況は、遺構内に４層が堆積した後に、据え置かれたようである。ここでは、甕を出土状況とあわせて図化した（Fig.68）。

S152（Fig.42）

H・I-19 グリッドで検出した。後出する撹乱溝によって中央部は削平される。平面形は長軸 243㎝、短軸 216㎝の隅丸方形を呈し、検出面からの深度は 17㎝を測る。断面形状は「U」字形を呈する。その基底は長軸 243㎝、短軸 223㎝の隅丸方形を呈し、平坦面を形成する。遺構の主軸は N-85°-W を測る。ここでは、出土した壺・石包丁を図化した（Fig.68・72）。

S188（Fig.43）

F-22・23 グリッドで検出した。平面形は長軸 160㎝、短軸 156㎝の楕円形を呈し、検出面からの深度は 72㎝を測る。断面形状は「U」字形を呈する。その基底は長軸 53㎝、短軸 49㎝の楕円形を呈し、東側にやや傾斜する。遺構の主軸は N-73°-W を測る。ここでは、出土した高坏を図化した（Fig.70）。

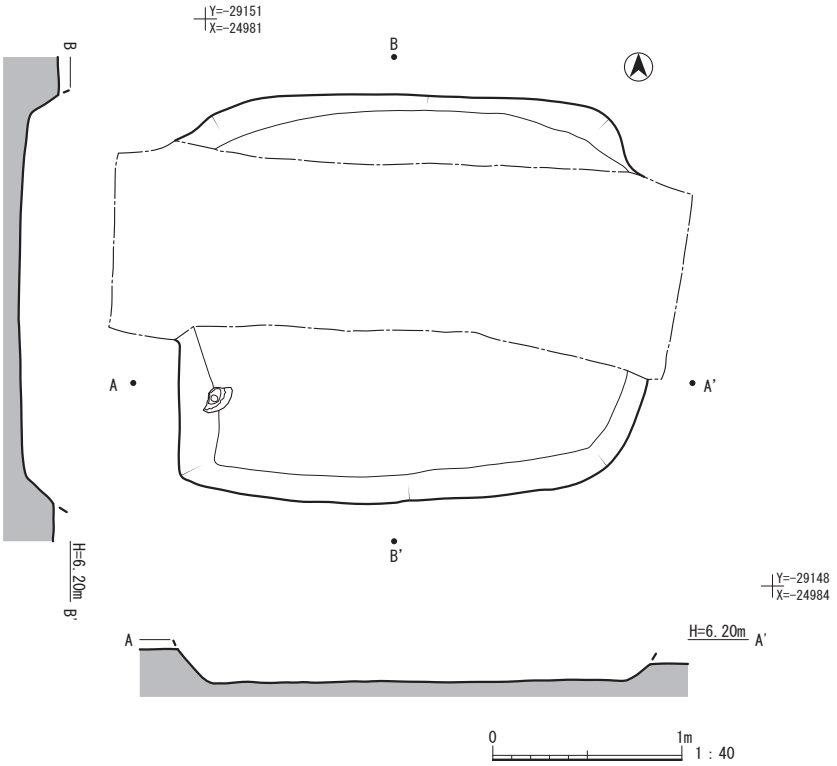


Fig.42　土坑 S152 遺構実測図

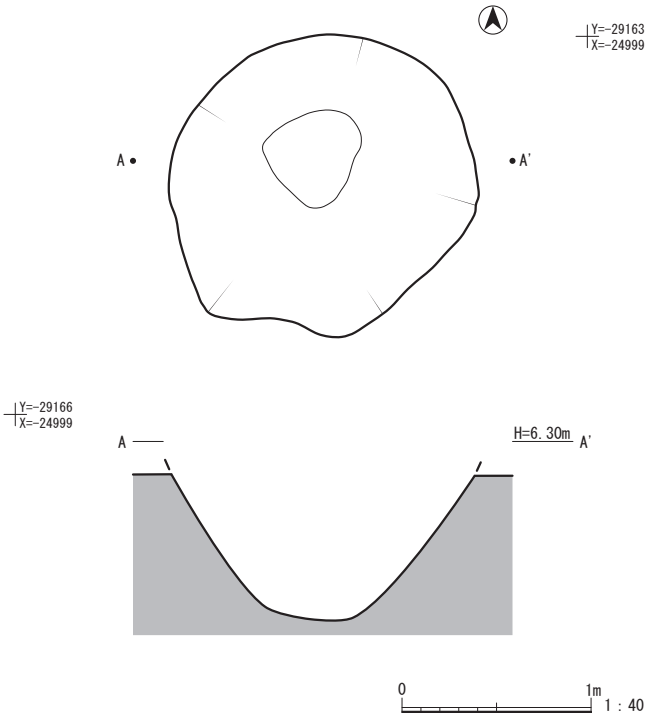


Fig.43　土坑 S188 遺構実測図

4　調査４区

（１）概要（Fig.44）

４区は３区の 57 m南側に位置し、F-43 グリッド～ G-48 グリッドにかけて設定された。平面形は最大南北辺 25 m、最大東西辺 6.8 mを測る長方形を呈する。その発掘調査面積は 152㎡を測る。

調査区の大半が南北に走行する溝 S077 によって掘削されており、溝４条、土坑４基を検出した。

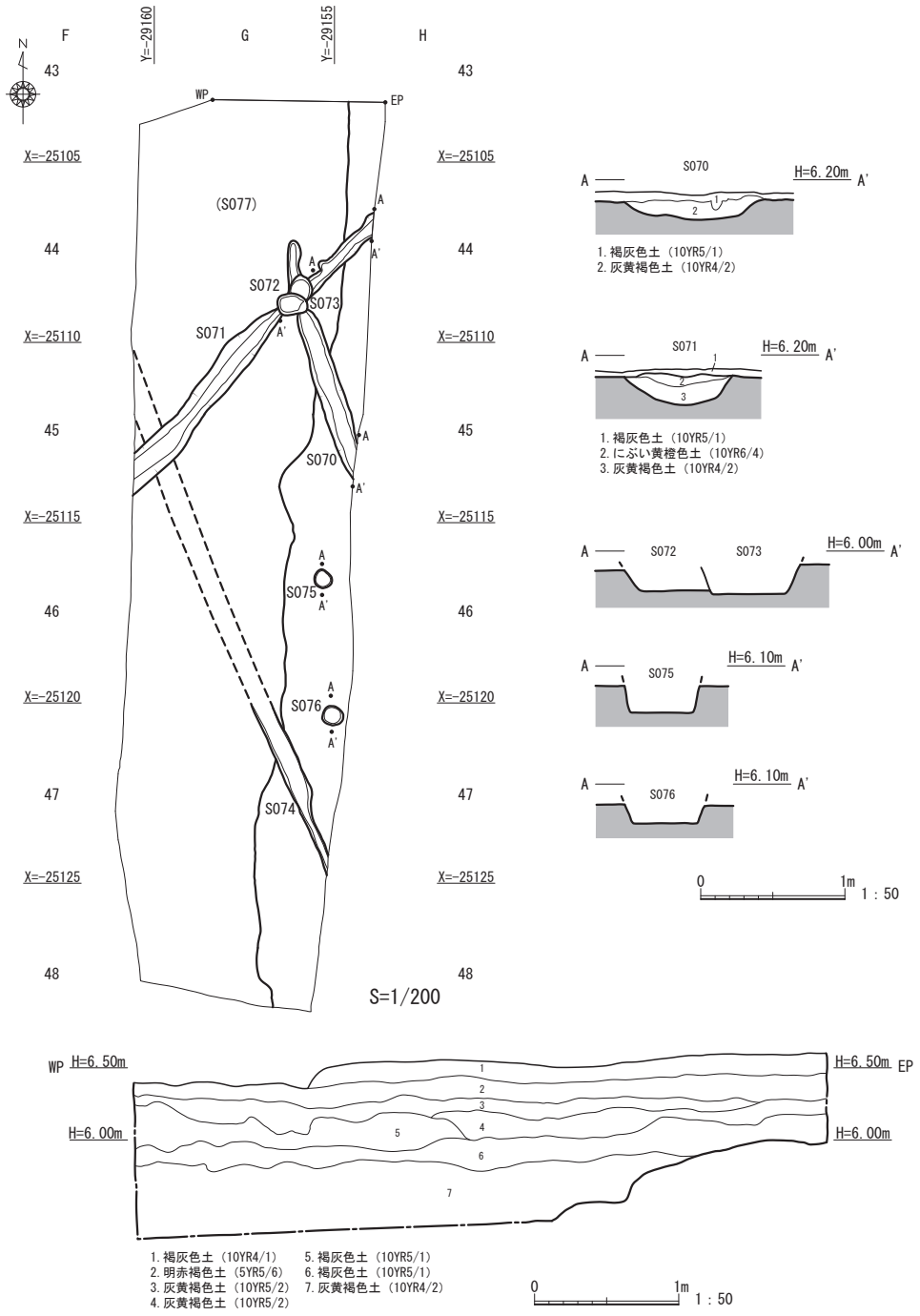


Fig.44　４区遺構配置図　S=1/200

（2）遺構各説

a　溝

S070（Fig.44）

G-44 グリッド～ H-45 グリッドにかけて検出した。調査区を北西 － 南東に走行し、調査区外へ延びる。重複する溝 S077 に後出し、土坑 S073・072 に削平される。その検出長は 636㎝、幅 71㎝、検出面からの深度は 10㎝を測り、断面形は「コ」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-20° -W を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S071（Fig.44）

G-45 グリッド～ H-44 グリッドにかけて検出した。調査区を北東 － 南西に走行し、その両端は調査区外へ延びる。重複する溝 S077 に後出し、溝 S074、土坑 S073・072 に削平される。その検出長は 821㎝、最大幅 84㎝、最少幅 38㎝、検出面からの深度は 9 ㎝を測り、断面形は「V」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-42° -E を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S074（Fig.44）

F-45 グリッド～ H-47 グリッドにかけて検出した。調査区を北西 － 南東に走行し、その両端は調査区外へ延びると推測される。重複する溝 S071・077 に後出する。その検出長は 546㎝、幅 57㎝、検出面からの深度は 15㎝を測り、断面形は「V」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-24° -W を測る。

S077（Fig.44）

F・G-43 グリッド～ G-48 グリッドにかけて検出した。調査区の大半を占有する。調査区を北 － 南に走行し、その両端は調査区外へ延びる。重複する溝 S070・071・074、土坑 S072・073 にその一部を削平される。その検出長は 25 m、最大幅 5.8 m、最少幅 3.6 mを測る。検出面からの深度が 74㎝を測るレベルより湧水が認められたために、掘削を中止する。したがって、正確な深度や断面形は不明確である。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N- 4 ° -E を測る。

b　土坑

S072（Fig.44）

G-44 グリッドで検出した。重複する溝 S070・071・077 に後出し、遺構の南西は土坑 S073 に削平される。平面形は長軸 63㎝を測り、楕円形を呈すると推測され、検出面からの深度は 15㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-20° -E を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S073（Fig.44）

G-44 グリッドで検出した。重複する溝 S070・071・077 および土坑 S072 に後出する。平面形は長軸 82㎝、短軸 60㎝の長楕円形を呈し、検出面からの深度は 19㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-90° -E を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S075（Fig.44）

G-46 グリッドで検出した。平面形は長軸 51㎝、短軸 49㎝の楕円形を呈し、検出面からの深度は 18㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-0° -E を測る。

S076（Fig.44）

G-47 グリッドで検出した。平面形は長軸 57㎝、短軸 52㎝の楕円形を呈し、検出面からの深度は 12㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-1° -W を測る。

5　調査５区

（１）概要（Fig.45）

５区は、４区の８m西側に位置し、A-43 グリッド～ D-48 グリッドにかけて設定された。平面形は、最大南北辺 20 m、最大東西辺 20 mを測り、ほぼ正方形を呈する。その発掘調査面積は 368㎡を測る。

本調査区では明黄褐色土（Hue10YR6/6）である３層上面で遺構検出を行った。その結果、溝５条、井戸２基を検出した。検出面である３層は中世の遺構面であり、検出遺構は該期のものであると推測する。

（２）遺構各説

a　溝

S044（Fig.45）

A-44 グリッド～ D-44 グリッドにかけて検出した。調査区を西 - 東に走行する。重複する溝 S063 に後出し、西側は調査区外へ延びる。その検出長は 18.8 m、最大幅 79㎝、最少幅 42㎝、検出面からの深度は 15㎝を測り、断面形は擂鉢状を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-89° -E を測る。

S045（Fig.45）

A-45・46 グリッド～ D-45 グリッドにかけて検出した。調査区を西 - 東に走行する。重複する溝 S063 に先行し、両端は調査区外へ延びる。遺構の東側は調査過程で上端を過掘削したため、平面形が狭くなる。その検出長は 19 m、幅 40㎝、検出面からの深度は 20㎝を測り、断面形は「コ」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-86° -E を測る。埋土中からは、白磁や青磁の小片が少量出土した。

S060（Fig.45）

A-46 グリッド～ D-46 グリッドにかけて検出した。調査区を西 - 東に走行する。重複する井戸 S061 に後出し、両端は調査区外へ延びる。遺構は調査区中央でその流れをやや北側に移し、東側では幅を拡張する。その検出長は 18.6 m、最大幅 84㎝、最少幅 60㎝、検出面からの深度は 10㎝を測り、断面形は擂鉢状を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-88° -W を測る。埋土中からは、石鍋小片が出土した。

S062（Fig.45）

A-47 グリッド～ D-47 グリッドにかけて検出した。調査区を西 - 東に走行する。その検出長は 19.2 m、最大幅 91㎝、最少幅 84㎝、検出面からの深度は 33㎝を測り、断面形は「U」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-90° -E を測る。

S063（Fig.45）

C-44 グリッド～ D-46 グリッドにかけて検出した。調査区を北西 - 南東に走行する。その北側は調査区外へ延び、南側は調査区内で収束する。重複する溝 S045 に後出し、溝 S044 に削平される。その検出長は 14.1 m、幅 75㎝、検出面からの深度は 40㎝を測り、断面形は擂鉢状を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-15° -W を測る。

b　井戸

S041（Fig.45）

D-44・45 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 227㎝、短軸 157㎝を測り、楕円形を呈すると推測され、検出面からの深度は 72㎝を測る。断面形状は「コ」字形を呈する。その基底は長軸 194㎝、短軸 86㎝の長楕円形を呈すると推測される。その基底から 26㎝上方には幅 28㎝の段を有する。遺構の主軸は N-65° -E を測る。

S061（Fig.45）

B-46 グリッドで検出した。遺構の中央は溝 S060 によって削平される。平面形は長軸 185㎝、短軸 157㎝を測る長楕円形を呈し、検出面からの深度は 86㎝を測る。断面形状は「コ」字形を呈する。その基底は長軸 164㎝、短軸 130㎝の長楕円形を呈する。遺構の主軸は N-15° -E を測る。

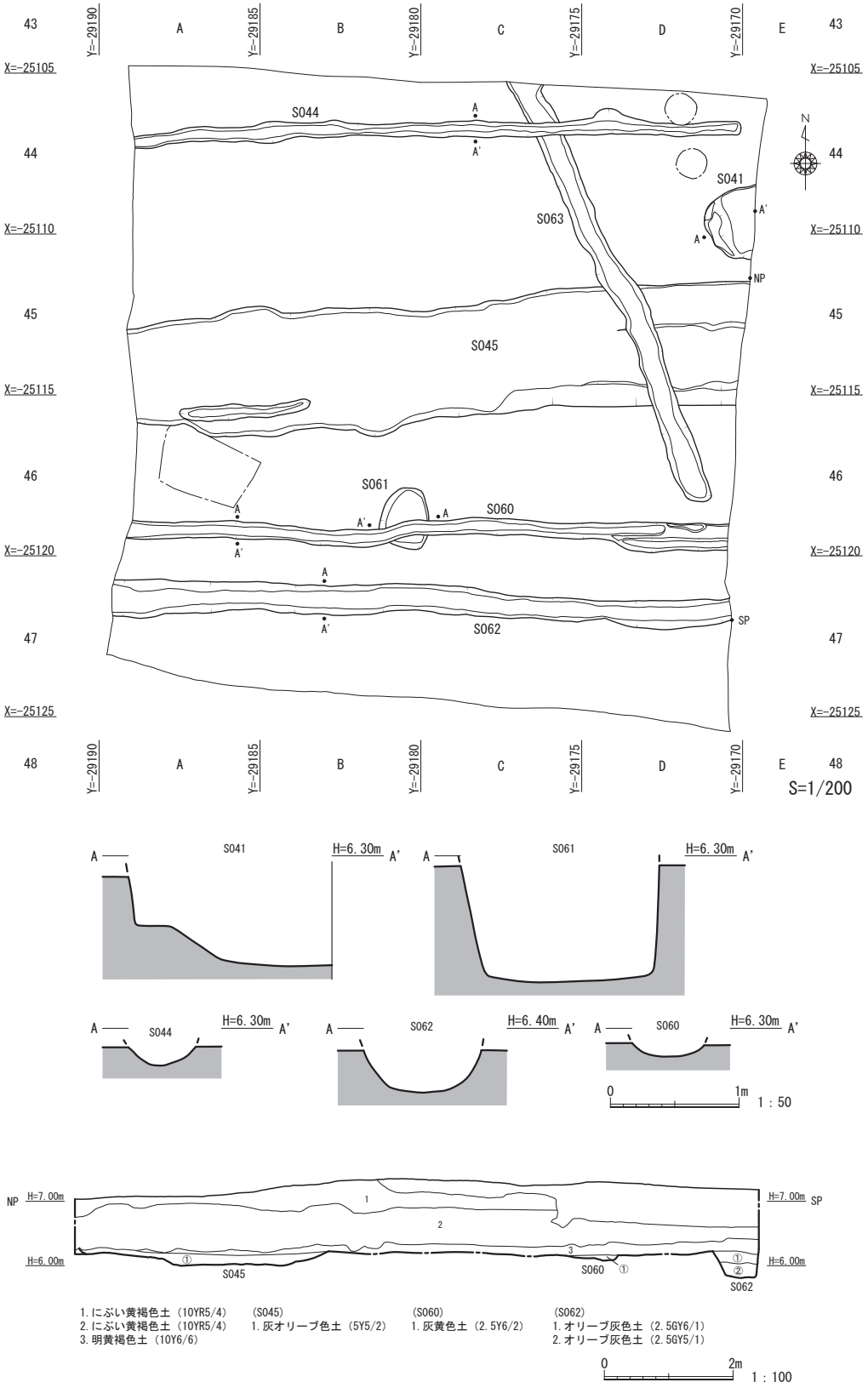


Fig.45　5 区遺構配置図　S=1/200

6　排水処理槽予定地

（1）概要（Fig.46）

排水処理槽予定地は、I-1 グリッド～ K-5 グリッドにかけて 1 区と重複して設定された。平面形は最大南北辺 23 m、最大東西辺 8.5 mを測り、長方形を呈する。その発掘調査面積は 190㎡を測る。

本調査区では中央に大きな撹乱溝が南走しており、遺構はその東側で検出された。検出された遺構は、溝 1 条、竪穴建物 2 軒、土坑 4 基などであり、ここでは主な遺構について報告する。

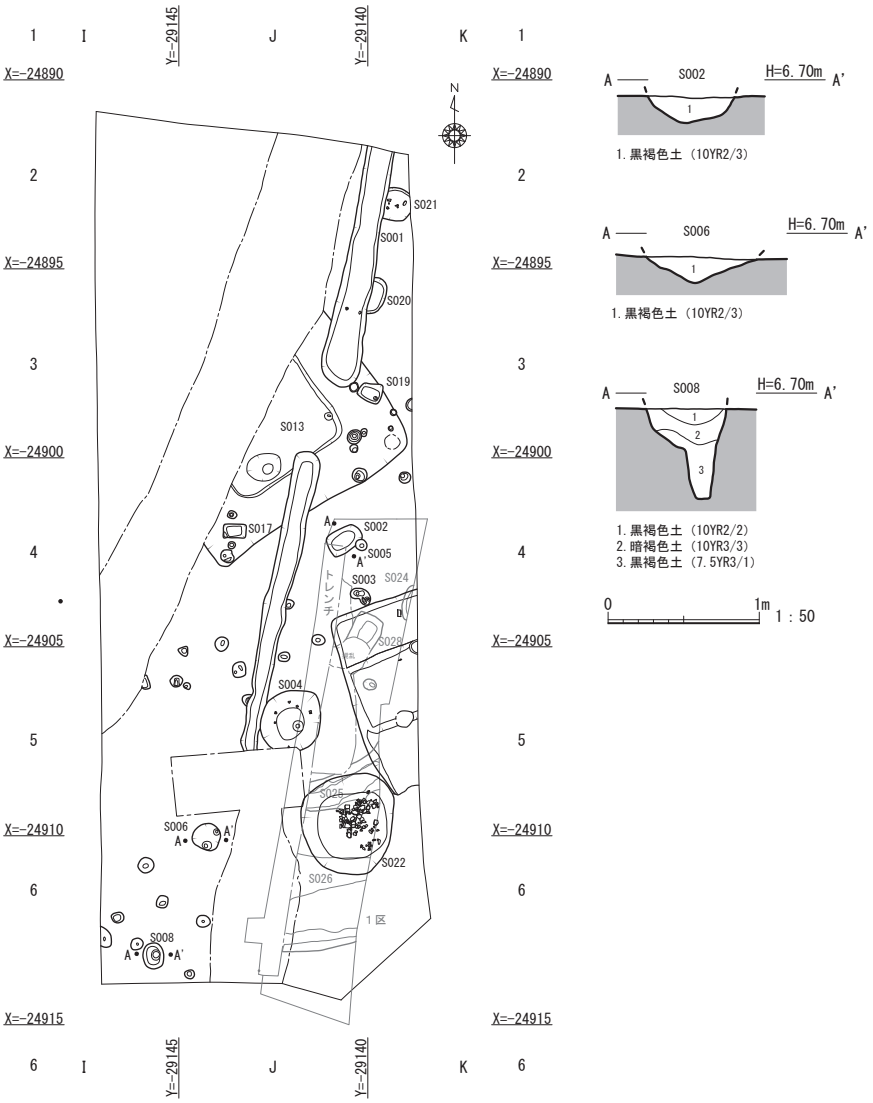


Fig.46　排水処理槽予定地遺構配置図 S=1/200

（2）遺構各説

a　溝

S001（Fig.46）

K-1 グリッド～ J-4 グリッドにかけて検出した。調査区を北‐南に走行する。遺構は調査区内で一度収束し、その南端は試掘トレンチと接する。ここでは、一連の溝として報告する。重複する竪穴建物 S013 に後出する。その検出長は 16.3 m、最大幅 104㎝、最少幅 38㎝、検出面からの深度は 17 ～ 37㎝を測り、北側ほど深くなる。断面形は「U」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-12° -E を測る。

b　竪穴建物

S003（Fig.46）

J・K-3・4 グリッドで検出した。遺構の南端は撹乱によって削平され、東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 4.9 m、短軸 2.3 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 40㎝を測る。遺構の主軸は N-14° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基（B1・B2）検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 223㎝、南北長 118㎝を測り、長方形を呈すると推測され、床面と比較して 14㎝高く構築されている。B2 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 170㎝、東西長 137㎝を測り、長方形を呈すると推測され、床面と比較して 16㎝高く構築されている。柱穴は 1 基（P1）を検出した。P1 は遺構北側東部で B1 に接して検出した。その平面形は長軸 40㎝の楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 13㎝を測る。

S013（Fig.46）

J-2・3 グリッドで検出した。遺構の西側は撹乱溝によって削平される。また、本遺構は検出の際に過掘削となる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は推定を含む長軸 6.2 m、短軸 1.1 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 16㎝を測る。遺構の主軸は N-55° -E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基（B1）検出した。B1 は遺構検出部分の壁面に沿って検出した。その上面は長軸 616㎝、最大幅 140㎝、最少幅 113㎝を測り、「コ」字形で検出した。B1 は床面と比較して 9 ㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 94㎝、短軸 72㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 20㎝を測る。その断面形は「V」字形を呈する。K1 内埋土は暗褐色土～明褐色土の 3 層に分層でき、焼土や灰を多量に含有する炉跡である。柱穴は 1 基（P1）を検出した。P1 は遺構北側で B1 に接して検出した。その平面形は長軸 20㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 30㎝を測る。

c　土坑

S004（Fig.46）

J-4 グリッドで検出した。重複する溝 S001 に後出し、南端は試掘坑に削平される。平面形は長軸 167㎝、短軸 155㎝を測る楕円形を呈し、検出面からの深度は 38㎝を測る。基底は平坦面を形成し、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 85㎝、短軸 71㎝の長楕円形を呈し、南東隅に幅 10㎝、基底からの深度 12㎝の堀込を持つ。遺構の主軸は N-26° -E を測る。

S021（Fig.46）

K-1 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。平面形は長軸 99㎝、短軸 89㎝を測る長楕円形を呈すると推測され、検出面からの深度は 23㎝を測る。基底は一様ではなく、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 82㎝、短軸 56㎝の長楕円形を呈する。遺構の主軸は N-80° -E を測る。

S022（Fig.47）

J-4・5 グリッドで検出した。平面形は長軸 265㎝、短軸 241 を測る楕円形を呈し、検出面からの深度は 46㎝を測る。基底は平坦面を形成し、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 183㎝、短軸 171㎝の楕円形を呈する。遺構の主軸は N-15°-W を測る。本遺構では出土した甕・壺・鉢を図化した（Fig.71）。

d　墓

S020（Fig.48）

K-2 グリッドで検出した。重複する溝 S001 に先行する。平面形は長軸 102㎝、短軸 90㎝を測る楕円形を呈し、検出面からの深度は 14㎝を測る。基底は平坦面を形成し、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 81㎝、短軸 74㎝の楕円形を呈する。遺構の主軸は N-40°-E を測る。基底からは頭蓋骨や歯、土師器が出土した（Fig.71）。

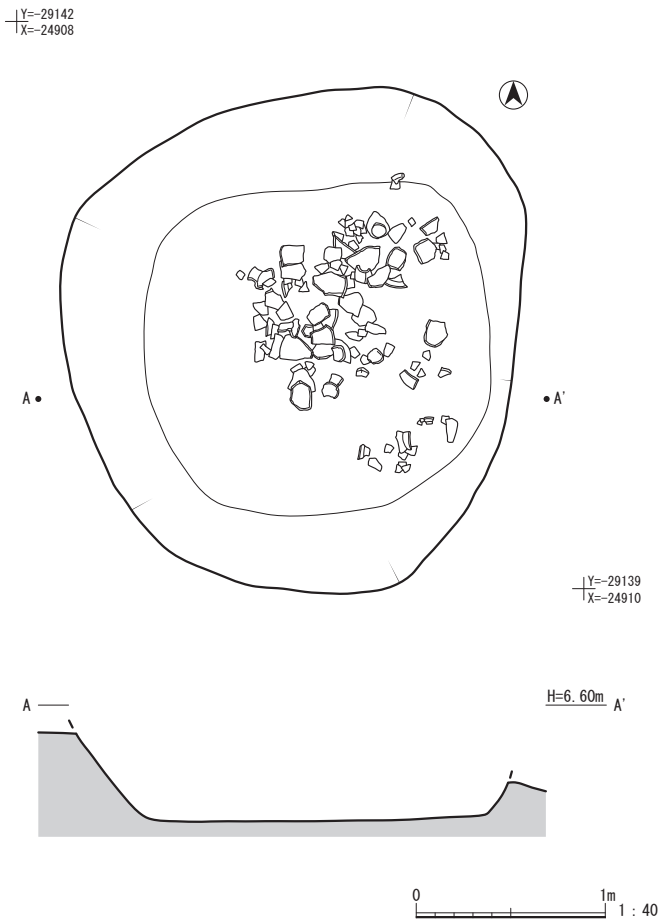


Fig.47　排水処理槽予定地土坑 S022 遺構実測図

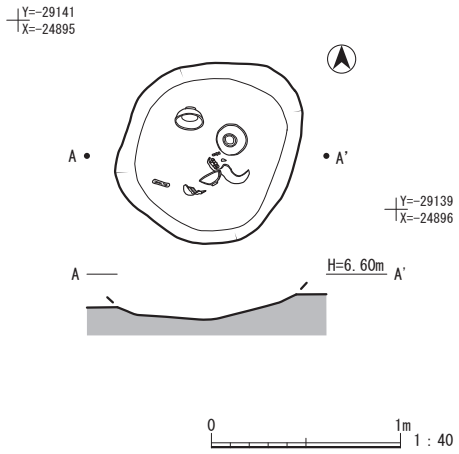
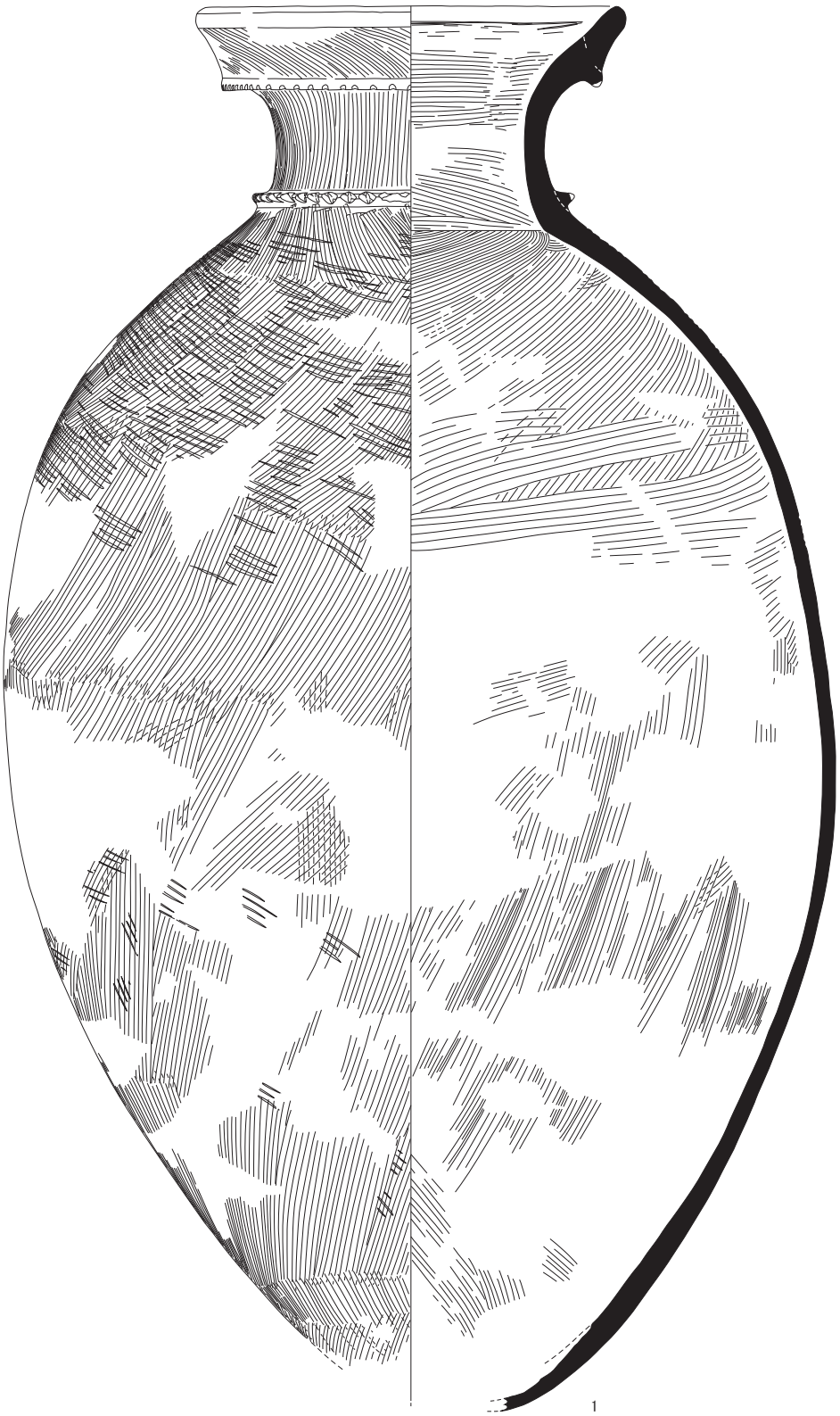


Fig.48　排水処理槽予定地墓 S020 遺構実測図

第４章
遺　物

遺物実測図凡例

・掲載縮尺は基本 1/4 に統一し掲載している。一部の土器、特殊遺物に於いてはその限りではない。
・土器の断面について土器の幅を明確に示すため須恵器、土師器等を問わず断面を黒に統一している。
・種別の違いは図中に器面調整等で、明示している。



S=1/4 0 10cm

Fig.49　竪穴建物 S001 出土遺物実測図－①

Fig.50　竪穴建物 S001 出土遺物実測図－②

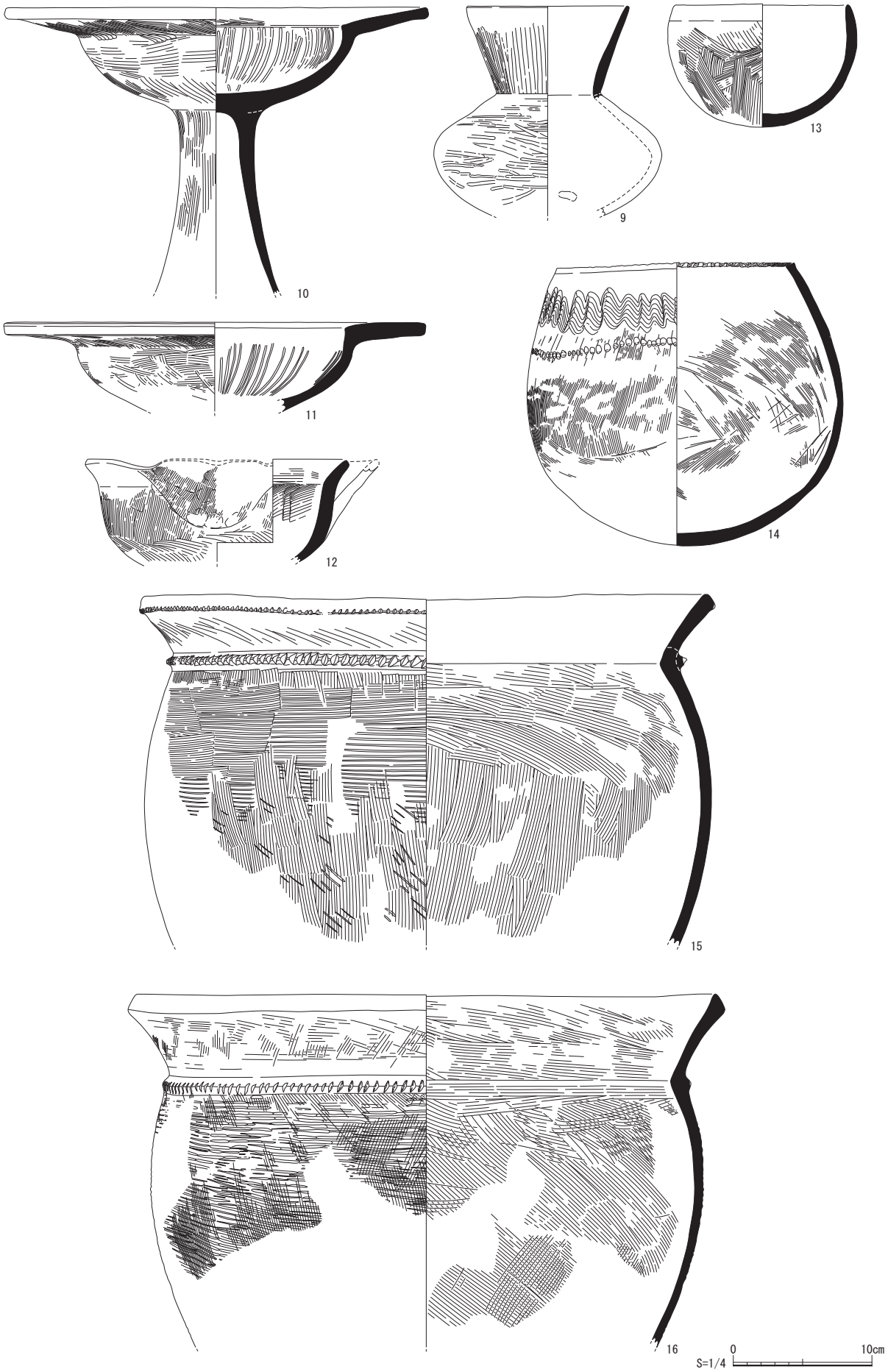


Fig.51　竪穴建物 S001 出土遺物実測図－③

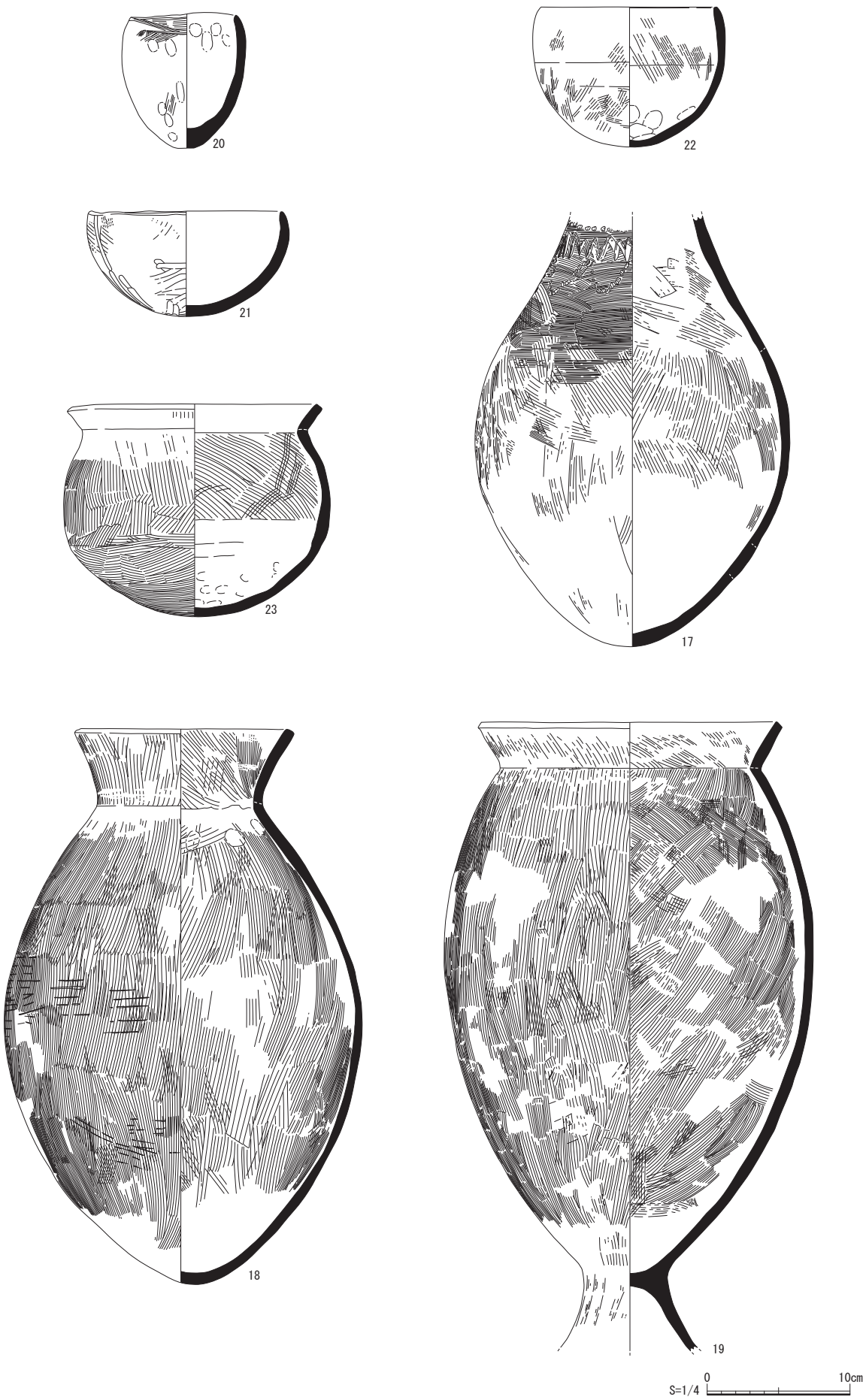


Fig.52　竪穴建物 S048 出土遺物実測図

Fig.53　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－①

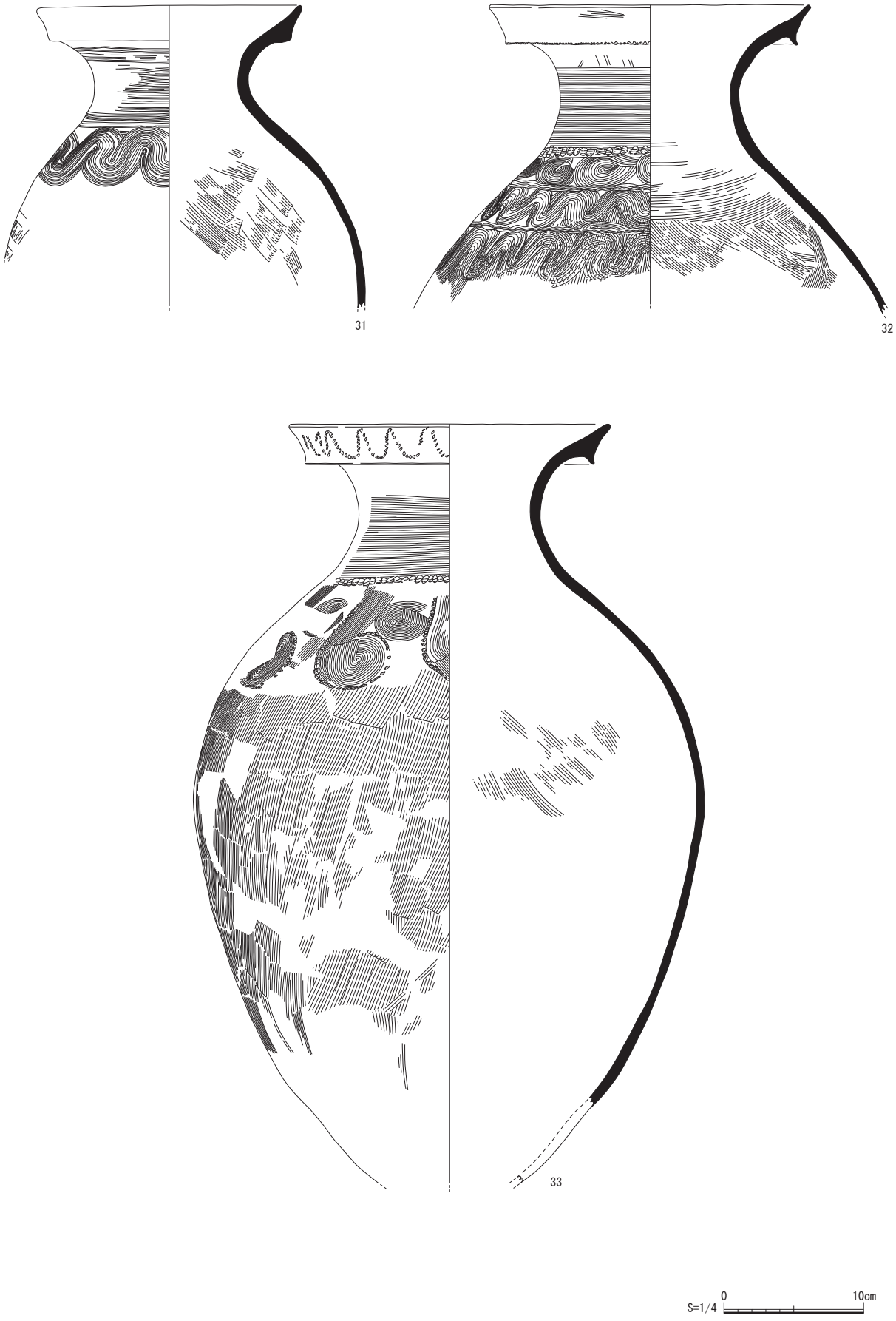


Fig.54　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－②

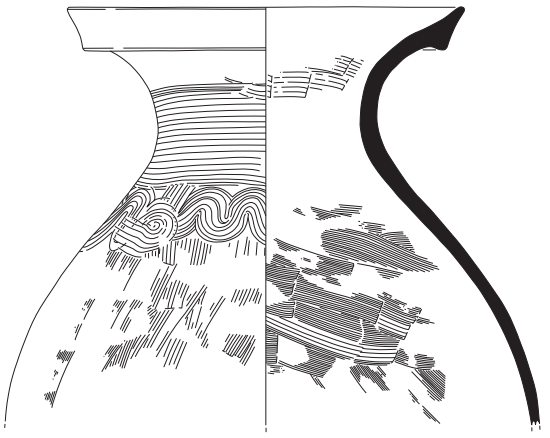


Fig.55　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－③

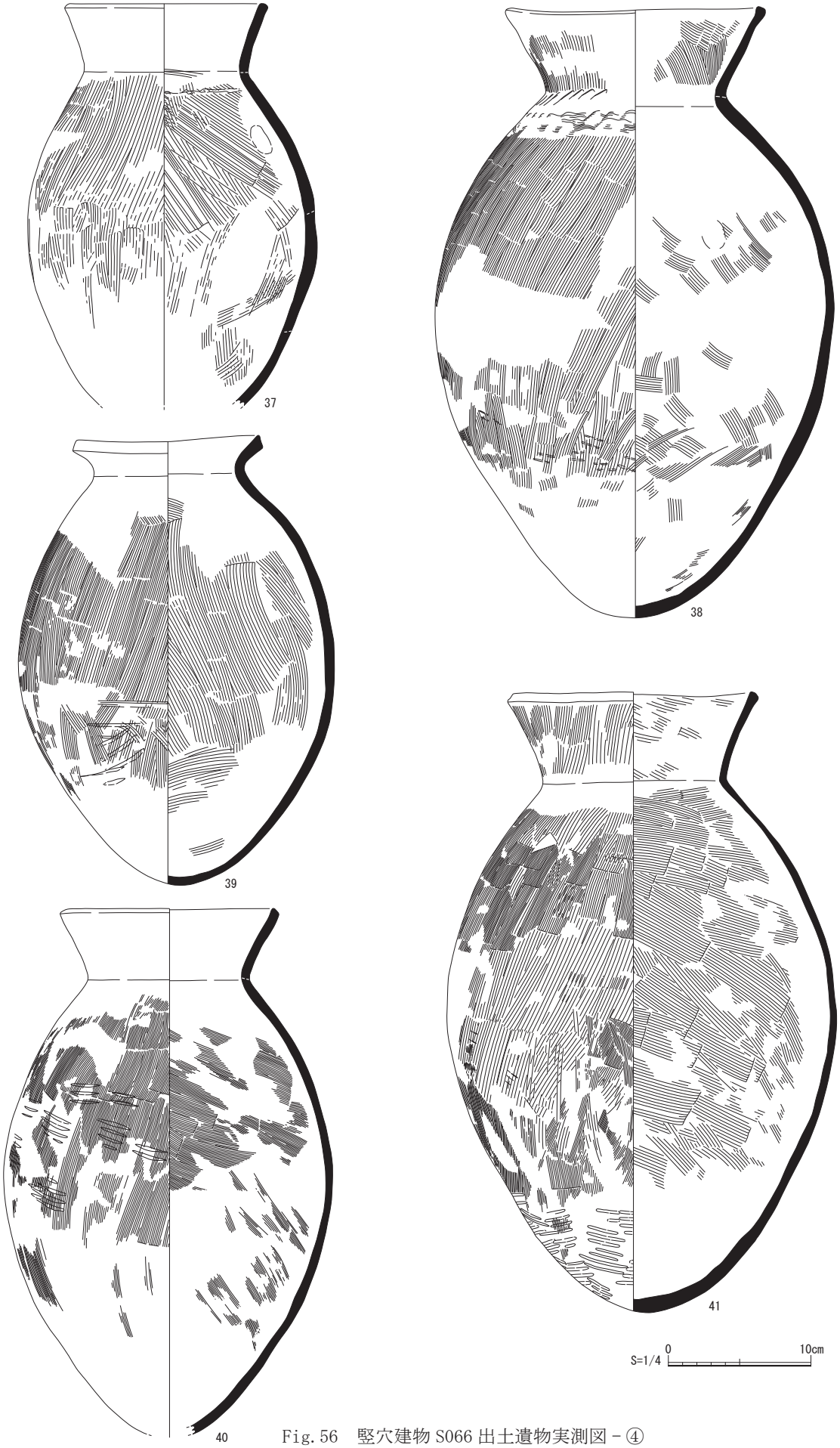


Fig.56　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－④

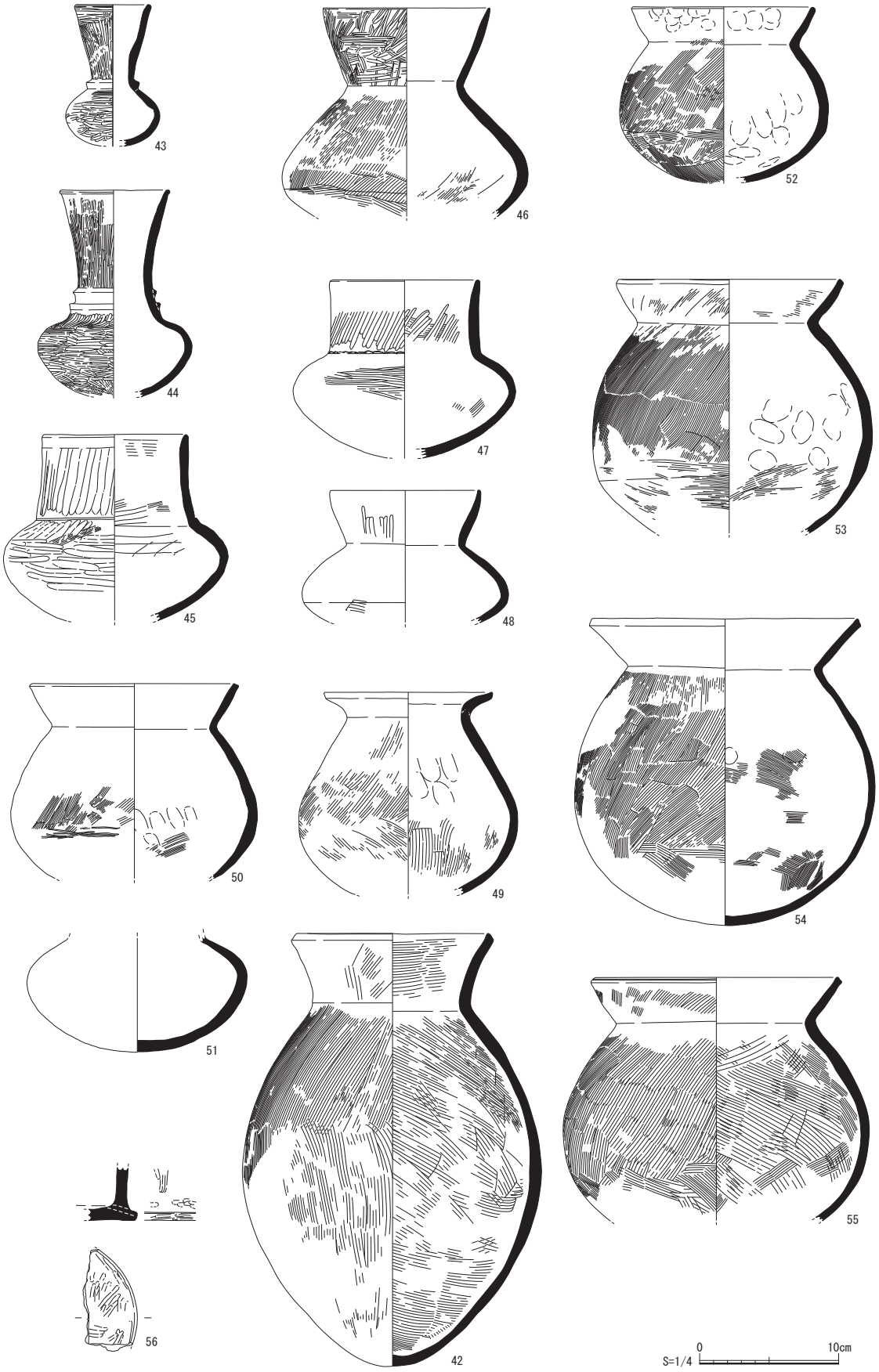


Fig.57　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－⑤

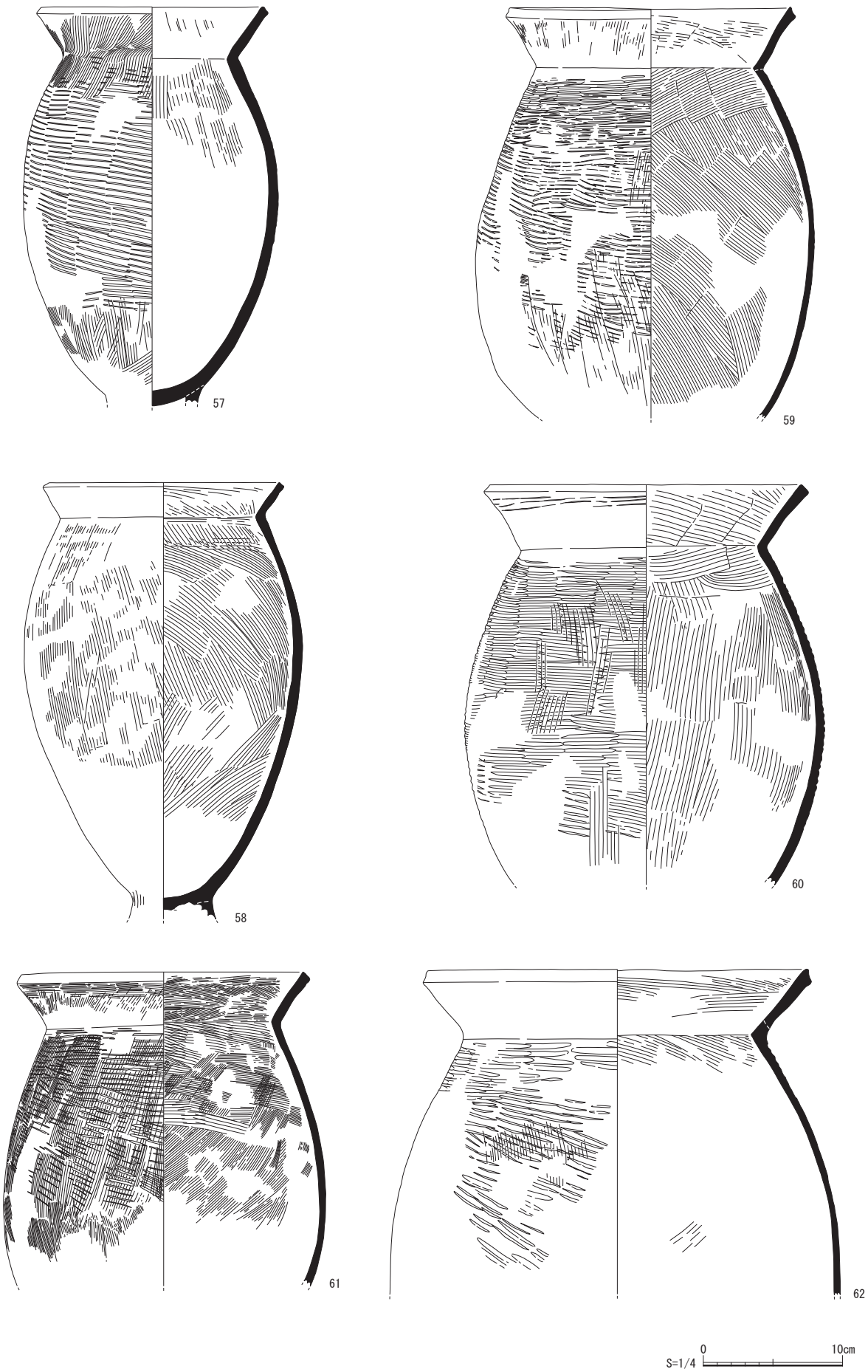


Fig. 58　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－⑥

Fig.59　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－⑦

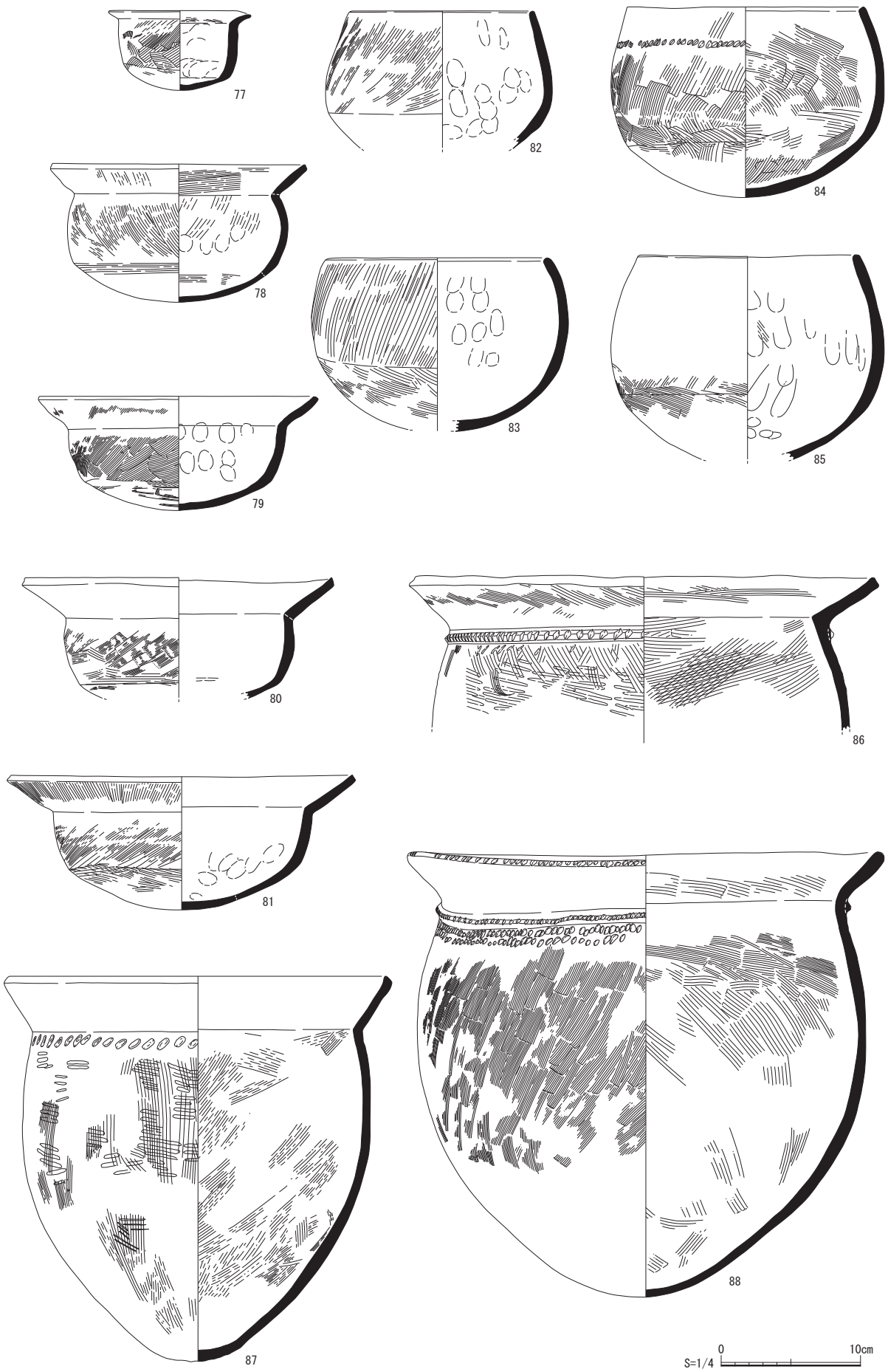


Fig. 60　竪穴建物 S066 出土遺物実測図－⑧

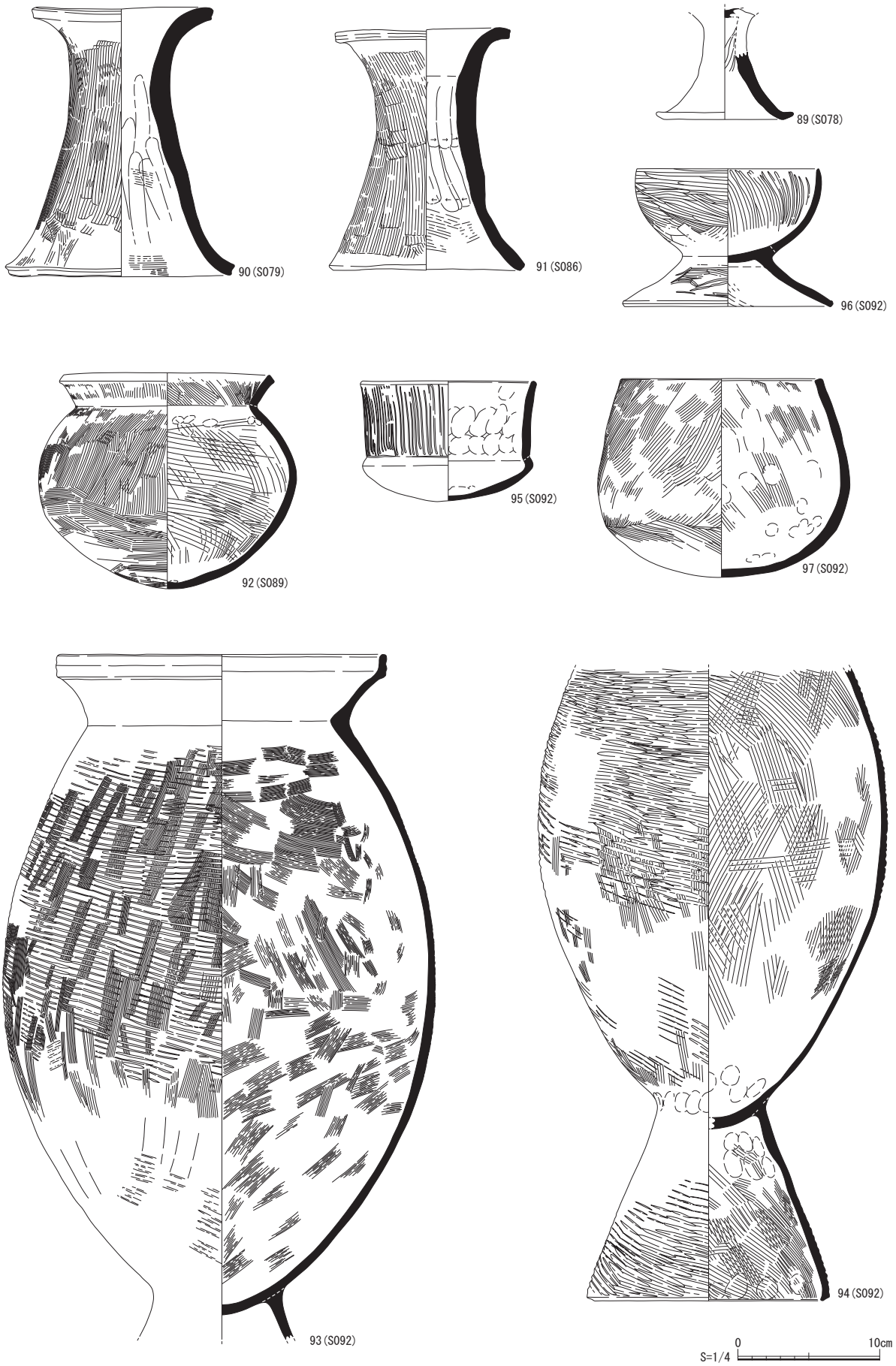


Fig. 61　溝 S078、竪穴建物 S079・S086・S089・S092 出土遺物実測図

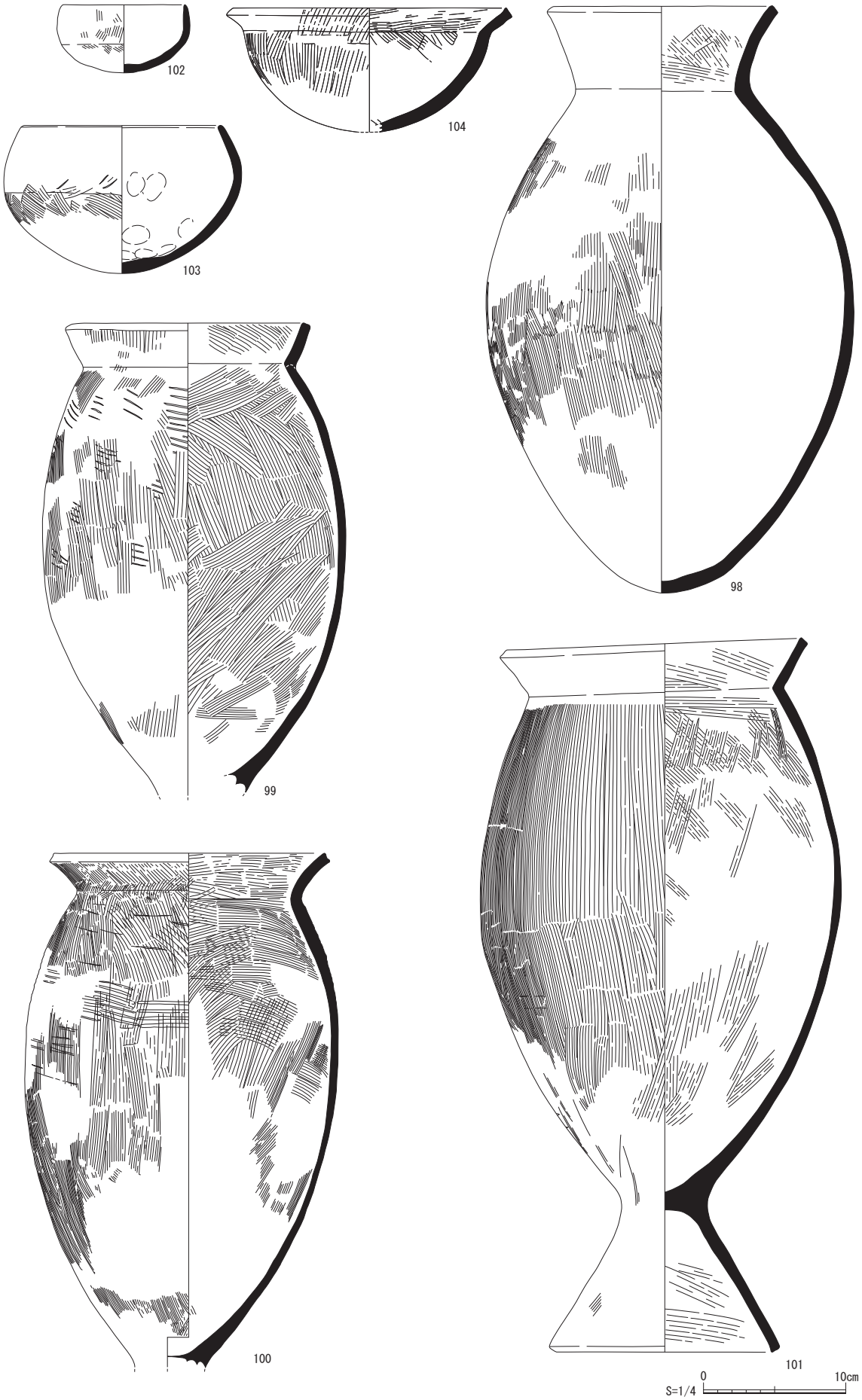


Fig.62　竪穴建物 S095 出土遺物実測図

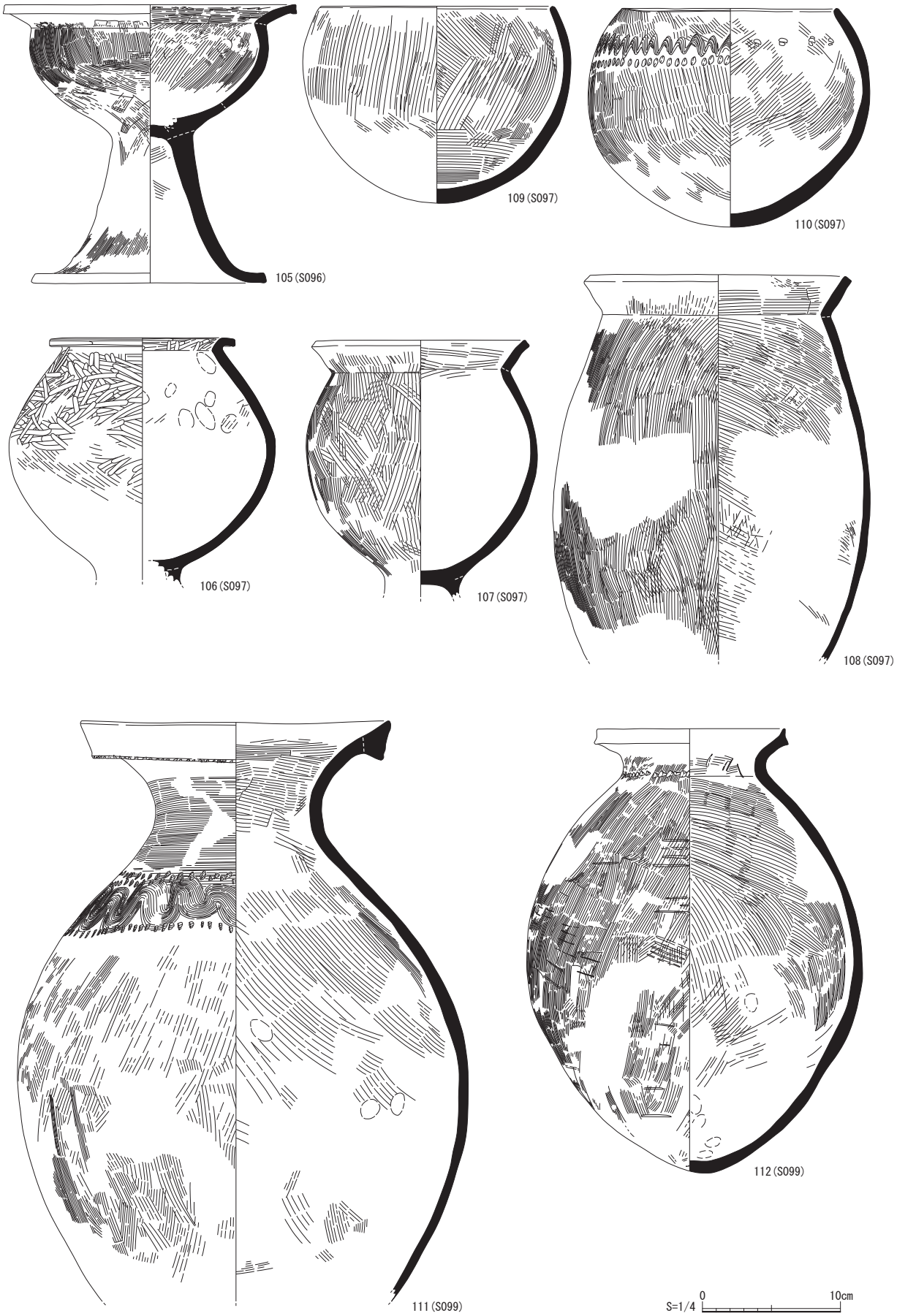


Fig. 63　竪穴建物 S096・S099、土坑 S097 出土遺物実測図

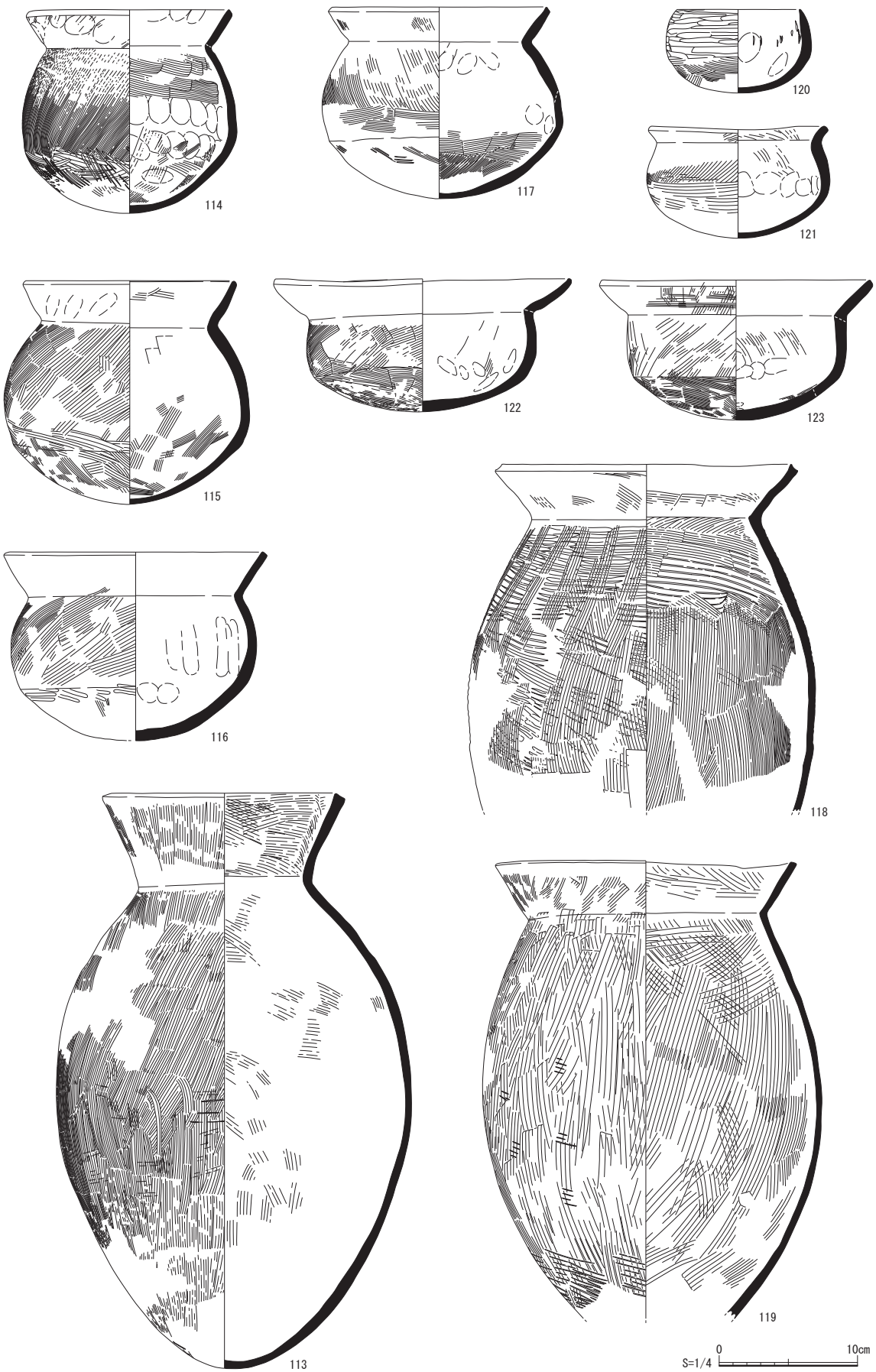


Fig. 64　竪穴建物 S099 出土遺物実測図

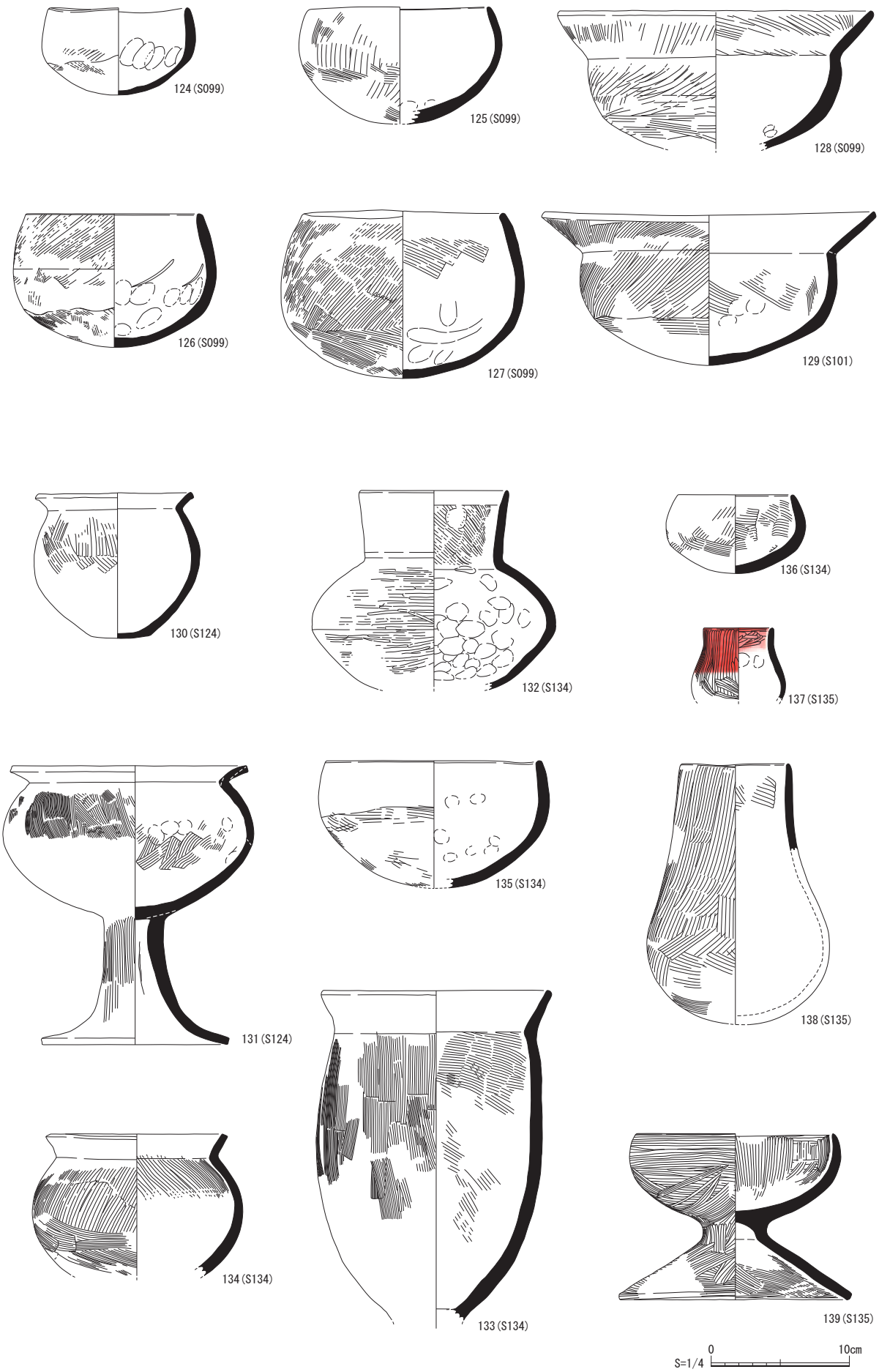


Fig. 65　竪穴建物 S099・S101・S124・S134・S135 出土遺物実測図

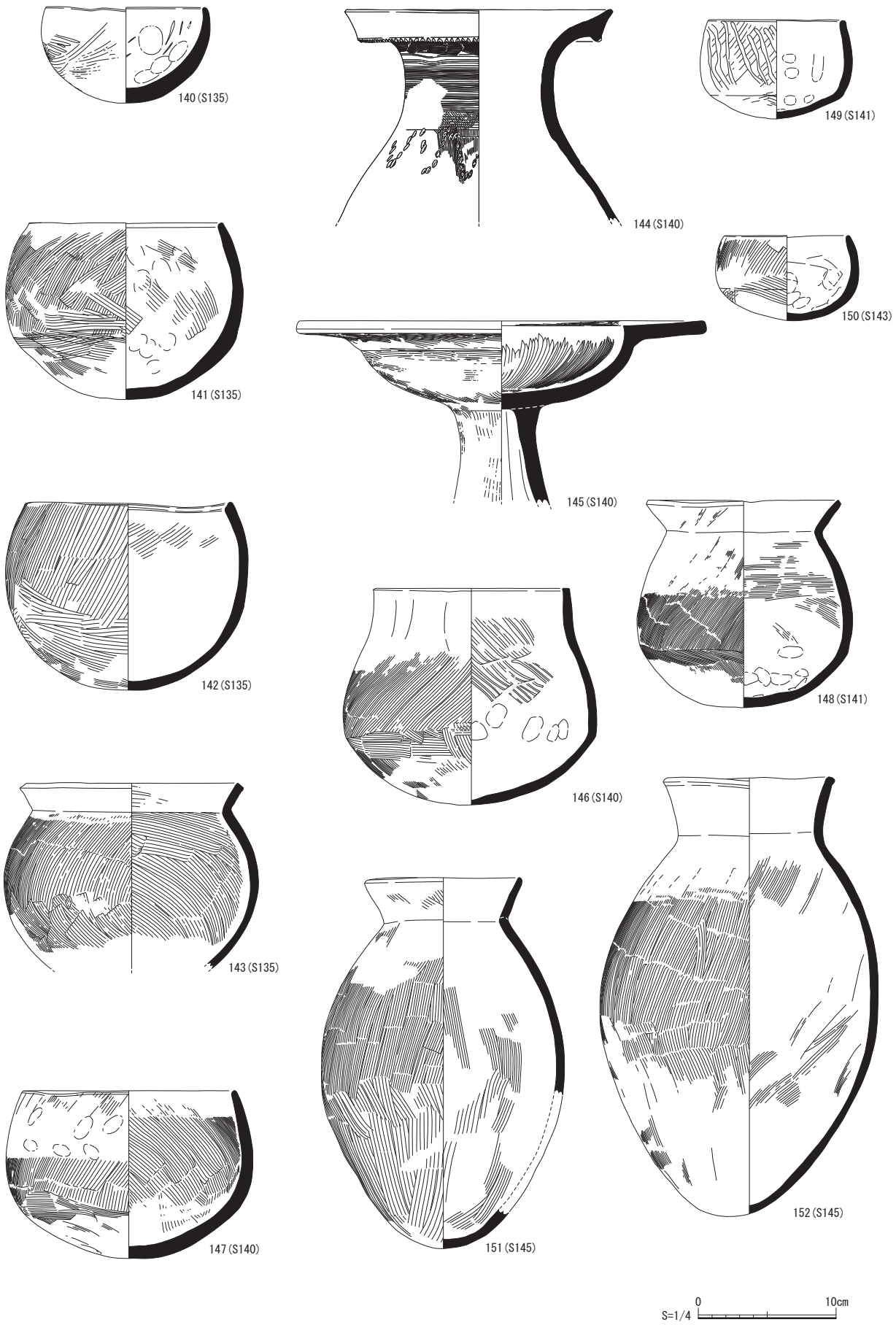


Fig. 66　竪穴建物 S135・S140・S141・S143・S145 出土遺物実測図

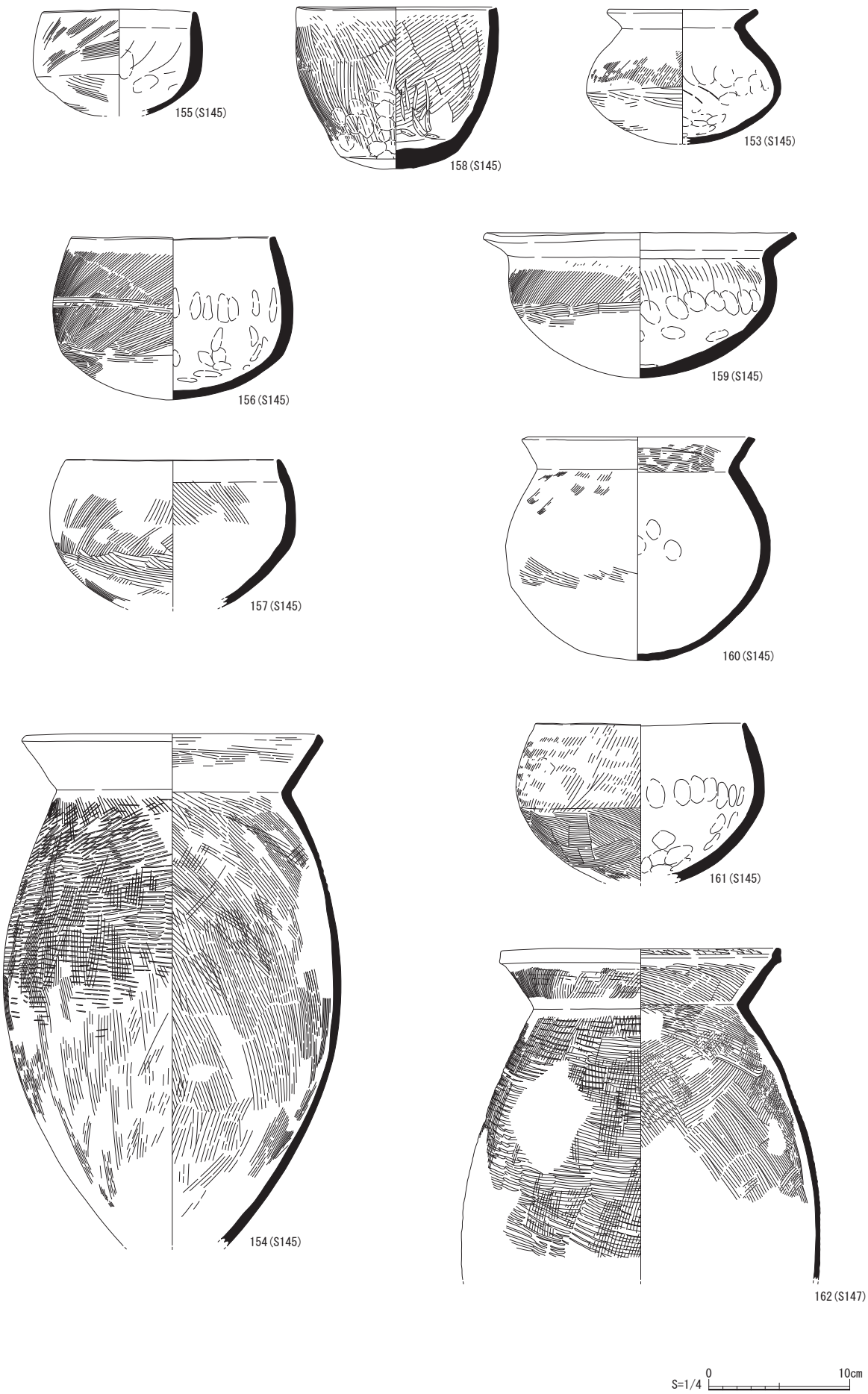


Fig. 67　竪穴建物 S145・S147 出土遺物実測図

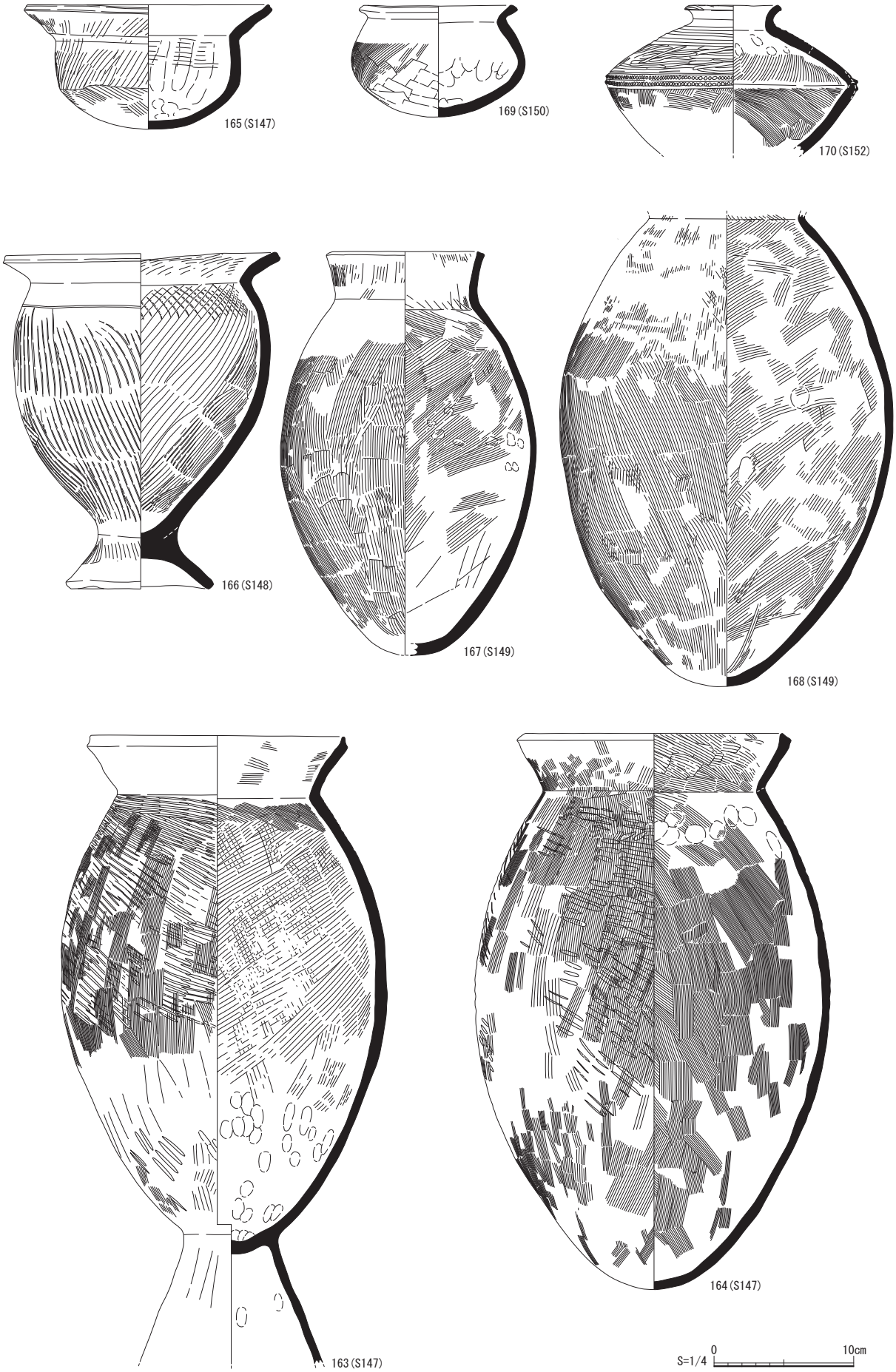


Fig.68　竪穴建物 S147・S149・S150、土坑 S148・S152 出土遺物実測図

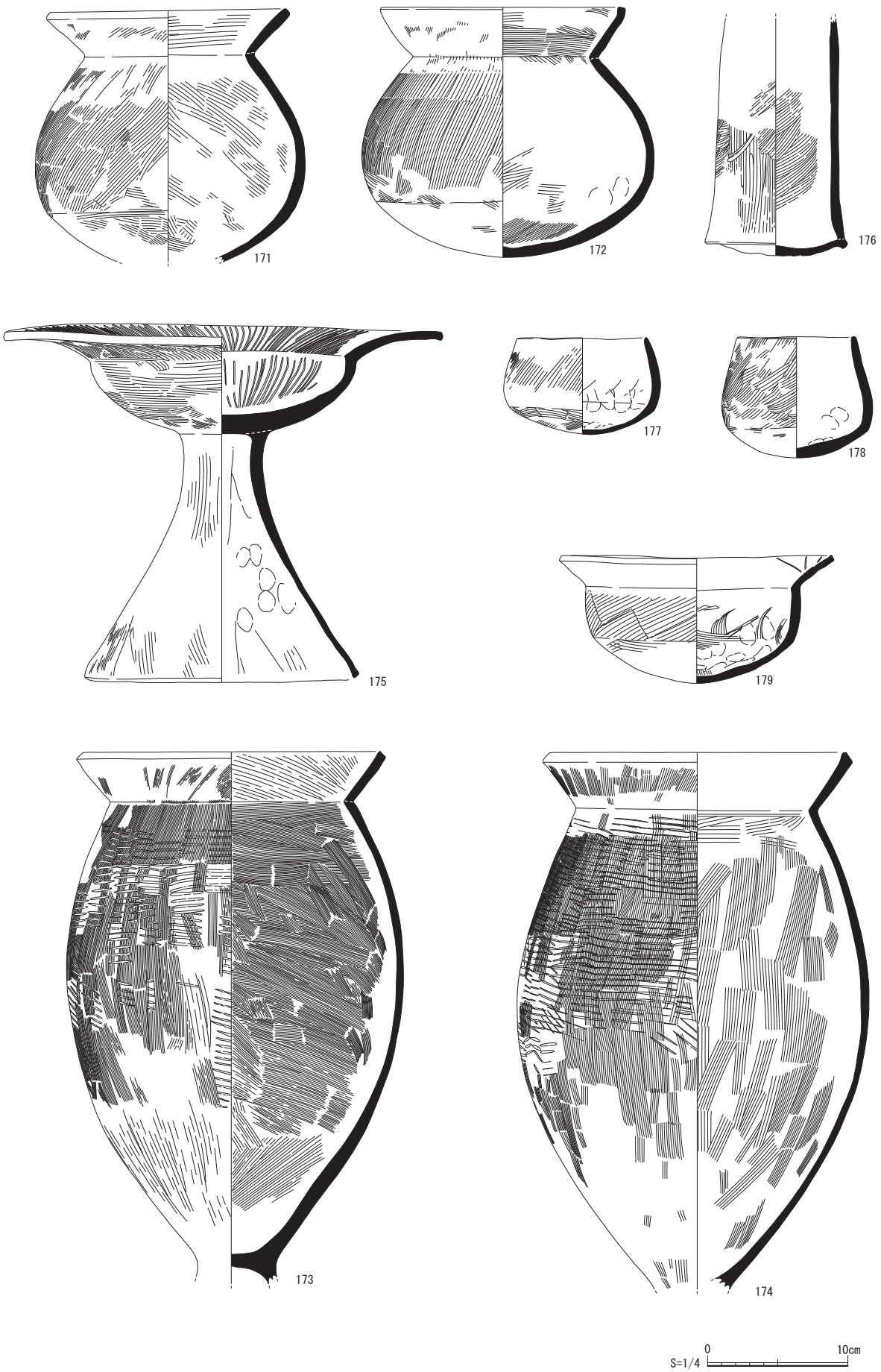


Fig.69　竪穴建物 S156 出土遺物実測図

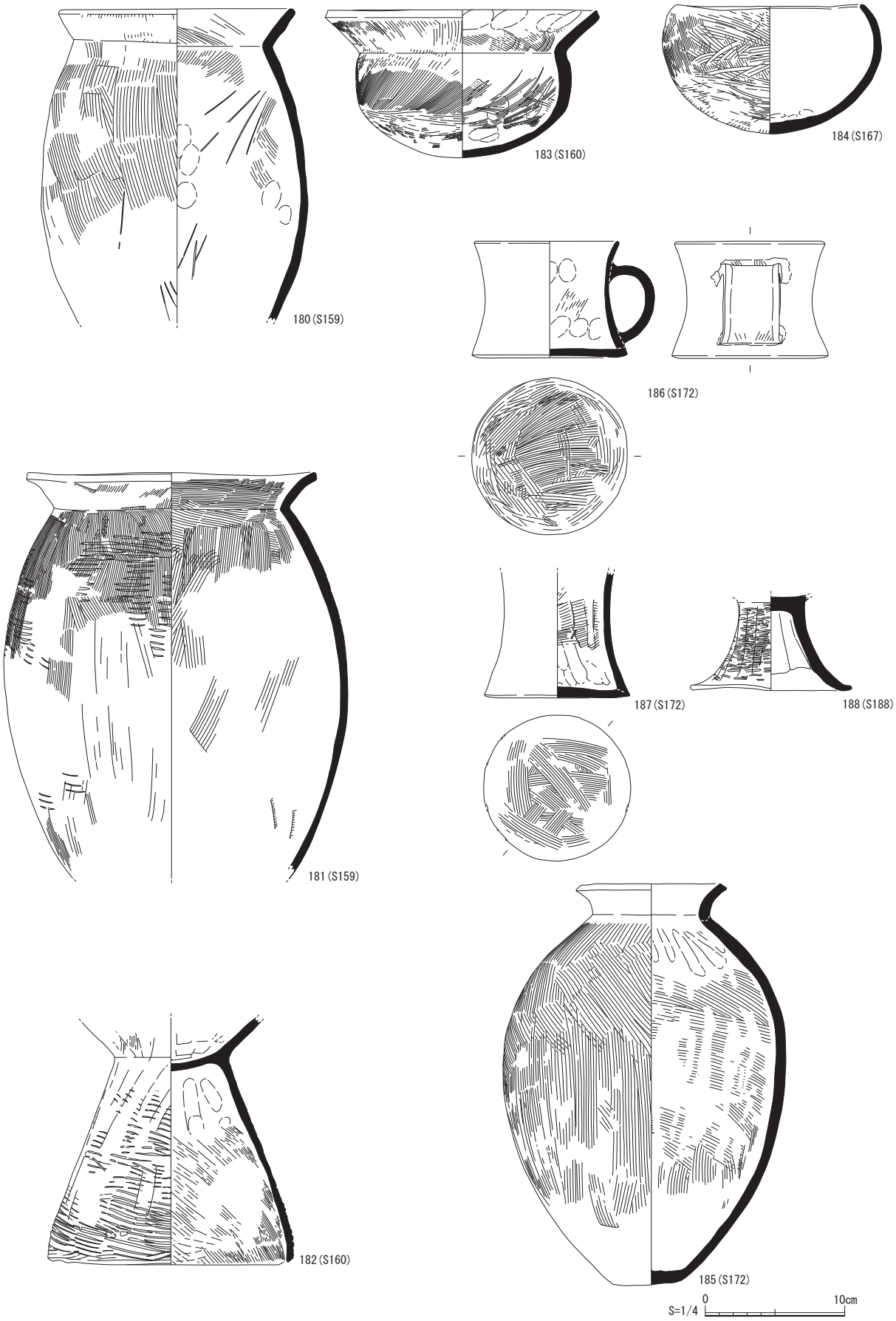


Fig. 70　竪穴建物 S159・S160・S167・S172、土坑 S188 出土遺物実測図

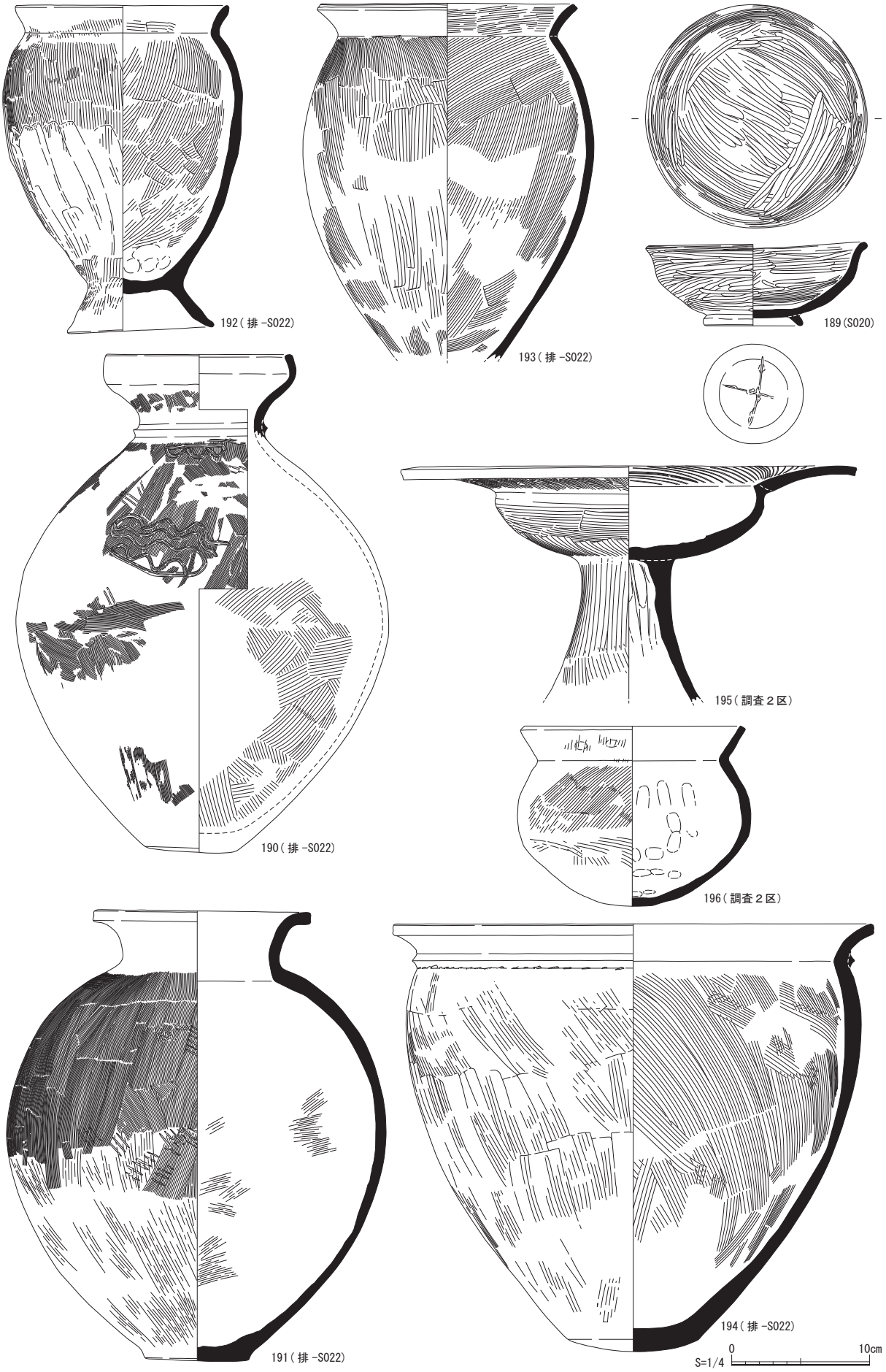


Fig.71　排水処理槽予定地 墓 S020、土坑 S022、調査区内出土遺物実測図

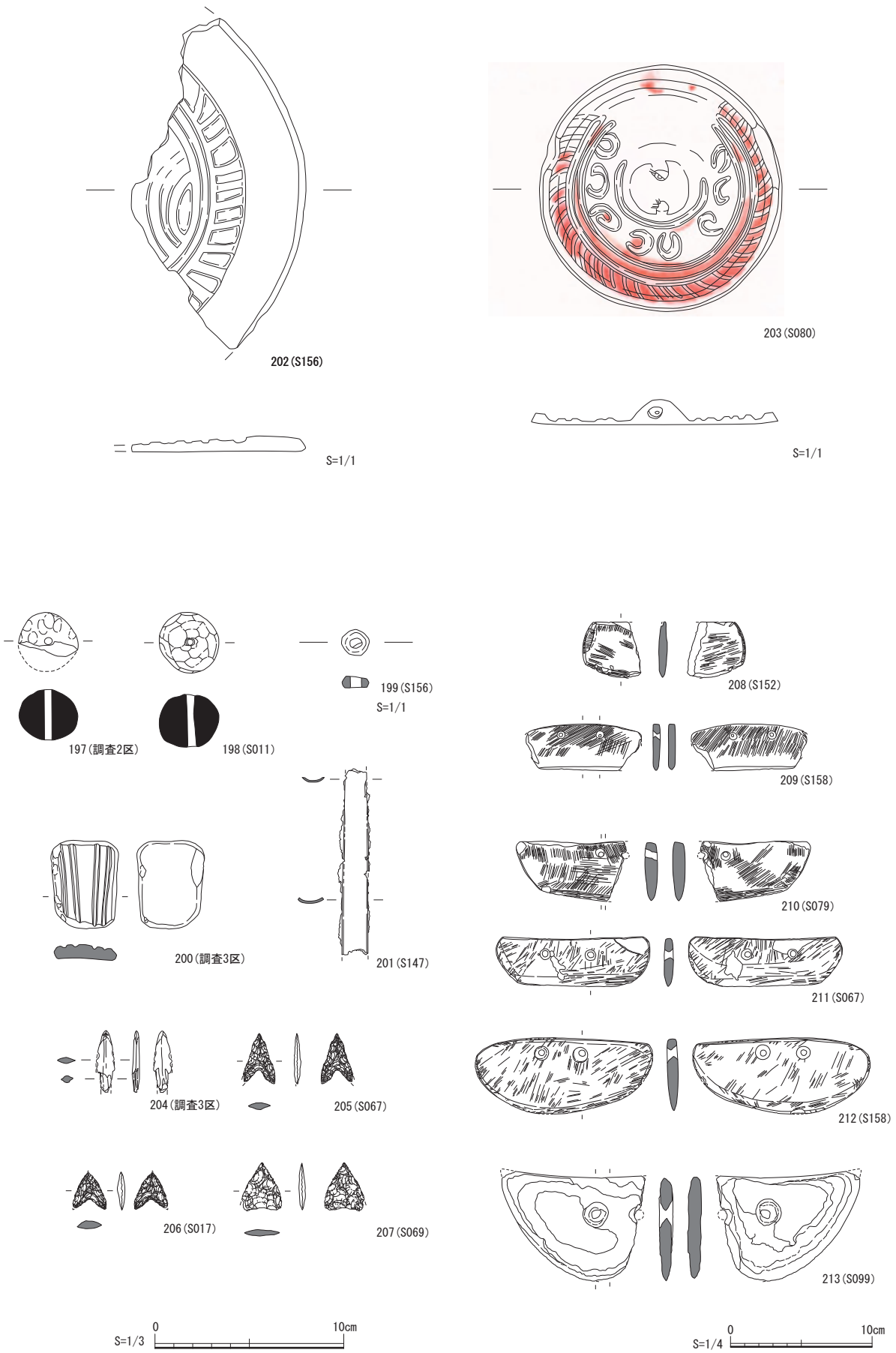


Fig. 72　小形仿製鏡、土錘、ガラス玉、刀子、銅鏃、石製品実測図

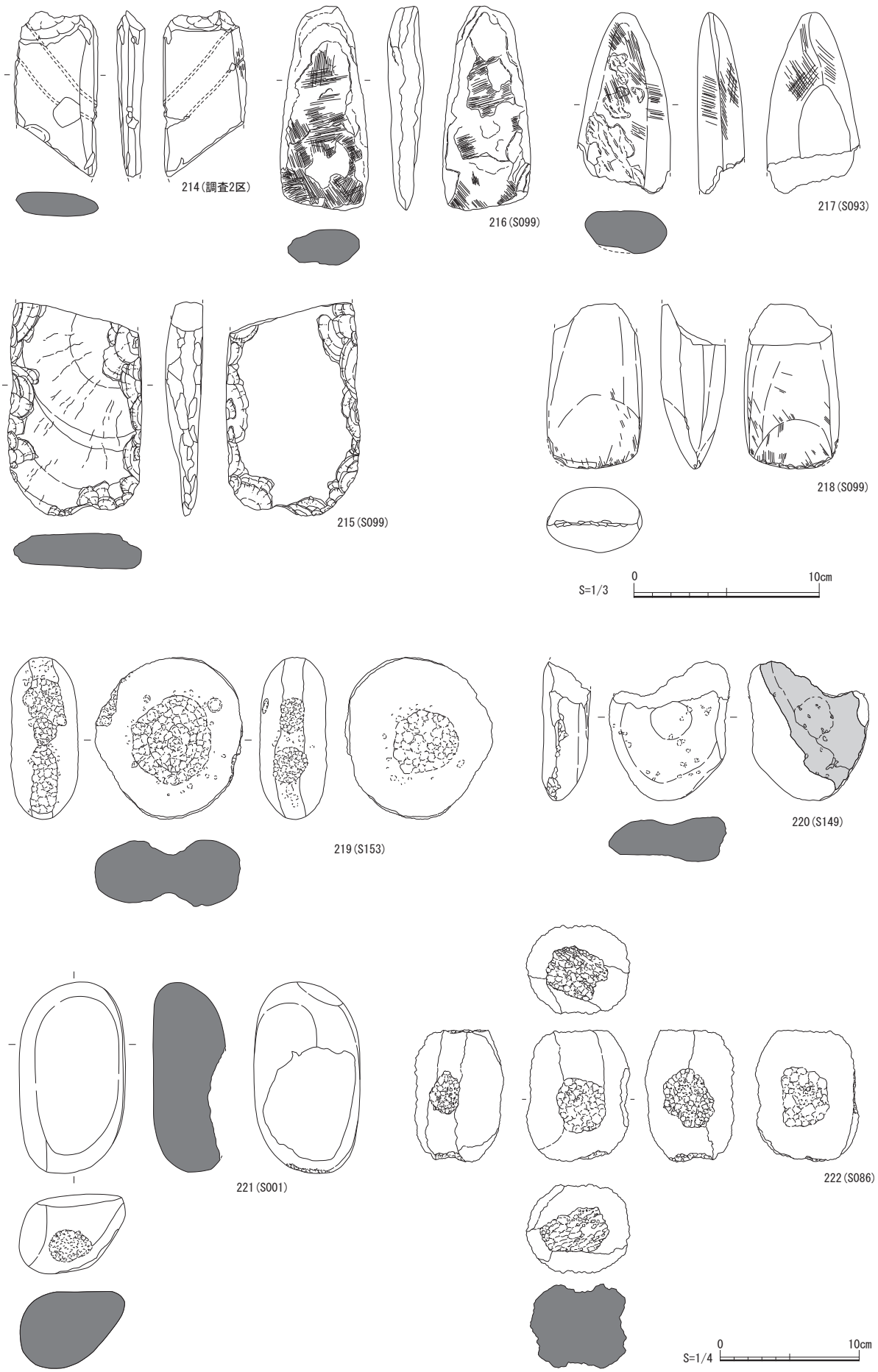


Fig. 73　石製品実測図－①

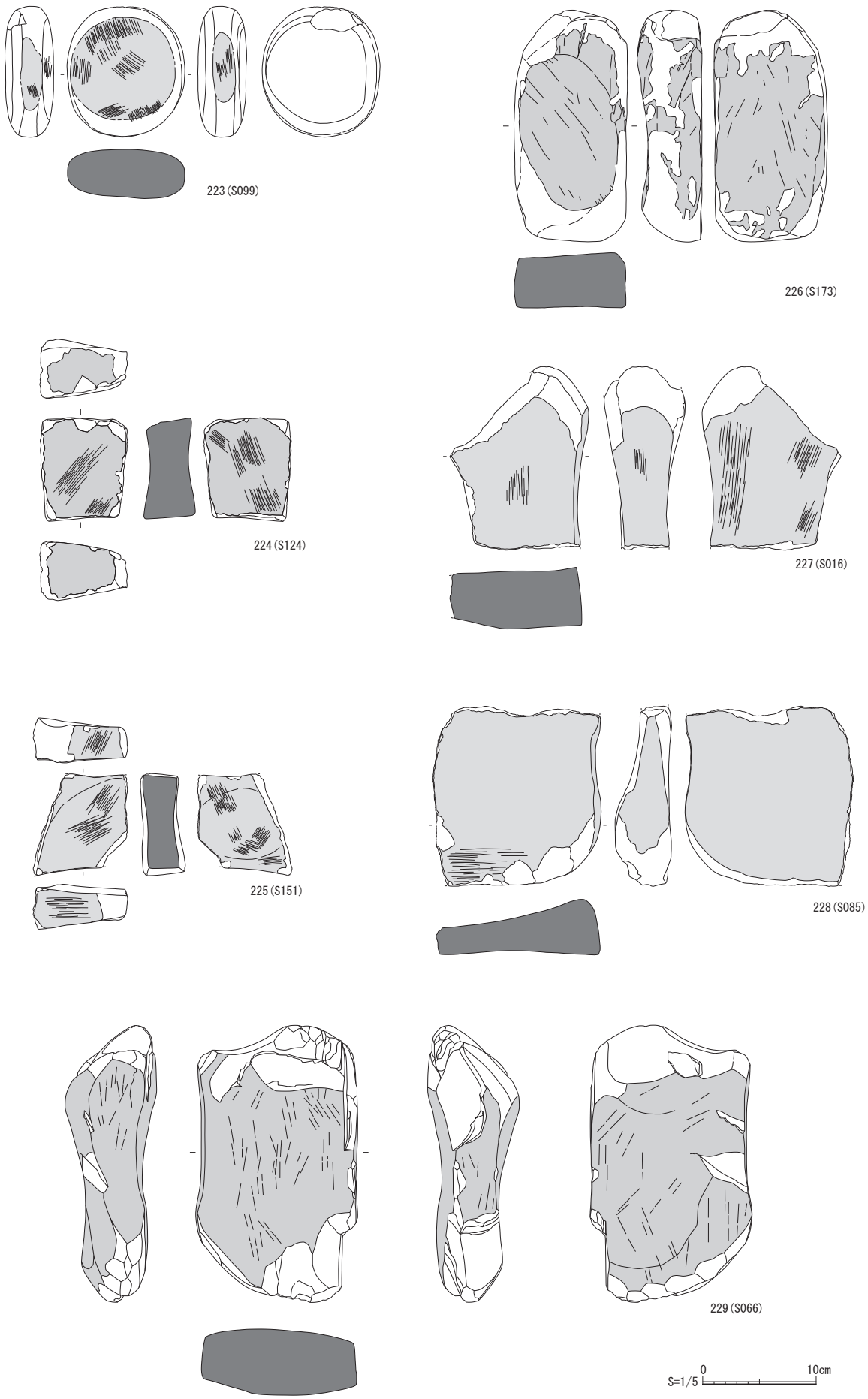


Fig. 74　石製品実測図－②

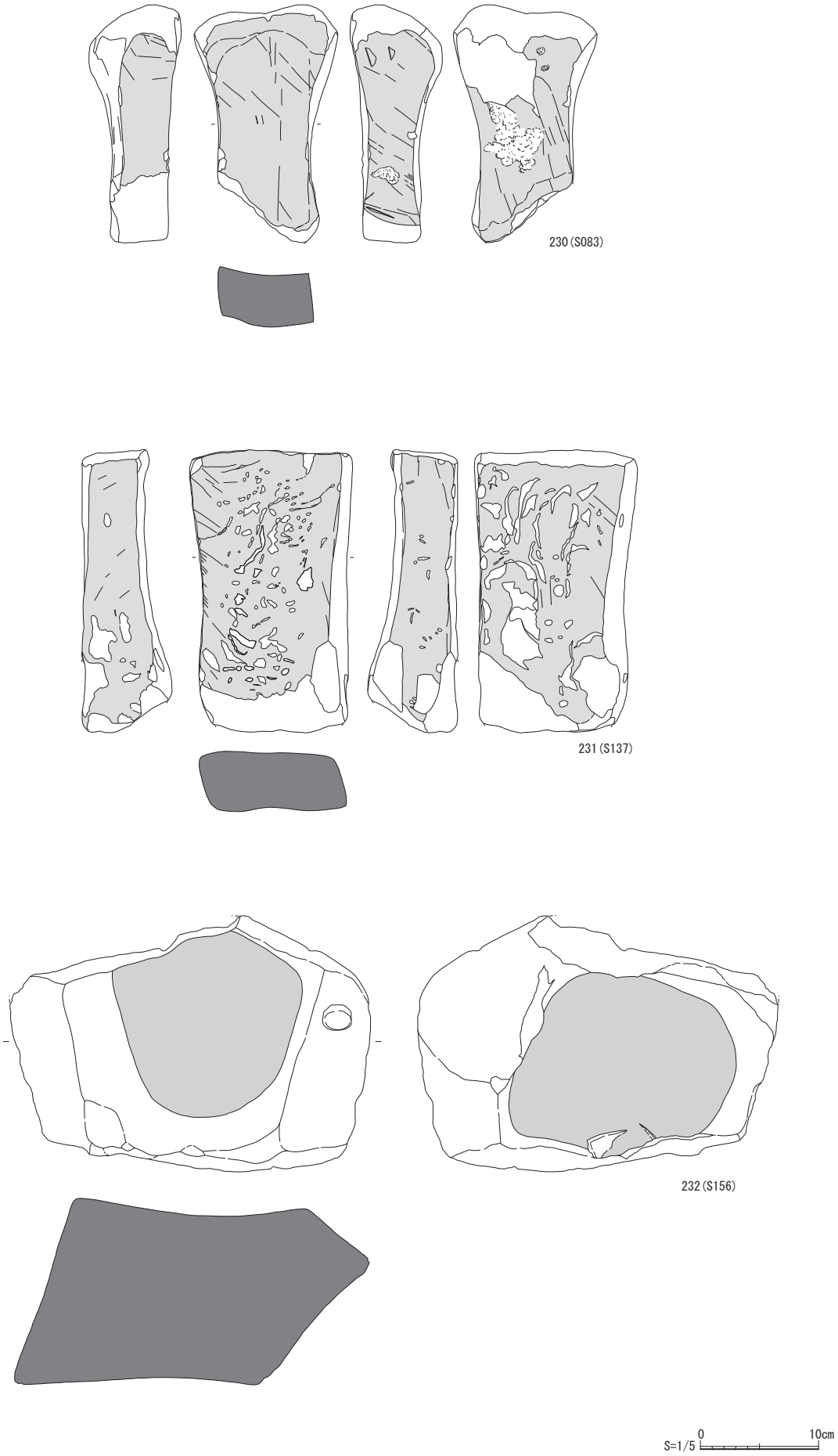
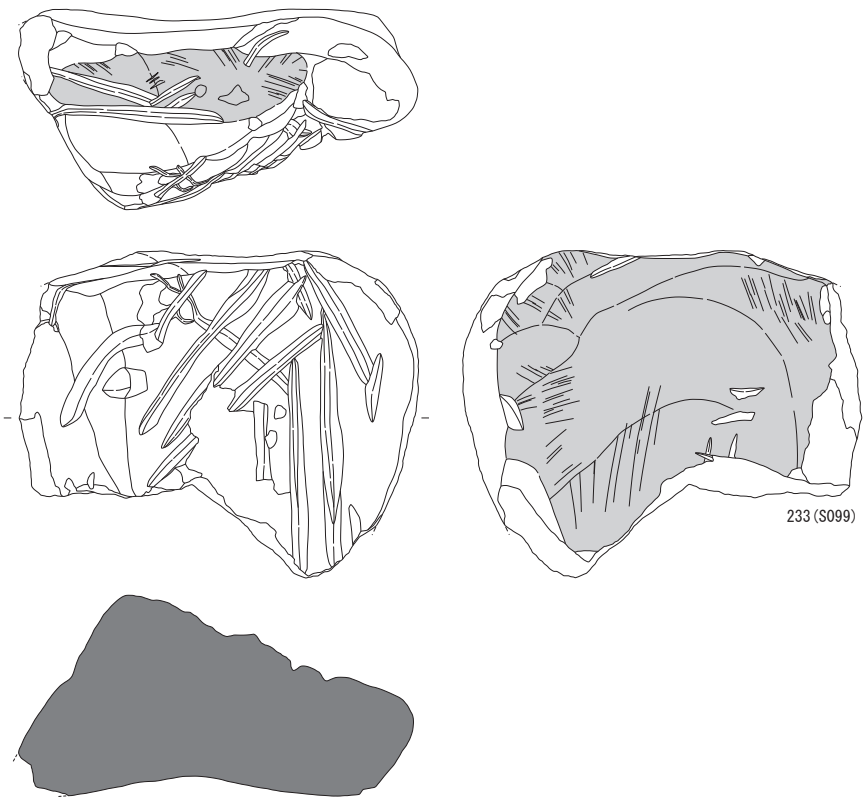
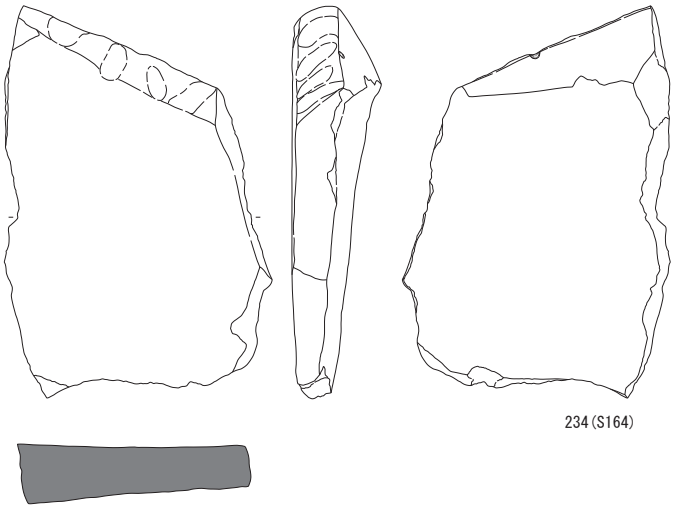


Fig. 75　石製品実測図－③





S=1/5 0 10cm

Fig.76　石製品実測図－④

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面	
1	49	16・17	S001	弥生土器	複合口縁壺	25.6	-	49.5	83.3	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	長石 . 石英 . 角閃石 微細～ 5 ㎜の砂粒
2	50	18	S001	弥生土器	複合口縁壺	21.4	-	-	13.4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石 . 石英 . 角閃石 赤色酸化粒
3			S001	弥生土器	複合口縁壺	(19.0)	-	-	13.0	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	石英 . 角閃石 雲母黒色粒 . 赤色酸化粒
4		16・18	S001	弥生土器	複合口縁壺	18.3	-	-	20.2	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石 . 雲母 . 赤色酸化粒
5		18	S001	弥生土器	甕	21.0	-	(24.9)	26.7	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	石英 . 角閃石 . 赤色酸化粒
6		16・18	S001	弥生土器	甕	20.2	-	23.1	33.3	にぶい黄橙 10YR7/3	黒褐 10YR3/1	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 赤色酸化粒
7			S001	弥生土器	甕	(19.6)	(13.2)	22.5	41.6	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石 . 角閃石 . 雲母 微細な砂粒 . 赤色酸化粒
8		18	S001	弥生土器	甕	-	16.3	-	32.9	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 角閃石 . 雲母 微細～ 4mm の砂粒 赤色酸化粒
9	51	16・19	S001	弥生土器	壺	11.7	-	16.4	15.1	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石 . 赤色酸化粒
10		16・18	S001	弥生土器	高杯	(30.5)	-	-	20.6	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石 . 赤色酸化粒
11			S001	弥生土器	高杯	(30.4)	-	-	6.4	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石 . 角閃石 . 赤色酸化粒
12		16・19	S001	弥生土器	片口鉢	(19.0)	-	-	7.4	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	雲母 . 赤色酸化粒
13			S001	弥生土器	鉢	12.5	-	-	8.9	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	角閃石 . 輝石
14			S001	弥生土器	鉢	17.1	-	22.7	20.4	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4	長石 . 石英
15		19	S001	弥生土器	鉢	40.5	-	40.8	25.3	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石 . 石英 . 角閃石 微細な砂粒
16			S001	弥生土器	鉢	(43.0)	-	-	25.4	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 黒色粒 . 赤色酸化粒
17	52	20・21	S048	弥生土器	壺	-	-	22.0	30.1	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6	長石 . 石英 . 角閃石
18			S048	弥生土器	壺	(15.3)	-	25.0	38.9	明褐 7.5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	長石 . 石英 . 角閃石 . 雲母
19			S048	弥生土器	甕	21.2	-	25.8	44.0	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 石英 . 角閃石
20			S048	弥生土器	鉢	7.3	-	-	9.3	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	長石 . 赤色酸化粒
21			S048	弥生土器	鉢	13.7	-	-	7.4	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 黒色粒 . 赤色酸化粒
22			S048	弥生土器	鉢	(12.3)	-	-	9.8	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 赤色酸化粒
23			S048	弥生土器	鉢	17.8	-	-	14.9	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	石英 . 角閃石 . 赤色酸化粒
24	53	23	S066	弥生土器	複合口縁壺	11.2	-	-	10.8	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 角閃石 . 輝石 . 雲母
25			S066	弥生土器	複合口縁壺	14.9	-	(20.4)	20.0	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR6/2	角閃石 . 赤色酸化粒
26		22・23	S066	弥生土器	複合口縁壺	20.2	-	(26.9)	45.4	橙 7.5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	長石 . 角閃石 . 雲母
27		24	S066	弥生土器	複合口縁壺	20.0	-	-	13.9	明赤褐 5YR5/6	にぶい橙 5YR6/4	長石 . 角閃石 . 雲母 赤色酸化粒
28		23	S066	弥生土器	複合口縁壺	(20.6)	-	-	17.3	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 赤色酸化粒
29			S066	弥生土器	複合口縁壺	17.6	-	(32.7)	28.2	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	赤色酸化粒
30		22・23	S066	弥生土器	複合口縁壺	(22.2)	-	30.3	48.5	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	長石 . 雲母 . 微細な砂粒 赤色酸化粒
31	54	23	S066	弥生土器	複合口縁壺	19.0	-	-	21.6	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 7.5YR7/4	長石 . 石英 . 角閃石 赤色酸化粒
32		23	S066	弥生土器	複合口縁壺	23.0	-	-	22.1	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	赤色酸化粒
33		22・23	S066	弥生土器	複合口縁壺	(23.0)	-	(36.6)	54.3	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	長石 . 角閃石 . 雲母 微細な砂粒
34	55	23	S066	弥生土器	複合口縁壺	20.3	-	-	21.5	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石 . 輝石

Tab.5　出土遺物観察表－①

調整				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ナデ . ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	タタキ後ハケ目	ハケ目	外器面黒斑　刻み目	1
ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	刻み目　櫛描文	2
ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	-	-		3
ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . タタキ後ハケ目	ナデ ハケ目後ナデ（摩耗）	-	-	櫛描文　烈点文　外器面黒斑	4
ナデ . タタキ . タタキ後 ハケ目 . タタキ後 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	5
ハケ目後ナデ . ハケ目	ハケ目後ナデ . ハケ目	-	-	外器面黒斑	6
ナデ . ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目 . しぼり痕	（台付甕）　内外器面黒斑	7
タタキ後ナデ ハケ目後ナデ	ハケ目 . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	（台付甕）　内外器面黒斑	8
ナデ . 暗文 . 磨き	ナデ . 指頭圧痕	-	-	外器面黒斑	9
ナデ . ハケ目	暗文	ハケ目	ナデ		10
ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 暗文 (摩耗)	-	-	口縁部外器面黒斑	11
ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑　内器面煤付着	12
ナデ . ハケ目	ハケ目後ナデ	-	-		13
ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	櫛描文、烈点文	14
ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ハケ目	-	-	刻み目突帯　外器面黒斑	15
ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目	-	-	刻み目突帯　内外器面黒斑	16
ハケ目 . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ . ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	烈点文、櫛描文 外器面黒斑	17
ハケ目 . ハケ目後ナデ	ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	18
ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	（台付甕）　内外器面煤付着	19
指ナデ . ナデ . 指頭圧痕	指ナデ . 指頭圧痕	-	-	外器面煤付着	20
ナデ . ハケ目後ナデ 磨き後ナデ	ナデ	磨き後ナデ	ナデ	外底面黒斑	21
ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	内器面煤付着	22
ナデ ハケ目後ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	23
ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	櫛描文	24
ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	-	-	櫛描文、列点文、波状文 外器面黒斑	25
ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目	ハケ目	ハケ目	櫛描文 外器面黒斑	26
ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	刻み目突帯	27
ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	-	-	波状文	28
ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	刻み目突帯　櫛描文、烈点文 外器面黒斑	29
ナデ . ハケ目 ハケ目後工具ナデ	ナデ . ハケ目	工具ナデ	ナデ	櫛描文 外器面黒斑	30
ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	-	-	櫛描文	31
ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	-	-	櫛描文、烈点文、流水文　外器面赤彩	32
ナデ . ハケ目 . ハケ目後 工具ナデ . 工具ナデ	ナデ . ハケ目	-	-	烈点文、櫛描文、 烈点文（烈点文は縄状のものを押圧か）　外器面黒斑	33
ナデ . ハケ目（摩耗）	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	-	-	櫛描文	34

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面	
36	55	25	S066	弥生土器	壺	(11.8)	-	-	12.1	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	石英 . 角閃石 . 赤色酸化粒
35		22・24	S066	弥生土器	複合口縁壺	19.8	-	40.4	66.0	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR5/2	長石 . 石英
37	56	24	S066	弥生土器	壺	(14.2)	-	20.2	28.1	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石 . 雲母 . 赤色酸化粒
38		22・24	S066	弥生土器	壺	18.2	-	27.9	42.8	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石 . 雲母 . 赤色酸化粒
39			S066	弥生土器	壺	13.3	-	22.1	31.5	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 石英 . 角閃石 赤色酸化粒
40		24	S066	弥生土器	壺	15.3	-	23.0	36.8	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 微細な砂粒
41		22・24	S066	弥生土器	壺	17.5	-	27.3	43.4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	雲母 . 微細な砂粒 赤色酸化粒
42	57		S066	弥生土器	壺	(14.5)	-	(21.5)	31.1	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	石英 . 角閃石 . 雲母 黒色粒 . 赤色酸化粒
43		22・25	S066	弥生土器	壺	(5.5)	-	(6.8)	10.1	暗灰黄 2.5Y4/2	灰黄 2.5Y7/2	長石 . 雲母 . 赤色酸化粒
44			S066	弥生土器	壺	8.2	-	-	14.8	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	石英 . 角閃石 . 雲母 輝石 . 赤色酸化粒
45			S066	弥生土器	壺	10.2	-	-	13.4	にぶい黄橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 7.5YR6/3	長石 . 石英 . 輝石
46			S066	弥生土器	壺	12.0	-	(17.6)	15.0	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石 . 石英 . 角閃石 . 雲母
47		25	S066	弥生土器	壺	(10.8)	-	-	12.8	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	長石 . 石英 . 角閃石 . 輝石
48		22・25	S066	弥生土器	壺	5.4	-	-	9.6	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 7.5YR7/6	石英 . 角閃石 . 赤色酸化粒
49		25	S066	弥生土器	壺	(12.1)	-	(15.7)	14.5	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/2	石英 . 角閃石 . 輝石
50		28	S066	弥生土器	壺	(14.6)	-	-	14.0	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/4	長石 . 角閃石 . 赤色酸化粒
51		25	S066	弥生土器	壺	-	-	-	8.5	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	石英 . 輝石
52		22・28	S066	弥生土器	壺	13.2	-	15.2	12.7	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	長石 . 石英 . 角閃石 赤色酸化粒
53		28	S066	弥生土器	壺	16.3	-	20.1	18.2	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	石英 . 角閃石 . 微細～ 2mm の砂粒 . 赤色酸化粒
54		22・28	S066	弥生土器	壺	(19.5)	-	21.6	22.1	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/2	長石 . 石英 . 角閃石 . 雲母
55		28	S066	弥生土器	鉢	18.0	-	(22.0)	17.5	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒 . 黒色粒 赤色酸化粒
56		47	S066	弥生土器	ジョッキ形 土器	-	(11.2)	-	3.8	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 石英 . 角閃石 . 雲母
57	58	22・25	S066	弥生土器	甕	16.6	-	18.2	28.6	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	角閃石 . 赤色酸化粒
58		22	S066	弥生土器	甕	17.3	-	20.0	31.3	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	長石 . 石英 . 角閃石 . 雲母
59		26	S066	弥生土器	甕	20.7	-	24.3	29.4	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 赤色酸化粒
60			S066	弥生土器	甕	23.3	-	(15.8)	28.7	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石 . 雲母 . 砂粒 赤色酸化粒
61			S066	弥生土器	甕	21.1	-	(23.1)	22.5	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3	長石 . 石英 . 角閃石 赤色酸化粒
62			S066	弥生土器	甕	27.9	-	-	23.3	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	石英 . 角閃石 . 雲母 微細～ 3mm の砂粒 赤色酸化粒
63	59	22・25	S066	弥生土器	甕	21.0	(14.1)	23.0	42.1	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石 . 角閃石 . 雲母 微細な砂粒 . 赤色酸化粒
64		22・26	S066	弥生土器	高杯	34.1	-	-	7.3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	長石 . 石英 . 角閃石 赤色酸化粒
65		26	S066	弥生土器	高杯	29.4	-	-	7.0	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石 . 石英 . 角閃石 . 輝石
66			S066	弥生土器	高杯	-	-	-	11.5	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	石英 . 雲母 . 輝石
67			S066	弥生土器	高杯	(26.0)	16.8	-	20.4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	長石 . 石英 . 雲母 . 輝石

Tab.6　出土遺物観察表－②

	調整				備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	-	-		36
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . 工具痕	ナデ	外器面黒斑　刻み目突帯	35
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	37
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ	ハケ目後ナデ	櫛描文　外器面黒斑	38
	ナデ . タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	39
	ナデ . タタキ後 ハケ目 . タタキ後 ハケ目後工具ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	工具ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	40
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . タタキ . タタキ後 ハケ目 . タタキ後 ハケ目後工具ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	タタキ後工具ナデ	ナデ	外器面黒斑	41
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	ハケ目後ナデ	ハケ目	外器面黒斑	42
	ナデ . 磨き後ナデ 磨き	ナデ . しぼり痕	磨き	ナデ	口縁～頸部赤色顔料付着　外器面黒斑	43
	ナデ . 磨き	ナデ . 工具ナデ 指頭圧痕	-	-		44
	ナデ . ハケ目後磨き	ハケ目後ナデ . ナデ	-	-		45
	ナデ . 磨き ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	46
	ナデ後磨き	ハケ調整後磨き	-	-		47
	ハケ目後ナデ . 磨き	指頭圧痕 . 磨き	-	-		48
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕			外器面黒斑	49
	ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	-	-		50
	ナデ	ナデ	-	-	外器面黒斑	51
	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	52
	ハケ目 . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	-	-	外器面黒斑	53
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	54
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	-	-	外器面黒斑　煤付着	55
	ナデ後磨き	ナデ	ナデ後磨き	ナデ		56
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ . タタキ タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	-	ナデ	（台付甕）　外器面黒斑	57
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	-	ハケ目後ナデ	（台付甕）　内外器面黒斑　煤付着	58
	ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	59
	ナデ . タタキ後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	60
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目後工具ナデ タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-		61
	ナデ . タタキ後 ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-		62
	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	（台付甕）　内外器面黒斑　煤付着	63
	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ 暗文	-	-	外器面黒斑	64
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-		65
	ハケ目 . ハケ目後 ナデ . ハケ目後磨き	ナデ . 磨き	ハケ目後ナデ	指頭圧痕		66
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . 暗文 . 指頭圧痕	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	67

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面	
68	59	22・26	S066	弥生土器	高杯	26.4	(16.2)	-	18.9	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英．角閃石
69		27	S066	弥生土器	鉢	6.4	-	-	6.5	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	輝石．角閃石
70			S066	弥生土器	鉢	9.2	7.3	-	-	にぶい黄橙 2.5YR6/3	にぶい黄橙 2.5YR6/3	長石．石英．角閃石．輝石
71			S066	弥生土器	鉢	(8.1)	-	-	5.1	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英．角閃石．輝石
72			S066	弥生土器	鉢	(9.1)	-	-	5.0	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．角閃石．雲母
73			S066	弥生土器	鉢	(8.9)	(7.3)	-	-	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石．石英．角閃石．雲母．赤色酸化粒
74			S066	弥生土器	鉢	11.7	-	-	7.9	にぶい褐 7.5YR6/3	灰褐 7.5YR5/2	長石．石英．角閃石．赤色酸化粒
75			S066	弥生土器	鉢	12.1	-	-	7.8	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英．角閃石
76			S066	弥生土器	鉢	(12.5)	-	-	8.1	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	雲母．輝石
77	60	22・28	S066	弥生土器	鉢	10.2	-	-	5.7	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英．角閃石 雲母．赤色酸化粒
78		28	S066	弥生土器	鉢	18.4	-	-	9.9	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	長石．石英．角閃石
79		22・28	S066	弥生土器	鉢	20.0	-	-	8.2	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	長石．角閃石．雲母 赤色酸化粒
80		28	S066	弥生土器	鉢	22.3	-	-	8.6	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	石英．角閃石．赤色酸化粒
81			S066	弥生土器	鉢	25.0	-	-	9.7	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．角閃石．雲母 輝石．赤色酸化粒
82		27	S066	弥生土器	鉢	13.3	-	-	9.8	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英．角閃石
83			S066	弥生土器	鉢	16.1	-	-	12.4	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	長石．赤色酸化粒
84			S066	弥生土器	鉢	17.1	-	-	13.7	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	石英．角閃石．雲母 輝石．赤色酸化粒
85			S066	弥生土器	鉢	15.8	-	-	14.6	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石．石英．角閃石 雲母．輝石．赤色酸化粒
86			S066	弥生土器	鉢	33.6	-	-	11.1	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英．赤色酸化粒
87			S066	弥生土器	鉢	27.8	24.9	-	27.6	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石．赤色酸化粒
88			S066	弥生土器	鉢	34.2	-	32.2	31.9	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	長石．角閃石．雲母 赤色酸化粒
89	61	—	S078		高坏	-	9.6	-	7.8	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石．石英． 赤色酸化粒．砂粒
90		28	S079	弥生土器	器台	12.7	16.1	-	19.0	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR6/3	長石．石英．雲母．輝石
91			S086	弥生土器	器台	12.3	13.5		17.1	浅黄橙 10YR6/4	浅黄橙 10YR6/4	長石．石英．輝石．雲母
92		29	S089	弥生土器	壺	15.1	-	18.1	15.2	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/6	長石．角閃石．赤色酸化粒
93			S092	弥生土器	甕	23.2	-	30.4	48.3	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英．角閃石
94			S092	弥生土器	甕	-	17.0	(24.6)	44.5	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英．赤色酸化粒
95			S092	弥生土器	鉢	12.4	-	-	8.5	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石．雲母．黒色粒 赤色酸化粒
96			S092	弥生土器	台付鉢	12.8	14.8	-	9.7	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英．角閃石 赤色酸化粒
97			S092	弥生土器	鉢	(14.2)	-	17.7	14.0	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	角閃石．赤色酸化粒
98	62	30・31	S095	弥生土器	壺	16.2	-	25.8	41.2	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	長石．石英．角閃石 雲母．赤色酸化粒
99			S095	弥生土器	甕	(17.2)	-	21.3	33.2	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	角閃石．雲母．赤色酸化粒
100			S095	弥生土器	甕	(19.7)	-	(22.0)	36.1	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英
101			S095	弥生土器	甕	21.5	16.1	25.3	50.1	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英．角閃石
102			S095	弥生土器	鉢	8.6	-	-	4.8			長石
103			S095	弥生土器	鉢	14.2	-	-	10.4	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	長石．石英．角閃石 雲母．赤色酸化粒
104			S095	弥生土器	鉢	(20.0)	-	-	8.7	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石．雲母．白色粒

Tab.7　出土遺物観察表－③

	調整				備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	暗文 . ナデ . 指頭圧痕	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ		68
	ハケ目 . 磨き	ハケ目 . 磨き	-	-		69
	ハケ目後ナデ	指ナデ . ハケ目	-	-		70
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ		71
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	72
	ハケ目後ナデ	ハケ目後指ナデ	-	-		73
	ハケ目後磨き	ナデ . 指頭圧痕	-	-		74
	工具ナデ後磨き	工具ナデ後磨き	-	工具ナデ	（台付鉢）　内外器面赤彩　内外器面黒斑	75
	ハケ目 . ナデ	ナデ	指頭圧痕	-	（台付鉢）　内外器面赤彩痕	76
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕		77
	ハケ目後ナデ（摩耗)	ハケ目後ナデ （摩耗）. 指頭圧痕	ハケ目後ナデ（摩耗）	ハケ目後ナデ（摩耗）	外底面黒斑	78
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面煤付着	79
	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-		80
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	内外器面黒斑　外器面煤付着	81
	ハケ目後ナデ（摩耗)	ナデ . 指頭圧痕	-	-		82
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕		83
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	ナデ	ハケ目	外器面黒斑	84
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	-	-	内外器面黒斑	85
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-	刻み目突帯	86
	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	刺突文	87
	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ	内外器面黒斑　刻み目　刻み目突帯 列点文	88
	ナデ	ナデ	ナデ	-	外底面絞り痕	89
	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-		90
	ナデ . ハケ目	ナデ . ヘラ削り . ハケ目後ナデ	-	-		91
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 指頭圧痕	ハケ目	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	92
	ナデ . タタキ後ハケ 目 . タタキ後工具ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	（台付甕）　外器面黒斑　煤付着	93
	タタキ . タタキ後 ハケ目 . タタキ後 ハケ目後ナデ	ハケ目 . ハケ目後ナデ	ナデ . タタキ タタキ後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ 指頭圧痕	（台付甕）　外器面黒斑	94
	ナデ . 暗文	ナデ . 指頭圧痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑　内外器面煤付着	95
	磨き . 工具ナデ	暗文 . ナデ	磨き	ナデ . ハケ目後ナデ	（台付鉢）外器面黒斑	96
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	97
	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目 . ナデ	ナデ	ナデ	外器面黒斑	98
	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケメ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-	（台付甕）　外器面黒斑	99
	ナデ . ハケ目 タタキ後ハケ目	ハケ目 . ハケ目後ナデ	-	-	（台付甕）　外器面煤付着	100
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 工具ナデ . タタキ後 ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	（台付甕）　外器面黒斑	101
	ハケ目後ナデ	ナデ	-	-		102
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	103
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ . ハケ目	内外器面黒斑	104

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面	
105	63	31	S096	弥生土器	台付鉢	(21.2)	(17.2)	-	20.1	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	長石．石英．角閃石
106		33	S097	弥生土器	台付壺	(13.4)	-	(18.8)	17.1	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英．角閃石 雲母．花崗岩．黒曜石
107			S097	弥生土器	台付壺	15.7	-	16.7	18.6	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英
108			S097	弥生土器	甕	19.3	-	(23.0)	27.9	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/2	長石．石英．角閃石
109			S097	弥生土器	鉢	(17.2)	-	-	14.2	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石．石英．角閃石
110			S097	弥生土器	鉢	15.7	-	-	15.8	にぶい赤褐 5YR5/3	にぶい橙 5YR6/3	石英．角閃石．赤色酸化粒
111		32・33	S099	弥生土器	複合口縁壺	22.5	-	32.7	42.1	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR6/6	長石．石英．角閃石 雲母．赤色酸化粒
112			S099	弥生土器	壺	(13.6)	-	24.3	32.2	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	長石．石英．角閃石 雲母．赤色酸化粒
113	64	32・34	S099	弥生土器	壺	17.5	-	25.6	41.5	にぶい黄橙 10YR7/4	灰白 10YR7/1	長石．石英．角閃石
114		32・35	S099	弥生土器	壺	14.8	-	15.5	14.7	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	石英．角閃石．雲母 黒色粒．赤色酸化粒
115			S099	弥生土器	壺	15.4	-	17.7	16.1	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．石英．赤色酸化粒
116		34	S099	弥生土器	壺	19.0	-	-	13.6	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．角閃石．雲母
117			S099	弥生土器	壺	16.0	-	17.4	13.8	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．角閃石．雲母
118		32・34	S099	弥生土器	甕	21.8	-	25.1	25.0	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．角閃石．雲母 赤色酸化粒
119			S099	弥生土器	甕	21.7	-	24.5	33.1	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英．角閃石 雲母．微細な砂粒 赤色酸化粒
120		32・35	S099	弥生土器	鉢	8.9	-	-	6.0	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	角閃石．雲母．赤色酸化粒
121		34	S099	弥生土器	鉢	13.0	-	-	8.1	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	角閃石．雲母．黒色粒 赤色酸化粒
122			S099	弥生土器	鉢	21.5	-	-	9.6	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	石英．角閃石．雲母 微細な砂粒
123			S099	弥生土器	鉢	19.7	-	-	10.1	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	長石．角閃石．雲母 赤色酸化粒
124	65	32・35	S099	弥生土器	鉢	10.2	-	11.1	6.3	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英．角閃石 雲母．黒色粒．赤色酸化粒
125			S099	弥生土器	鉢	13.0	-	14.7	8.5	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	石英．角閃石．赤色酸化粒
126			S099	弥生土器	鉢	14.5	-	-	12.2	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	角閃石．輝石．雲母
127		34	S099	弥生土器	鉢	22.8	-	-	10.0	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	長石．角閃石．雲母 赤色酸化粒
128			S099	弥生土器	鉢	24.2	-	-	11.1	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	石英．角閃石．雲母 赤色酸化粒
129		35	S101	弥生土器	鉢	12.8	-	-	9.6	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．石英．角閃石 雲母．黒色粒．赤色酸化粒
130			S124	弥生土器	鉢	11.4	-	-	10.5	にぶい橙 7．5YR7/4	にぶい橙 7．5YR7/4	長石．石英．角閃石．輝石
131			S124	弥生土器	台付鉢	(17.3)	(13.6)	(18.1)	20.1	にぶい黄橙 10YR7/4	灰白 10YR8/1	長石．石英．角閃石．雲母
132		36	S134	弥生土器	壺	(10.8)	-	(17.6)	14.2	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．石英．角閃石 雲母．赤色酸化粒
133			S134	弥生土器	甕	16.7	-	-	23.8	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	長石．石英．角閃石．雲母
134			S134	弥生土器	鉢	13.1	-	15.2	10.2	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石．雲母 微細な砂粒．赤色酸化粒
135			S134	弥生土器	鉢	15.5	-	-	9.2	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/2	角閃石
136			S134	弥生土器	鉢	8.4	-	-	5.7	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石．角閃石．赤色酸化粒
137			S135	弥生土器	壺	(5.1)	-	-	5.2	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．赤色酸化粒
138			S135	弥生土器	壺	7.8	-	13.2	18.8	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい褐 7.5YR5/4	角閃石
139			S135	弥生土器	台付鉢	(14.3)	16.8	-	12.0	赤 10YR5/8	橙 5YR6/6	石英．角閃石．砂粒 赤色酸化粒

Tab.8　出土遺物観察表－④

	調整				備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 指頭圧痕	ハケ目（摩耗）	ナデ . ハケ目後ナデ		105
	ナデ . ハケ目後ナデ 磨き	ナデ . ハケ目後ナデ 磨き . 指頭圧痕	-	-	（台付壺）　外器面黒斑	106
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	-	ナデ	（台付壺）　外器面黒斑	107
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-		108
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	ナデ	ハケ目	外器面黒斑　煤付着	109
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ハケ目後ナデ	ナデ	櫛描文、烈点文 内器面当て具痕　外面黒斑	110
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 指頭圧痕	-	-	刻み目　櫛描文、烈点文 外器面黒斑	111
	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目 ハケ目後工具ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑　煤付着	112
	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	タタキ後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面煤付着	113
	ハケ目 . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目	外器面黒斑	114
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 工具ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	115
	ナデ . ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ . 指頭圧痕	タタキ後ハケ目	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	116
	ナデ . ハケ目 タタキ後ナデ	ナデ . 工具ナデ . ハケ目	タタキ後ナデ	ハケ目	外底面黒斑	117
	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	-	-	外器面黒斑	118
	ハケ目後ナデ ハケ目 . タタキ 工具ナデ	ハケ目後ナデ . ハケ目	-	-	内外器面黒斑	119
	磨き . ハケ目	ナデ工具痕 指頭圧痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外底面黒斑	120
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ	ナデ	外器面黒斑	121
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	122
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目 (摩耗)	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	内外面黒斑	123
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑　顔料付着	124
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑	125
	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ . 指頭圧痕	ハケ目 . ナデ	指ナデ		126
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑　煤付着	127
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目	ナデ	ナデ	外底面黒斑	128
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕 . 工具痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	129
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ	-	-		130
	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目	ナデ	ナデ	外器面黒斑　外底面絞り痕	131
	ナデ . 磨き (摩耗)	ナデ . ハケ目 . 指頭圧痕	-	-		132
	ナデ . ハケ目	ナデ . ハケ目	-	-	（台付甕）　外器面黒斑　外器面を打ち欠いている	133
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	134
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	135
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目	-	ナデ	外底面黒斑	136
	磨き	磨き . ナデ . 指頭圧痕	-	-	口縁部内器面～胴部中位外器面赤彩	137
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目	ハケ目	ナデ	外器面黒斑	138
	ヘラ磨き	磨き	磨き	ナデ . ハケ目後ナデ	（台付鉢）　全体赤彩か	139

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面	
140	66	37	S135	弥生土器	鉢	11.7	-	12.2	7.0	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．石英．角閃石 雲母．黒色粒．赤色酸化粒
141			S135	弥生土器	鉢	14.1	-	-	12.8	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/3	角閃石．雲母．赤色酸化粒
142			S135	弥生土器	鉢	15.1	-	17.6	13.6	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい赤褐 5YR5/4	長石．角閃石
143			S135	弥生土器	壺	16.2	-	18.4	13.5	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	長石．角閃石．赤色酸化粒
144			S140	弥生土器	複合口縁壺	(19.4)	-	-	15.4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石．砂粒．赤色酸化粒
145			S140	弥生土器	高杯	29.7	-	-	13.3	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．石英．角閃石 雲母．黒色粒．赤色酸化粒
146			S140	弥生土器	鉢	14.2	-	-	15.7	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．石英．角閃石 雲母．黒色粒．赤色酸化粒
147			S140	弥生土器	鉢	(15.3)	-	17.9	12.1	橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/6	角閃石．雲母．赤色酸化粒
148			S141	弥生土器	壺	14.1	-	15.6	15.0	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	石英．角閃石．砂粒 赤色酸化粒
149			S141	弥生土器	鉢	9.8	-	-	7.2	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/4	石英．輝石．赤色酸化粒
150		39	S143	弥生土器	鉢	9.1	-	-	6.2	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石．雲母．赤色酸化粒
151		38・39	S145	弥生土器	壺	11.4	-	17.6	26.9	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	角閃石．雲母．赤色酸化粒
152			S145	弥生土器	壺	12.4	-	20.1	31.8	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	角閃石．雲母．砂粒 赤色酸化粒
153	67		S145	弥生土器	壺	(10.7)	-	13.7	9.5	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英．角閃石 赤色酸化粒
154			S145	弥生土器	甕	21.4	-	24.0	36.3	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/6	長石．石英．角閃石 赤色酸化粒
155			S145	弥生土器	鉢	10.9	-	-	7.6	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	雲母．赤色酸化粒
156			S145	弥生土器	鉢	14.5	-	17.0	11.5	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	角閃石．雲母．赤色酸化粒
157			S145	弥生土器	鉢	15.2	-	17.4	10.4	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	石英．角閃石．赤色酸化粒
158			S145	弥生土器	鉢	14.1	8.3	-	11.5	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石．石英．角閃石．雲母
159			S145	弥生土器	鉢	22.2	-	-	10.3	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	石英．角閃石．雲母 赤色酸化粒
160			S145	弥生土器	鉢	15.7	-	-	15.85	にぶい黄橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 7.5YR7/4	輝石
161			S145	弥生土器	鉢	15.0	-	-	11.2	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	雲母．微細な砂粒
162		40	S147	弥生土器	甕	20.0	-	(25.4)	21.9	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	長石．石英．角閃石 黒色粒．赤色酸化粒
163	68		S147	弥生土器	甕	18.6	-	(24.3)	45.0	にぶい褐 7.5YR6/3	橙 5YR6/6	角閃石．白色粒．黒色粒
164			S147	弥生土器	甕	19.6	-	(25.4)	39.8	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	長石．石英．雲母
165			S147	弥生土器	鉢	17.7	-	-	8.9	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	角閃石．赤色酸化粒
166			S148	弥生土器	甕	19.8	10.5	18.3	24.0	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	石英．角閃石．雲母 砂粒．赤色酸化粒
167			S149	弥生土器	壺	11.3	-	18.3	28.9	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	長石．角閃石．赤色酸化粒
168			S149	弥生土器	壺	-	-	23.8	33.7	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/2	角閃石．雲母 微細な砂粒．赤色酸化粒
169		42	S150	弥生土器	鉢	11.3	-	-	8.0	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	石英．角閃石．微細な砂粒
170			S152	弥生土器	壺	6.9	-	18.1	10.6	黒褐色 10YR3/2	黄褐色 2.5YR5/3	石英．角閃石．雲母 砂粒．赤色酸化粒
171	69	41・42	S156	弥生土器	壺	(17.3)	-	19.2	18.0	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/8	長石．石英．角閃石 雲母．微細な砂粒
172			S156	弥生土器	壺	17.4	-	20.8	17.8	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	角閃石．雲母．赤色酸化粒

Tab.9　出土遺物観察表－⑤

	調整				備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	ハケ目後ナデ 工具ナデ	工具ナデ後ナデ	ハケ目後ナデ	工具ナデ後ナデ		140
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	内外器面黒斑	141
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑　煤付着	142
	ナデ . ハケ目	ハケ目後ナデ . ハケ目	-	-	外器面敲打痕か　外器面黒斑　口縁部外器面煤付着	143
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ	-	-	刻み目　櫛描文、列点文 口縁部内器面黒斑	144
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	磨き	ハケ目後ナデ	ナデ	内器面黒斑	145
	ナデ . 工具ナデ後ナデ ハケ目 . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑	146
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目 . 指頭圧痕	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	内外底面黒斑	147
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	148
	ハケ目後ナデ . 暗文	ナデ . 指頭圧痕	-	-		149
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	150
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	-	ハケ目	外器面黒斑	151
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	152
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 工具痕 . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	153
	ナデ . タタキ後ハケ目	ハケ目 . ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑　煤付着　内器面黒変	154
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 工具ナデ後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	155
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	内外器面黒斑	156
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	外底面黒斑	157
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目 . 指頭圧痕	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目 . 工具痕	ナデ	ナデ	外底面黒斑	158
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面煤付着	159
	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-		160
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	161
	ナデ . タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目	-	-	外器面黒斑	162
	ナデ . タタキ後ハケ 目 . タタキ後工具ナデ	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 指頭圧痕	ナデ . 工具痕	ナデ . 指頭圧痕	（台付甕）　外器面黒斑　内外器面煤付着	163
	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	164
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ . ハケ目	ハケ目	ナデ	外器面黒斑　外器面の一部を打ち欠いた痕跡	165
	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ . ハケ目	ハケ目後ナデ	ナデ	（台付甕）　外器面黒斑	166
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑　内外器面煤付着	167
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 指頭圧痕	ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	168
	ナデ . ハケ目後ナデ 工具ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ナデ . 工具ナデ	ナデ . 指頭圧痕		169
	ナデ . ハケ目後ナデ 磨き	ナデ . ハケ目 . 磨き	-	-	沈線　刻み目突帯 内外器面赤色顔料	170
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑　煤付着	171
	ナデ . ハケ目後ナデ ハケ目	ハケ目後ナデ . ハケ目	ナデ	ハケ目	外器面黒斑　底部外器面被熱　胴部中位煤付着	172

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量（cm）				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面	
173	69	41・42	S156	弥生土器	甕	22.0	-	23.9	37.9	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	長石 . 石英 . 角閃石
174			S156	弥生土器	甕	22.0	-	25.0	38.2	にぶい黄橙 10YR7/4	明褐 7.5YR5/6	長石 . 石英 . 黒色粒
175		41・43	S156	弥生土器	高杯	31.2	19.5	-	25.5	にぶい黄橙 10YR7/4	明黄褐 10YR7/6	長石 . 石英 . 雲母 微細な砂粒
176			S156	弥生土器	不明	-	10.1	-	16.9	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石 . 角閃石 . 雲母 砂粒 . 赤色酸化粒
177			S156	弥生土器	鉢	9.3	-	-	6.9	浅黄橙 7.5YR8/6	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石 . 赤色酸化粒
178			S156	弥生土器	鉢	8.5	-	-	8.6	橙 7.5YR6/6	明赤褐 5YR5/6	角閃石 . 雲母
179			S156	弥生土器	鉢	19.6	-	-	9.1	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	角閃石 . 雲母 . 赤色酸化粒
180	70	43	S159	弥生土器	甕	16.9	-	(19.1)	22.3	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR6/2	長石 . 石英 . 雲母 赤色酸化粒
181			S159	弥生土器	甕	20.8	-	24.6	29.1	浅黄 2.5Y7/3	淡黄 2.5Y8/3	角閃石 . 微細な砂粒 赤色酸化粒
182			S160	弥生土器	甕	-	17.6	-	17.6	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	長石 . 石英 . 角閃石
183			S160	弥生土器	鉢	19.6	-	-	10.6	にぶい黄橙 10YR7/4	明黄褐 10YR7/6	石英 . 角閃石 . 雲母 黒色粒 . 赤色酸化粒
184			S167	弥生土器	鉢	13.5	-	-	9.2	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 黒色粒 . 赤色酸化粒
185		44	S172	弥生土器	壺	10.8	4.3	20.2	28.8	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰黄 2.5YR5/2	角閃石 . 石英 . 砂粒 赤色酸化粒
186		44・47	S172	弥生土器	ジョッキ形土器	(10.4)	11.1	-	8.4	橙 7.5YR6/6	黄褐 10YR5/6	長石 . 石英 . 角閃石 . 雲母
187		47	S172	弥生土器	ジョッキ形土器	-	10.4	-	9.0	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄褐 10YR5/4	石英 . 角閃石 . 雲母 . 砂粒
188		44	S188	土師器	高坏	-	11.6	-	6.8	赤 10R5/8	橙 5YR7/6	長石 . 石英 . 角閃石 . 赤色酸化粒 . 砂粒
189	71	47	S020	土師器	椀	16.1	7.2	-	6.0	橙 5YR7/6	暗灰 N3/	石英 . 角閃石 . 雲母
190		45・46	S022	弥生土器	袋状口縁壺	(13.5)	6.8	27.0	36.1	黄褐 10YR5/6	にぶい黄橙 10YR6/4	長石 . 石英 . 角閃石 雲母 . 微細な砂粒 赤色酸化粒
191			S022	弥生土器	壺	15.8	7.5	27.5	32.8	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	長石 . 石英
192			S022	弥生土器	甕	(15.5)	(10.6)	-	23.8	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	長石 . 石英 . 角閃石 赤色酸化粒
193			S022	弥生土器	甕	18.8	-	(21.1)	25.7	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石 . 角閃石 . 雲母
194			S022	弥生土器	鉢	(34.8)	9.5	-	31.0	明赤褐 2.5YR5/8	橙 7.5YR7/6	長石 . 石英
195		44	調査２区	弥生土器	高杯	33.0	-	-	16.9	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石 . 石英 .1 ～ 3mm の砂粒 . 赤色酸化粒
196			調査２区	弥生土器	鉢	15.6	-	-	13.0	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/3	長石 . 角閃石 . 赤色酸化粒

Tab.10　出土遺物観察表－⑥

	調整				備考	遺物番号
	外器面	内器面	外底面	内底面		
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . タタキ後 ハケ目 . タタキ後 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	-	ナデ	（台付甕）　内外器面黒斑　煤付着	173
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . タタキ後 ハケ目 . タタキ後 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目	-	-	（台付甕）　外器面黒斑　内外器面煤付着	174
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . 暗文	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 絞り痕 . 指頭圧痕	内外器面黒斑	175
	磨き . 磨き後ナデ	ナデ . ハケ目	ナデ	ナデ	外底面輪状の接合痕	176
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . 工具痕 . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑	177
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . 指頭圧痕	ナデ	ナデ . 指頭圧痕	外器面黒斑　全面赤彩	178
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	179
	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 工具ナデ . 指頭圧痕	-	-	外器面黒斑	180
	ハケ目後ナデ . ハケ目 タタキ後ハケ目後 工具ナデ	ハケ目後ナデ . ハケ目	-	-	外器面黒斑　口縁部内器面～外器面煤付着	181
	ハケ目後ナデ	ナデ . 工具痕	ナデ . ハケ目後ナデ タタキ . タタキ後 ナデ . 工具痕	ナデ . ハケ目後ナデ 工具痕	（台付甕）	182
	ナデ . ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 工具痕 . 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑　煤付着	183
	ハケ目後ナデ . ハケ目	ナデ . 指頭圧痕	ハケ目	ナデ . 指頭圧痕	外底面黒斑	184
	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑　内器面煤付着	185
	ナデ . 一部にハケ目	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目	タタキ後ナデ		186
	ナデ	ナデ . ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑	187
	ヘラ磨き	-	ナデ	ヘラ磨き	内底面、外器面赤彩	188
	ナデ . 手持ちヘラ磨き	手持ちヘラ磨き	ナデ	手持ちヘラ磨き	黒色土器 A 類　外底面ヘラ記号	189
	ナデ . ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ . ハケ目	ナデ	ハケ目	櫛描文	190
	ナデ . タタキ後 ハケ目 . タタキ後 ハケ目後工具ナデ	ナデ . ハケ目	ハケ目後ナデ	ハケ目	外器面黒斑　煤付着	191
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . ハケ目後 工具ナデ	ハケ目後ナデ ハケ目 . 指頭圧痕	ナデ . ハケ目後ナデ	ナデ	（台付甕）　外器面煤付着	192
	ナデ . ハケ目	ハケ目	-	-		193
	ナデ . ハケ目後ナデ	ハケ目 . ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ	突帯　内外器面煤付着	194
	ナデ . ハケ目 . ハケ目後 ナデ . 指頭圧痕	ナデ . 暗文	ハケ目後ナデ	ナデ . 絞り痕 指頭圧痕	口縁部内器面黒斑　杯部内底面は打ち欠いている	195
	ハケ目後ナデ	ナデ . 指ナデ	-	-		196

遺物番号	調査区	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量				
							全長（cm）	幅（cm）	孔径（cm）	厚（cm）	重（g）
201	3	72	47	S147	鉄製品	鉈	9.8	1.4	-	0.1	7.2
202	3		48	S156	銅製品	鏡	(5.8)	(3.0)	-	(0.3)	13. 1
203	3			S080	銅製品	鏡	4.3	-	-	0.45	7.8
204	3		49	一括	銅製品	銅鏃	3.2	0.9	-	0.4	1.8

遺物番号	調査区	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量				
							全長（cm）	全幅（cm）	孔径（cm）	厚（cm）	重（g）
200	3	72	47	調査区	石器	砥石	4.7	3.6	-	0.7	19.8
205	3		49	S067	石器	石鏃	2.7	1.7	-	0.3	1.0
206	2			S017	石器	石鏃	2.0	1.7	-	0.4	1.0
207	3			S069	石器	石鏃	2.5	(2.1)	-	0.3	1.6
208	3			S152	石器	石包丁	(3.9)	(4.1)	-	0.6	12.4
209	3			S158	石器	石包丁	3.3	(8.15)	-	0.5	23.8
210	3			S079	石器	石包丁	4.25	(7.75)	-	0.9	41.3
211	3			S067	石器	石包丁	3.5	10.9	-	0.6	39.8
212	3			S158	石器	石包丁	5.4	12.5	-	0.8	81.0
213	3			S099	石器	石包丁	(7.8)	(10.1)	-	0.85	103.8
214	2	73		F4 一括	石器	磨製石斧	(8.9)	4.5	-	1.2	75.5
215	3			S099	石器	打製石斧	(11.5)	7.2	-	1.9	228.2
216	3			S099	石器	磨製石斧	11.0	4.7	-	1.9	124.6
217	3			S093	石器	磨製石斧	(9.8)	5.0	-	2.5	156.7
218	3			S099	石器	磨製石斧	8.9	5.1	-	3.5	204.0
219	3			S153	石器	磨石	11.6	10.6	-	4.9	578
220	3			S149	石器	磨石	(10.0)	(8.7)	-	3.5	337.2
221	2		50	S001	石器	敲石	13.8	7.6	-	5.5	892
222	3			S086	石器	敲石	9.5	7.4	-	6.4	519
223	3	74		S099	石器	磨石・敲石	11.5	10.4	-	4.2	848
224	3			S124	石器	砥石	9.1	7.7	-	5.1	555
225	3			S151	石器	砥石	(9.0)	(8.3)	-	3.7	347.3
226	3			S173	石器	砥石	20.4	9.9	-	5.7	1850
227	2			S016	石器	砥石	(16.2)	(12.2)	-	7.0	1478
228	3			S085	石器	砥石	(15.8)	(14.8)	-	4.9	1340
229	3			S066	石器	砥石	24.4	14.2	-	7.8	3420
230	3	75		S083	石器	砥石	20.1	12.1	-	7.5	1850
231	3			S137	石器	砥石	23.9	13.8	-	7.6	3700
232	3			S156	石器	砥石	(21.6)	(30.5)	-	15.7	14560
233	3	76		S099	石器	砥石	(21.6)	(26.4)		13.2	7575
234	3			S164	石器	台石	25.9	17.7	-	5.9	2830

遺物番号	調査区	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量				
							全長（cm）	全幅（cm）	孔径（cm）	厚（cm）	重（g）
197	2	72	47	調査区	土製品	土錘	2.6	3.1	-	2.3	20.1
198	2	72	47	S011	土製品	土錘	3.2	3.1	0.5	2.8	27.6

遺物番号	調査区	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量			
							最大径	最大厚	孔径（cm）	重（g）
199	3	72	47	S156	ガラス製品	ガラス玉	4.8	2.1	2.0	計測不可

Tab.11　鉄製品・銅製品出土遺物観察表

備考	遺物番号
先端部欠損　先端部付近は若干上方に反る　先端部付近から基部まで横断面は緩やかに湾曲	201
鏡縁部 1/4 残存（復元径 7.8 ㎝）全体研磨　歪みあり　外区は櫛歯文　内区文様体は内行花文か？	202
全体研磨　一部押圧された痕跡あり　鈕に紐の痕跡あり　外区は櫛歯文　内区は鏡背面に赤色顔料付着	203
鏃身は中心の稜より左右同一方向に研磨　先端部分は左右研ぎ分け　茎部分は鋳型のライン残る	204

Tab.12　石製品出土遺物観察表

色調	石材	備考	遺物番号
にぶい黄褐 10YR5/3	凝灰岩		200
灰 N4/	安山岩		205
ブラック 7.5YR1.7/1	安山岩	頭部先端と片脚先端欠損	206
暗灰 N3/	安山岩		207
暗灰 N3/	頁岩、粘板岩		208
暗灰 N3/	頁岩、粘板岩		209
暗灰 N3/	頁岩、粘板岩		210
暗灰 N3/	粘板岩		211
暗オリーブ灰 2.5G4/1	砂岩		212
オリーブ灰 2.5GY5/1	千枚岩、ホルンフェルス		213
オリーブ灰 2.5GY5/1	結晶片岩	紐状痕が 2 本	214
灰 10Y4/1	安山岩		215
暗灰 N3/	結晶片岩		216
暗灰 N3/	片岩		217
灰 N5/	安山岩、ホルンフェルス		218
にぶい黄褐 10YR4/3	安山岩		219
灰 N4/	安山岩		220
灰 5Y4/1	安山岩		221
灰 7.5Y4/1	安山岩		222
灰 N5/	安山岩		223
黄褐 2.5Y5/3	砂岩		224
灰オリーブ 5Y5/3	砂岩		225
にぶい黄 2.5Y6/3	砂岩		226
灰オリーブ 5Y5/2	砂岩		227
黒褐 2.5Y3/2	砂岩		228
にぶい黄 2.5 Y 6/4	砂岩		229
灰オリーブ 5 Y5/2	砂岩		230
灰 7.5Y4/1	砂岩		231
灰オリーブ 5Y6/2	安山岩		232
灰 5Y4/2	礫岩		233
オリーブ黒 7.5Y3/1	安山岩		234

Tab.13　土製品出土遺物観察表

色調	胎土	備考	遺物番号
にぶい橙 10YR7/3	長石 . 石英 . 雲母		197
にぶい黄橙 10YR6/4	長石 . 石英 . 角閃石 . 雲母	ナデと押さえにより成形　両側穿孔	198

Tab.14　ガラス製品出土遺物観察表

色調	備考	遺物番号
淡青	平面形は正円にならず歪みあり　若干多角形を呈する　側面に面を成す部分あり　片方の小口面が軸に対し斜行　微少な気泡が多く入る	199

第５章
総　　括

（１）甕の形態分類（Fig.50 ～ 71）

八島町遺跡は、多くの竪穴建物を検出した集落跡である。なかでも、２・３区においてその密度は高く、多くの竪穴建物は重複関係にあり、長期間に渡って集落が営まれていたことが確認された。これらの竪穴建物からは「甕形土器」や「壺形土器」、「高坏形土器」、「鉢形土器」（以下、「形土器」を省略する。）など多くの弥生土器が出土している。これらの土器は弥生時代後期の特徴を示す一群であり、それらは細分が可能である。そこで、ここでは３区を中心に竪穴建物出土の甕の形態変化に着目し、その共伴遺物とのセット関係及び先行研究を考慮して、当該期の土器変遷について考察する。

本調査で出土した甕は口縁部が「く」字に屈曲しており、いずれも弥生時代後期に比定できる。これらを口縁部の長さや形態、体部最大径の位置や体部形態、脚台の状況、器面調整方法などから５類に細分する。

１類（166・192・193）

口縁部は直線もしくは外湾して開く。体部最大径は中位よりやや上に位置し、口縁部と体部のくびれは強い。脚台は短く開く。器面調整は外・内共にハケ目調整を施す。

２類（6・19・58・108・133）

口縁部は直線的に斜め上方に向かって開く。体部最大径は中位に位置し、器高は深くなる。脚台は長大化することが推定される。器面調整は外・内共にハケ目調整を施す。

３類（7・57・59・60・61・62・63・99・100・101・118・119・154・163・173・174）

口縁部は直線的もしくはやや外湾して斜め上方に向かって開き、２類と比較してさらに長大化する。体部最大径は中位に位置し、長胴化する。脚台は 10㎝前後に長大化し、直線的に外方へ開く。器面調整は外器面の上半部に左上がりもしくは水平方向のタタキ痕跡を残し、内器面にはハケ目調整を施す。

４類（5・93・162）

口縁部は直線的もしくはやや外湾して斜め上方に向かって開く。その端部はつまみ上げられ、内器面側には稜線が形成される。この端部のつまみ上げは、庄内式土器に特徴的な要素であることから、他地域の土器製作技法の影響を受けているとされている（植木町教育委員会 2003）。体部最大径は中位に位置し、長胴化する。脚台はさらに長大化して 12㎝前後を測り、僅かに内湾しながら外方へ開くが、その開きは３類と比較して弱い。体部・脚台の器壁は薄く、器壁の厚さは 4㎜を測り、１～３類と比較すると２㎜程薄くなる。器面調整は外器面の上半部に左上がりのタタキ痕跡を残し、内器面にはハケ目調整を施す。

５類（164）

口縁部は直線的に斜め上方に開き、その端部はわずかにつまみ上げられる。体部最大径は中位に位置し、長胴化した体部から丸底の底部に至る。器面調整は外器面の上半部に左上がりのタタキ痕跡を残し、内器面にはハケ目調整を施す。

（２）時期区分（Fig.50 ～ 71、77 ～ 79）

前項の５分類をこれまでの先行研究の成果と照合した結果、口縁部の長大化、体部最大径位置の下方への変化、体部形態や脚台の長大化及び喪失、外器面調整のハケ目調整からタタキ痕跡の残存への変化などから、１類→２類→３類→４類→５類の変遷が明らかである。これらの各部の変化は、壺や鉢においても概ね同様の変遷が認められる。そこで、甕や他の遺物の変遷を基に弥生時代後期を４期に細分した。ここでは、各期を１期・２期・３期・４期として、八島町遺跡出土の各期の土器の変遷について検討する。

１期

土坑 S148（３区）と S022（排水処理槽予定地）の出土遺物を想定する。甕は１類（166・192・193）を基本とする。

土坑 S022 では、壺（190・191）と大形の鉢（194）が共伴する。壺（190・191）の体部は球形を呈し、張りが強い。その最大径は中位に位置し、平底（状）の底部に至る。壺（190）の口縁部は複合口縁状を呈し、頸部には突帯が巡り、体部には不精緻な櫛描きの文様が施される。2 期以降に認められる白川流域型の複合口縁壺の祖形と推定される。大形の鉢（194）の体部最大径は上位に位置し、凸レンズ状の底部に至る。また、頸部には突帯が巡る。これらの壺（190・191）と大形の鉢（194）には、平底（状）の底部を持つ点や器面調整は外・内共にハケ目調整を施す点、頸部に突帯が巡る点等の共通点が認められる。

２期

竪穴建物 S048・097・134（３区）を想定する。甕は２類（19・108・133）を基本とする。

単純口縁壺（18）や白川流域型の複合口縁壺（17）、小形の壺（132）等の壺類や台付鉢（106・107）、単純口縁の丸底鉢（20・21・22・109・110・135・136）や屈曲口縁の丸底鉢（23・134）等の鉢類を伴う。これらの壺・鉢類には、体部最大径が中位に位置することが特徴として挙げられる。また、体部最大径が中位に位置する単純口縁の丸底鉢（140・141・142）や屈曲口縁の丸底鉢（143）を伴う竪穴建物 SI135（３区）を甕は未出土であるが、同時期の遺構と推定する。

３期

竪穴建物 S001（2 区）や S066・095・099・145・156（３区）を想定する。甕は３類（７・63・174）を基本とし、４類（5）を伴う。

大形の壺類の体部は３期と比較すると、長胴化して体部最大径の張りが強くなる。白川流域型の複合口縁壺の頸部は短くなり、くびれが増す。屈折口縁を持つ体部球形の中形の壺類や鉢類も、体部最大径の位置が中位よりやや下方に位置し、重心が下方へ移る。また、本遺跡では、口縁部が鍔状に広がる屈折口縁の丸底鉢も、新たに組成に加わる。大形の鉢（15・16・87・88）も継続して使用されているが、体部最大径は１期のものと比較するとやや下方に位置し、87 や 88 の形態から丸底を呈することが分かる。高坏はその形態から１・２類に大別できる。１類は、扁平な鉢形の体部を持ち、口縁部が直線的に外方へ広がる１ａ類（10・11・65）と長大で大きく外湾する１ｂ類（64・175）に細分でき、脚部は下方に向かって緩やかに開く。２類（67・68）は、直線的に斜め上方に開く口縁部から椀状の体部に至る。脚部は「ハ」字に広がる。

４期

竪穴建物 S092・147（３区）を想定する。甕は４類（93・162）を基本とし、５類（164）を伴う。

単純口縁の丸底鉢（97）や口縁部が鍔状に広がる屈折口縁の丸底鉢（165）などの様々な形態の鉢類を伴い、いずれも体部最大径の位置は中位よりやや下方に位置し、重心が低い。

（3）まとめ

本遺跡では、排水処理槽予定地・１～３区にかけて弥生時代後期を通して集落が営まれていたことが確認された。ここでは、竪穴建物 S147（３区）で脚台の付かない甕５類（164）が出土した点に着目する。この甕５類は白川上流域や菊池川流域等の他地域では弥生時代終末期に位置づけられており、本遺跡においても該期まで集落が成立していたと認識する。この甕５類の白川下流域での出土例は管見に触れることはできず、白川水系で直近の遺跡としては、山尻遺跡（熊本市北区弓削山尻）（古庄 1989）に求めることができる。

集落からは、銅鏡が竪穴建物内より２点出土している。１点（203）は竪穴建物 S080（３区）から出土した小形仿製鏡である。鏡面を上方に向けて、水平に残置された状態で硬化面上より出土した。重圏文系の鏡であり、全長 4.3㎝の完形である。文様構成は狭縁で外区には櫛歯文帯が巡り、内区の文様帯には抽象化された文様が鋳出されている。鏡背面には文様の観察し難い範囲があり、この方向に湯口があったと考える。また、鏡背面全体は研磨され、赤色顔料の付着が認められ、鈕には僅かに紐の痕跡が認められる。この鏡は弥生時代後期中頃に生産され、佐賀平野をはじめ北部九州一円に分布していることから、肥後地域における鏡の流通主体であった菊池川中流域を経由して、本遺跡に流入したものとされている（南 2007b）。

もう１点（202）は竪穴建物 S156（３区）の埋土中から出土した小形仿製鏡片である。内行花文日光鏡系の鏡片であり、鏡縁から内行花文帯までの残存率は 1/4 程で、復元径は 7.8㎝を測る。文様構成は平縁で外

区には櫛歯文帯が巡り、内区は内行花文帯となる。本鏡片（202）は、当該期の集落遺跡である石川遺跡（熊本県熊本市北区植木町）より出土した鏡片と類似している。この石川遺跡出土鏡片は、高岡原遺跡（熊本県玉名市）や西弥護免遺跡（熊本県菊池郡大津町）出土鏡と同型式であることが指摘されている（南 2007a）。また、南（南 2007 a・b）はこれらの鏡は画一的な文様構成が特徴であり、その鋳型が福岡県須久永田遺跡で出土していることから、大半の製品が須久遺跡群で製作されたものとした。そして、その生産時期を小形仿製鏡生産の最終段階に位置づけ、それまで全ての鏡の流通主体であった菊池川中流域において仿製鏡に対する優位性が見られなくなっていることから、菊池川中流域とは異なる地域から流入された可能性が高いとした。なお、本鏡片の出土した竪穴建物 S156 からは、３期の甕・高坏・鉢が出土している。

このように、生産時期や流通形態において差異が認められるとされる２点の鏡は、最終的にはいずれも竪穴建物内に廃棄されている。この廃棄に対する意識は、菊池川中流域を核とした菊池川以南の肥後地域に共通して認められる事象（南 2007a）であり、本遺跡の出土状況もこれに類似している。

また、今回発掘調査を行った八島町遺跡は、『熊本県遺跡地図』による「八島町遺跡」（Fig.3）の南東端に位置し、３区の一部は「八島町遺跡」の南東に位置する「南新宮遺跡」（Fig.3）に接している。この「八島町遺跡」・「南新宮遺跡」は、いずれも『熊本県遺跡地図』では弥生時代の包蔵地として周知されている。また、両遺跡の周辺には「道城方遺跡」（Fig.3）も所在し、同じく弥生時代の包蔵地とされている。

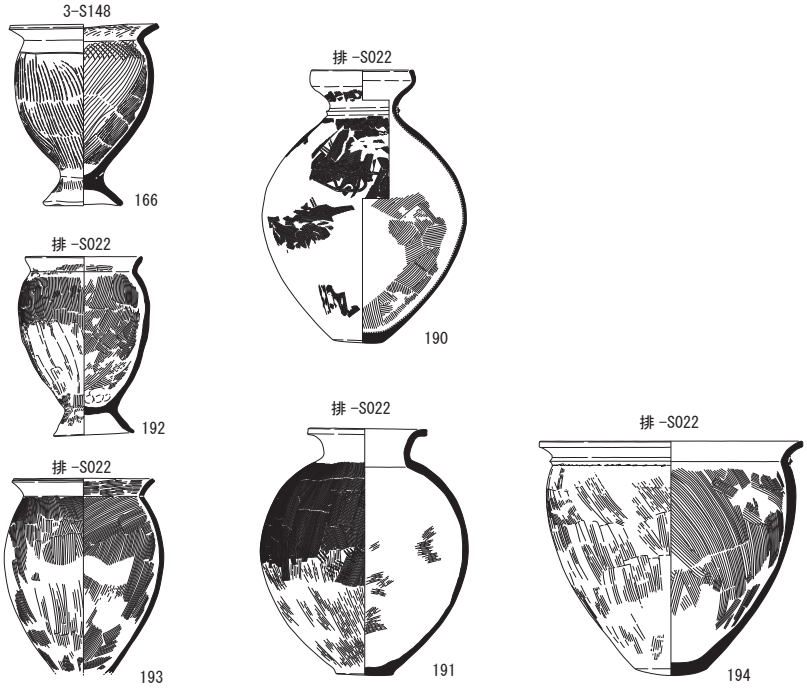
道場方遺跡では、1955 年に行われた排水溝工事および 1963 年に行われた下水工事の際に、遺物が採取されている。そして、1989 ～ 1991 年にかけて熊本市教育委員会によって試掘調査が行われ、調査では５～７軒の弥生時代後期の竪穴建物を検出している。また、隣接する南新宮遺跡でも調査が行われており、弥生時代後期の遺物が出土しているが、遺構については不明である。さらに、『熊本市史』（1932）では、「湯ノ原遺跡」（Fig.3）からも、同時期の遺物が出土していることが報告されている。なお、湯ノ原遺跡は熊本市西区二本木４丁目に所在することから、現在の「二本木遺跡群」の南端に位置していると推定される。

これらの遺跡の調査結果から、佐藤は道場方遺跡・南新宮遺跡・湯ノ原遺跡は小字名で別の遺跡に区分されているが、本来は万日山から南に延びた微高地（自然堤防）の先端部に営まれた弥生時代後期から終末期にかけての一つの大規模な集落と考えられるとの指摘を行っている（佐藤 1996）。ここでは、新宮遺跡と接する本遺跡についても、道場方遺跡・南新宮遺跡・湯ノ原遺跡を包括する大規模集落の一端であったと考える。また、これらの遺跡は現坪井川の左岸に所在するが、坪井川右岸に所在し、八島町遺跡から約 250 m北方に位置する二本木遺跡群田崎地区（熊本県教育委員会 2013）においても、本遺跡と同時期の遺構や遺物（破鏡・小形仿製鏡含む）が出土している点は、本遺跡を含む白川下流域の集落規模やその在り方を考察する上で重要である。

以上のことから、本遺跡は現在の小字を超越した白川下流域の広範囲に渡って、弥生時代後期を通して営まれた大規模集落の一端であることが確認できた。この集落には多くの竪穴建物が建てられ、２点の鏡が出土した。また、銅鏃（204・調査３区内）や鉄製鉈（201・３区竪穴建物 S147）といった金属器や、内行花文日光鏡系の鏡片（202）が出土した竪穴建物 S156（３区）ではガラス玉（199）も出土しており、多様な遺物を所有していたことも確認された。

（長谷部・上高原）

1 期



2 期

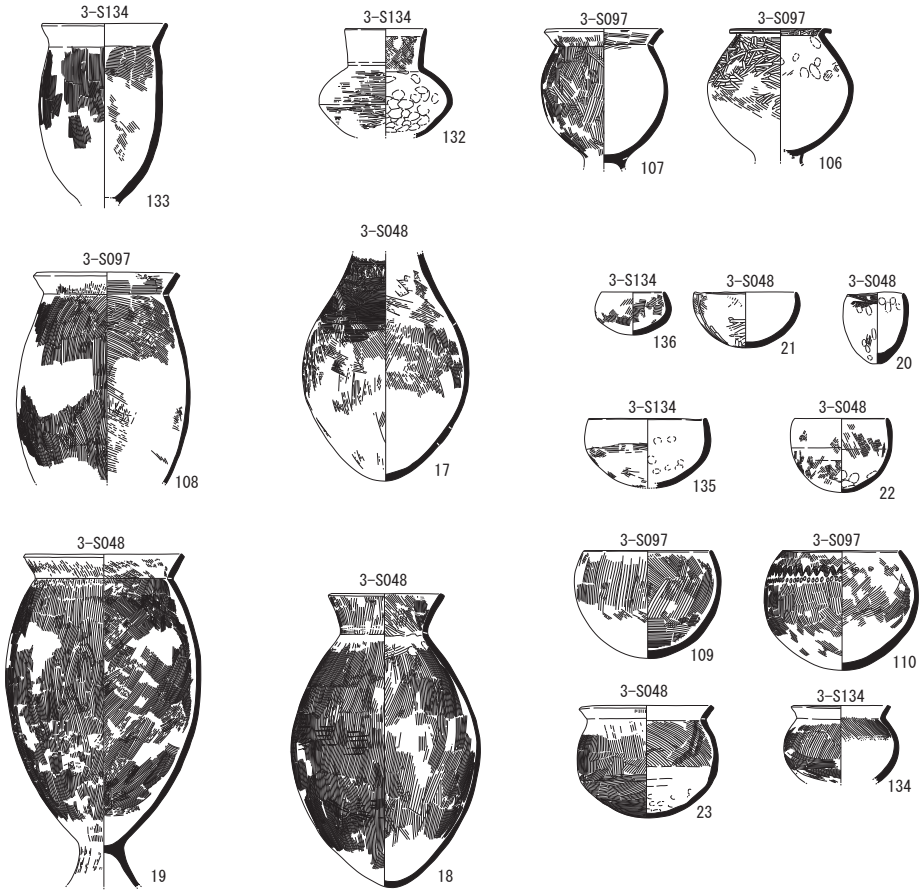


Fig.77　八島町遺跡　土器変遷図（1）

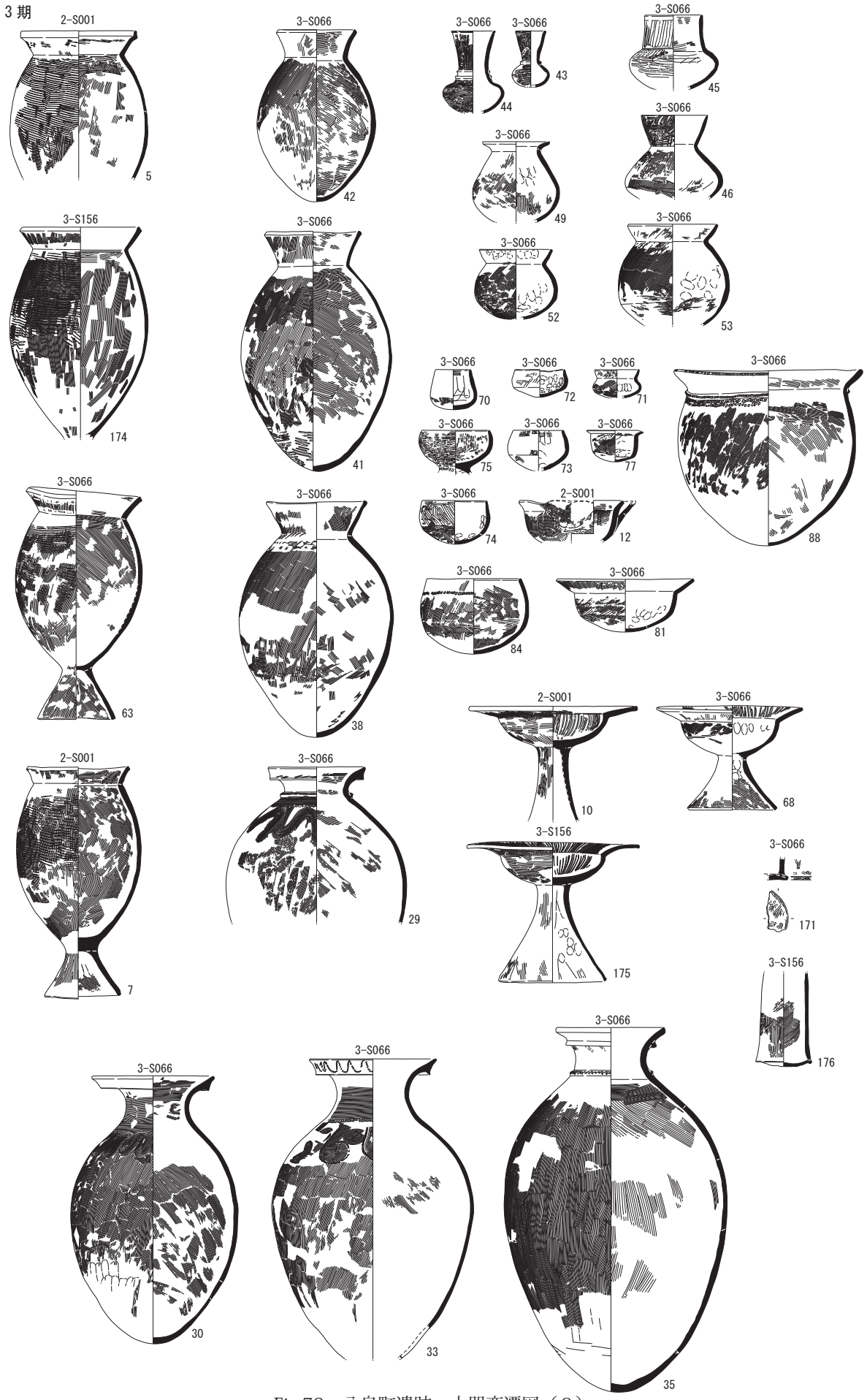
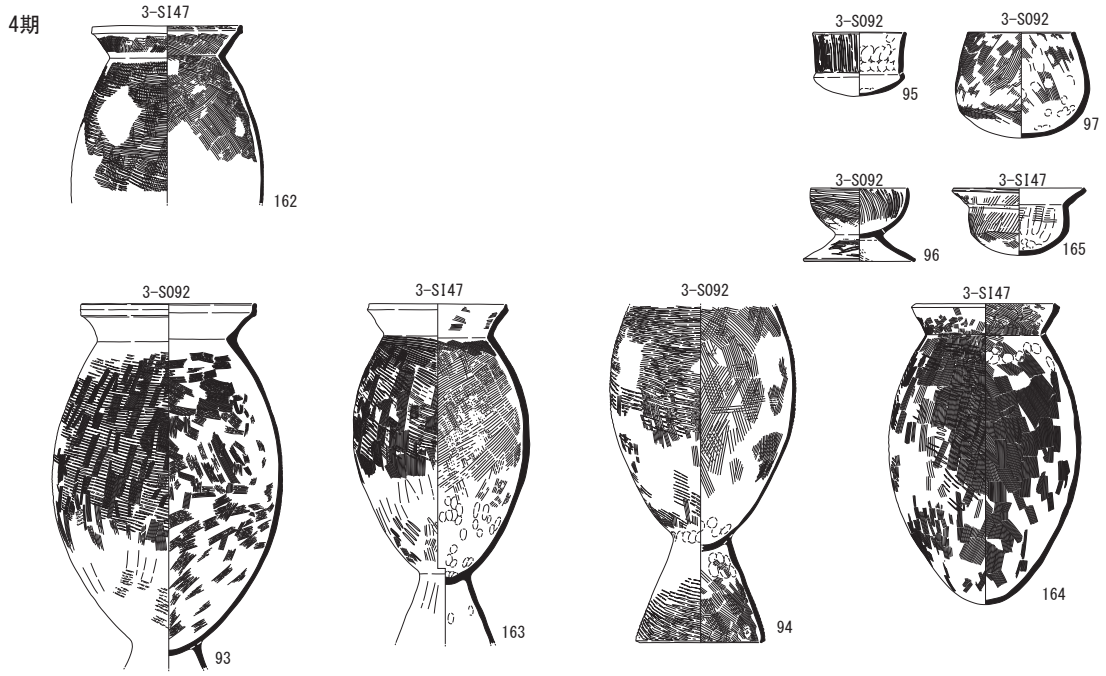


Fig.78　八島町遺跡　土器変遷図（2）



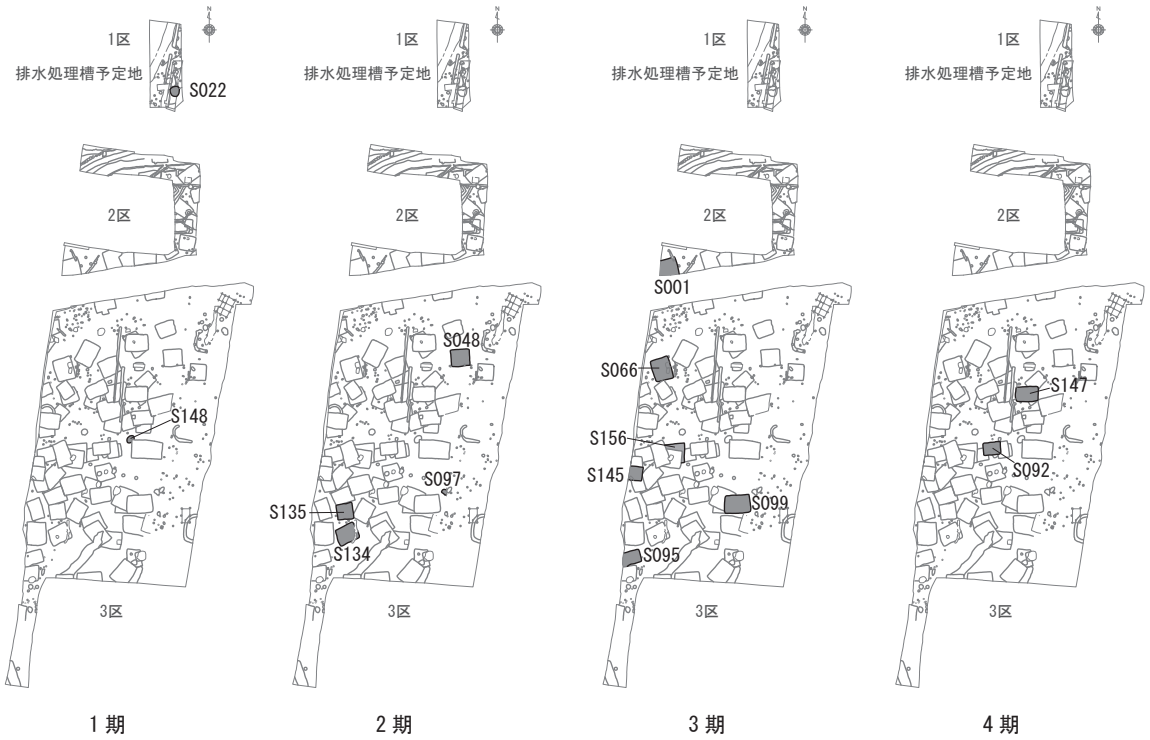


Fig.79 （上段）八島町遺跡　土器変遷図（３）
（下段）八島町遺跡　遺構変遷図

引用・参考文献

隈　昭志　1982「熊本県下の弥生時代鑑鏡」『森貞次郎博士古希記念 古文化論集』上巻
森貞次郎博士古希記念文集刊行会

河森一浩　1998「免田式土器の再検討 - 様式構造をめぐって -」『肥後考古』第 11 号　肥後考古学会

佐藤伸二　1996「道城方遺跡（南新宮遺跡・湯ノ原遺跡）」『新熊本市史』史料編　第一巻　考古資料
新熊本市史編纂委員会

高倉洋彰　1972「弥生時代小形仿製鏡について」『考古学雑誌』第 58 巻第 3 号　日本考古学会

田崎博之　1984「北部九州における弥生時代終末前後の鏡について」『史淵』第百二十一輯
九州大学文学部

辻田淳一郎 2005「破鏡の伝世と副葬 - 穿孔事例の観察から -」『史淵』第百四十二輯
九州大学大学院人文科学研究院

原田範昭　1999「中九州における弥生時代後期土器の編年 - 熊本平野部の土器にみる社会風景 -」
『先史学・考古学論究』Ⅲ　立田考古会

藤丸詔八郎 1993「破鏡の出現に関する一考察 - 北部九州を中心にして -」『古文化談叢』第 30 集（上）
九州古文化研究会

古庄浩明　1989「中九州における古式土師器の研究 - 白川・緑川水系を中心に -」
『國學院大學考古学資料館紀要』第 5 集 乙益重隆先生古希記念号　國學院大學考古学資料館

南健太郎　2007a「肥後地域における銅鏡の流入とその特質」『肥後考古』第 15 号　肥後考古学会

2007b「弥生時代九州における漢鏡の流入と小形仿製鏡の生産」『熊本大学　社会文化研究』 5
熊本大学大学院社会文化科学研究科

2008「弥生時代における銅鏡の副葬と廃棄」『熊本大学　社会文化研究』 6
熊本大学大学院社会文化科学研究科

新熊本市史編纂委員会　1996『新熊本市史』史料編　第一巻　考古資料

熊本県教育委員会　1987『下山西遺跡』熊本県文化財調査報告第 88 集

熊本県教育委員会　1993『二子塚』熊本県文化財調査報告第 117 集

熊本県教育委員会　1993『狩尾遺跡群』熊本県文化財調査報告第 131 集

熊本県教育委員会　1994『熊本県遺跡地図』

熊本県教育委員会　1996『蒲生・上の原遺跡　附編大場石棺群』熊本県文化財調査報告第 158 集

熊本県教育委員会　1999『二本木遺跡群』熊本県文化財調査報告第 174 集

熊本県教育委員会　2001『梅ノ木遺跡Ⅱ』熊本県文化財調査報告第 199 集

熊本県教育委員会　2001『柳町遺跡Ⅰ』熊本県文化財調査報告第 200 集

熊本県教育委員会　2007『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査報告第 239 集

熊本県教育委員会　2008『二本木遺跡群Ⅱ』熊本県文化財調査報告第 243 集

熊本県教育委員会　2010『二本木遺跡群Ⅲ』熊本県文化財調査報告第 256 集

熊本県教育委員会　2010『小野原遺跡群』熊本県文化財調査報告第 257 集

熊本県教育委員会　2010『稲佐津留遺跡　西安寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 263 集

熊本県教育委員会　2012『二本木遺跡群（春日地区） 5』熊本県文化財調査報告第 271 集

熊本県教育委員会　2013『二本木遺跡群 7 田崎地区田崎市道切替田崎陸橋』
熊本県文化財調査報告第 280 集

植木町教育委員会　2003『北牟田遺跡』　植木町文化財調査報告書第 16 集

熊本市教育委員会　2006『江津湖遺跡群Ⅱ』江津湖遺跡群第 7 次・第 10 次発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2007a『二本木遺跡群Ⅲ』二本木遺跡群第 26 次調査区発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2007b『二本木遺跡群Ⅳ』二本木遺跡群第 27 次調査区発掘調査報告書

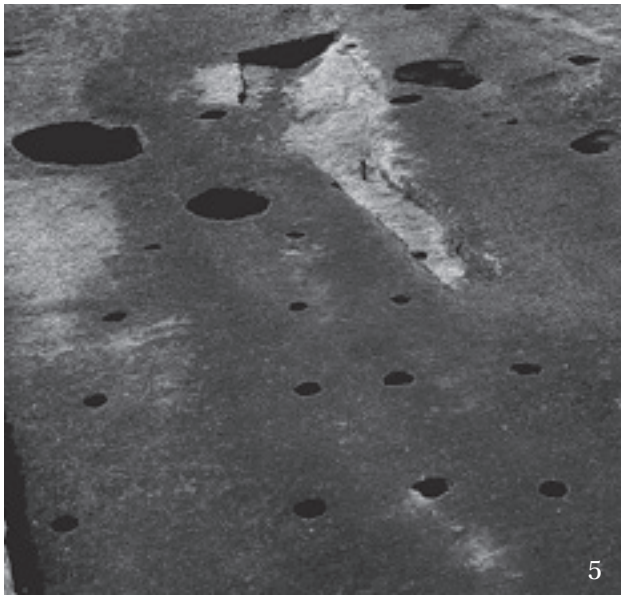
熊本市教育委員会　2008a『二本木遺跡群Ⅴ』二本木遺跡群第 28 次調査区発掘調査報告書

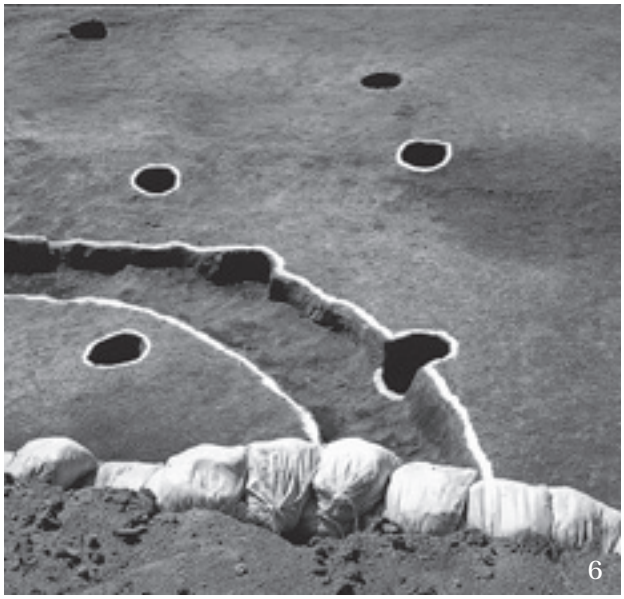
熊本市教育委員会　2008b『二本木遺跡群Ⅷ』二本木遺跡群第 28 次調査区・第 32 次調査区発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2009『戸坂遺跡Ⅱ』戸坂遺跡第 3 次調査区発掘調査報告書

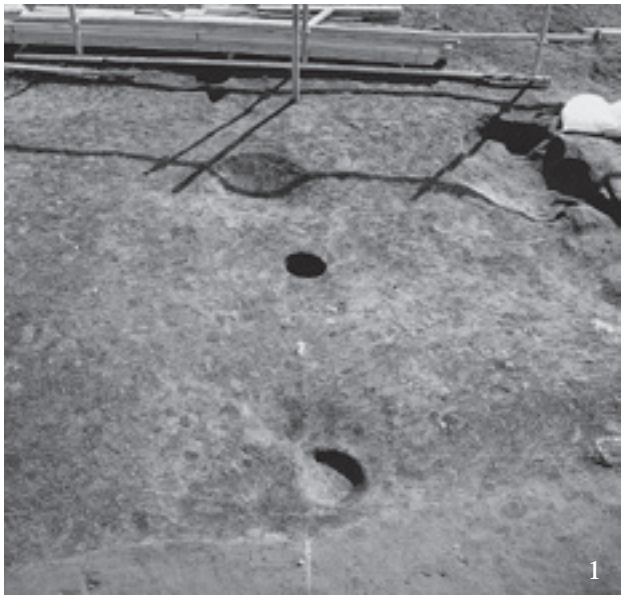
熊本市教育委員会　2011『二本木遺跡群Ⅻ』二本木遺跡群第 40 次調査区・第 47 次調査区

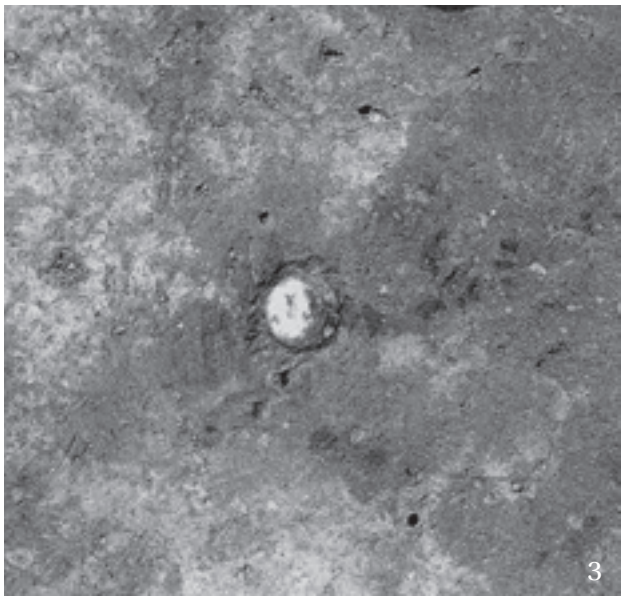
写　真 PLATE

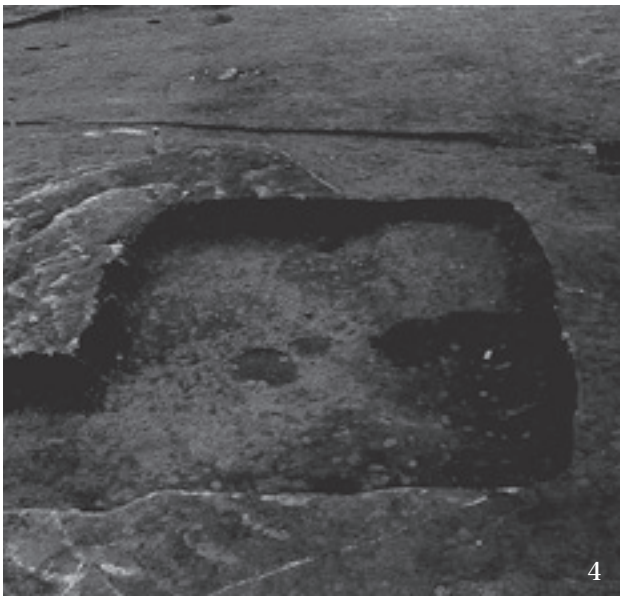




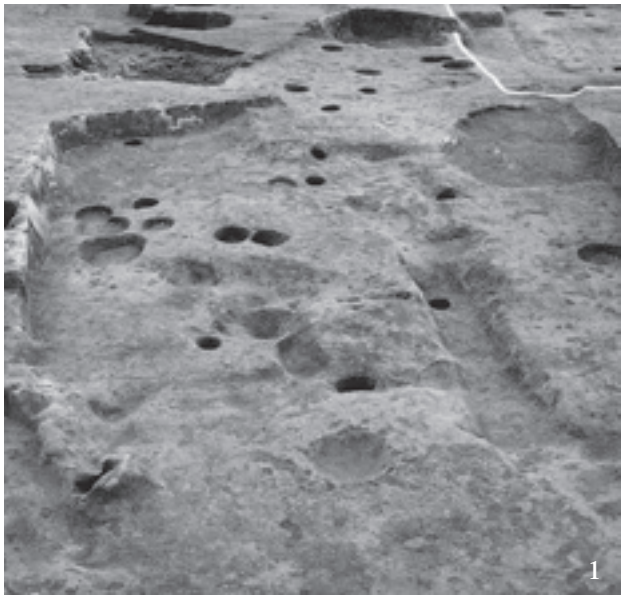
1．1 区完掘状況
2．2 区完掘状況
3．竪穴建物 S001 完掘状況
4．3 区完掘状況
5．掘立柱建物 S046 完掘状況
6．掘立柱建物 S131 完掘状況







1．竪穴建物 S048 完掘状況
2．竪穴建物 S066 完掘状況
3．竪穴建物 S080 小形仿製鏡出土状況
4．竪穴建物 S084 完掘状況
5．竪穴建物 S095 完掘状況
6．竪穴建物 S096 完掘状況



1．竪穴建物 S140 完掘状況
2．土坑 S152 完掘状況
3．5 区調査区完掘状況
4．排水処理槽予定地完掘状況
5．排水処理槽予定地 墓 S020 遺物出土状況
6．排水処理槽予定地土坑 S022 完掘状況

竪穴建物 S001 出土遺物 - ①

竪穴建物 S001 出土遺物 - ②

竪穴建物 S001 出土遺物 - ③

竪穴建物 S001 出土遺物 - ④

竪穴建物 S048 出土遺物 - ①

竪穴建物 S048 出土遺物 - ②

竪穴建物 S066 出土遺物 - ①

竪穴建物 S066 出土遺物 - ②

竪穴建物 S066 出土遺物 - ③

竪穴建物 S066 出土遺物 - ④

竪穴建物 S066 出土遺物 - ⑤

竪穴建物 S066 出土遺物 - ⑥

1．2．竪穴建物 S066 出土遺物 - ⑦
3．竪穴建物 S079 出土遺物

4．竪穴建物 S086 出土遺物

1．竪穴建物 S089 出土遺物
4．竪穴建物 S095 出土遺物 - ①

2．3．竪穴建物 S092 出土遺物

竪穴建物 S095 出土遺物 - ②

1．2．竪穴建物 S095 出土遺物 - ③
3．竪穴建物 S096 出土遺物

4．土坑 S097 出土遺物

竪穴建物 S099 出土遺物 - ①

1．土坑 S097 出土遺物

2．3．4．竪穴建物 S099 出土遺物 - ②

竪穴建物 S099 出土遺物 - ③

1．竪穴建物 S099 出土遺物 - ④
2．竪穴建物 S101 出土遺物
3．竪穴建物 S134 出土遺物

1．竪穴建物 S124 出土遺物
3．4．竪穴建物 S135 出土遺物 - ①

2．竪穴建物 S134 出土遺物

1．竪穴建物 S135 出土遺物 - ②
3．竪穴建物 S141 出土遺物

2．竪穴建物 S140 出土遺物
4．竪穴建物 S143 出土遺物

竪穴建物 S145 出土遺物 - ①

1．2．竪穴建物 S145 出土遺物 - ②
3．土坑 S148 出土遺物

1．竪穴建物 S147 出土遺物
2．竪穴建物 S149 出土遺物
3．竪穴建物 S150 出土遺物

竪穴建物 S156 出土遺物 - ①

竪穴建物 S156 出土遺物 - ②

1．土坑 S152 出土遺物
2．竪穴建物 S159 出土遺物
3．竪穴建物 S160 出土遺物
4．竪穴建物 S167 出土遺物

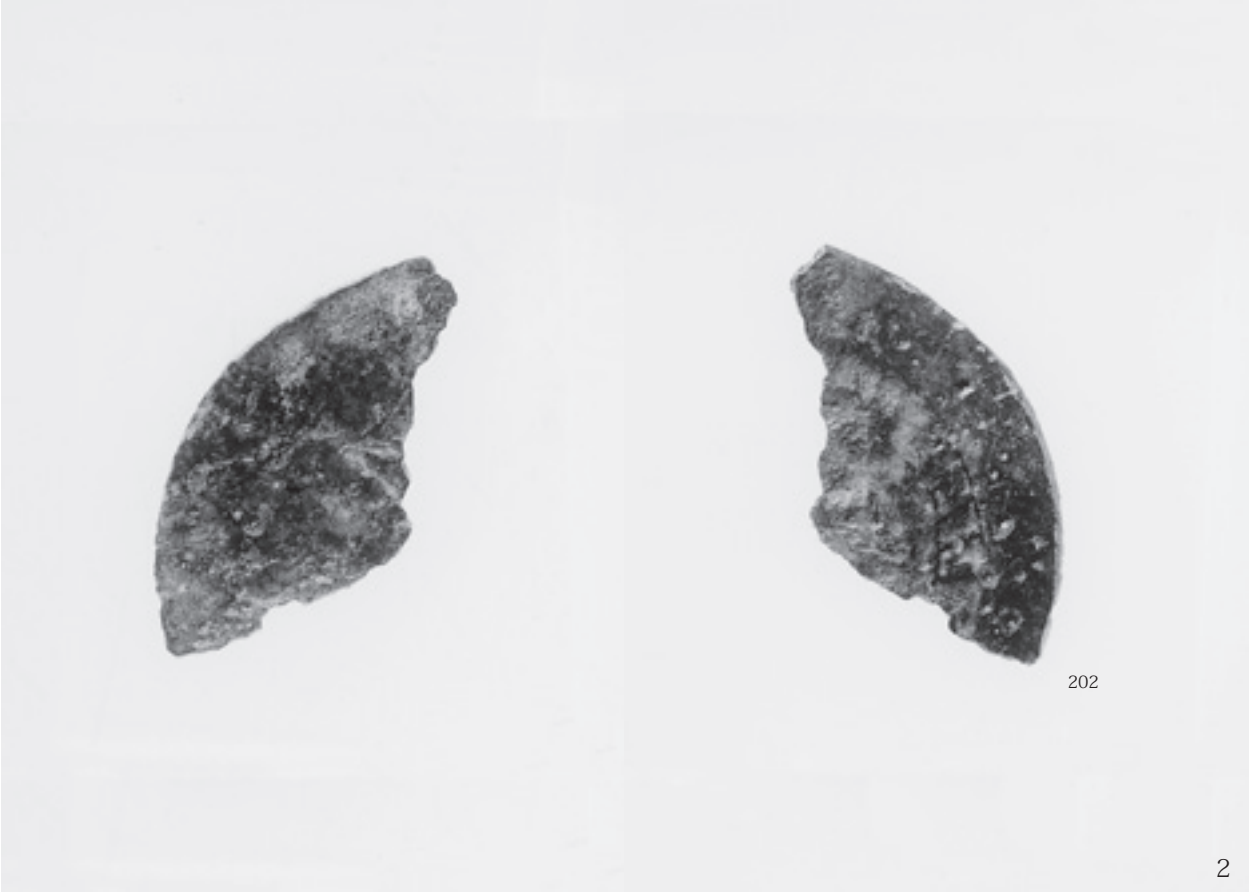
1．2．竪穴建物 S172 出土遺物
3．土坑 S188 出土遺物

4．調査区内出土遺物

排水処理槽予定地土坑 S022 出土遺物 - ①

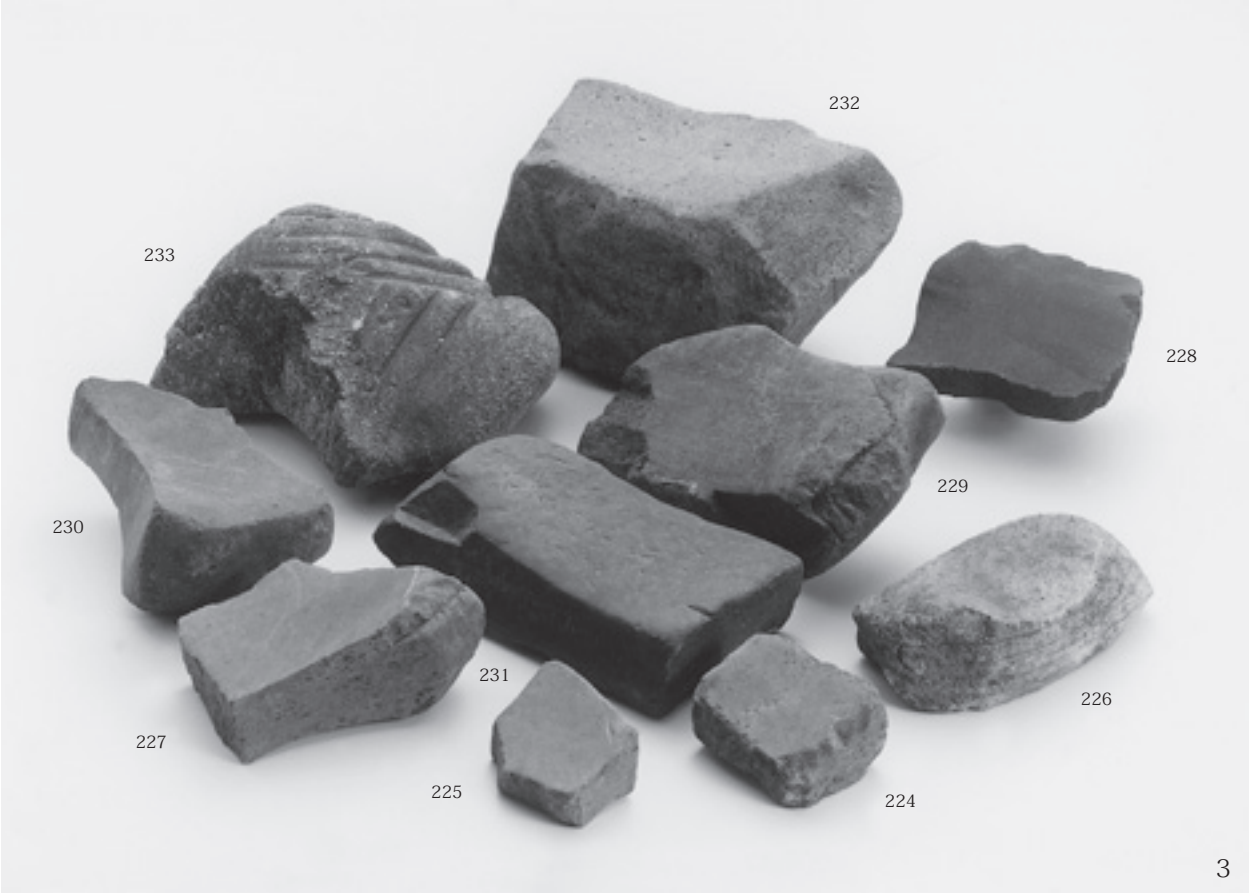
排水処理槽予定地土坑 S022 出土遺物 - ②

1．排水処理槽予定地墓 S020 出土遺物
2．ジョッキ形土器
3．土錘
4．砥石
5．ガラス玉
6．鉋（ヤリガンナ）



1．竪穴建物 S080 出土遺物小形仿製鏡（重圏文系鏡）
2．竪穴建物 S156 出土遺物小形仿製鏡（内行花文鏡）

1．石鏃
2．銅鏃
3．石包丁
4．磨石
5．石斧



1．敲石　　2．台石
3．砥石

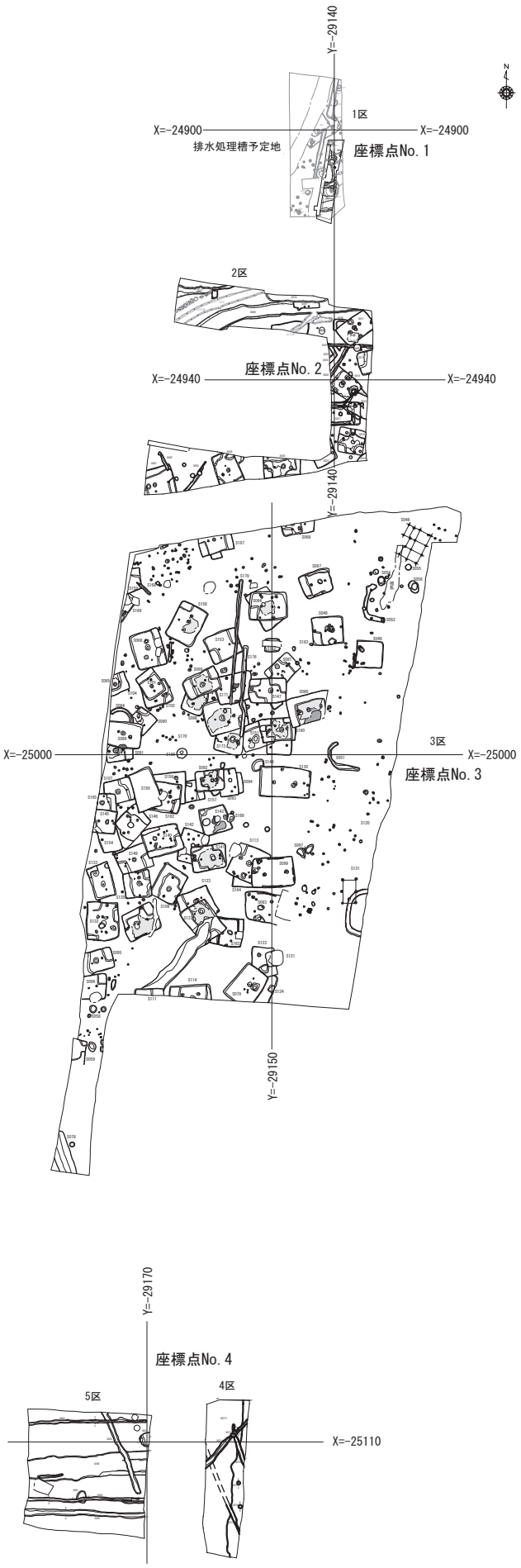


Fig.80　座標測地点（No.1 ～ No.4）

報告書抄録

ふりがな	やしままちいせき
書名	八島町遺跡
副書名	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	第 281 集
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
編著者名	長谷部善一・上髙原 聡
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862-8609　熊本県熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号　℡ .096-333-2706
発行年月日	2013 年３月 31 日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室　〒 861-4215　熊本市南区城南町沈目 1677　℡ .0964-28-4933

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
八島町遺跡（やしままちいせき）	熊本市西区蓮台寺町（くまもとしにしくれんだいじまち）	43 熊本県 103 熊本市西区	266	№.1 32°46′ 42.31312″	№.1 130°41′ 11.65730″	20030527 ～ 20040228	4976㎡	九州新幹線 建設工事
				№.2 32°46′ 41.01451″	№.2 130°41′ 11.66185″			
				No.3 32°46′ 39．06563″	No.3 130°41′ 11.28439″			
				No.4 32°46′ 35.49252″	No.4 130°41′ 10.52834″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八島町遺跡	集落	弥生・古代	竪穴建物、掘立柱建物、井戸、溝、墓、柱穴群	弥生土器、銅鏡、石製品、銅製品、鉄製品、土製品	小形仿製鏡２点 （内行花文鏡・重圏文系鏡）

要　約	八島町遺跡は、熊本市中央を西流する白川・井芹川・坪井川によって形成された標高６～７ｍの微高地上に立地する遺跡である。九州新幹線建設工事に伴い、平成 15 年・16 年度に熊本県教育委員会で発掘調査を実施した。 主な検出遺構は竪穴建物や掘立柱建物、井戸、溝、土坑などが挙げられる。なかでも、調査２・３区では多くの竪穴建物が密集して検出されている。それらは、弥生時代後期に比定され、調査地周辺には該期の集落があったことが確認された。遺構からは大量の土器と共に、小形仿製鏡２点や銅鏃、鉄製鉇、ガラス玉などが出土している。

本書の仕様

●判型　A4 判
●頁数　174 頁
●組版　13 級　小塚明朝 Pro 基本
　　adobe In DesignCS5.5（for Windows）
●印刷　オフセット印刷
●製版　本誌のモノクロ及びカラー写真はすべてスクリーン線数 220 線で製版
●用紙　表紙　アートポスト菊判 220kg
　　本文　マットアート 110kg
　　図版　特アート SA 金藤 4/6 135kg
●製本　糸かがり綴じ
●表紙加工　PP（ポリプロピレン）貼り

2013 年 3 月 31 日　印刷
2013 年 3 月 31 日　発行

熊本県文化財調査報告第 281 集
八島町遺跡

著作権所有　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
発　行　者　熊本県教育委員会
印　刷　者　熊本市北区龍田弓削 1 丁目 4 番 12 号
ホープ印刷株式会社

発 行 者：熊本県
所　　属：教育庁文化課
発行年度：平成 24 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 281 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 八島町遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日